

第7期八尾市障がい福祉計画  
及び第3期八尾市障がい児福祉計画等  
策定におけるアンケート調査報告書

令和5年3月

八尾市



# 目次

1. 調査の概要 .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査対象者 .....	1
(3) 調査期間 .....	1
(4) 調査票の配布と回収状況 .....	1
(5) 回答した障がい者の内訳 .....	1
(6) 報告書を作成するにあたって .....	1
2. 障がい福祉に関するアンケート調査結果(18歳以上) .....	2
(1) あなたやご家族について .....	2
(2) 障がいの状況について .....	10
(3) 障がい福祉サービス等について .....	15
(4) 仕事について .....	44
(5) 医療について .....	58
(6) 地域での暮らしについて .....	67
(7) 新型コロナウイルス感染症について .....	75
(8) 障がいに対する理解・人権について .....	81
(9) 障がい福祉の推進についてのご意見 .....	84
3. 障がい福祉に関するアンケート調査結果(18歳未満) .....	87
(1) あなたやご家族について .....	87
(2) 障がいの状況について .....	88
(3) 障がい児支援等について .....	91
(4) 通学・通園先について .....	100
(5) 医療的ケアについて .....	102
(6) 対象児童の介助者について .....	104
(7) 将来について .....	107
(8) 新型コロナウイルス感染症について .....	108
(9) 障がいに対する理解・人権について .....	111
(10) 障がい福祉の推進についてのご意見 .....	112
4. 八尾市障がい福祉サービス等の事業所アンケート .....	114
(1) サービス別事業所数 .....	114
(2) 障がい福祉サービスの提供実績と今後の提供見込 .....	114
(3) 障がい児支援の提供実績と今後の提供見込 .....	115
(4) 自由記述 .....	116



## 1. 調査の概要

### (1) 調査の目的

「第7期八尾市障がい福祉計画及び第3期八尾市障がい児福祉計画」等の策定にあたり、障がいのある方々の日頃の生活の様子、障がい者施策等のあり方に対するお考え等をお聞きし、計画策定の資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

### (2) 調査対象者

令和4年7月1日現在、「身体障がい者手帳」「療育手帳」「精神障がい者保健福祉手帳」のいずれかをお持ちの方の中から無作為抽出しました。また、市内障がい福祉サービス等事業所に対してもアンケート調査を行いました。

### (3) 調査期間

令和4年9月1日～9月30日

### (4) 調査票の配布と回収状況

	配布数	回収数	回収率
18歳以上の市民	2,650	1,050	39.6%
18歳未満の市民	350	136	38.9%
事業所	328	144	43.9%

### (5) 回答した障がい者の内訳

	18歳以上の市民	18歳未満の市民
身体障がい者	740	32
知的障がい者	175	98
精神障がい者	189	24
重複障がい者(再掲)	78	20
無回答	27	2

### (6) 報告書を作成するにあたって

- 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しています。このため、構成比の合計が100.0%にならない場合があります。
- 自由記述による回答については、一部、抜粋としました。また、わかりやすくするため、要約を記載する場合があります。

## 2. 障がい福祉に関するアンケート調査結果(18歳以上)

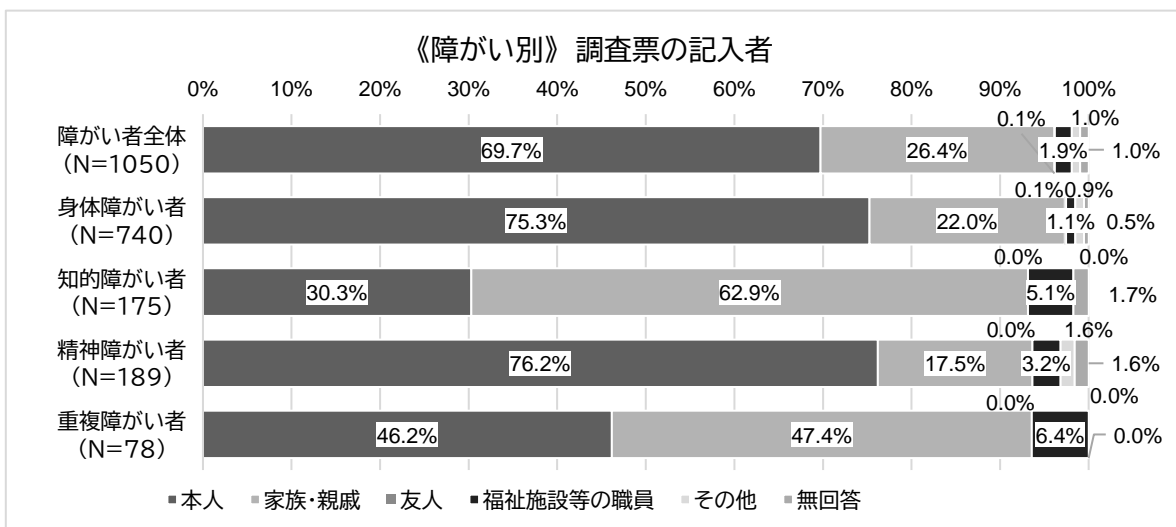
### (1) あなたやご家族について

ポイント	
●	調査票の記入者は「身体障がい者」と「精神障がい者」は「本人」が多く、「知的障がい者」と「重複障がい者」は「家族・親戚」が多い。
●	年齢は「身体障がい者」は高齢者が多く、「知的障がい者」は若い世代が多く、「精神障がい者」は中高年が多い。
●	家族構成は「身体障がい者」は「自分ひとり」と「配偶者」との同居、「知的障がい者」は「二世世代家族」、「精神障がい者」は「自分ひとり」が多い。また、「施設・グループホーム」は「知的障がい者」と「重複障がい者」が多い。
●	主な収入源は、「年金・手当等」が多いが、その他の収入では「知的障がい者」「重複障がい者」は「就労移行支援、就労継続支援、生活介護で得た収入」、「精神障がい者」は「生活保護」が多い。
●	本人の平均月収は「障がい者全体」では10万円未満がほぼ半数を占めており、 <div style="text-align: center;">身体障がい者 &gt; 精神障がい者 &gt; 重複障がい者 &gt; 知的障がい者</div> の傾向を示している。

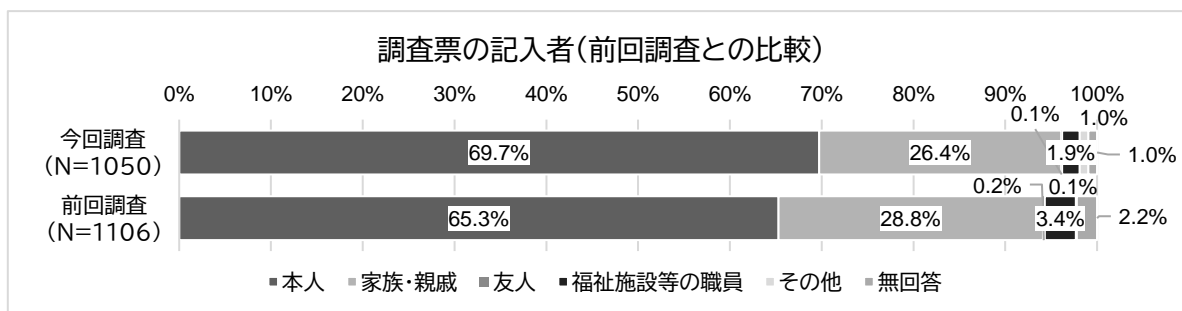
### 1) 調査票の記入者

調査票に記入した人は、「本人」が69.7%、「家族・親戚」が26.4%でした。

障がい別でもっとも多いものを見ると、「身体障がい者」は「本人」が75.3%、「知的障がい者」は「家族・親戚」が62.9%、「精神障がい者」は「本人」が76.2%となっています。また、「重複障がい者」は「本人」が46.2%、「家族・親戚」が47.4%となっています。



「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「本人」が4.4ポイント増え、「家族・親戚」が2.4ポイント減っています。

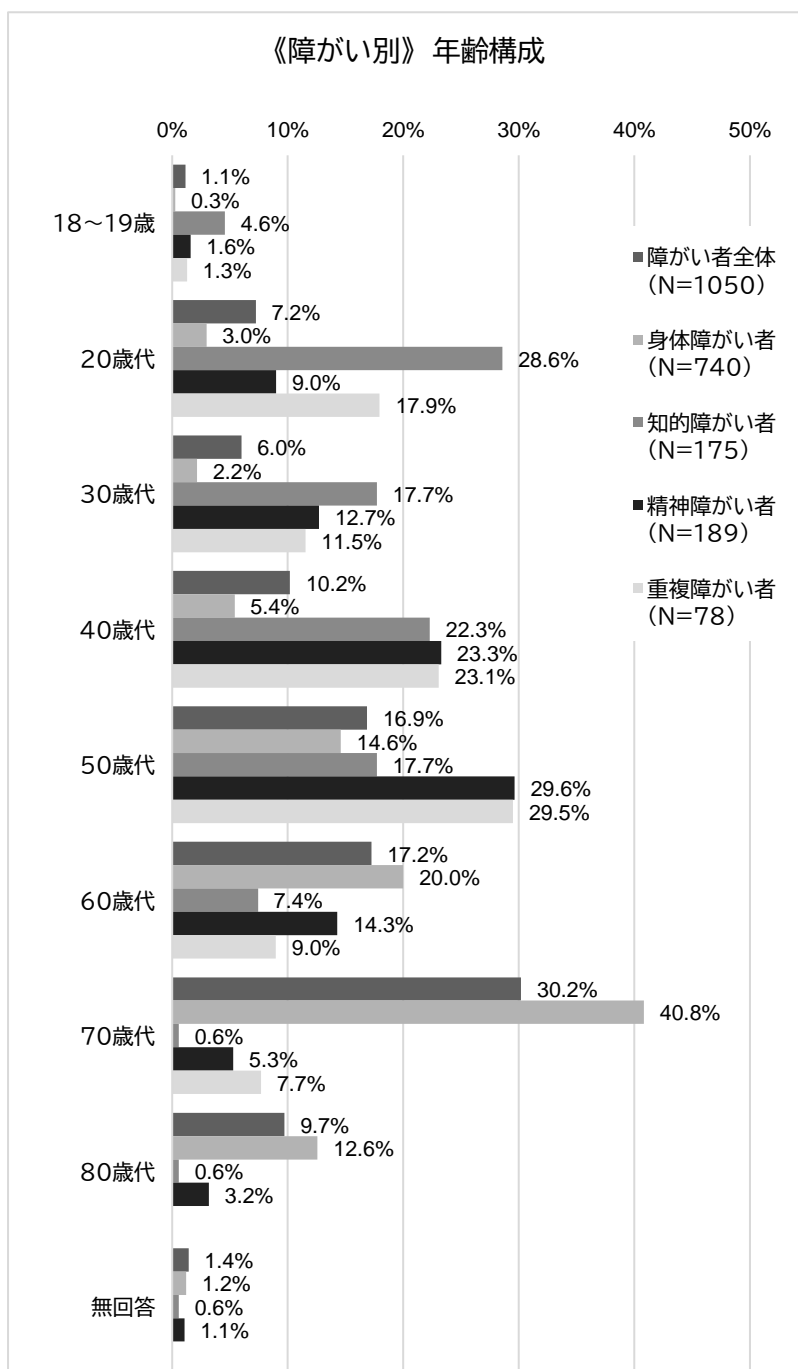


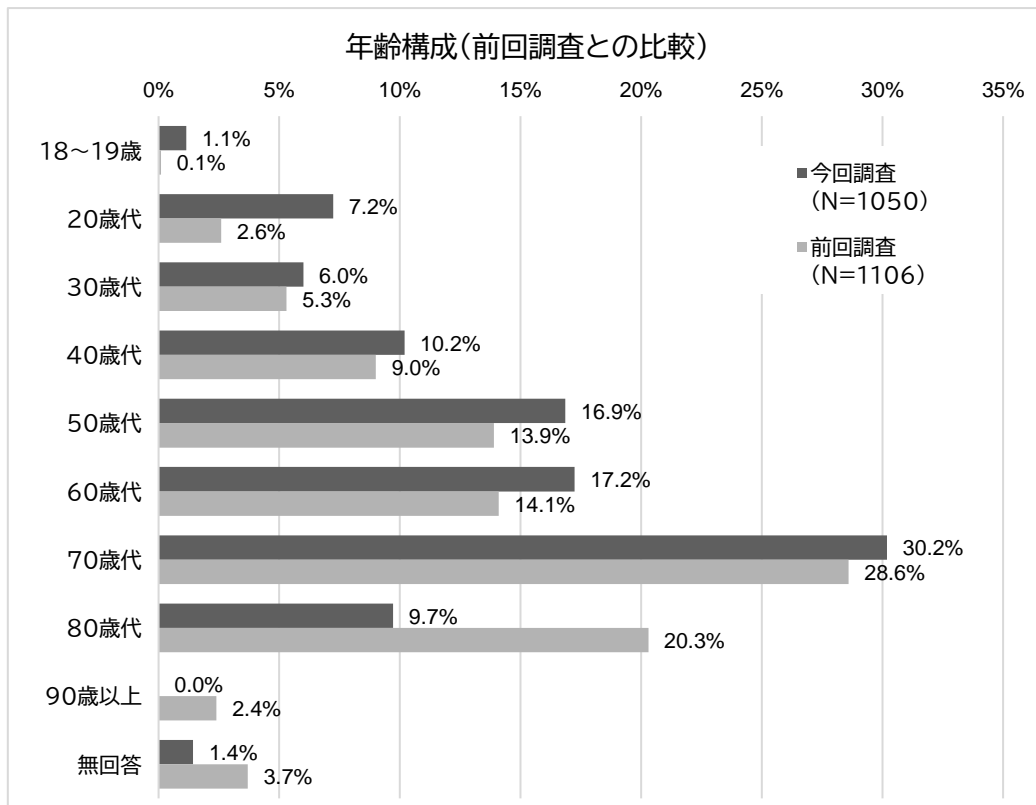
## 2) 年齢構成

年齢構成は「障がい者全体」では「70歳代」が30.2%ともっとも多く、次いで「60歳代」が17.2%、「50歳代」が16.9%となっており、高齢化が目立っています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」では「70歳代」が40.8%ともっとも多く、次いで「60歳代」が20.0%、「50歳代」が17.7%、「知的障がい者」では「20歳代」が28.6%ともっとも多く、次いで「40歳代」が22.3%、「30歳代」「50歳代」が共に17.7%、「精神障がい者」では「50歳代」が29.6%ともっとも多く、次いで「40歳代」が23.3%、「60歳代」が14.3%、「重複障がい者」では「50歳代」が29.5%ともっとも多く、次いで「40歳代」が23.1%、「20歳代」が17.9%となっています。

「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「20歳代」が4.6ポイント増えるなど、「70歳代」までが増え、「80歳代」が10.6ポイント減っています。

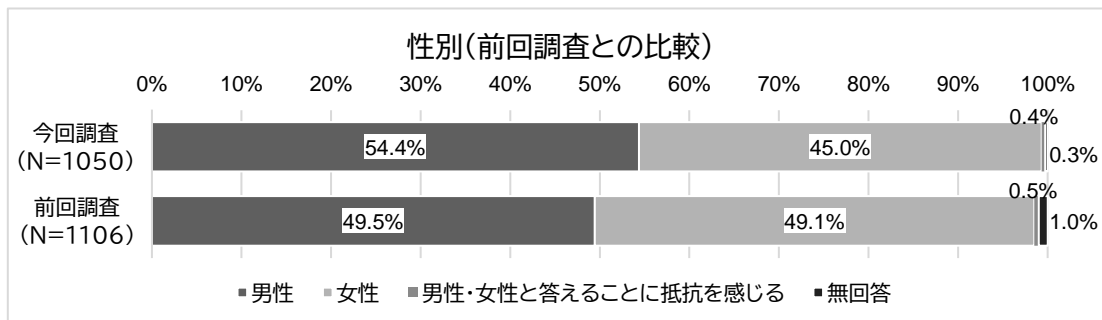




### 3) 性別

障がい者の性別は「男性」が54.4%、「女性」が45.0%、「男性・女性と答えることに抵抗を感じる」が0.4%でした。障がい別ではほとんど違いが見られませんでした。

「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「男性」が4.9ポイント増え、「女性」が4.1ポイント減っています。

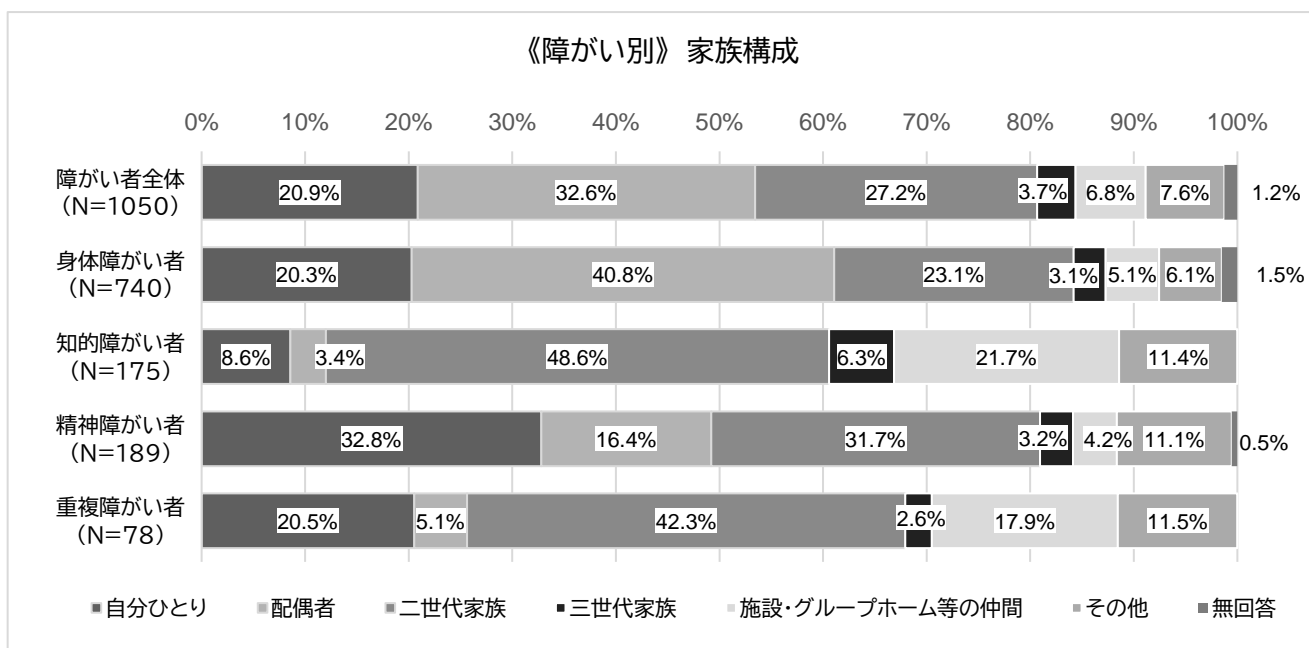


### 4) 家族構成

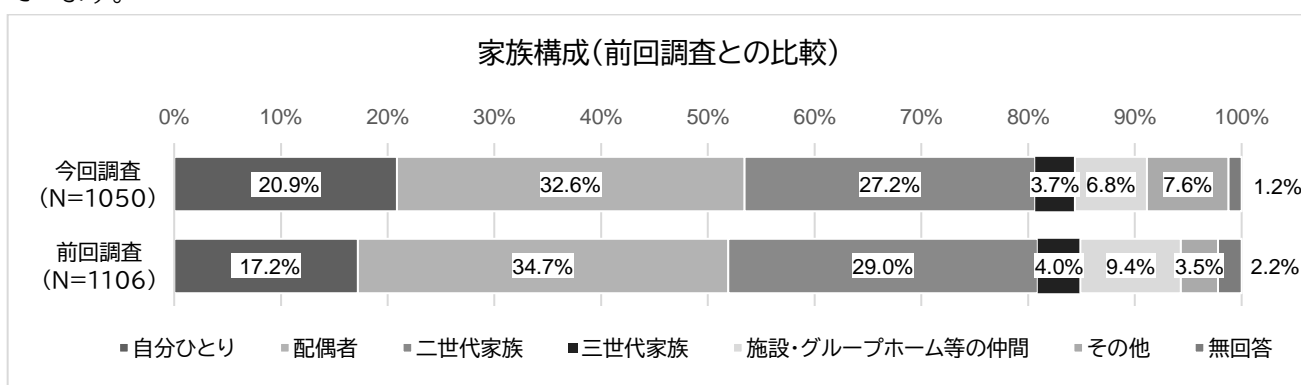
「障がい者全体」では「配偶者」が32.6%と最も多く、次いで「二世大家族」が27.2%、「自分ひとり」が20.9%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」では「配偶者」が40.8%と最も多く、次いで「二世大家族」が23.1%、「自分ひとり」が20.3%、「知的障がい者」では「二世大家族」が48.6%と最も多く、次いで「施設・グループホーム等の仲間」が21.7%。「精神障がい者」では「自分ひとり」が32.8%と最も多く、次いで「二世大家族」が31.7%、「配偶者」が16.4%、「重複障がい者」では「二世大家族」が42.3%と最も多く、次いで「自分ひとり」が20.5%、「施設・グループホーム等の仲間」が17.9%となっています。





「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「自分ひとり」が 3.7 ポイント増え、他の世帯はわずかずつ減っています。



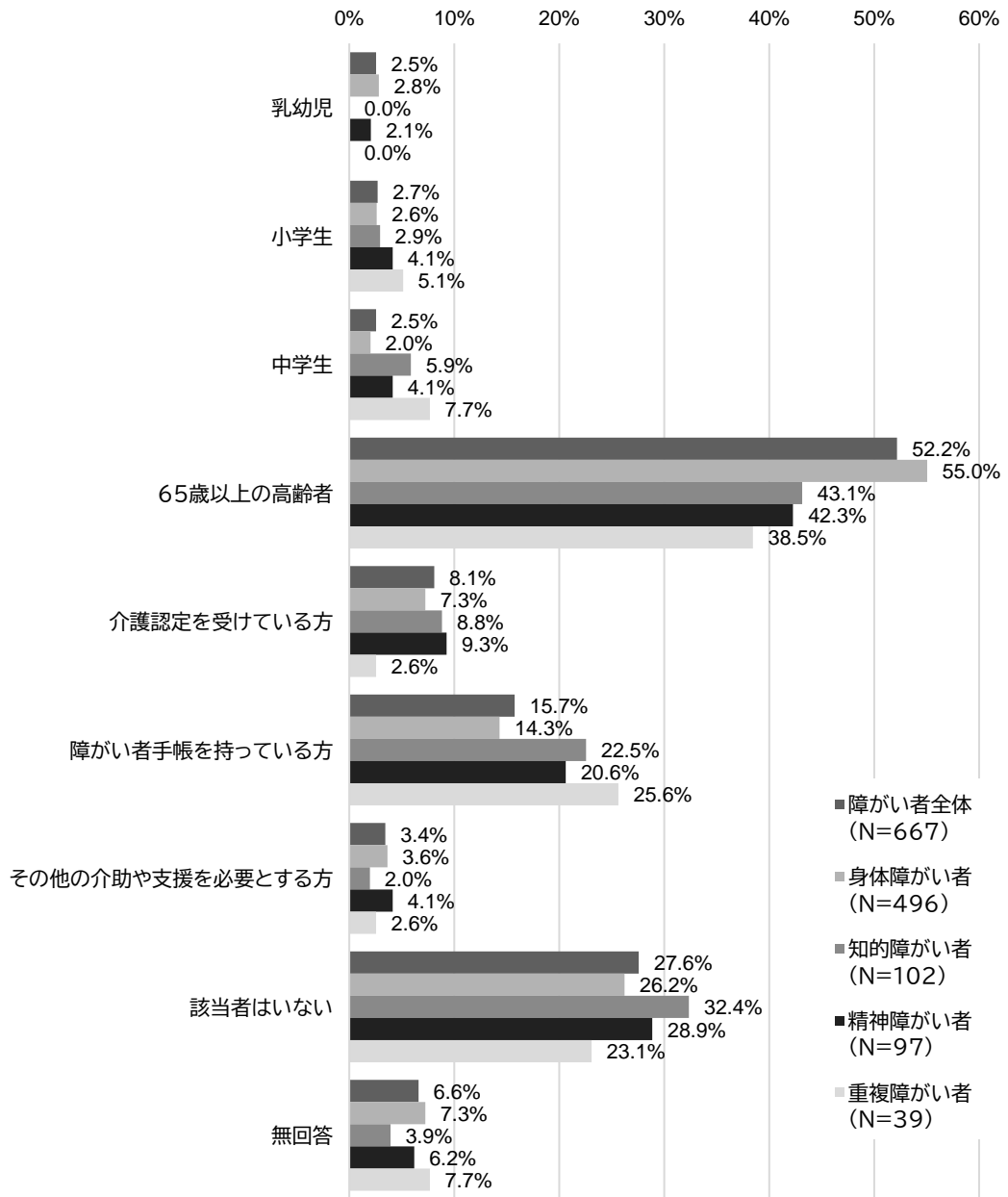
## 5) 同居家族

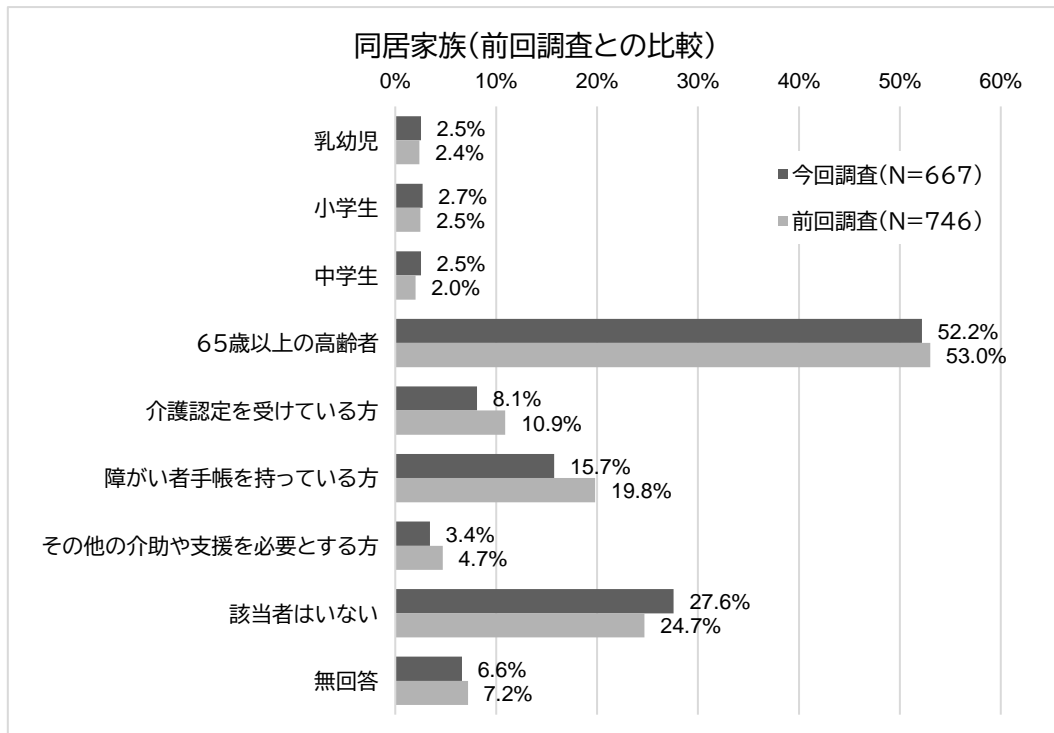
一緒に暮らしている家族は「障がい者全体」では「65 歳以上の高齢者」が 52.2%と最も多く、次いで「障がい者手帳を持っている方」が 15.7%となっています。

障がい別でも、ほぼ同様の傾向が見られますが、「身体障がい者」は「65 歳以上の高齢者」が 55.0%に対し、「障がい者手帳を持っている方」が 14.3%、「知的障がい者」は「65 歳以上の高齢者」が 43.1%に対し、「障がい者手帳を持っている方」が 22.5%、「精神障がい者」は「65 歳以上の高齢者」が 42.3%に対し、「障がい者手帳を持っている方」が 20.6%、「重複障がい者」は「65 歳以上の高齢者」が 38.5%に対し、「障がい者手帳を持っている方」が 25.6%となっています。

「障がい者全体」を前回調査と比較すると、大きな差は見られません。

### 《障がい別》同居家族



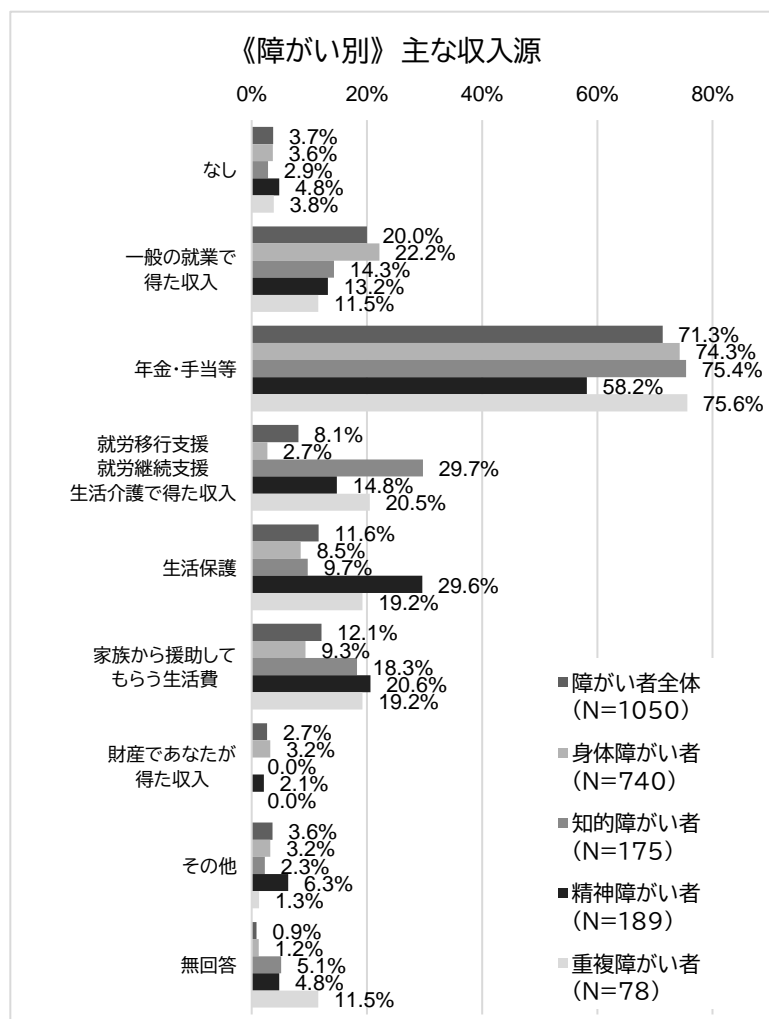


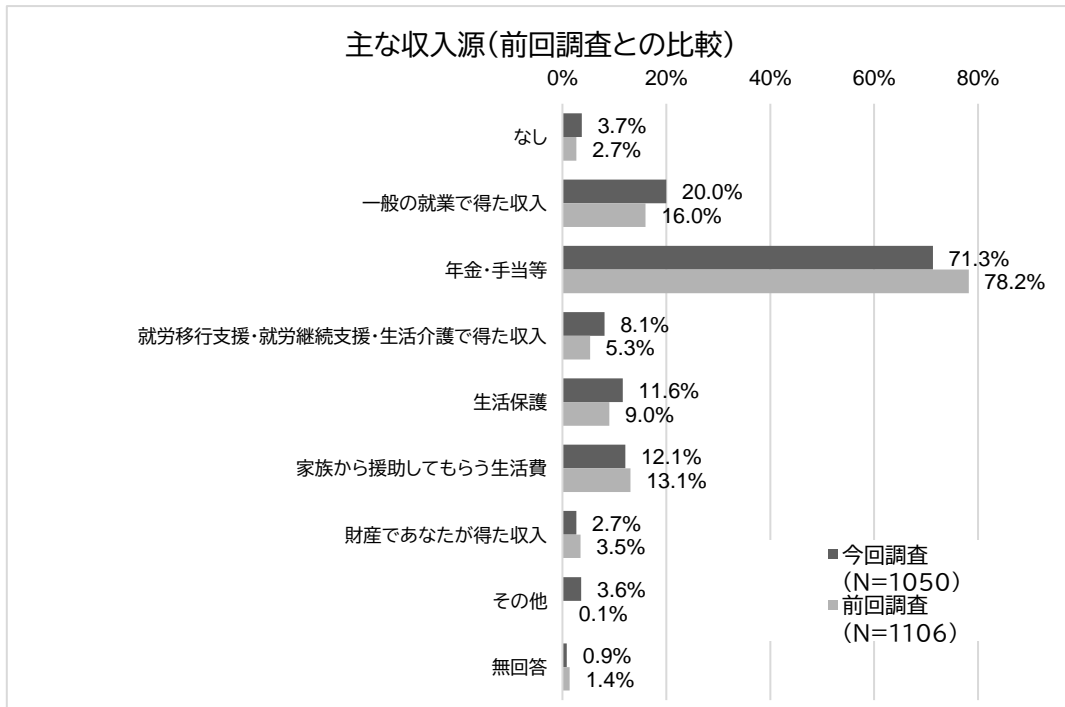
## 6) 主な収入源

主な収入は「障がい者全体」では「年金・手当等」が71.3%と、もっとも多く、次いで「一般の就業で得た収入」が20.0%、「家族から援助してもらう生活費」が12.1%、「生活保護」が11.6%となっています。

障がい別で見ると、どの障がいも「年金・手当等」がもっとも多くなっていますが、次いで多いのが「身体障がい者」は「一般の就業で得た収入」の22.2%、「知的障がい者」は「就労移行支援、就労継続支援、生活介護で得た収入」の29.7%、「精神障がい者」は「生活保護」の29.6%、「重複障がい者」は「就労移行支援、就労継続支援、生活介護で得た収入」の20.5%となっており、障がいによる特徴が表れています。

「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「一般の就業で得た収入」が4.0ポイント増え、「年金・手当等」が6.9ポイント減っている他は、大きな差はありません。





## 7) 本人の平均月収

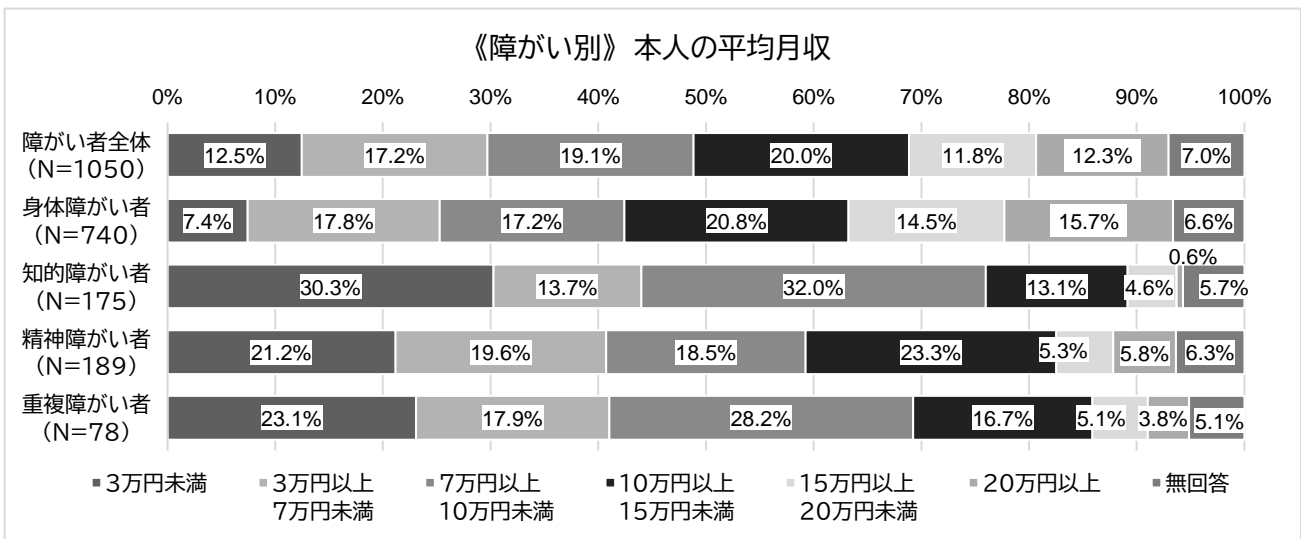
本人の平均月収は「障がい者全体」は「10 万円以上 15 万円未満」が 20.0%で、もっとも多く、「10万円未満」が 48.8%と、ほぼ半数を占めています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「10 万円以上 15 万円未満」が 20.8%で、もっとも多く、「10万円未満」は 42.4%、「知的障がい者」は「7万円以上 10 万円未満」が 32.0%で、もっとも多く、「10万円未満」は 76.0%、「精神障がい者」は「10 万円以上 15 万円未満」が 23.3%で、もっとも多く、「10万円未満」は 59.3%、「重複障がい者」は「7万円以上 10 万円未満」が 28.2%で、もっとも多く、「10万円未満」は 69.2%となっています。

障がい別の月平均本人収入は

身体障がい者 > 精神障がい者 > 重複障がい者 > 知的障がい者

という傾向を示しています。

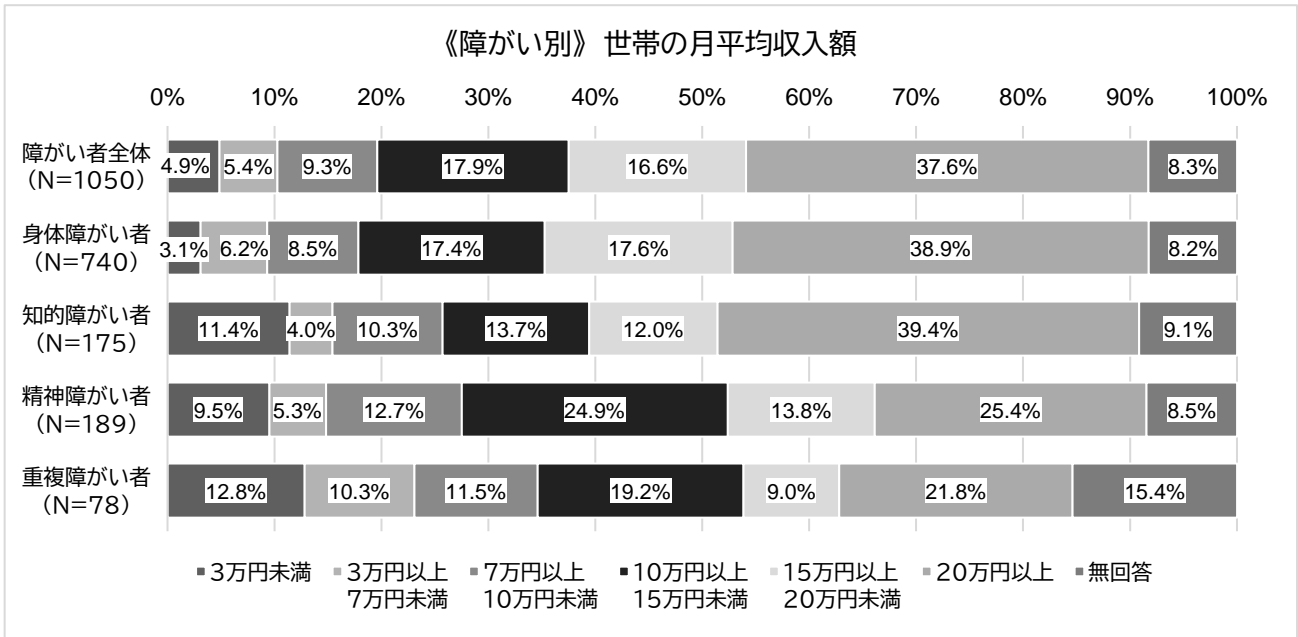


### 8) 世帯全体の平均月収

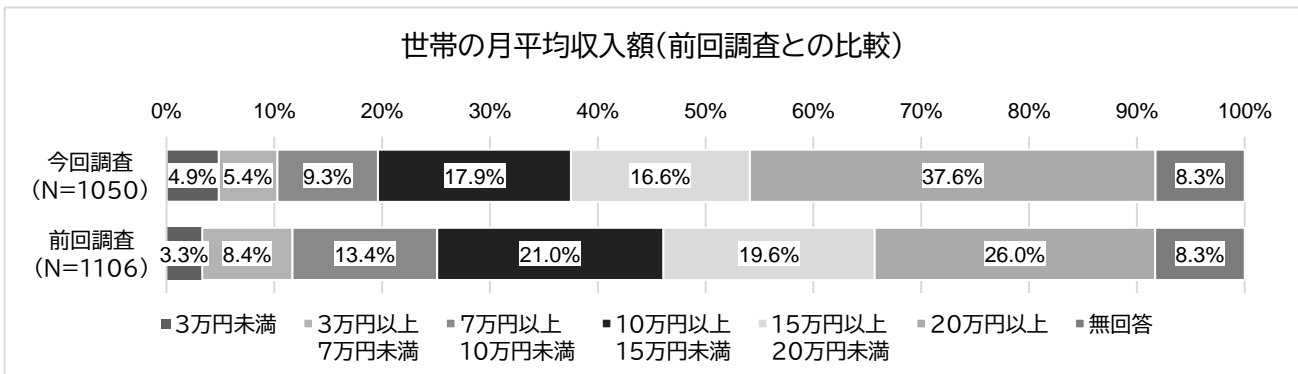
世帯全体の平均月収は「障がい者全体」では「20万円以上」が37.6%と、もっとも多くなっています。

「20万円以上」を障がい別で見ると、「身体障がい者」は38.9%、「知的障がい者」は39.4%、「精神障がい者」は25.4%、「重複障がい者」は21.8%となっています。

本人の収入が少ない「知的障がい者」の世帯収入が多いのは、「二世世代家族」が多いこと、本人の収入が多い「精神障がい者」の世帯収入が少ないのは、ひとり暮らしが多いことが影響しているものと考えられます。



「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「20万円以上」が11.6ポイント増えています。



## (2) 障がいの状況について

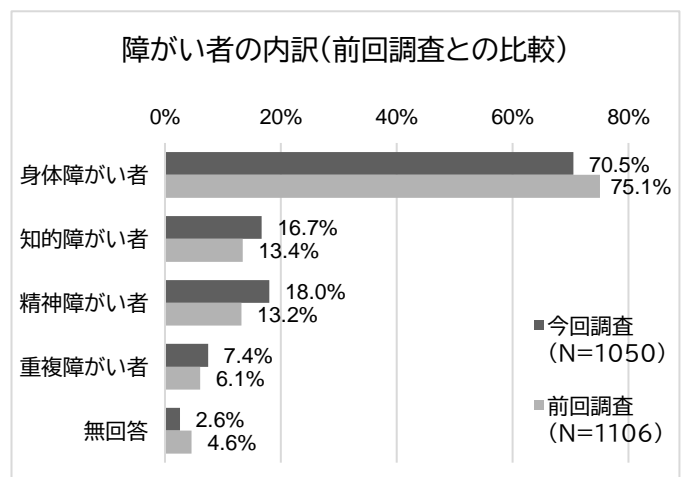
ポイント	
●	障がいの内訳は、「身体障がい者」が 70.5%でもっとも多く、「知的障がい者」は 16.7%、「精神障がい者」は 18.0%、「重複障がい者」は 7.4%となっている。「重複障がい者」は「身体障がい者」と「知的障がい者」の重複が多い。
●	「身体障がい者」は「1級」がもっとも多く、「肢体不自由」「内部障がい者」が多い。「知的障がい者」は「A」、「精神障がい者」は「2級」が多い。
●	「身体障がい者」は障がい支援区分の認定を受けている人が少ないが、介護保険利用者が多いと思われる。「知的障がい者」の 49.7%、「重複障がい者」の 41.0%が障がい支援区分の認定を受けている。
●	「知的障がい者」の 32.6%、「精神障がい者」の 20.1%、「重複障がい者」の 25.6%が何らかの発達障がいの診断を受けており、中でも「自閉スペクトラム症」が多い。
●	「65 歳以上の障がい者全体」の介護保険サービスの利用者は 27.3%で、「前回調査」に比べて 11.5 ポイント減っている。

### 1) 障がいの等級と種類

#### 障がい者の内訳

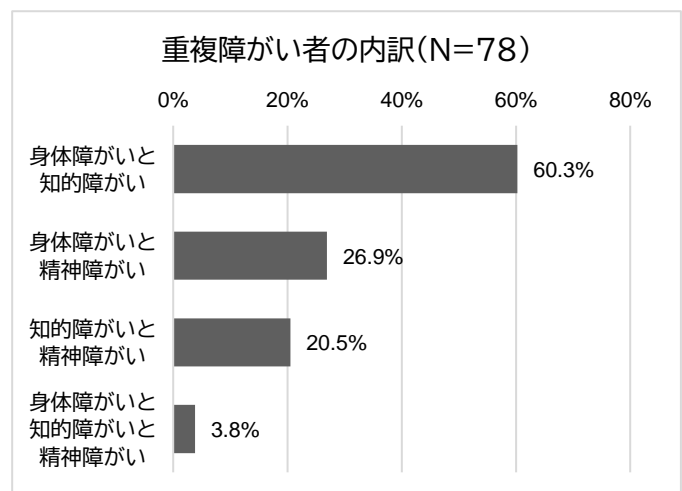
回答者 1,050 名のうち、「身体障がい者」は 70.5%、「知的障がい者」は 16.7%、「精神障がい者」は 18.0%、「重複障がい者」は 7.4%でした。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「身体障がい者」は 4.6 ポイント減り、「知的障がい者」は 3.3 ポイント増え、「精神障がい者」は 4.8 ポイント増え、「重複障がい者」は 1.3 ポイント増えています。



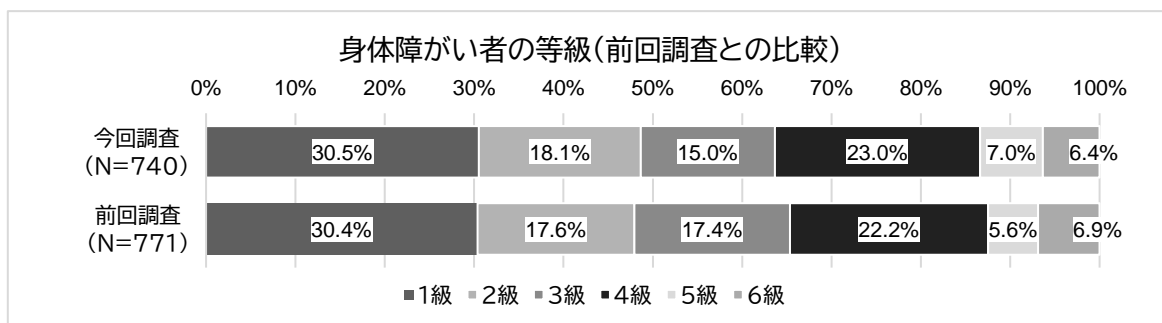
#### 重複障がい者の内訳

重複障がい者 78 名のうち、「身体障がいと知的障がい者」の重複は 60.3%、「身体障がいと精神障がい者」の重複は 26.9%、「知的障がいと精神障がい者」の重複は 20.5%、「身体障がいと知的障がいと精神障がい者」の重複は 3.8%となっています。



## A. 身体障がい者手帳

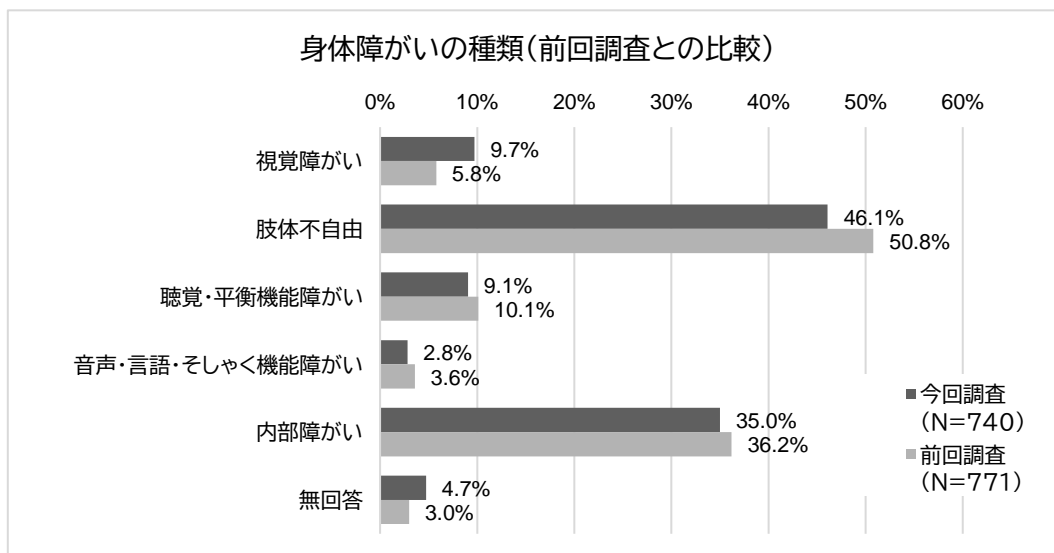
「身体障がい者」の等級は「1級」が30.5%と、もっとも多く、次いで「4級」が23.0%、「2級」が18.1%の順になっています。



「前回調査」との比較では、大きな差はありません。

身体障がいの種類では「肢体不自由」が46.1%と最も多く、次いで「内部障がい者」が35.0%となっています。

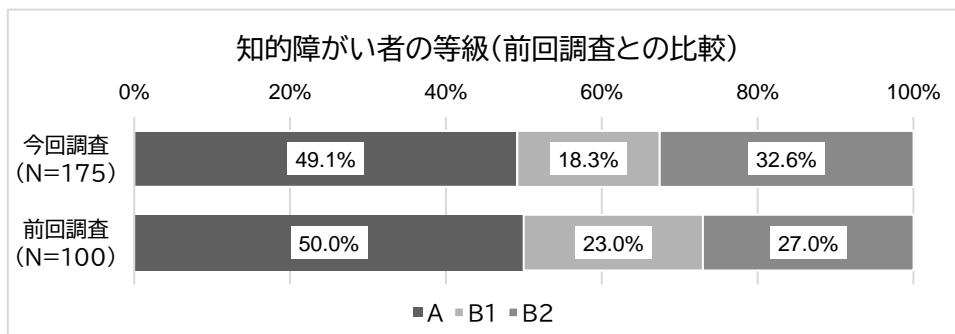
「前回調査」との比較では、「視覚障がい者」は3.9ポイント増え、「肢体不自由」は4.7ポイント減っています。



## B. 療育手帳

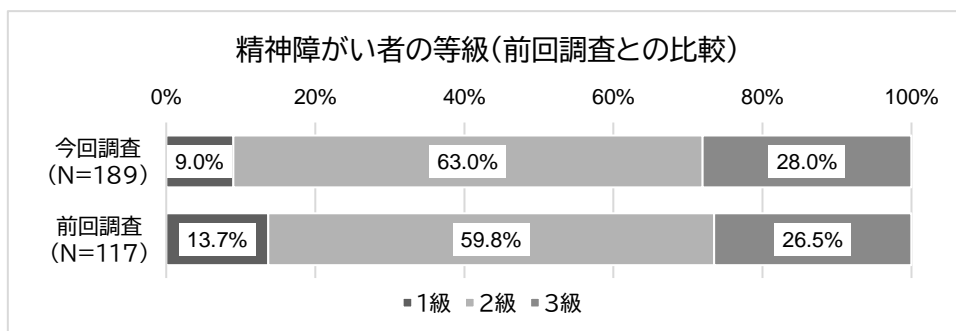
「知的障がい者」の等級は「A」が49.1%、「B1」が18.3%、「B2」が32.6%となっています。

「前回調査」との比較では、「B1」は4.7ポイント減り、「B2」は5.6ポイント増えています。



### C. 精神障がい者保健福祉手帳

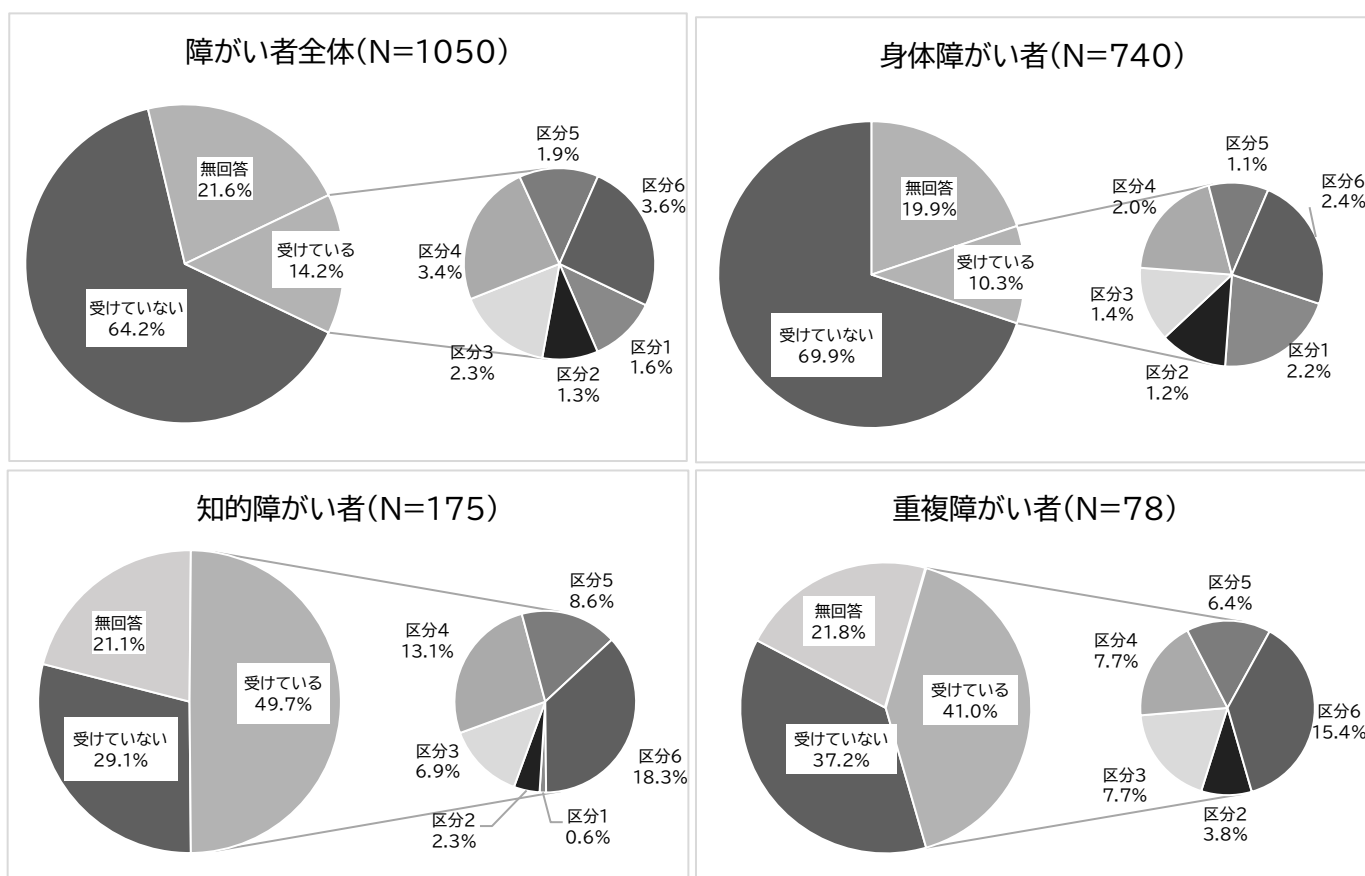
「精神障がい者」の等級は「1級」が9.0%、「2級」が63.0%、「3級」が28.0%となっています。  
 「前回調査」との比較では、「1級」は4.7ポイント減り、「2級」は3.2ポイント増えています。



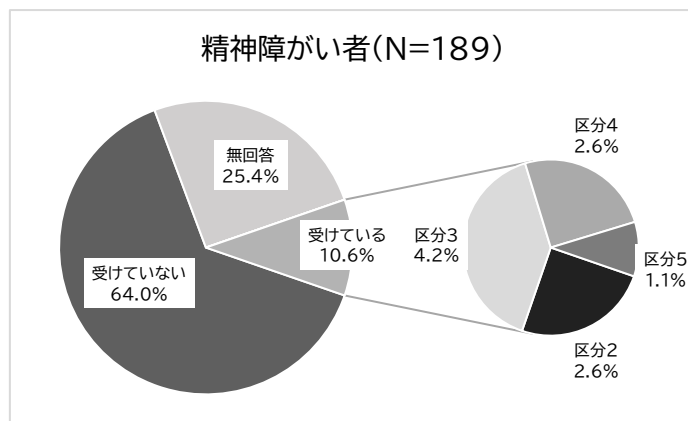
### 2) 障がい支援区分の認定

「障がい者全体」では14.2%が障がい支援区分の認定を受けています。

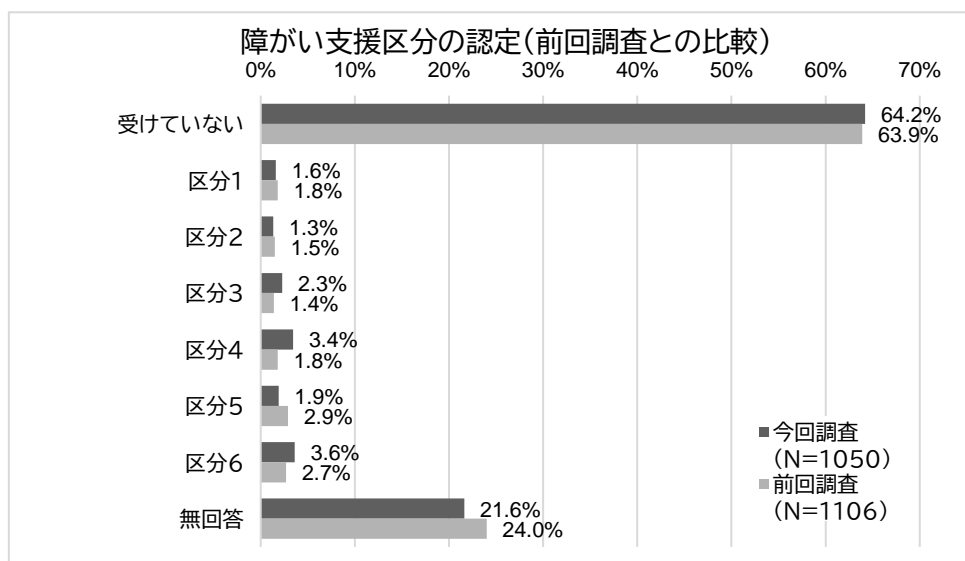
障がい別で見ると、障がい支援区分の認定を受けているのは「知的障がい者」が49.7%と、もっとも多く、次いで、「重複障がい者」が41.0%、「精神障がい者」が10.6%、「身体障がい者」が10.3%の順となっています。







「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな差は見られません。



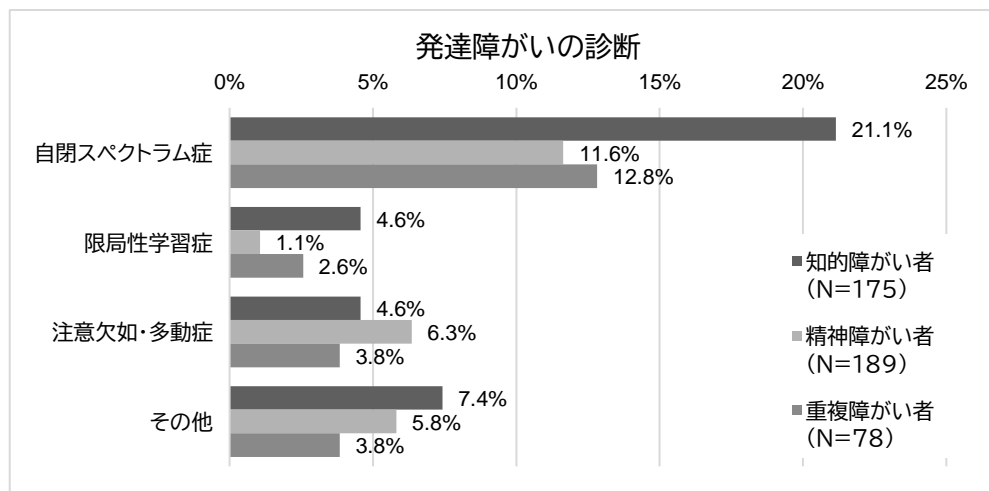
### 3) 発達障がいの診断

「知的障がい者」の 32.6%、「精神障がい者」の 20.1%、「重複障がい者」の 25.6%が発達障害の診断を受けていると回答しています。

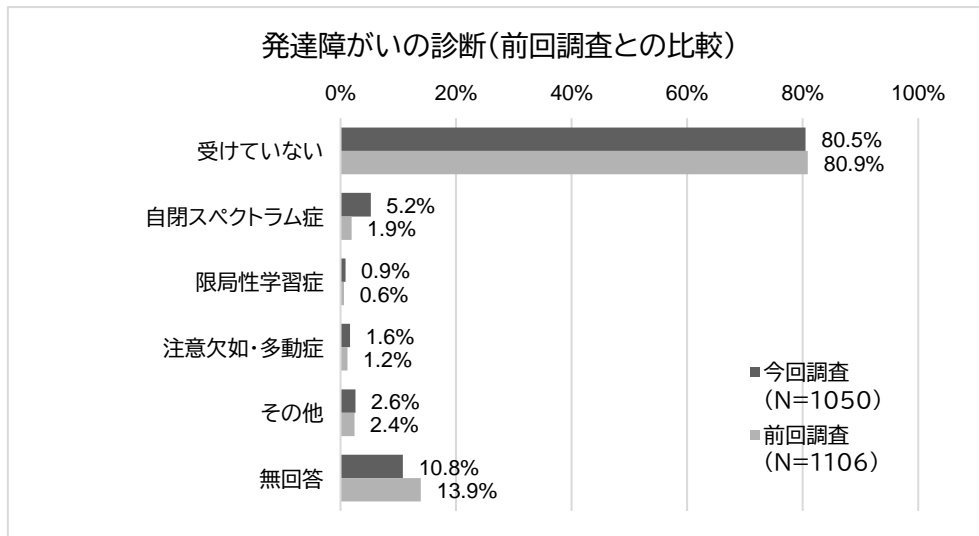
「自閉スペクトラム症」と診断を受けた者は「知的障がい者」の 21.1%、「精神障がい者」の 11.6%、「重複障がい者」の 12.8%となっています。

「限局性学習症」と診断を受けた者は「知的障がい者」の 4.6%、「精神障がい者」の 1.1%、「重複障がい者」の 2.6%となっています。

「注意欠如・多動症」と診断を受けた者は「知的障がい者」の 4.6%、「精神障がい者」の 6.3%、「重複障がい者」の 3.8%となっています。



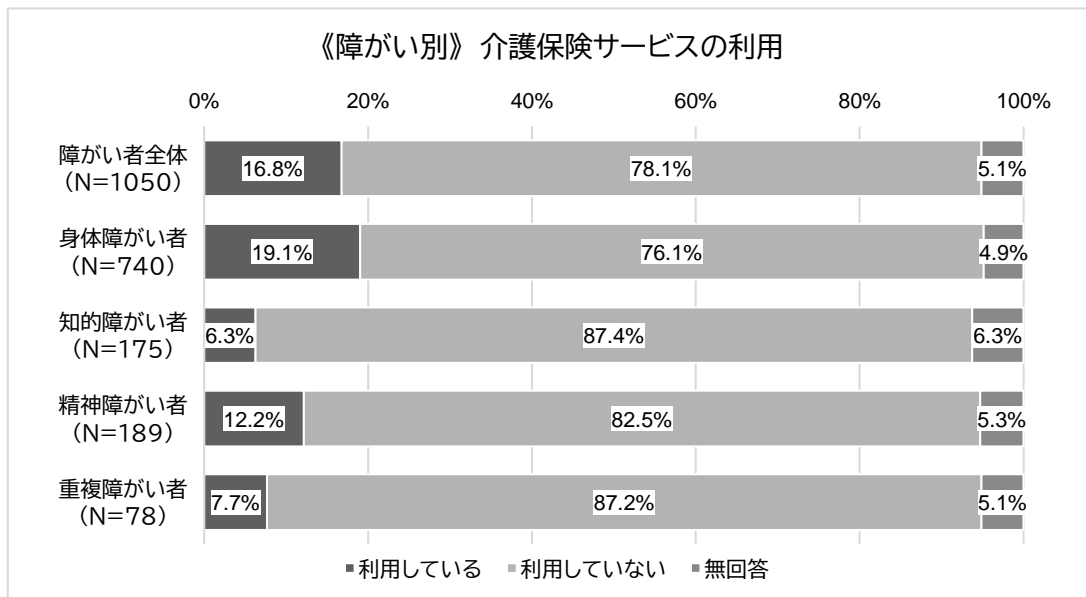
「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな差は見られません。



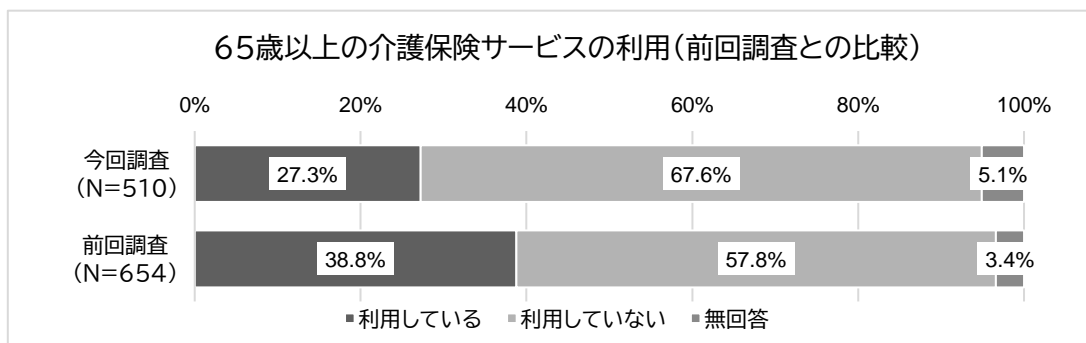
#### 4) 介護保険サービスの利用

「障がい者全体」の16.8%が介護保険によるサービスを利用しています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は19.1%、「知的障がい者」は6.3%、「精神障がい者」は12.2%、「重複障がい者」は7.7%が介護保険によるサービスを利用しています。



「65歳以上の障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「利用している」は11.5ポイント減っています。



### (3) 障がい福祉サービス等について

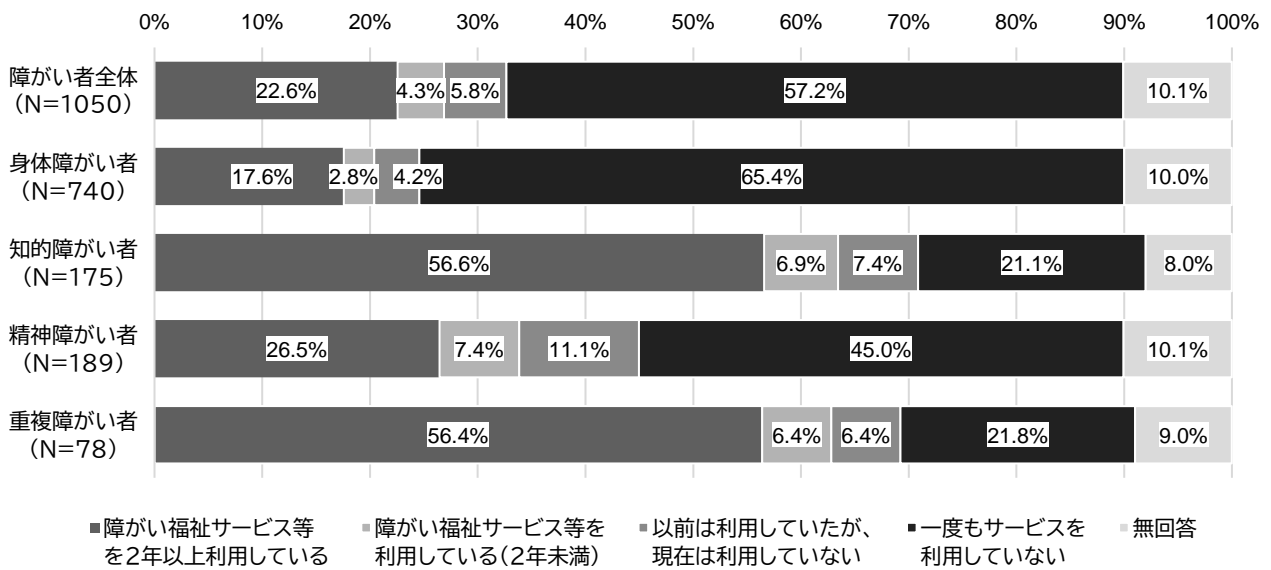
ポイント
<ul style="list-style-type: none"><li>● 福祉サービスの利用者は「身体障がい者」が 20.4%、「精神障がい者」が 33.9%に対し、「知的障がい者」は 63.5%、「重複障がい者」は 62.8%と多くなっている。</li><li>● 福祉サービスを利用していない理由は「サービス利用の必要がない」「病院、診療所に入院、通院中」「家族から介護を受けている」が多い。</li><li>● また、「利用の仕方やサービスの内容を知らない」は「障がい者全体」が 11.8%、「身体障がい者」が 10.1%、「知的障がい者」が 16.0%、「精神障がい者」が 18.9%、「重複障がい者」が 9.1%となっており、わかりやすい情報提供や相談支援の強化が課題となっている。</li><li>● ここ2～3年の間に「利用できるサービス量」が減ったと回答した人は「前回調査」と比べて 5.6 ポイント増えており、コロナ禍が影響していると考えられる。</li><li>● 「サービスの質」については「良くなった」が「悪くなった」を上回り、「サービスの利用しやすさ」はおおむね「利用しやすくなった」が「利用しにくくなった」を上回っているが、「重複障がい者」は「利用しにくくなった」が「利用しやすくなった」を上回っている。「経済的負担」は「増えた」が「減った」を上回っている。</li><li>● 障がい福祉サービスの利用意向については「現在利用していない方」の利用意向は「居宅介護」が 23.0%、「移動支援」が 24.5%、「短期入所」が 22.5%、「日常生活用具給付」が 26.7%と多く、「現在利用中の方」で「増やしたい」と回答した人は「同行援護」が 30.6%、「移動支援」が 28.7%、「療養介護」が 20.0%、「自立訓練」が 20.9%、「地域活動支援センター」が 30.4%、「施設入所支援」が 26.1%と多い。</li><li>● サービス等利用計画を作成している人は「障がい者全体」では 18.2%だが、「知的障がい者」が 49.7%、「重複障がい者」が 47.5%と多い。</li><li>● 現在利用中も含めた「計画相談支援」の利用意向については、「障がい者全体」は 28.4%だが、「知的障がい者」が 60.0%、「重複障がい者」が 55.1%と多い。</li><li>● 「地域移行支援」の利用意向については、「身体障がい者」が 8.6%、「知的障がい者」が 20.6%、「精神障がい者」が 18.5%、「重複障がい者」が 17.9%となっている。</li><li>● 「地域定着支援」の利用意向については、「身体障がい者」が 13.1%、「知的障がい者」が 23.0%。「精神障がい者」が 21.4%、「重複障がい者」が 23.4%となっている。</li><li>● 「施設を退所する時に困る(困った)こと」は「自分が利用できる障がい福祉サービスがわからない」23.6%、「収入が確保できない・少ない」21.8%、「気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にない・少ない」16.4%が多い。</li><li>● 施設退所後に想定する住まいについては「家族・親族の家で同居」が 39.6%、「グループホーム」が 35.8%となっている。</li></ul>

#### 1) 障がい福祉サービス等の利用状況

「障がい者全体」では障がい福祉サービス等を利用している者は「2年以上」の 22.6%、「2年未満」の 4.3%を合わせた 26.9%となっています。

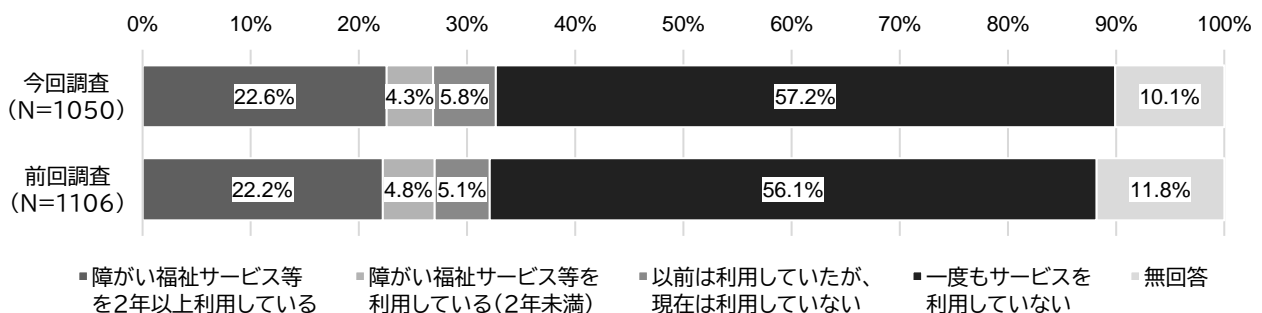
障がい別では、「知的障がい者」が障がい福祉サービス等を利用している者がもっとも多く、「2年以上」の 56.6%、「2年未満」の 6.9%を合わせた 63.5%が利用しています。次いで、「重複障がい者」の利用が多く、「2年以上」の 56.4%、「2年未満」の 6.4%を合わせた 62.8%が利用しています。

《障がい別》障がい福祉サービス等の利用状況



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな差は見られません。

障がい福祉サービス等の利用状況(前回調査との比較)



## 2) 障がい福祉サービス等を利用していない理由

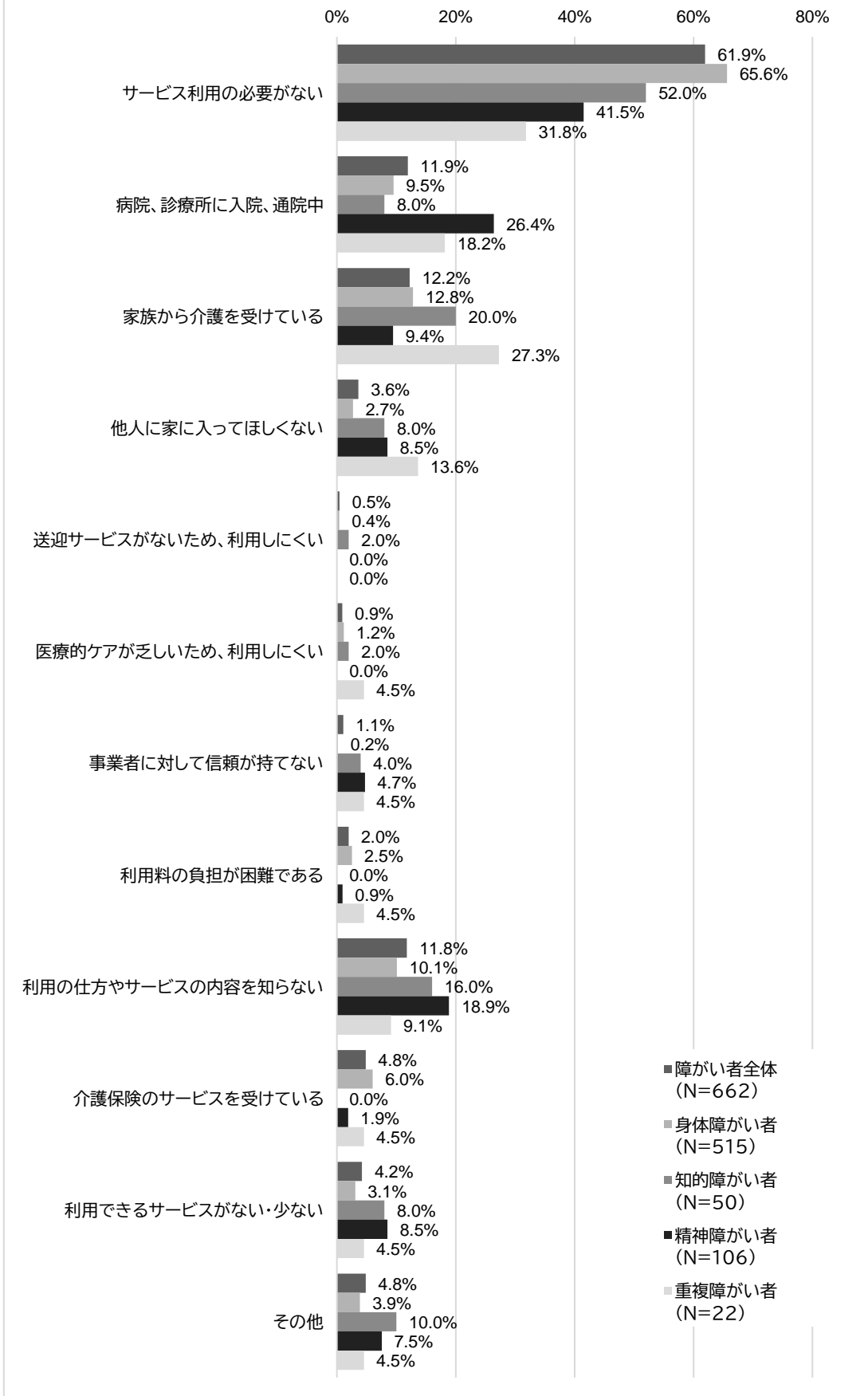
障がい福祉サービス等を利用していない理由で、もっとも多いのは「サービス利用の必要がない」で、「障がい者全体」は 61.9%、「身体障がい者」は 65.6%、「知的障がい者」は 52.0%、「精神障がい者」は 41.5%、「重複障がい者」は 31.8%となっています。

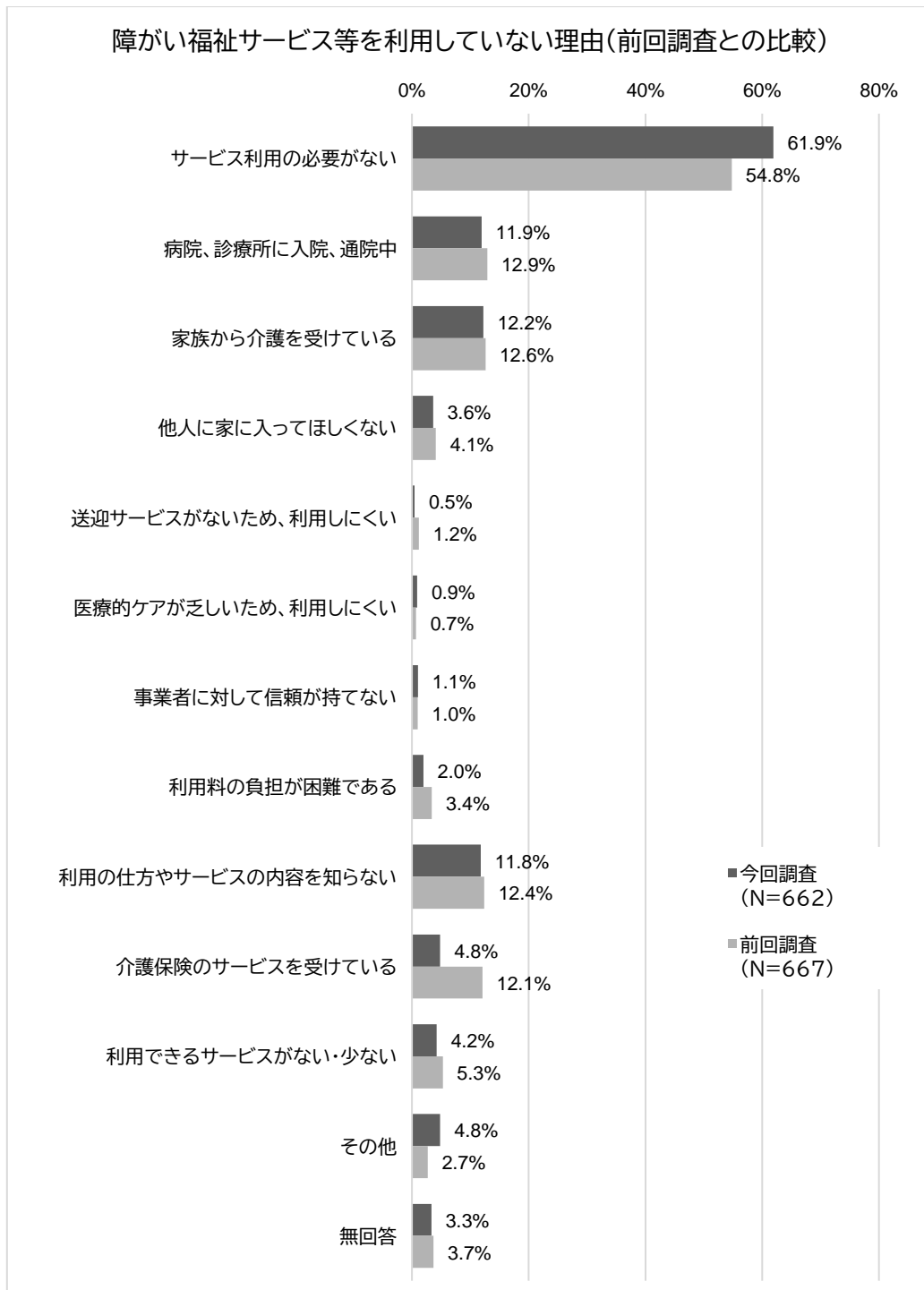
また、「病院、診療所に入院、通院中」は「精神障がい者」が多く 26.4%、「家族から介護を受けている」は「重複障がい者」が多く 27.3%、次いで「知的障がい者」が 20.0%となっています。

「利用の仕方やサービスの内容を知らない」も多く、「障がい者全体」は 11.8%、「身体障がい者」は 10.1%、「知的障がい者」は 16.0%、「精神障がい者」は 18.9%、「重複障がい者」は 9.1%となっています。

「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「サービス利用の必要がない」が 7.1 ポイント増え、「介護保険のサービスを受けている」が 7.3 ポイント減っています。

### 《障がい別》障がい福祉サービス等を利用していない理由



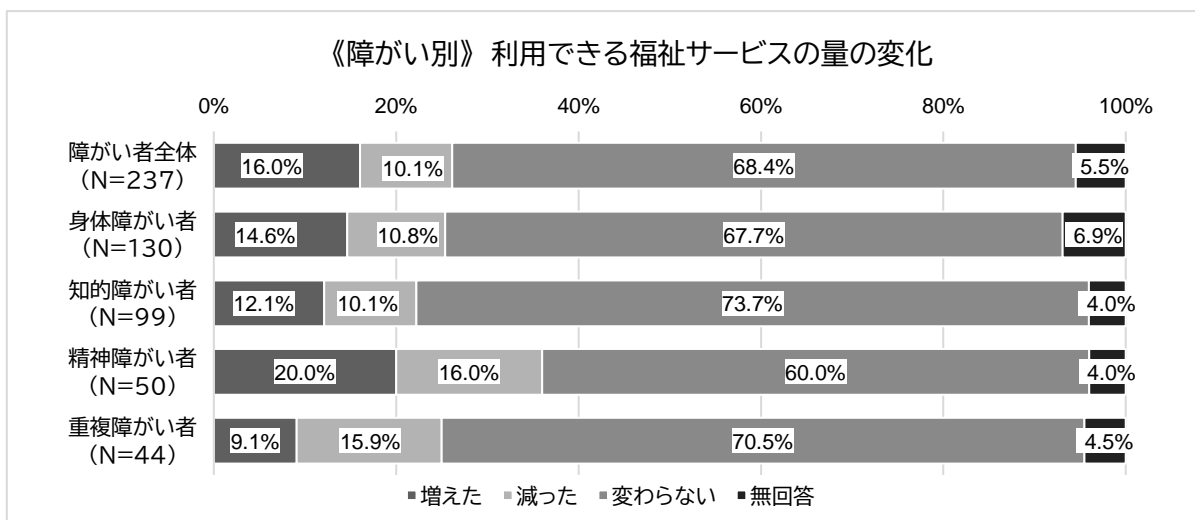


### 3) この2・3年における障がい福祉サービス等の利用の変化

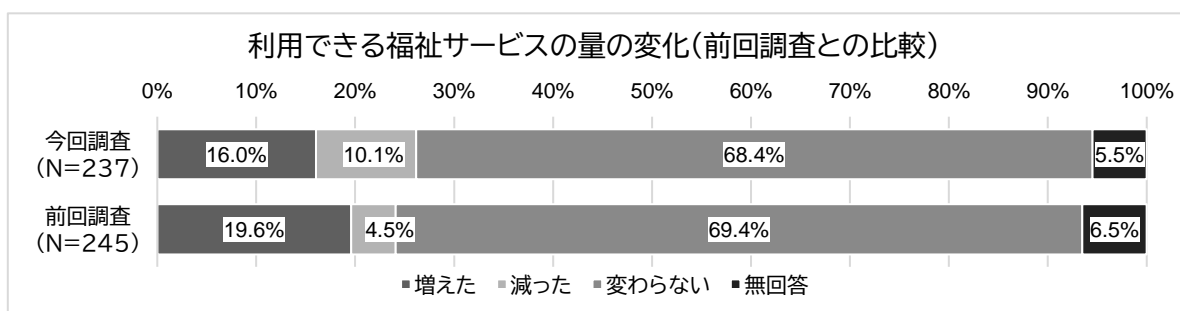
#### A. 利用できる福祉サービスの量

「障がい者全体」では「増えた」が 16.0%に対し、「減った」は 10.1%と、「増えた」が 5.9 ポイント上回っています。

障がい別では、「身体障がい者」「知的障がい者」「精神障がい者」は「増えた」が「減った」を上回っていますが、「重複障がい者」は「増えた」が 9.1%に対し、「減った」は 15.9%と、「減った」が 6.8 ポイント上回っています。



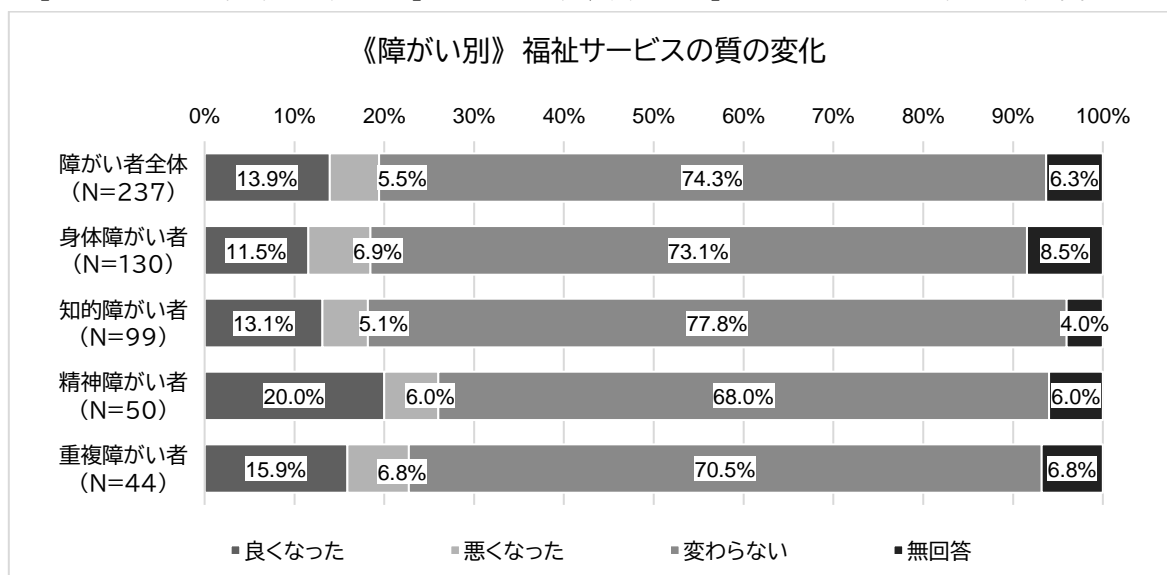
「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「増えた」が3.6ポイント少なくなり、「減った」が5.6ポイント多くなっています。



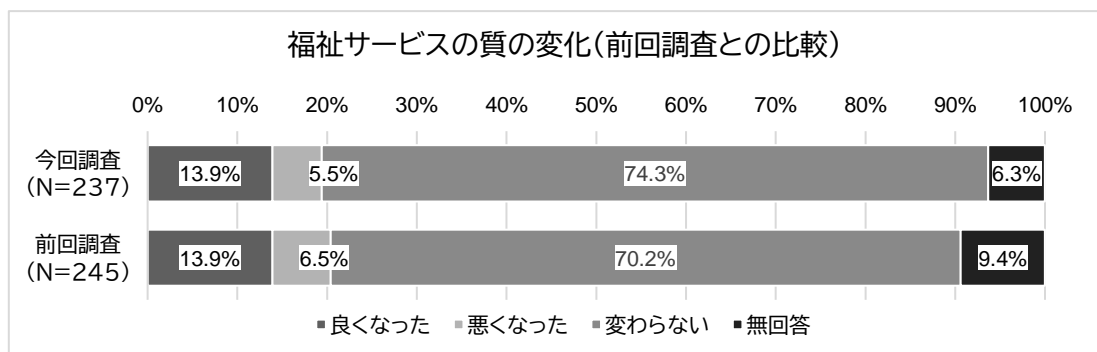
## B. 福祉サービスの質

「障がい者全体」では「良くなった」が13.9%に対し、「悪くなった」は5.5%と、「良くなった」が8.4ポイント上回っています。

障がい別では、どの障がいも「良くなった」が「悪くなった」を上回っていますが、特に、「精神障がい者」は「良くなった」が20.0%に対し、「悪くなった」は6.0%と、「良くなった」が14.0ポイントと、大きく上回っています。



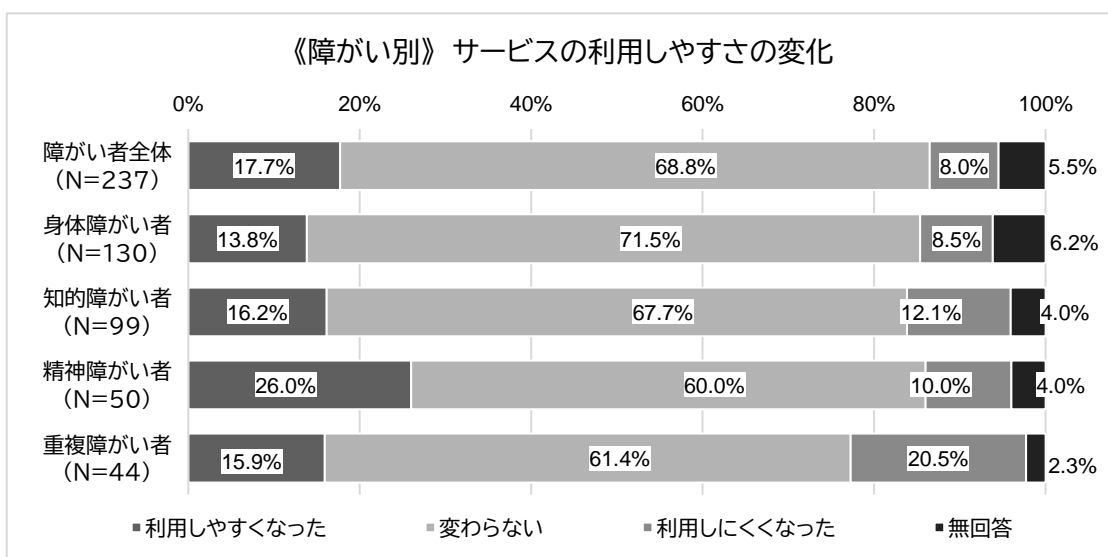
「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「減った」が1.0ポイント減り、「変わらない」が4.1ポイント増えています。



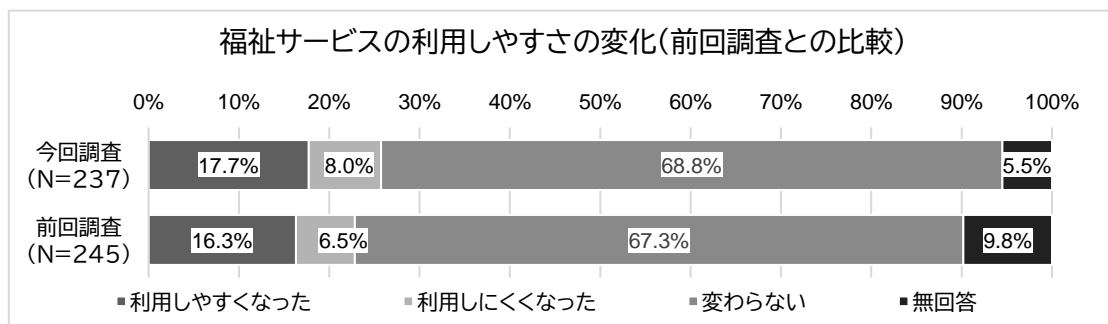
### C. サービスの利用しやすさ

「障がい者全体」では「利用しやすくなった」が17.7%に対し、「利用しにくくなった」は8.0%と、「利用しやすくなった」が9.7ポイント上回っています。

障がい別では、「精神障がい者」は「利用しやすくなった」が26.0%に対し、「利用しにくくなった」は10.0%と、「利用しやすくなった」が16.0ポイント上回っていますが、「重複障がい者」は「利用しやすくなった」が15.9%に対し、「利用しにくくなった」は20.5%と、「利用しにくくなった」が4.6ポイント上回っています。



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな変化は見られません。

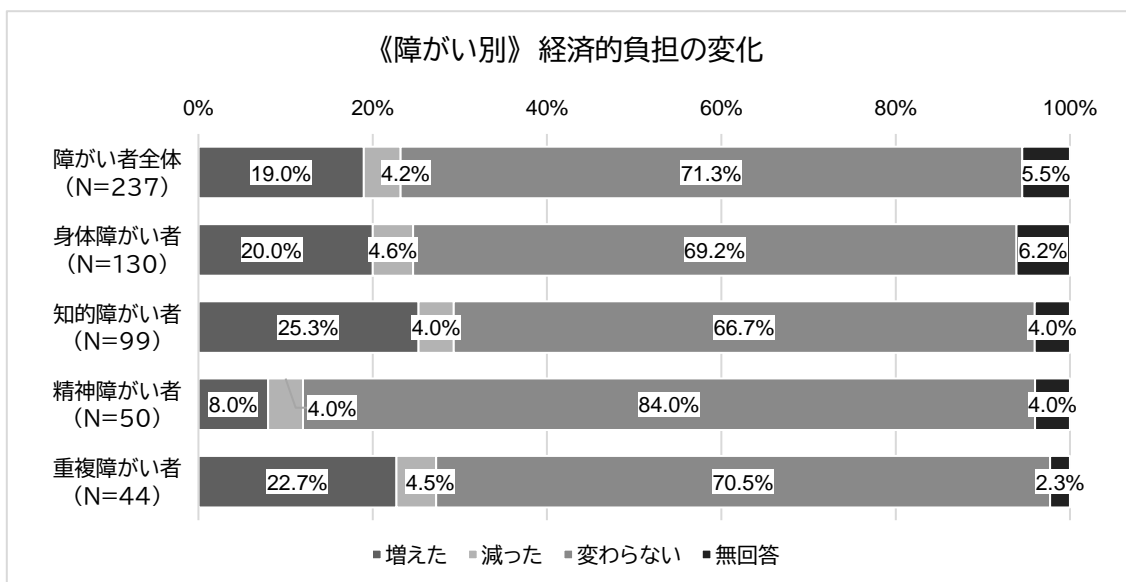




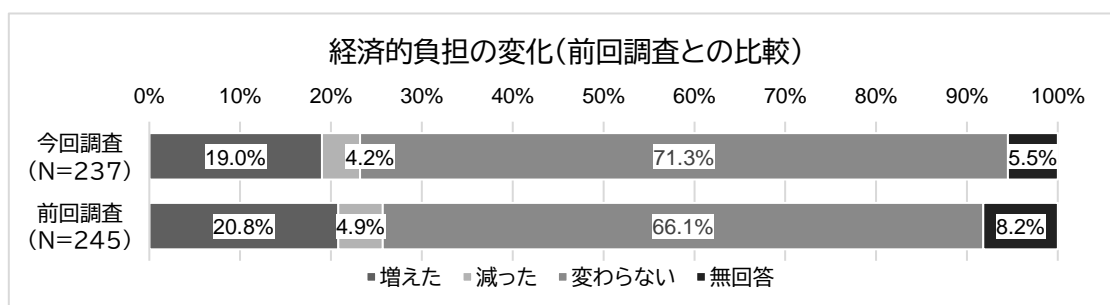
## D. 経済的負担

「障がい者全体」では「増えた」が 19.0%に対し、「減った」は 4.2%と、「増えた」が 14.8 ポイント上回っています。

障がい別では、どの障がいも「増えた」が「減った」を上回っていますが、特に、「知的障がい者」は「増えた」が 25.3%に対し、「減った」は 4.0%と、「増えた」が 21.3 ポイントと、大きく上回り、「重複障がい者」も「増えた」が 22.7%に対し、「減った」は 4.5%と、「増えた」が 18.2 ポイントと、大きく上回っています。



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「変わらない」は 5.2 ポイント多くなっていますが、「増えた」「減った」はあまり変化が見られません。



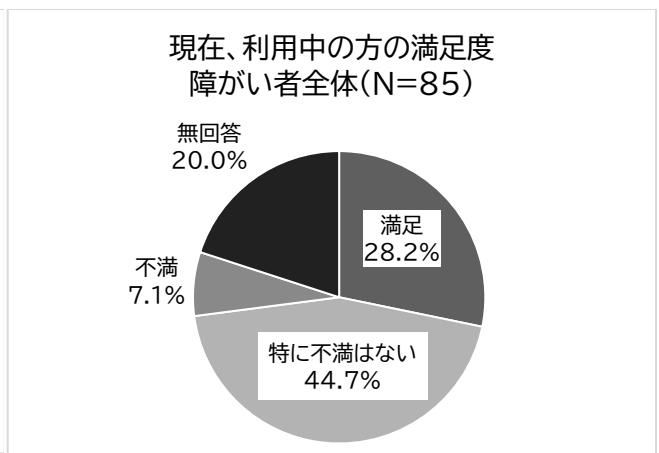
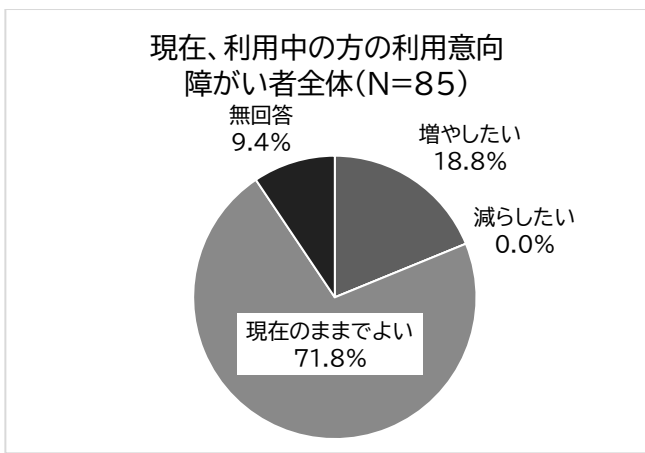
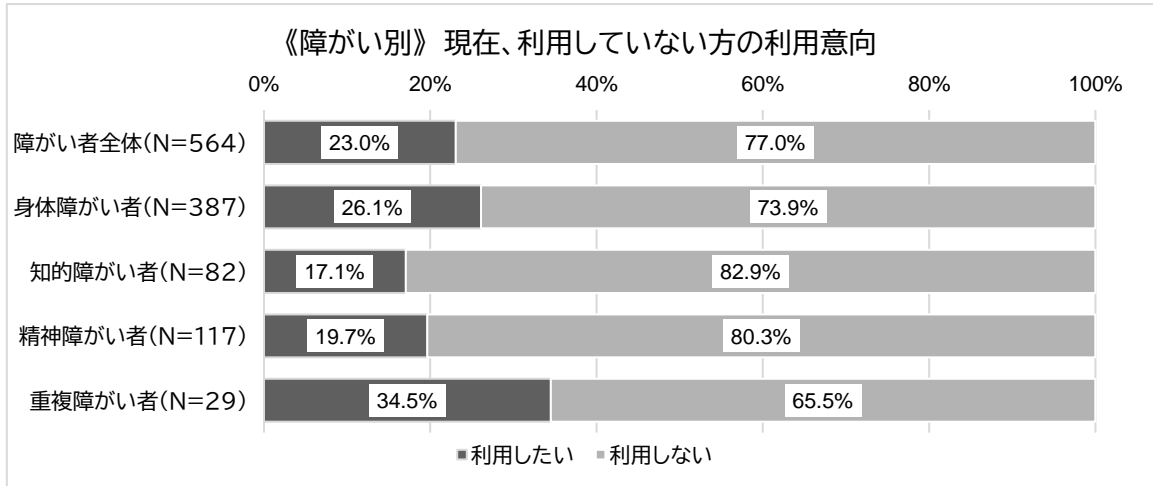
## 4) 障がい福祉サービスの利用意向と満足度、および、不満の理由

### ■ 訪問系サービス

#### A. 居宅介護(ホームヘルプ)

現在、居宅介護を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 23.0%、「身体障がい者」は 26.1%、「知的障がい者」は 17.1%、「精神障がい者」は 19.7%、「重複障がい者」は 34.5%が「利用したい」と回答しています。

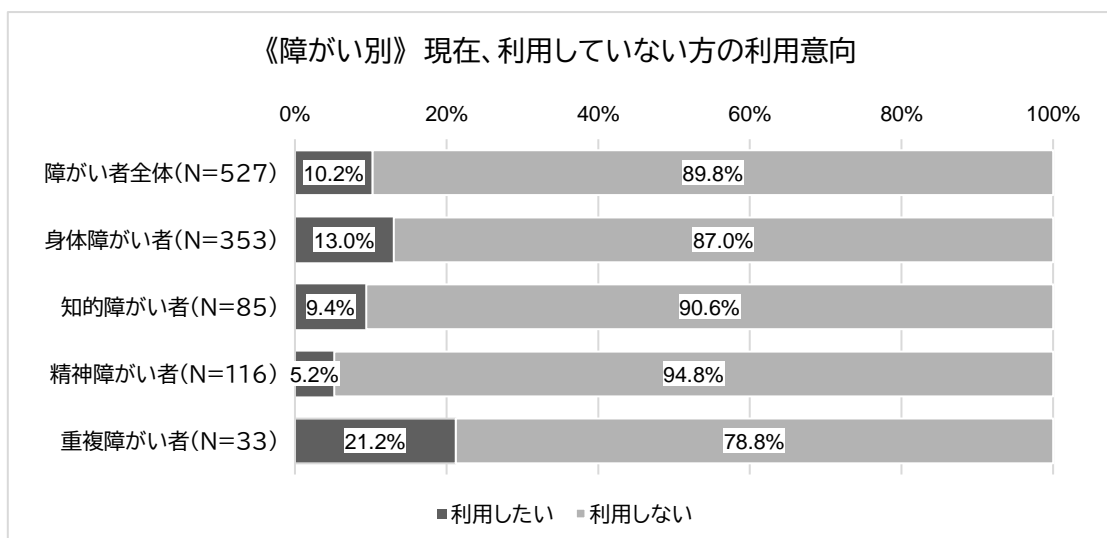
現在、利用中の「障がい者全体」の 18.8%が「増やしたい」と回答し、満足度では 28.2% が「満足」、7.1% が「不満」と回答しています。

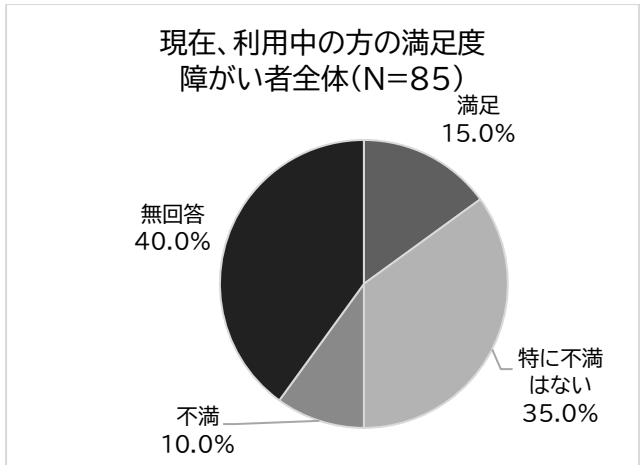
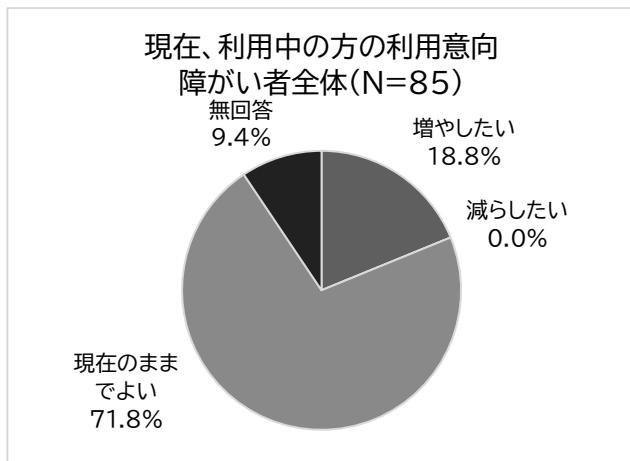


## B. 重度訪問介護

現在、重度訪問介護を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 10.2%、「身体障がい者」は 13.0%、「知的障がい者」は 9.4%、「精神障がい者」は 5.2%、「重複障がい者」は 21.2%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の 18.8%が「増やしたい」と回答し、満足度では15.0% が「満足」、10.0% が「不満」と回答しています。

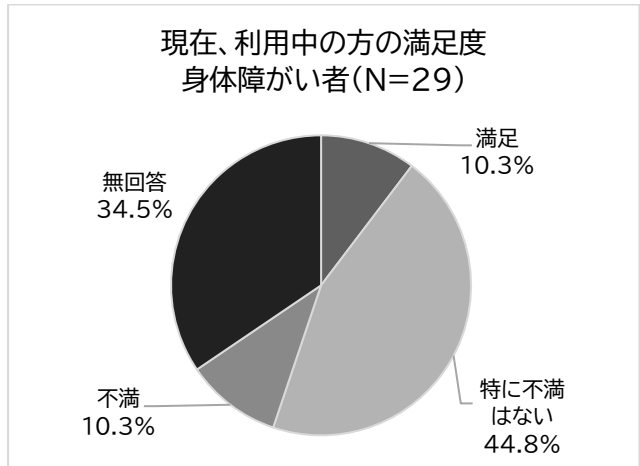
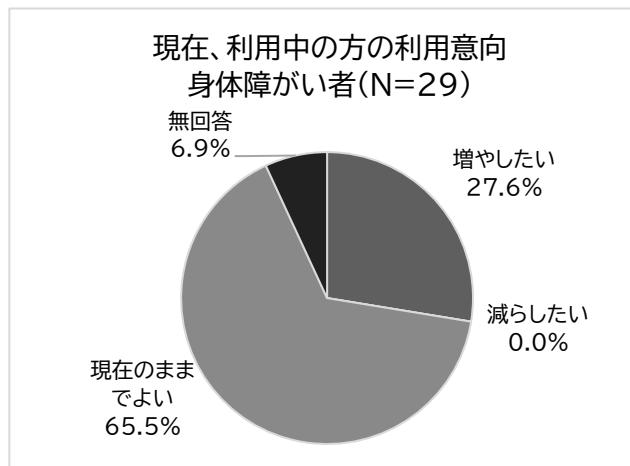
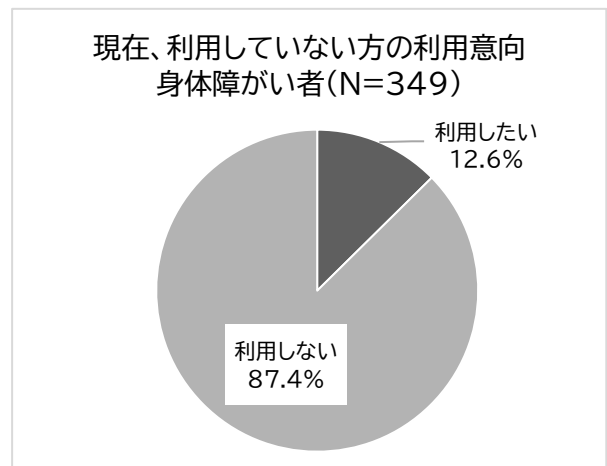




### C. 同行援護

現在、同行援護を利用していない方の利用意向をみると、「身体障がい者」は 12.6%、「重複障がい者」は 10.3%が「利用したい」と回答しています。

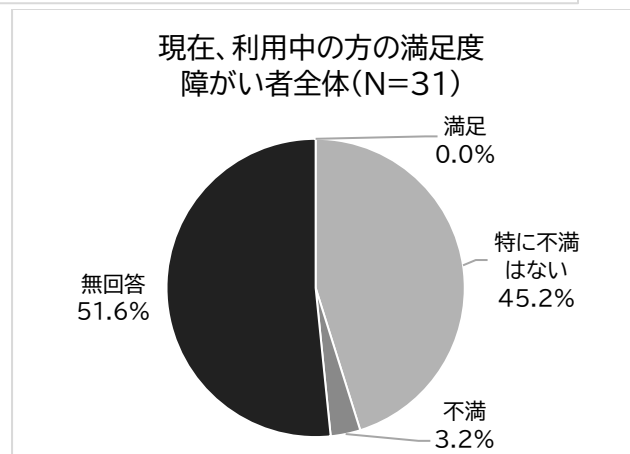
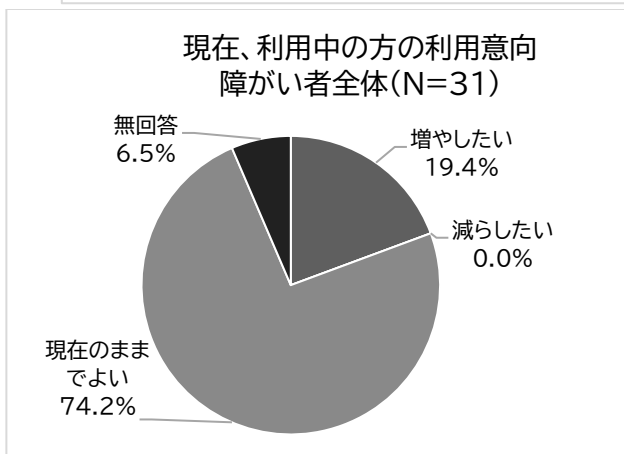
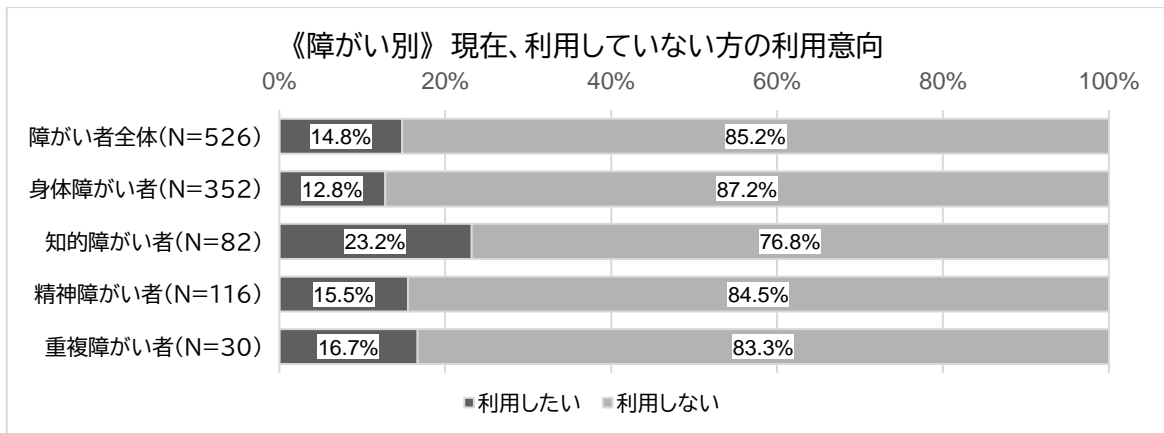
現在、利用中の「障がい者全体」の 30.6%が「増やしたい」と回答し、満足度では 8.3% が「満足」、8.3%が「不満」と回答しています。



### D. 行動援護

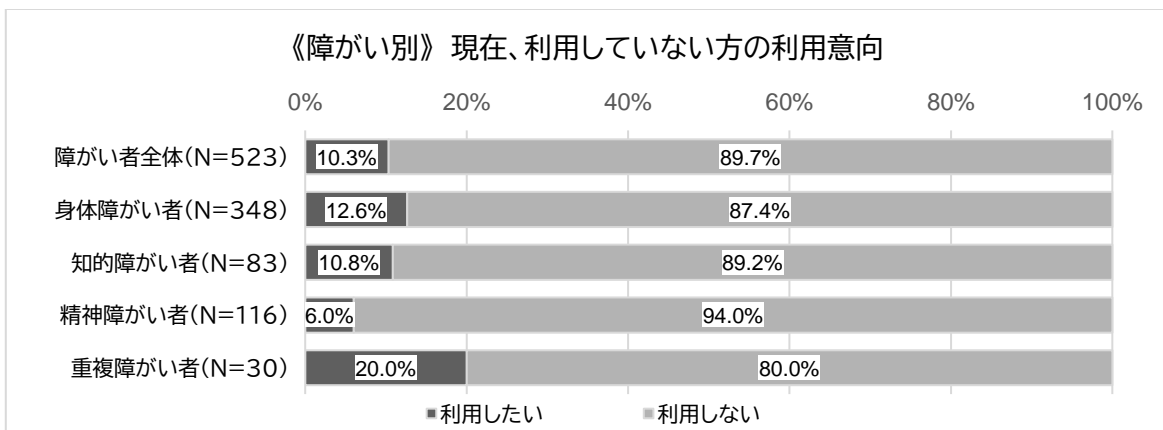
現在、行動援護を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 14.8%、「身体障がい者」は 12.8%、「知的障がい者」は 23.2%、「精神障がい者」は 15.5%、「重複障がい者」は 16.7%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の 19.4%が「増やしたい」と回答し、満足度では「満足」と回答したものはなく、3.2%が「不満」と回答しています。



### E. 重度障がい者等包括支援

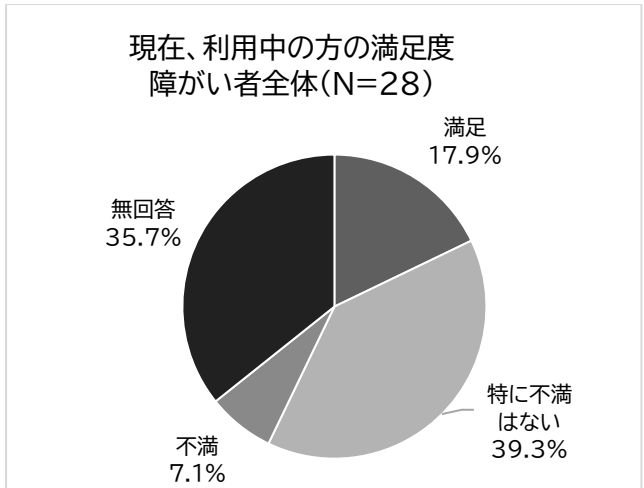
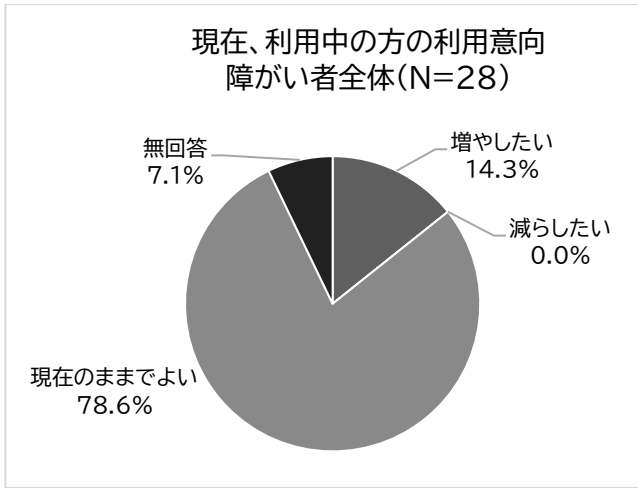
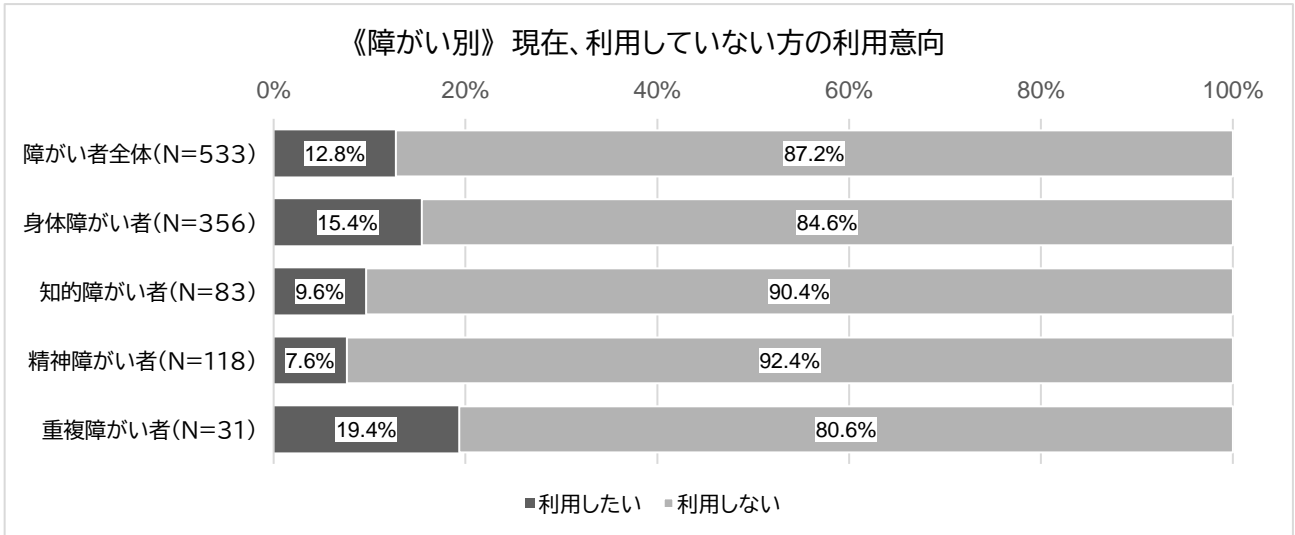
現在、重度障がい者等包括支援を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 10.3%、「身体障がい者」は 12.6%、「知的障がい者」は 10.8%、「精神障がい者」は 6.0%、「重複障がい者」は 20.0%が「利用したい」と回答しています。



### F. 訪問入浴サービス

現在、訪問入浴サービスを利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 12.8%、「身体障がい者」は 15.4%、「知的障がい者」は 9.6%、「精神障がい者」は 7.6%、「重複障がい者」は 19.4%が「利用したい」と回答しています。

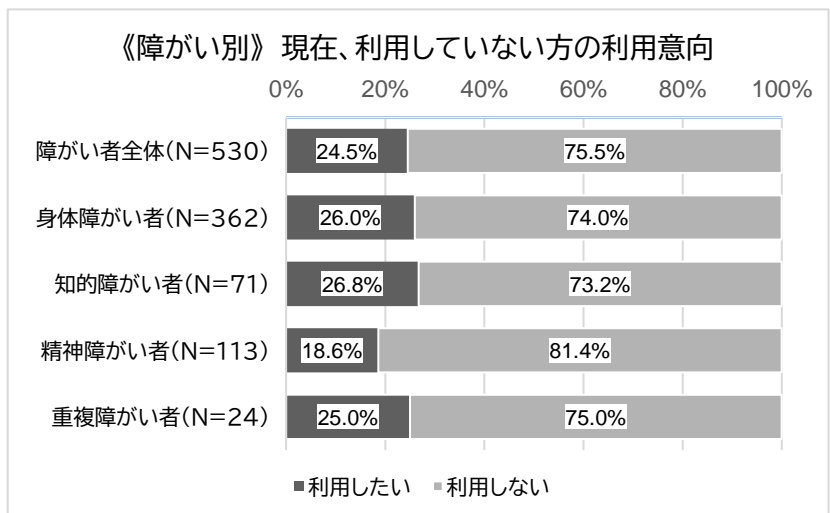
現在、利用中の「障がい者全体」の 14.3%が「増やしたい」と回答し、満足度では 17.9% が「満足」、7.1%が「不満」と回答しています。

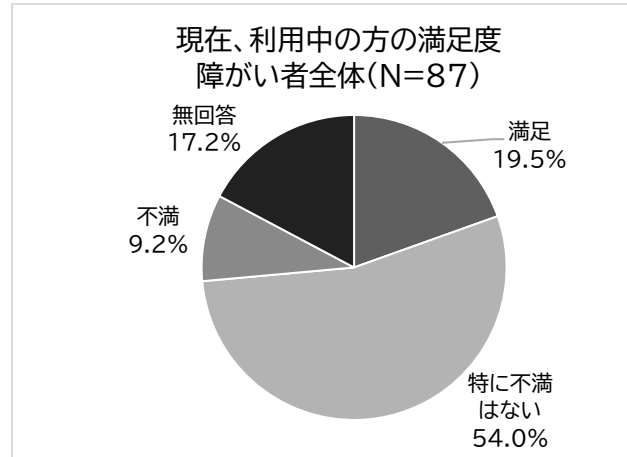
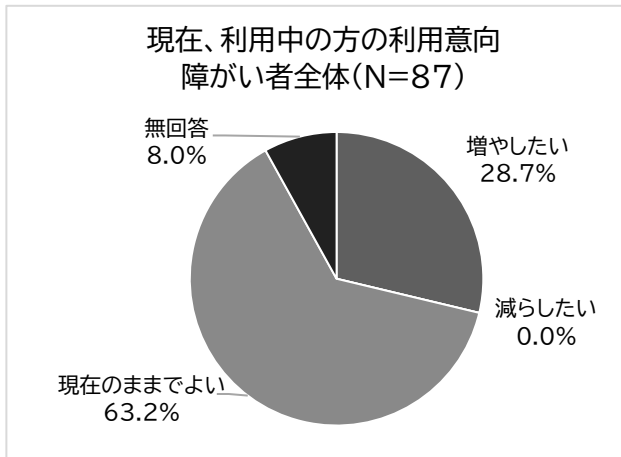


### G. 移動支援

現在、移動支援を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 24.5%、「身体障がい者」は 26.0%、「知的障がい者」は 26.8%、「精神障がい者」は 18.6%、「重複障がい者」は 25.0%が「利用したい」と回答しています。

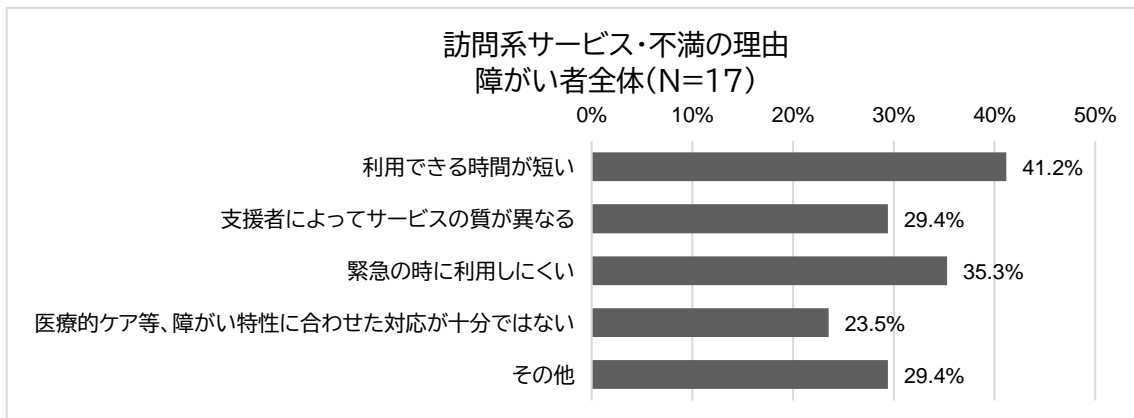
現在、利用中の「障がい者全体」の 28.7%が「増やしたい」と回答し、満足度では 19.5%が「満足」、9.2%が「不満」と回答しています。





### 訪問系サービス不満の理由

「不満」と回答した 17 名のうち、「利用できる時間が短い」が 41.2% ともっとも多く、次いで、「緊急の時に利用しにくい」が 35.3%、「支援者によってサービスの質が異なる」が 29.4%、「医療的ケア等、障がい特性に合わせた対応が十分ではない」が 23.5% となっています。

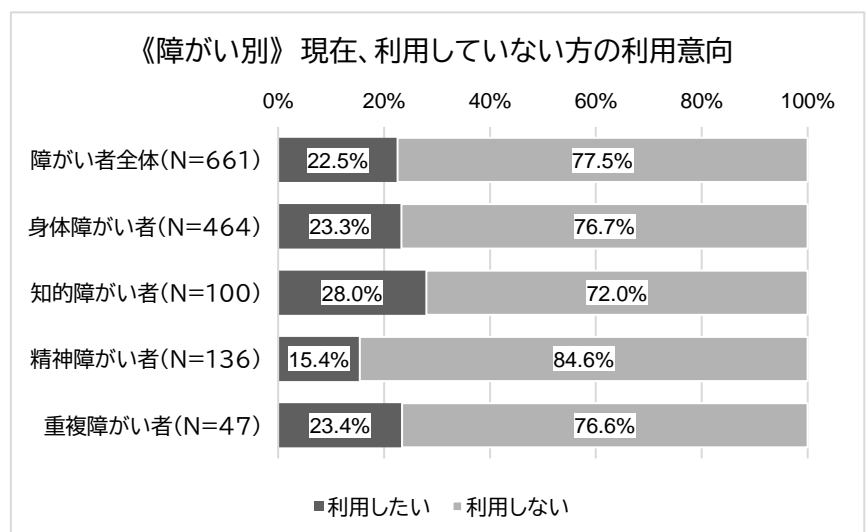


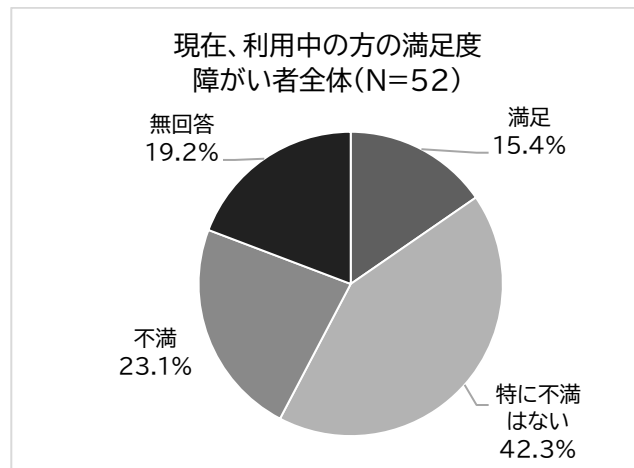
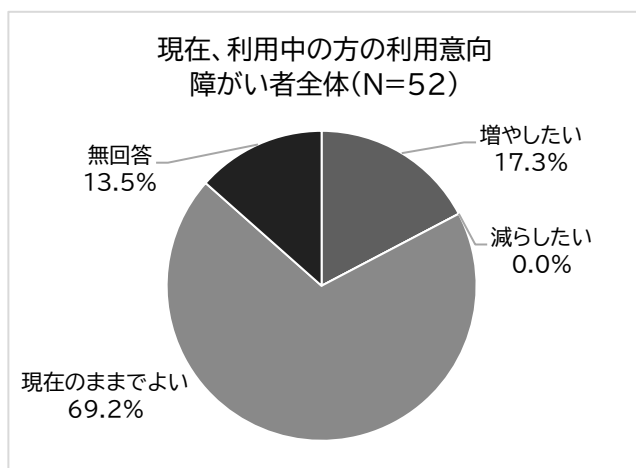
### ■ 短期入所サービス

#### 短期入所(ショートステイ)

現在、短期入所を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 22.5%、「身体障がい者」は 23.3%、「知的障がい者」は 28.0%、「精神障がい者」は 15.4%、「重複障がい者」は 23.4% が「利用したい」と回答しています。

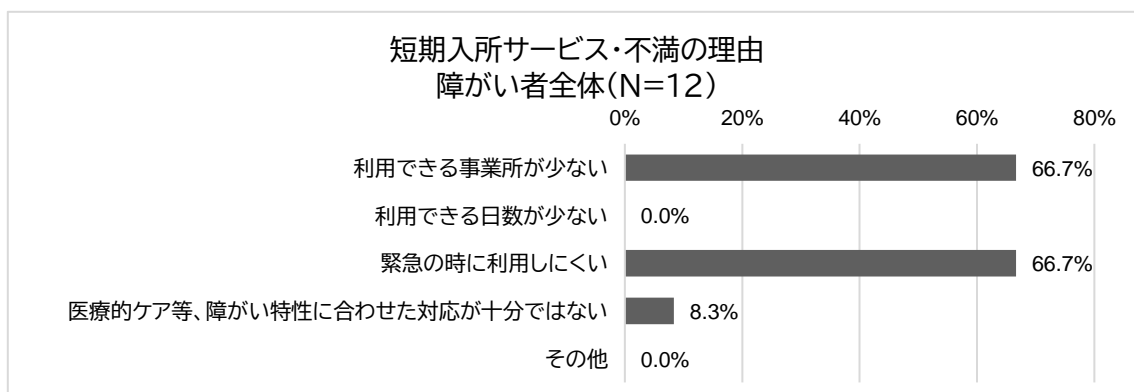
現在、利用中の「障がい者全体」の 17.3% が「増やしたい」と回答し、満足度では 15.4% が「満足」、23.1% が「不満」と回答しています。





### 不満の理由

「不満」と回答した 12 名のうち、「利用できる事業所が少ない」「緊急の時に利用しにくい」が共に 66.7%と、多くなっています。

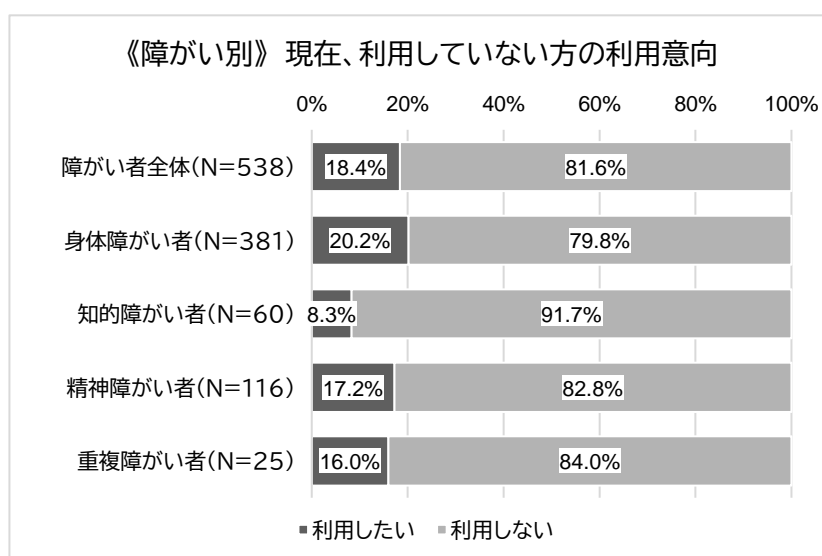


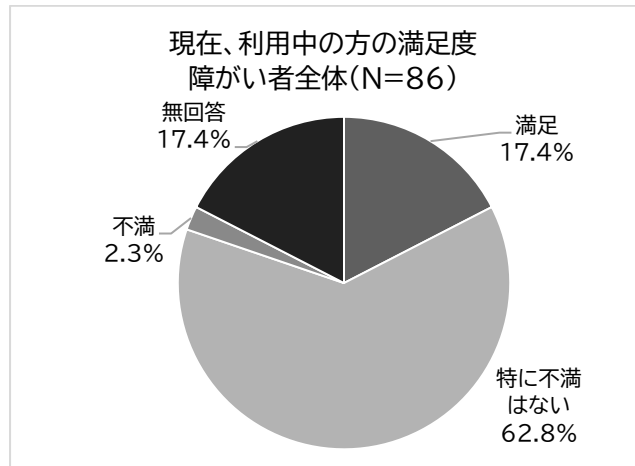
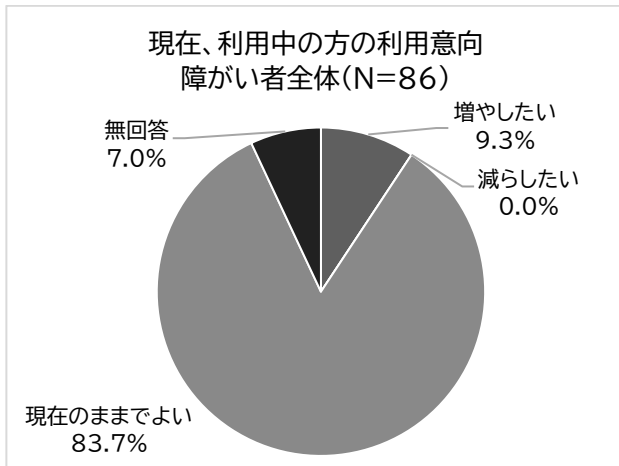
## ■ 日中活動系サービス

### A. 生活介護

現在、生活介護を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 18.4%、「身体障がい者」は 20.2%、「知的障がい者」は 8.3%、「精神障がい者」は 17.2%、「重複障がい者」は 16.0%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の 9.3%が「増やしたい」と回答し、満足度では 17.4%が「満足」、2.3%が「不満」と回答しています。

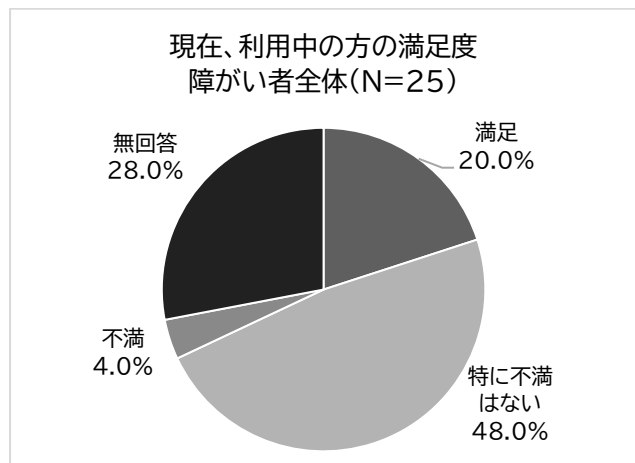
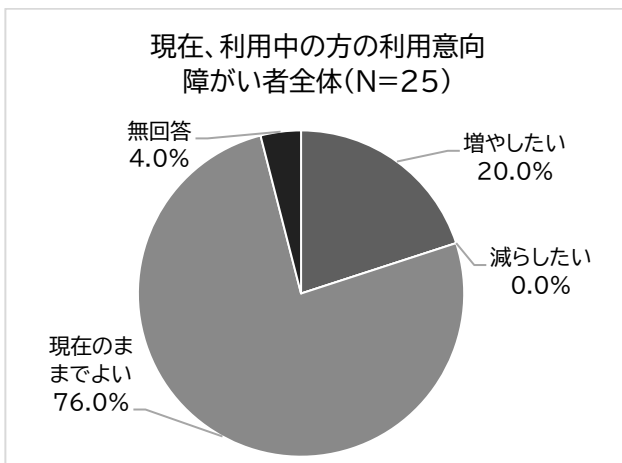
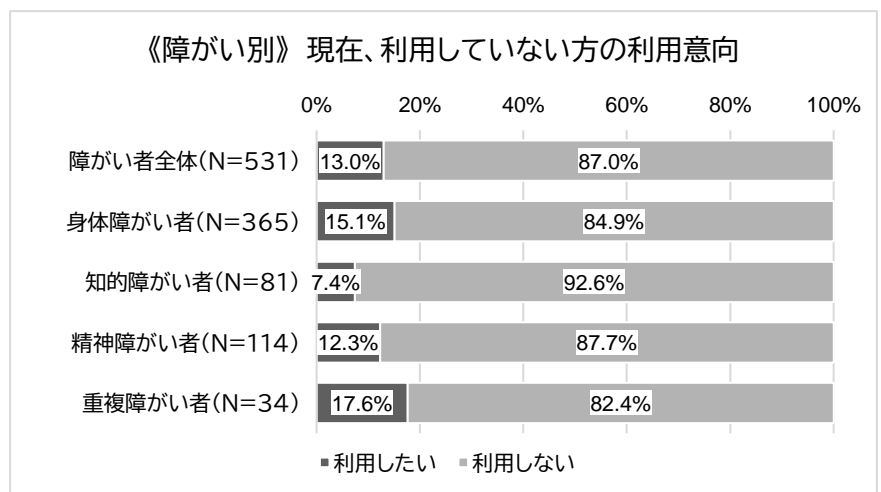




## B. 療養介護

現在、療養介護を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 13.0%、「身体障がい者」は 15.1%、「知的障がい者」は 7.4%、「精神障がい者」は 12.3%、「重複障がい者」は 17.6%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の 20.0%が「増やしたい」と回答し、満足度では 20.0%が「満足」、4.0%が「不満」と回答しています。

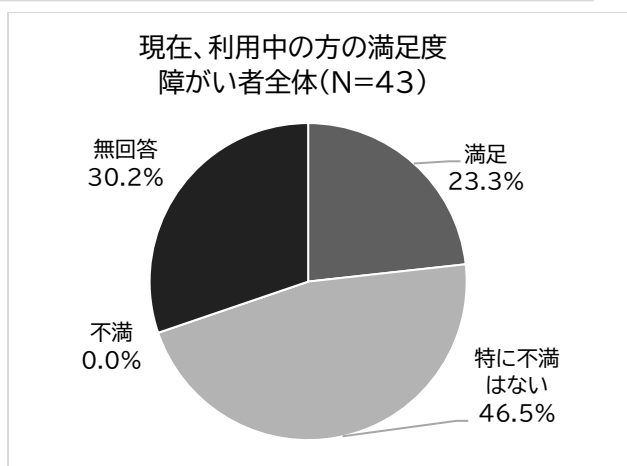
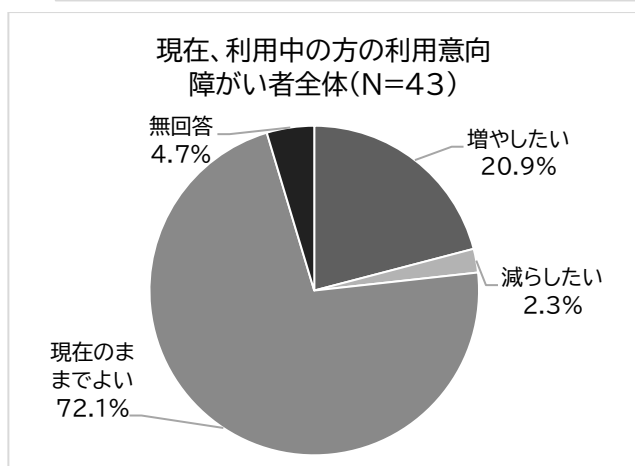
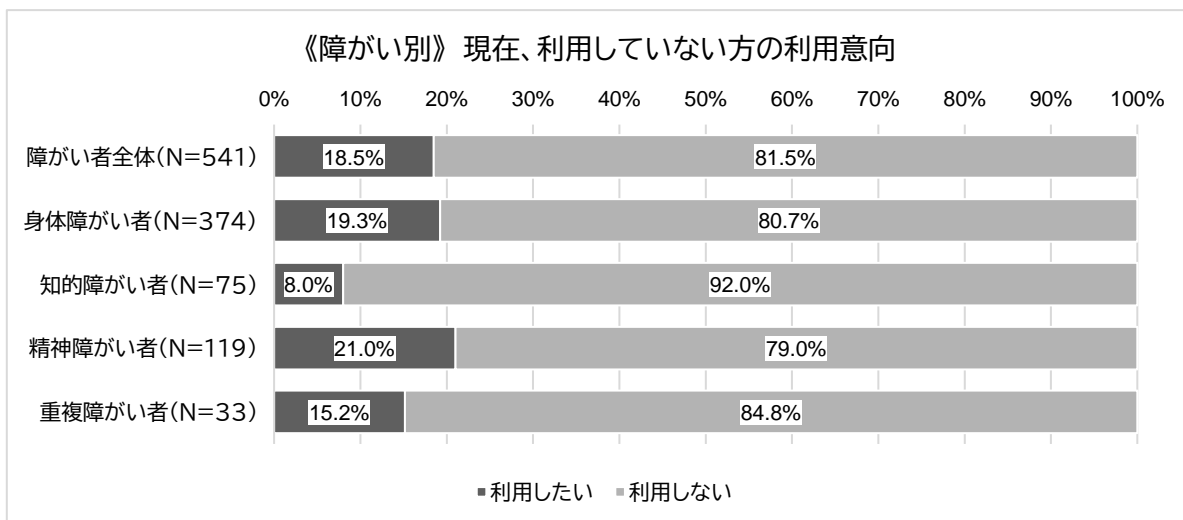


## C. 自立訓練(機能訓練・生活訓練)

現在、自立訓練を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 18.5%、「身体障がい者」は 19.3%、「知的障がい者」は 8.0%、「精神障がい者」は 21.0%、「重複障がい者」は 15.2%が「利用したい」と回答しています。



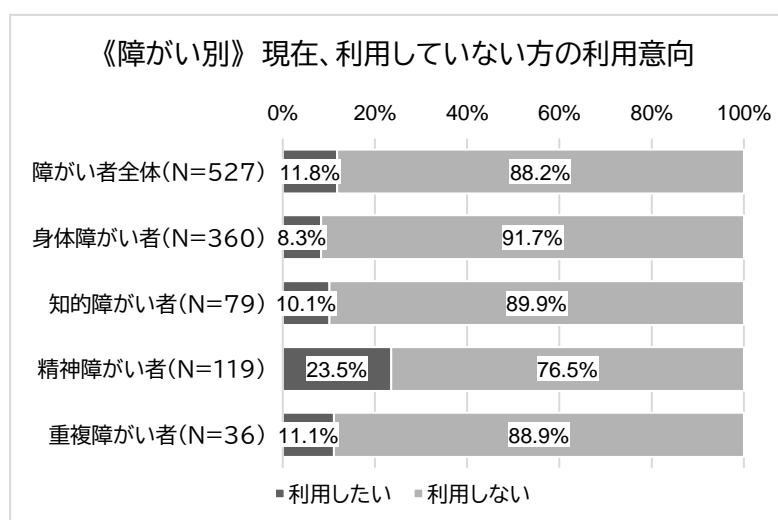
現在、利用中の「障がい者全体」の20.9%が「増やしたい」と回答し、満足度では23.3%が「満足」と回答し、「不満」と回答した人はいません。

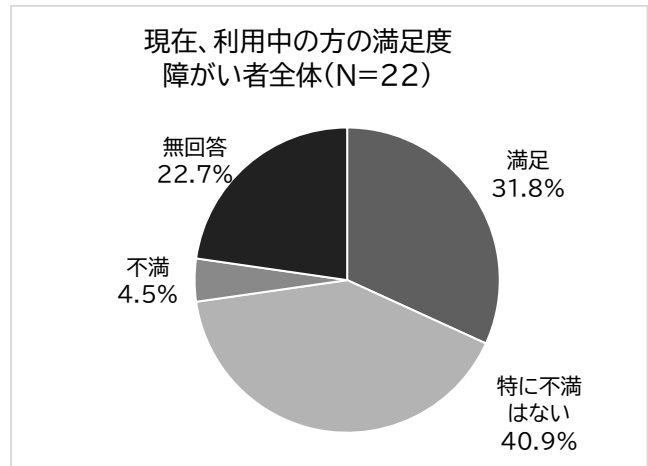
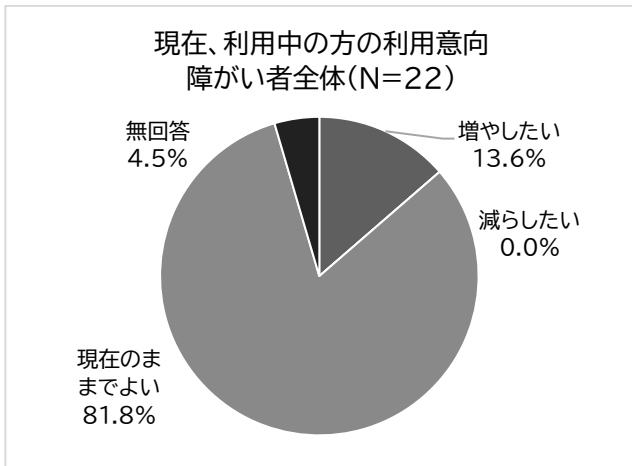


#### D. 就労移行支援

現在、就労移行支援を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は11.8%、「身体障がい者」は8.3%、「知的障がい者」は10.1%、「精神障がい者」は23.5%、「重複障がい者」は11.1%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の13.6%が「増やしたい」と回答し、満足度では31.8%が「満足」、4.5%が「不満」と回答しています。

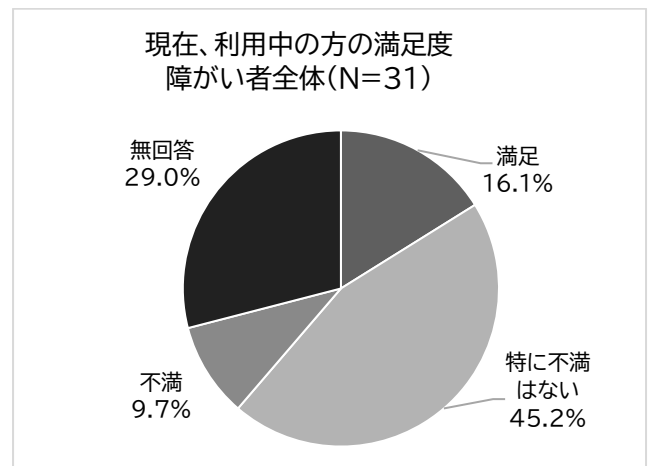
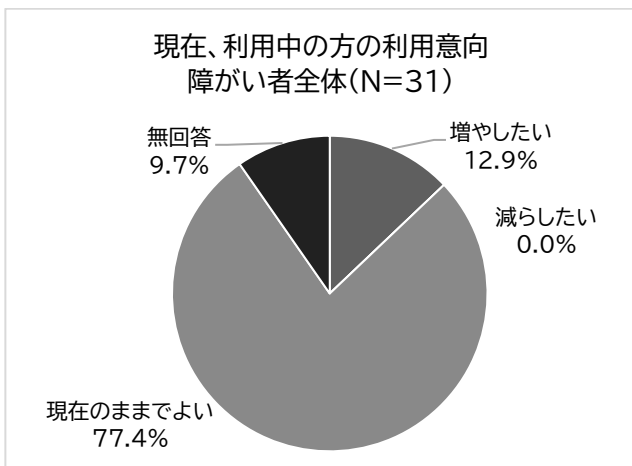
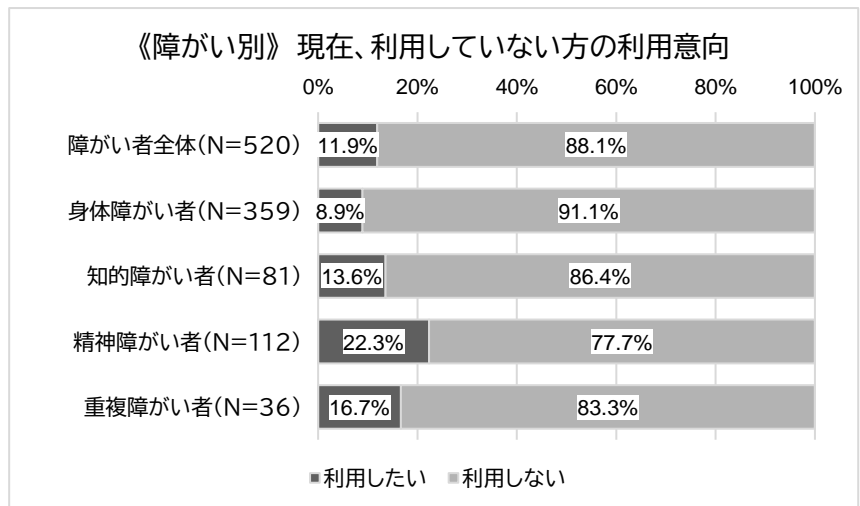




### E. 就労継続支援A型(雇用契約有)

現在、就労継続支援A型を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 11.9%、「身体障がい者」は 8.9%、「知的障がい者」は 13.6%、「精神障がい者」は 22.3%、「重複障がい者」は 16.7% が「利用したい」と回答しています。

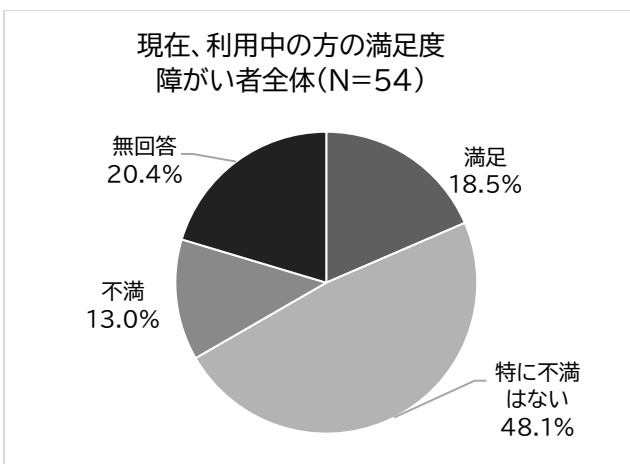
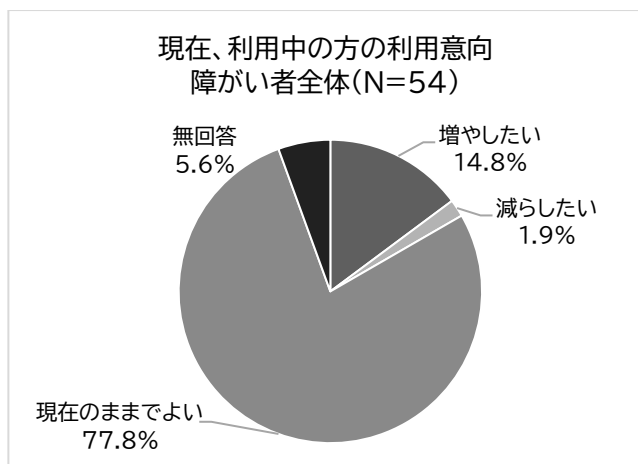
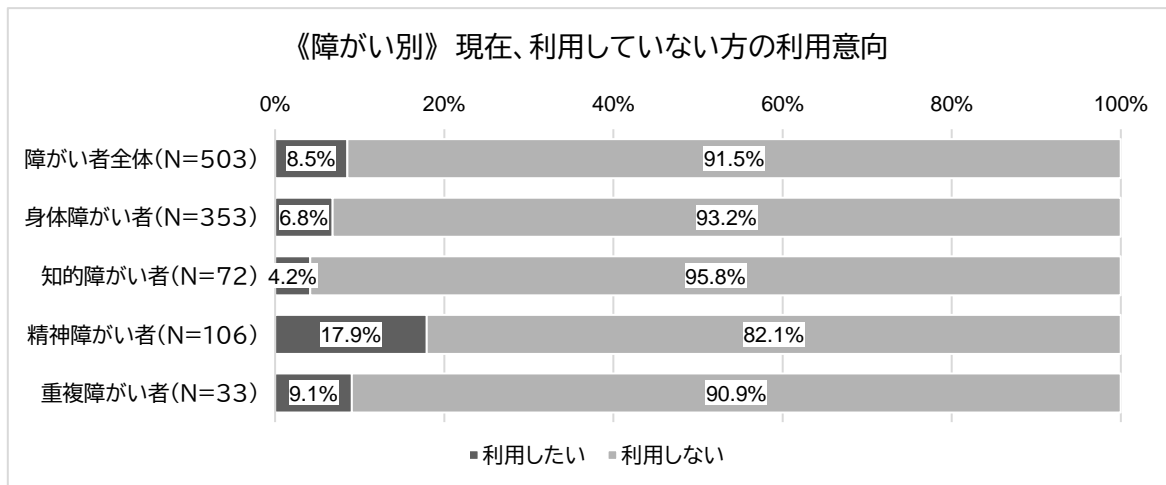
現在、利用中の「障がい者全体」の 12.9%が「増やしたい」と回答し、満足度では 16.1%が「満足」、9.7%が「不満」と回答しています。



### F. 就労継続支援B型(雇用契約無)

現在、就労継続支援B型を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 8.5%、「身体障がい者」は 6.8%、「知的障がい者」は 4.2%、「精神障がい者」は 17.9%、「重複障がい者」は 9.1%が「利用したい」と回答しています。

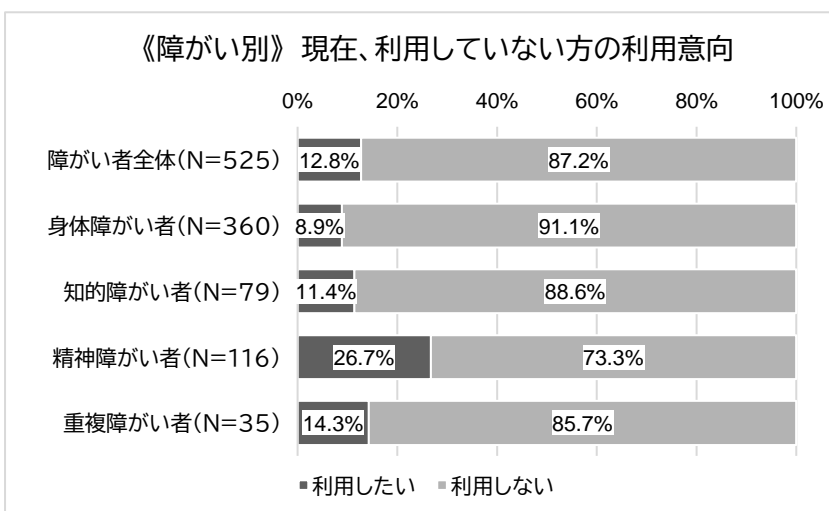
現在、利用中の「障がい者全体」の 14.8%が「増やしたい」と回答し、満足度では 18.5%が「満足」、13.0%が「不満」と回答しています。

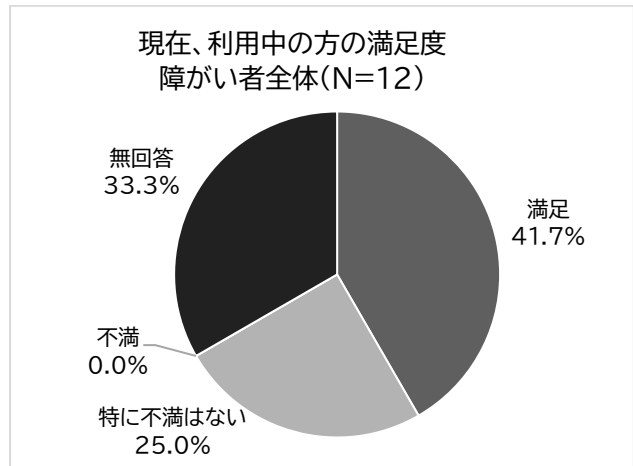
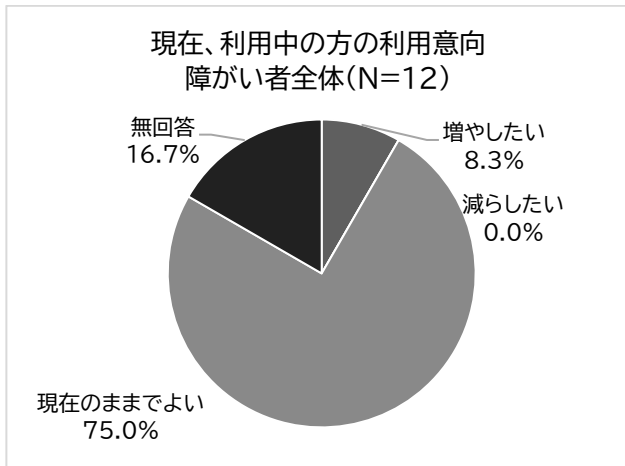


### G. 就労定着支援

現在、就労定着支援を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 12.8%、「身体障がい者」は 8.9%、「知的障がい者」は 11.4%、「精神障がい者」は 26.7%、「重複障がい者」は 14.3%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の 8.3%が「増やしたい」と回答し、満足度では 41.7%が「満足」と回答し、「不満」と回答した人はいません。

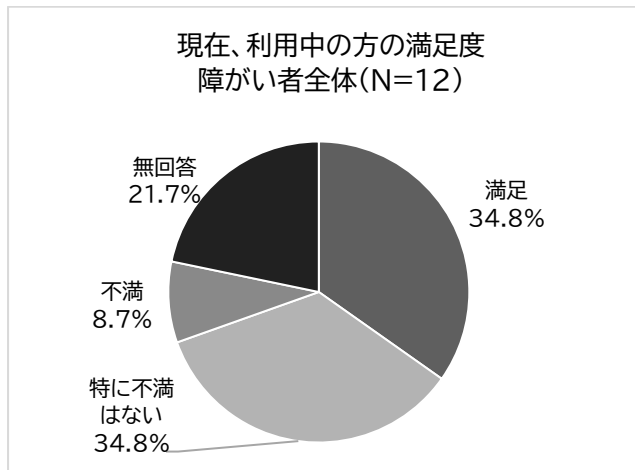
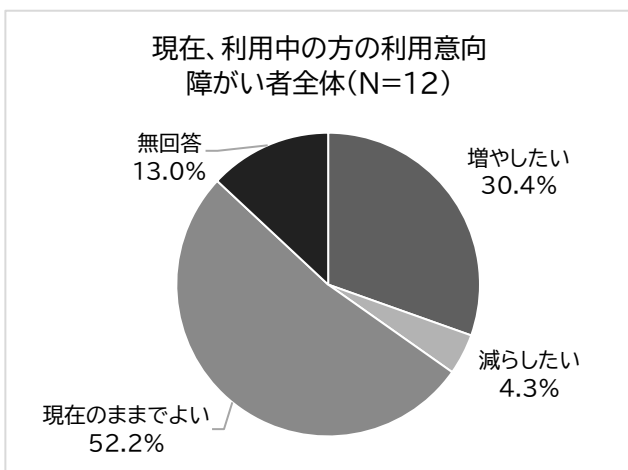
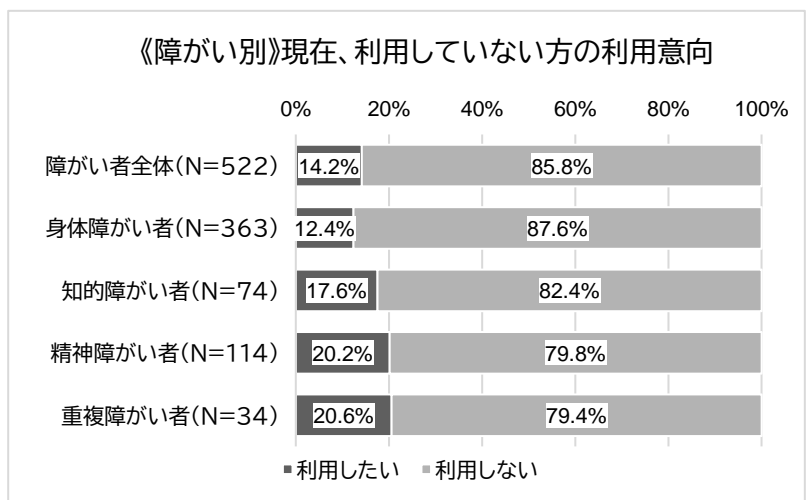




### H. 地域活動支援センター

現在、地域活動支援センターを利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 14.2%、「身体障がい者」は 12.4%、「知的障がい者」は 17.6%、「精神障がい者」は 20.2%、「重複障がい者」は 20.6%が「利用したい」と回答しています。

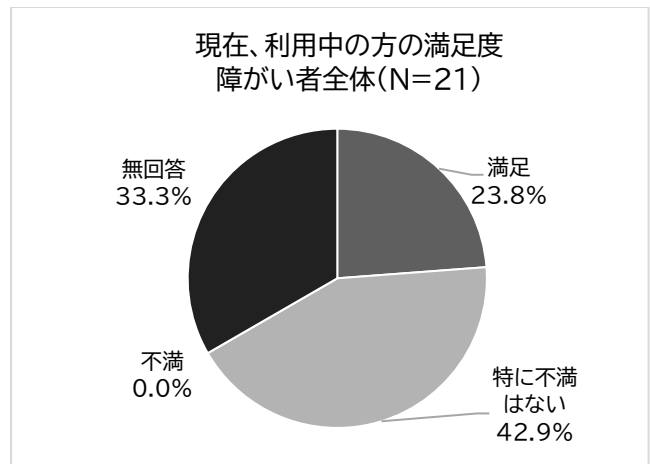
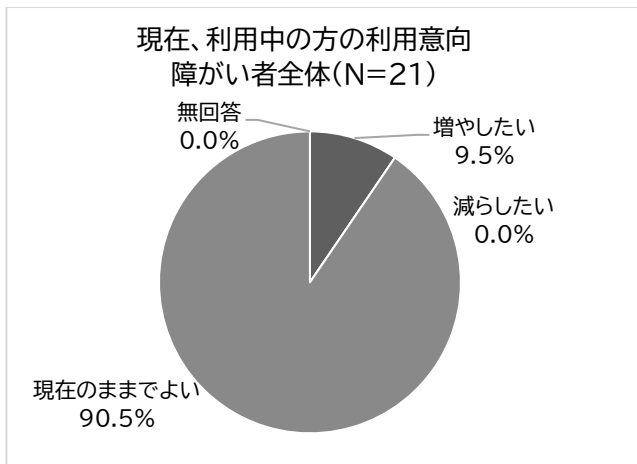
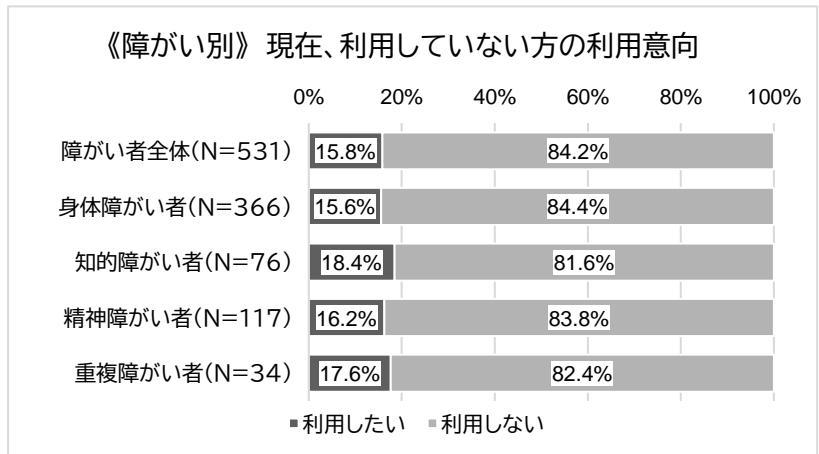
現在、利用中の「障がい者全体」の 30.4%が「増やしたい」と回答し、満足度では 34.8%が「満足」、8.7%が「不満」と回答しています。



## I. 日中一時支援

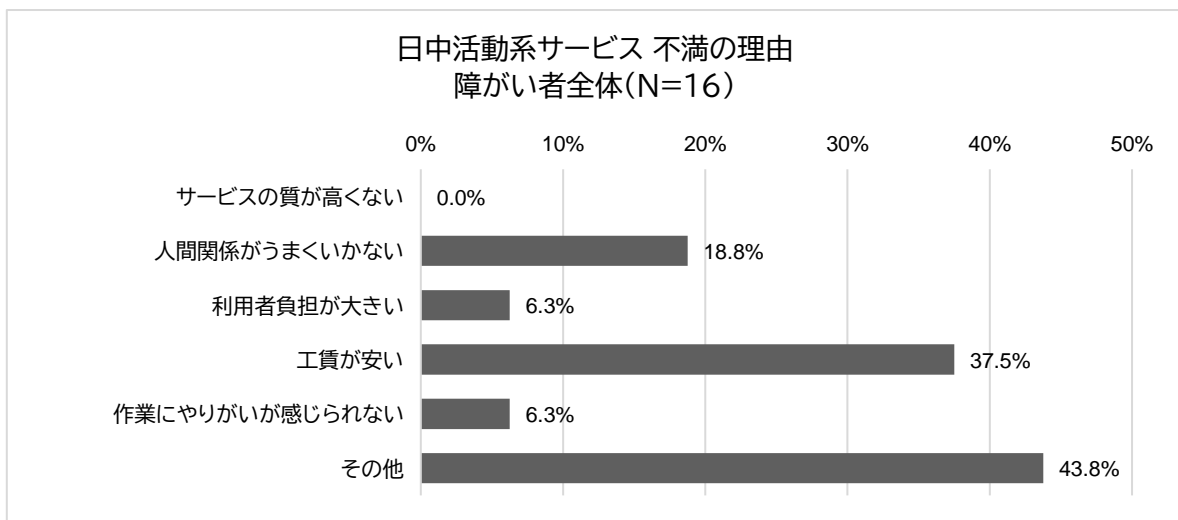
現在、日中一時支援を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 15.8%、「身体障がい者」は 15.6%、「知的障がい者」は 18.4%、「精神障がい者」は 16.2%、「重複障がい者」は 17.6%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の 9.5%が「増やしたい」と回答し、満足度では 23.8%が「満足」と回答し、「不満」と回答した人はいません。



### 日中活動系サービスの不満の理由

「不満」と回答した 16 名のうち、「工賃が安い」が 37.5%、「人間関係がうまくいかない」が 18.8%となっています。

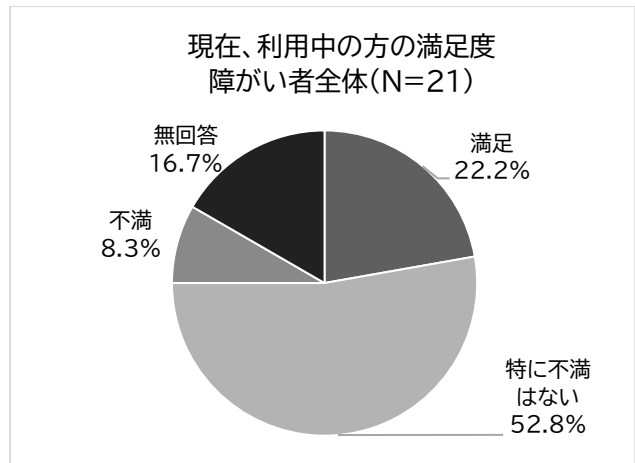
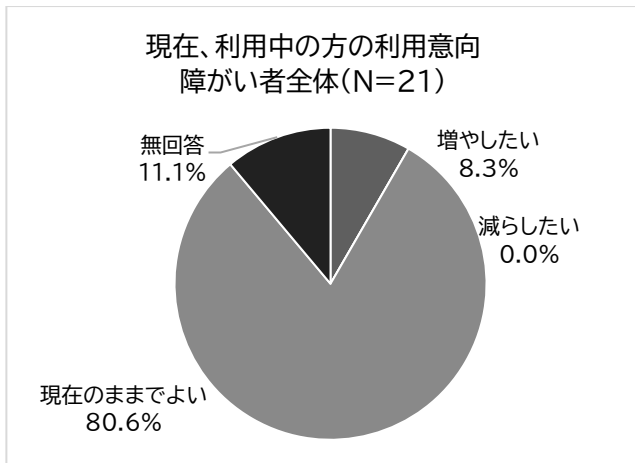
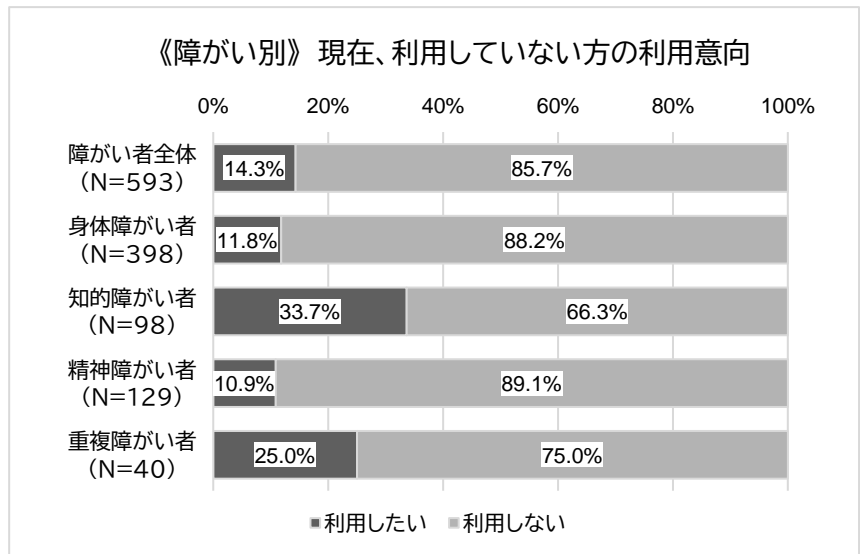


## ■ 居住系サービス

### A. 共同生活援助(グループホーム)

現在、共同生活援助を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 14.3%、「身体障がい者」は 11.8%、「知的障がい者」は 33.7%、「精神障がい者」は 10.9%、「重複障がい者」は 25.0% が「利用したい」と回答しています。

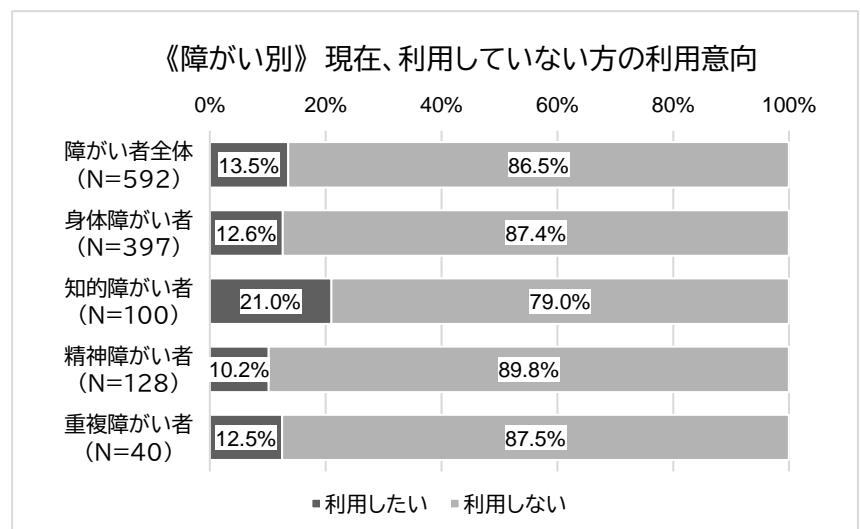
現在、利用中の「障がい者全体」の 8.3%が「増やしたい」と回答し、満足度では 22.2%が「満足」、8.3%が「不満」と回答しています。

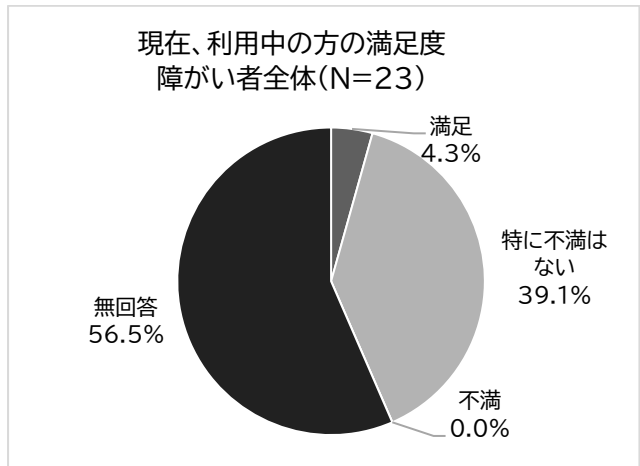
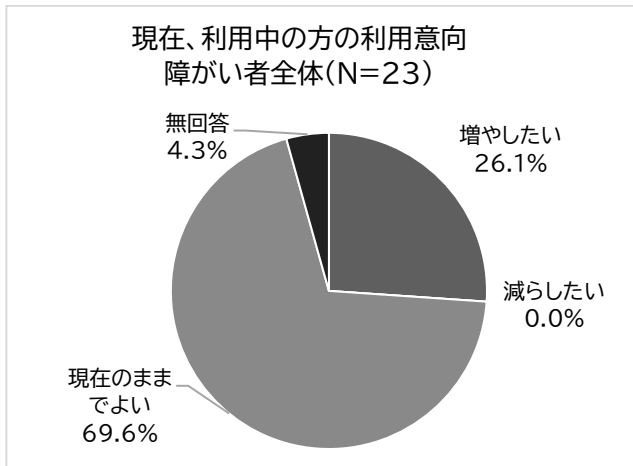


### B. 施設入所支援

現在、施設入所支援を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 13.5%、「身体障がい者」は 12.6%、「知的障がい者」は 21.0%、「精神障がい者」は 10.2%、「重複障がい者」は 12.5% が「利用したい」と回答しています。

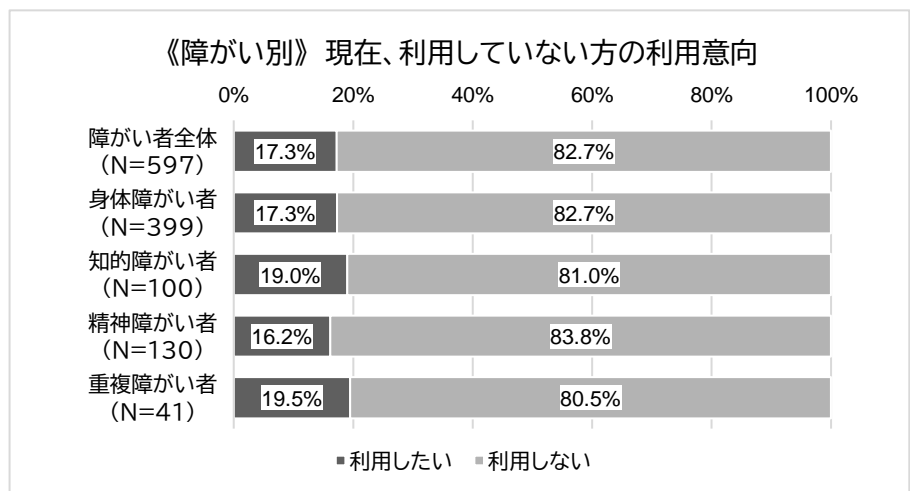
現在、利用中の「障がい者全体」の 26.1%が「増やしたい」と回答し、満足度では 4.3%が「満足」と回答し、「不満」と回答した人はいません。





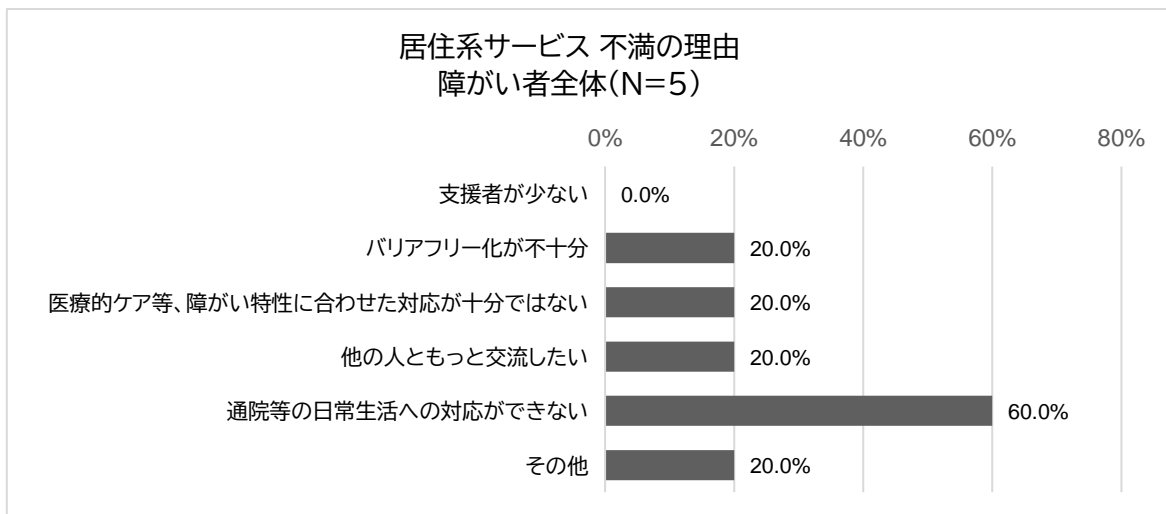
### C. 自立生活援助

現在、自立生活援助を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は17.3%、「身体障がい者」は17.3%、「知的障がい者」は19.0%、「精神障がい者」は16.2%、「重複障がい者」は19.5%が「利用したい」と回答しています。



### 居住系サービスの不満の理由

不満と回答した5名のうち、「通院等の日常生活への対応ができない」は60.0%、「バリアフリー化が不十分」「医療的ケア等、障がい特性に合わせた対応が十分ではない」「他の人ともっと交流したい」はそれぞれ20.0%となっています。

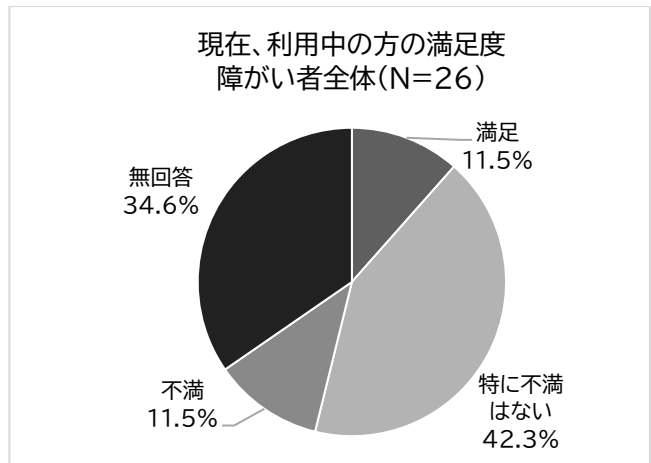
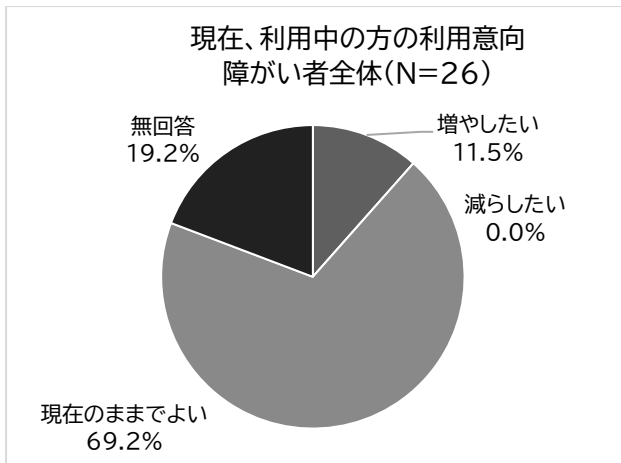
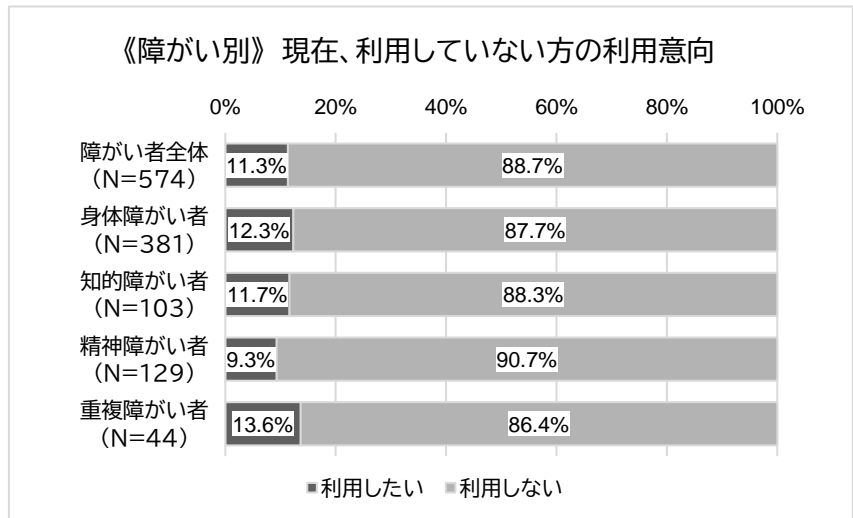


その他支援事業

A. 意思疎通支援

現在、意思疎通支援を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 11.3%、「身体障がい者」は 12.3%、「知的障がい者」は 11.7%、「精神障がい者」は 9.3%、「重複障がい者」は 13.6%が「利用したい」と回答しています。

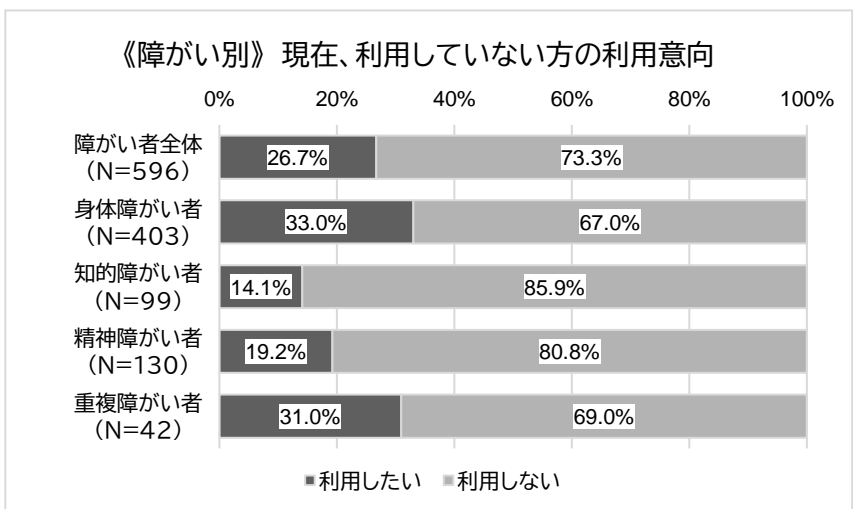
現在、利用中の「障がい者全体」の 11.5%が「増やしたい」と回答し、満足度では 11.5%が「満足」、11.5%が「不満」と回答しています。



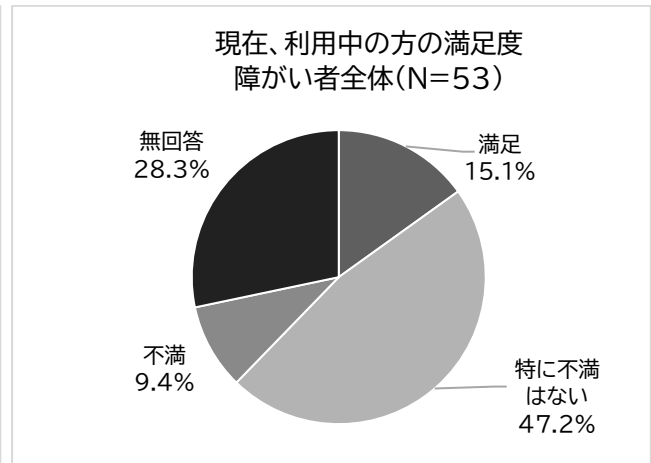
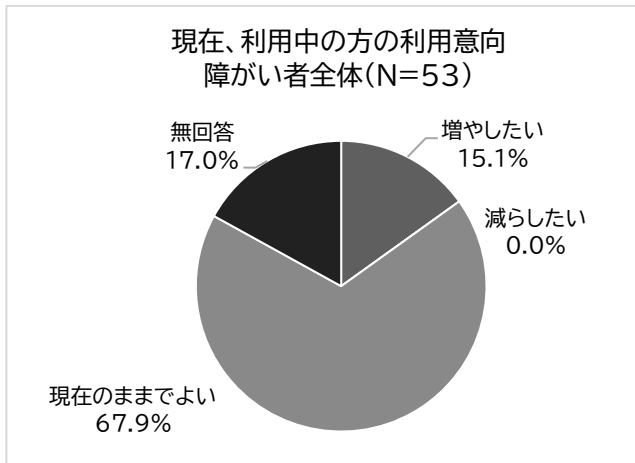
B. 日常生活用具給付

現在、日常生活用具給付を利用していない方の利用意向をみると、「障がい者全体」は 26.7%、「身体障がい者」は 33.0%、「知的障がい者」は 14.1%、「精神障がい者」は 19.2%、「重複障がい者」は 31.0%が「利用したい」と回答しています。

現在、利用中の「障がい者全体」の 15.1%が「増やしたい」と回答し、満足度では 15.1%が「満足」、9.4%が「不満」と回答しています。

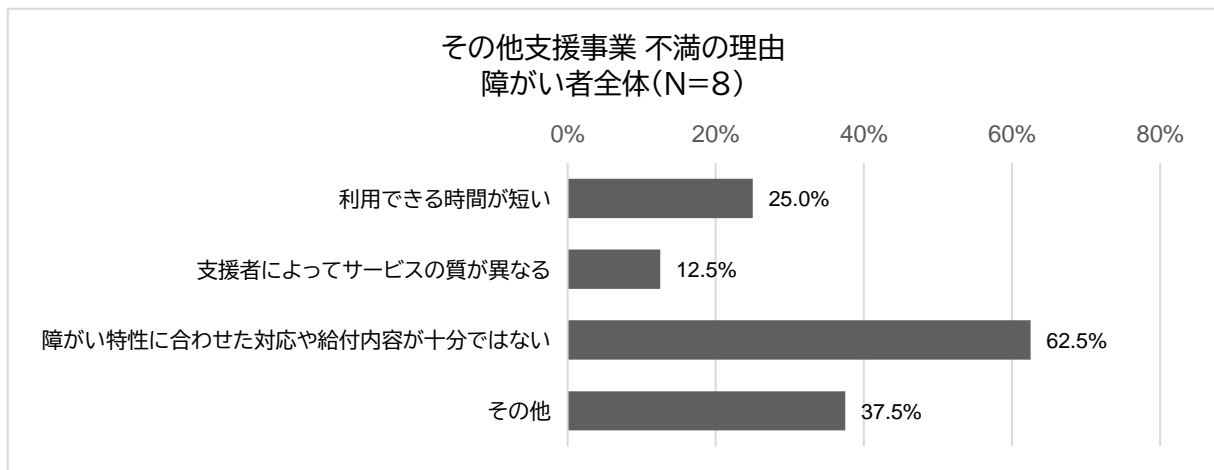






### その他支援事業の不満の理由

「不満」と回答した 8 名のうち、「障がい特性に合わせた対応や給付内容が十分ではない」は 62.5%、「利用できる時間が短い」は 25.0%、「支援者によってサービスの質が異なる」は 12.5%となっています。

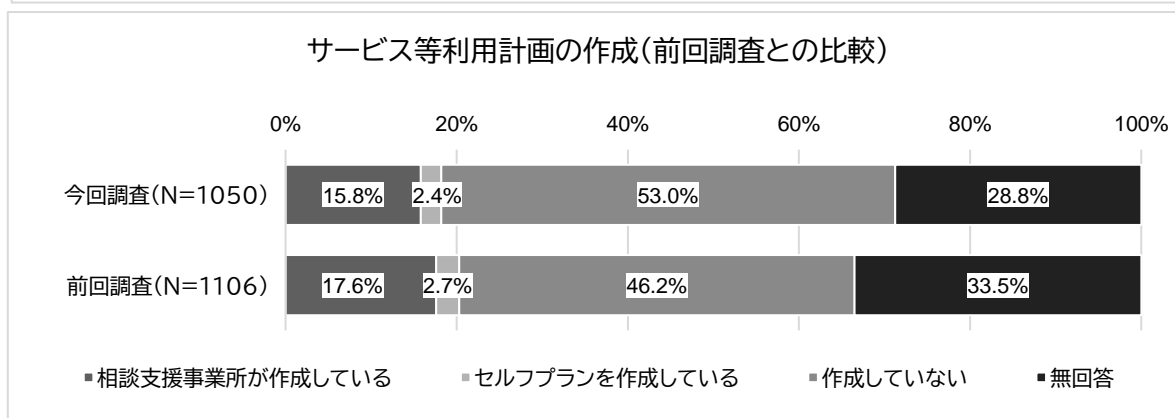
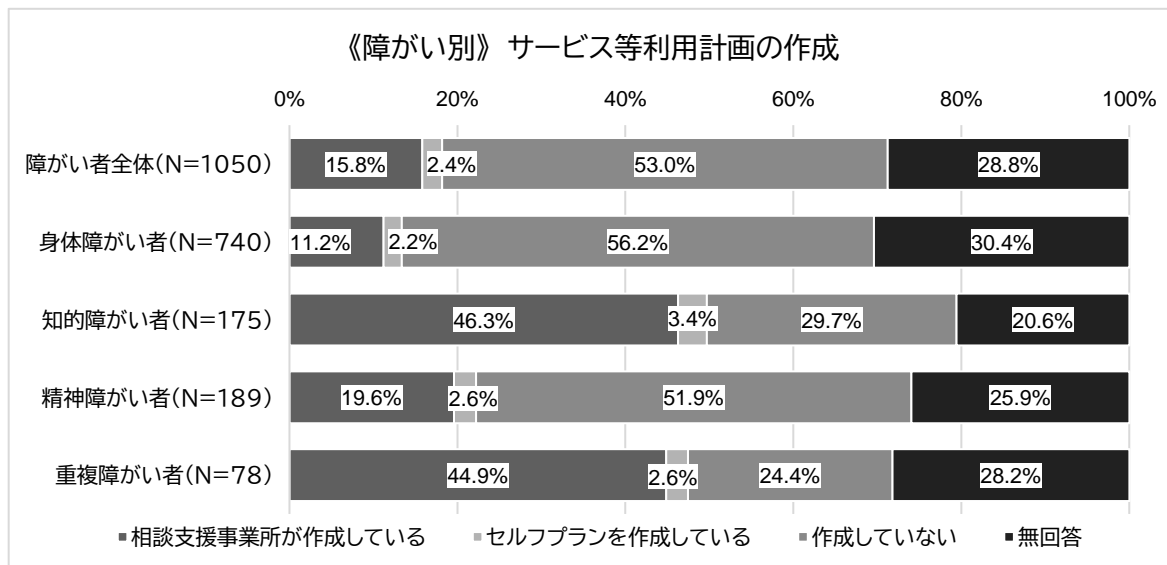


### 5) サービス等利用計画の作成

「障がい者全体」では「相談支援事業所が作成している」が 15.8%、「セルフプランを作成している」が 2.4%となっています。

サービス等利用計画の作成が多い障がいを見ると、「知的障がい者」は「相談支援事業所が作成している」が 46.3%、「セルフプランを作成している」が 3.4%、「重複障がい者」は「相談支援事業所が作成している」が 44.9%、「セルフプランを作成している」が 2.6%となっています。

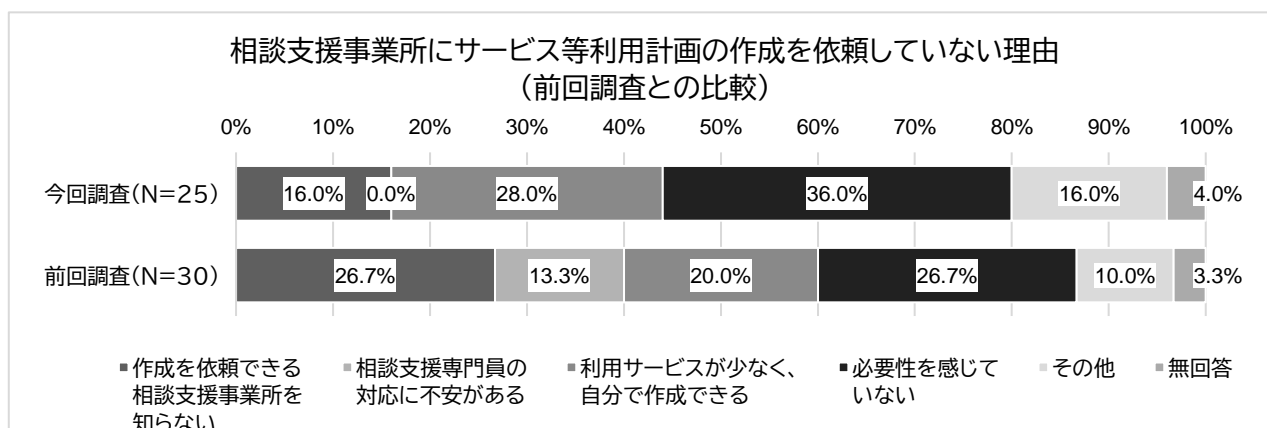
「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな変化は見られません。



#### 6) 相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼していない理由

セルフプランを作成している「障がい者全体」25名のうち、「相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼していない理由は、「必要性を感じていない」が36.0%でもっとも多く、次いで「利用サービスが少なく、自分で作成できる」が28.0%、「作成を依頼できる相談支援事業所を知らない」が16.0%となっています。

「前回調査」との比較では、「利用サービスが少なく、自分で作成できる」が8.0ポイント、「必要性を感じていない」が9.3ポイント増え、「作成を依頼できる相談支援事業所を知らない」が10.7ポイント、「相談支援専門員の対応に不安がある」が13.3ポイント減っています。



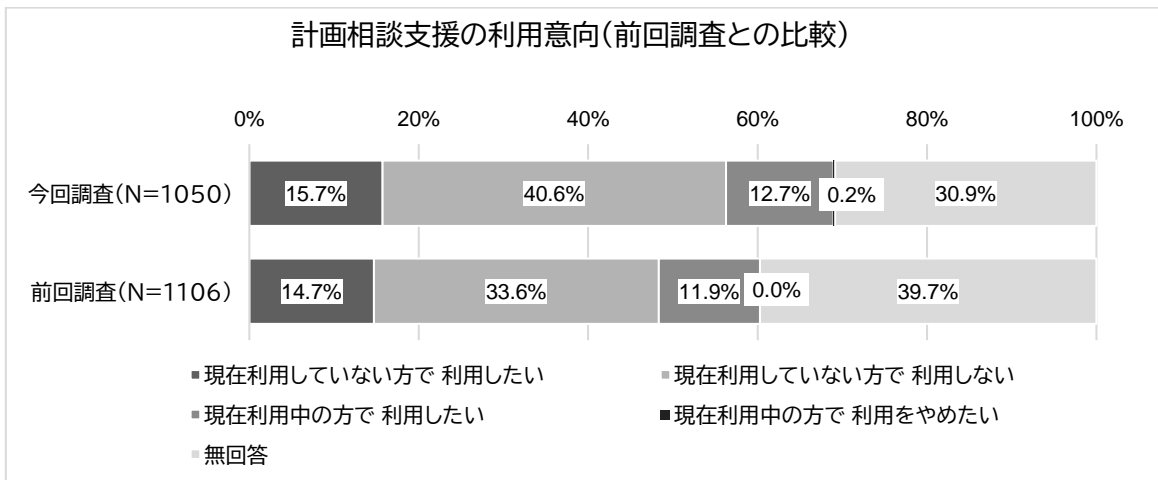
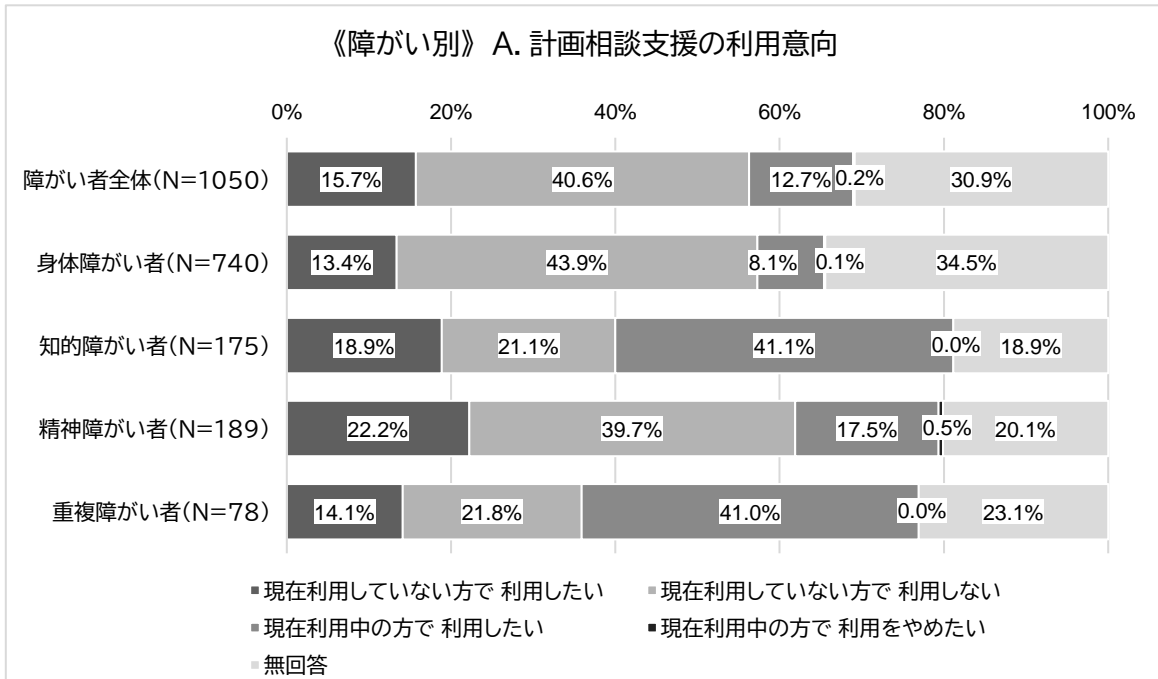
7) 計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援の利用意向

A. 計画相談支援

「障がい者全体」では、「現在利用していない方で利用したい」15.7%と、「現在利用中の方で利用したい」12.7%を合わせた「利用したい」の合計は 28.4%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」13.4%と、「現在利用中の方で利用したい」8.1%を合わせた「利用したい」の合計は 21.5%、「知的障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」18.9%と、「現在利用中の方で利用したい」41.1%を合わせた「利用したい」の合計は 60.0%、「精神障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」22.2%と、「現在利用中の方で利用したい」17.5%を合わせた「利用したい」の合計は 39.7%、「重複障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」14.1%と、「現在利用中の方で利用したい」41.0%を合わせた「利用したい」の合計は 55.1%となっています。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「現在利用していない方で利用しない」が7.0ポイント増え、「無回答」が8.8%ポイント減っています。

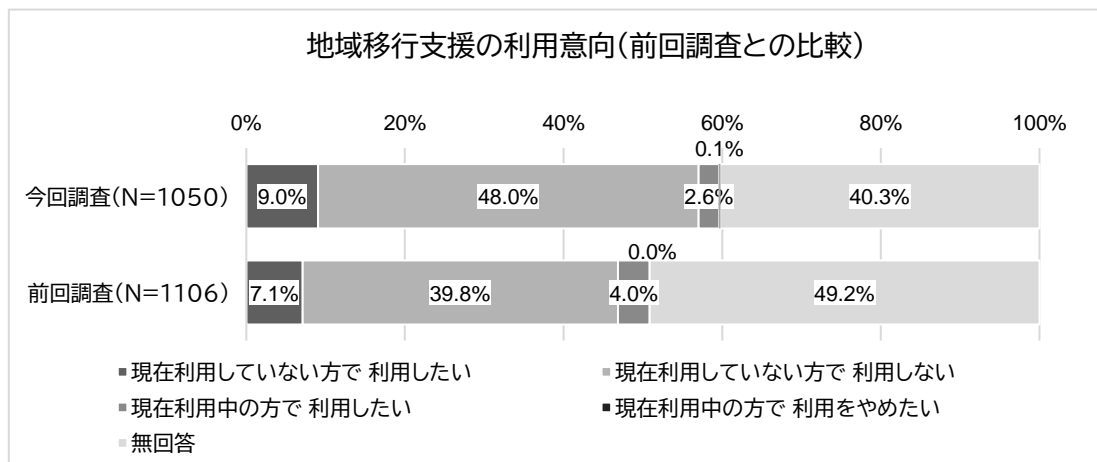
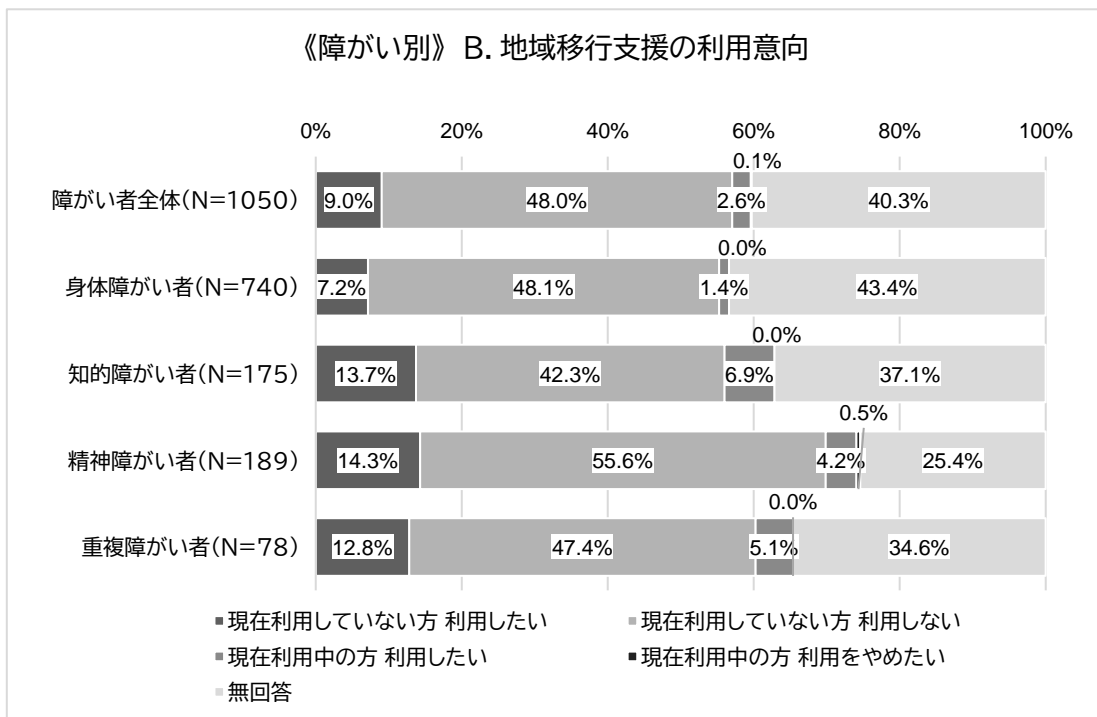


## B. 地域移行支援

「障がい者全体」では、「現在利用していない方で利用したい」9.0%と、「現在利用中の方で利用したい」2.6%を合わせた「利用したい」の合計は 11.6%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」7.2%と、「現在利用中の方で利用したい」1.4%を合わせた「利用したい」の合計は 8.6%、「知的障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」13.7%と、「現在利用中の方で利用したい」6.9%を合わせた「利用したい」の合計は 20.6%、「精神障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」14.3%と、「現在利用中の方で利用したい」4.2%を合わせた「利用したい」の合計は 18.5%、「重複障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」12.8%と、「現在利用中の方で利用したい」5.1%を合わせた「利用したい」の合計は 17.9%となっています。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「現在利用していない方で利用しない」が8.2ポイント増え、「無回答」が8.9ポイント減っています。

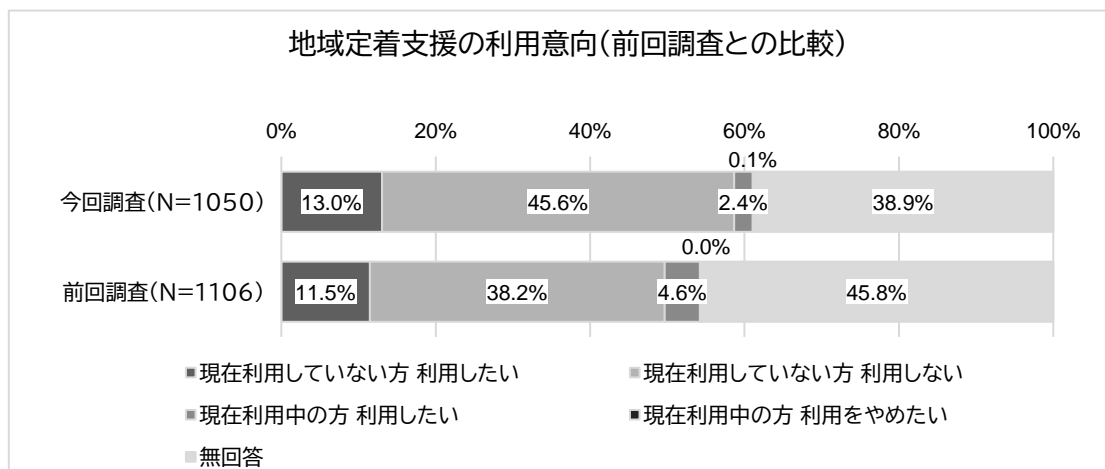
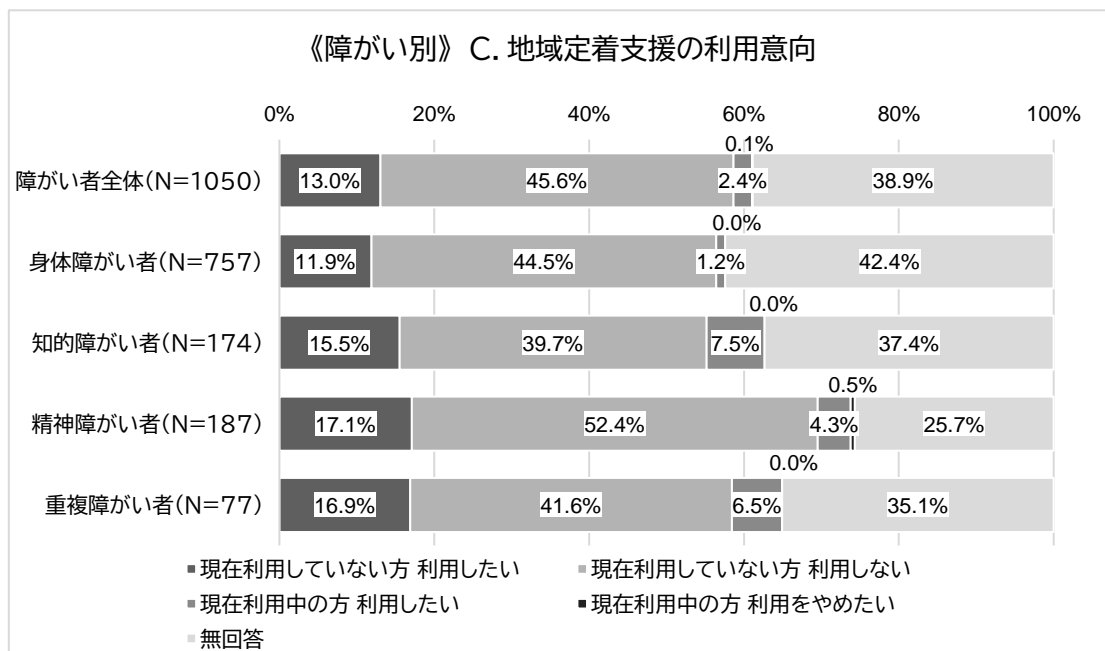


### C. 地域定着支援

「障がい者全体」では、「現在利用していない方で利用したい」13.0%と、「現在利用中の方で利用したい」2.4%を合わせた「利用したい」の合計は 15.4%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」11.9%と、「現在利用中の方で利用したい」1.2%を合わせた「利用したい」の合計は 13.1%、「知的障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」15.5%と、「現在利用中の方で利用したい」7.5%を合わせた「利用したい」の合計は 23.0%、「精神障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」17.1%と、「現在利用中の方で利用したい」4.3%を合わせた「利用したい」の合計は 21.4%、「重複障がい者」は「現在利用していない方で利用したい」16.9%と、「現在利用中の方で利用したい」6.5%を合わせた「利用したい」の合計は 23.4%となっています。

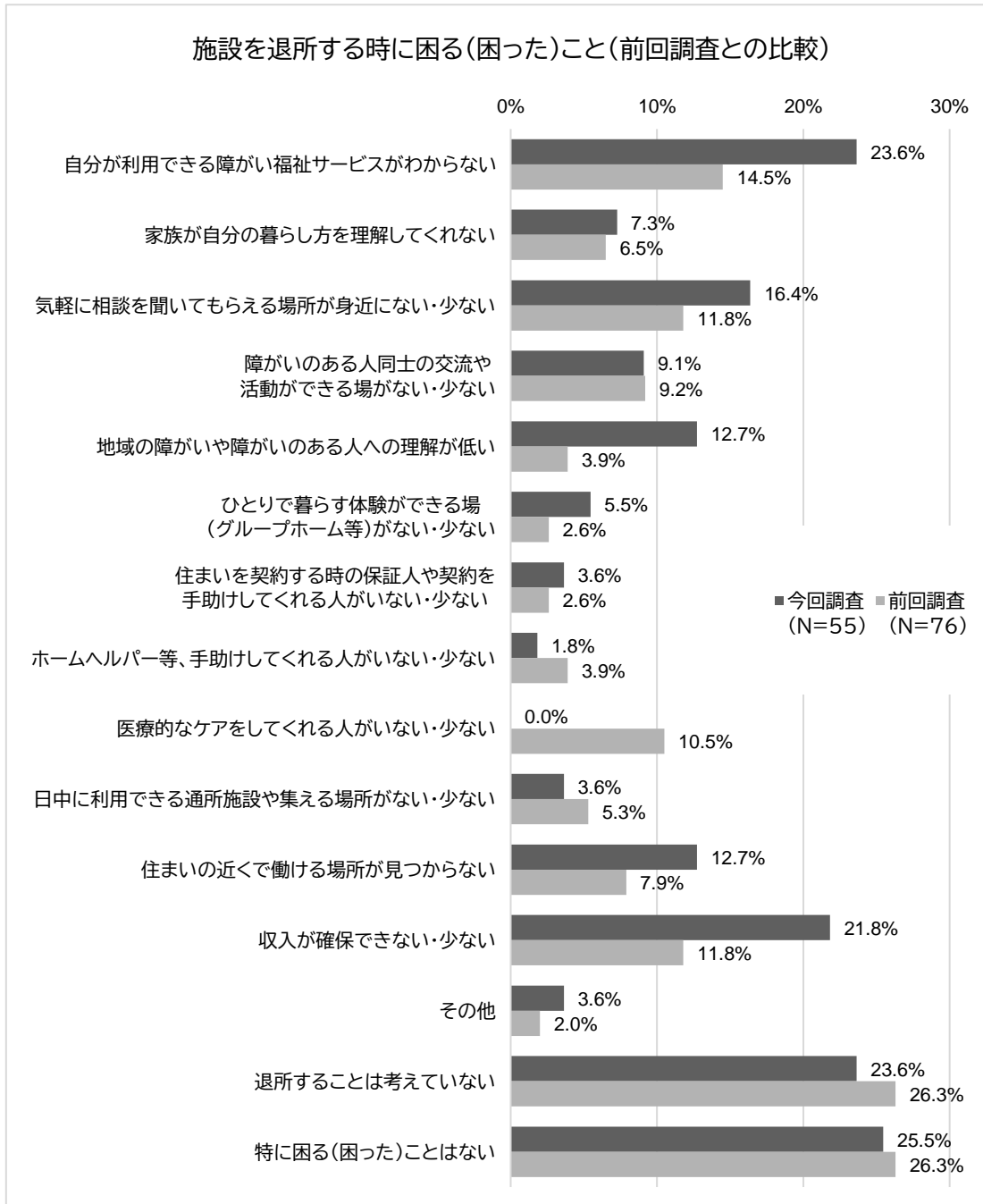
「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「現在利用していない方で利用しない」が7.4ポイント増え、「無回答」が6.9ポイント減っています。



## 8) 施設を退所する時に困る(困った)こと

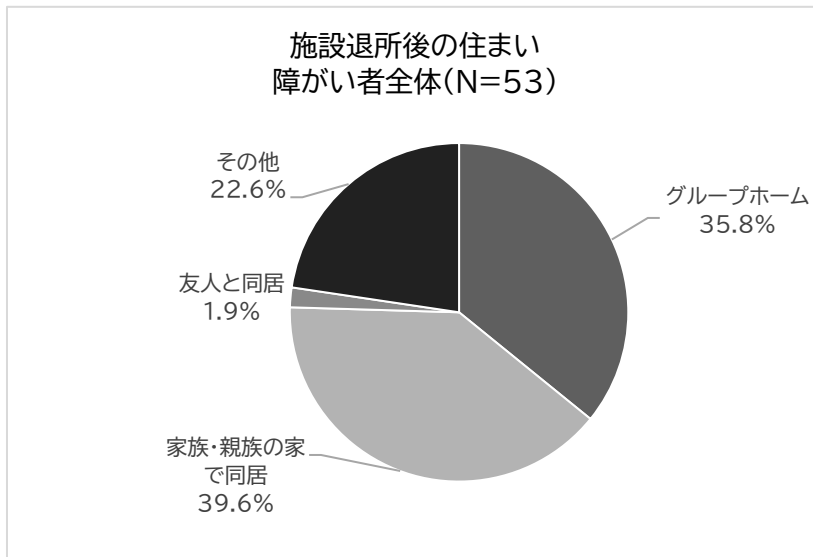
「障がい者全体」で回答のあった 55 名のうち、「自分が利用できる障がい福祉サービスがわからない」が 23.6%と最も多く、次いで「収入が確保できない・少ない」が 21.8%、「気軽に相談を聞いてもらえる場所が身近にない・少ない」が 16.4%の順になっています。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「収入が確保できない・少ない」が 10.0 ポイント、「自分が利用できる障がい福祉サービスがわからない」が 9.1 ポイント、「地域の障がいや障がいのある人への理解が低い」が 8.8 ポイント増え、「医療的なケアをしてくれる人がいない・少ない」は 10.5 ポイント減っています。



### 9) 施設退所後の住まい

「障がい者全体」で回答のあった 53 名のうち、「家族・親族の家で同居」が 39.6%、「グループホーム」が 35.8%となっています。



#### (4) 仕事について

ポイント
<ul style="list-style-type: none"><li>● 働いている障がい者は 36.1%で、「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」は 11.7%。障がい別では、「知的障がい者」の 64.6%が働いており、「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」が 46.3%と多い。</li><li>● 就労にあたって、「知的障がい者」の 40.6%が「ハローワーク」を利用しており、「精神障がい者」は「ハローワーク」と「障がい福祉サービス事業所」を利用しているのが共に 25.0%となっている。</li><li>● 職場での理解については「障がい者全体」では「かなり理解されている」17.9%、「ある程度理解されている」40.1%を合わせた「理解されている計」は 58.0%。「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」で働いている人が多い「知的障がい者」と「重複障がい者」は4人に3人が「理解されている」と回答している。</li><li>● 仕事を続けていくために必要だと思うことについては、「障がい者全体」は「その人それぞれに合った勤務時間や業務内容などの配慮」が多く、「知的障がい者」「精神障がい者」「重複障がい者」は「会社や働いている人の障がい者理解を深める」が多い。</li><li>● 今後の働き方の希望については、「会社や団体の正規の職員として働きたい(続けたい)」がもっとも多く、「知的障がい者」は「パート、アルバイト、臨時雇いとして働きたい(続けたい)」も同数で多い。</li><li>● 「障がい者全体」では 51.1%が「仕事を辞めたことがある」と回答しており、特に「精神障がい者」が多い。</li><li>● 仕事を辞めた理由は「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」「障がいの程度が重くなったから」「病気がちになったから」が多い。</li><li>● 「障がいのある人が働くために、必要なこと」については、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」「短時間勤務や勤務日数等の配慮」「通勤手段の確保」が多い。</li><li>● 新型コロナウイルス感染症の影響による仕事への影響は「知的障がい者」や「重複障がい者」に多くみられ、「出勤時間が変わるなど、働く時間帯が変わった」が多い。</li><li>● 新型コロナウイルス感染症の影響によって、「人と会う機会が減り不満である」など、「不便になったことの方が多く」と回答した障がい者が多い一方、「身体障がい者」は「職場に行かなくても良く便利になった」も 22.8%と多い。</li></ul>

#### 1) 就労状況

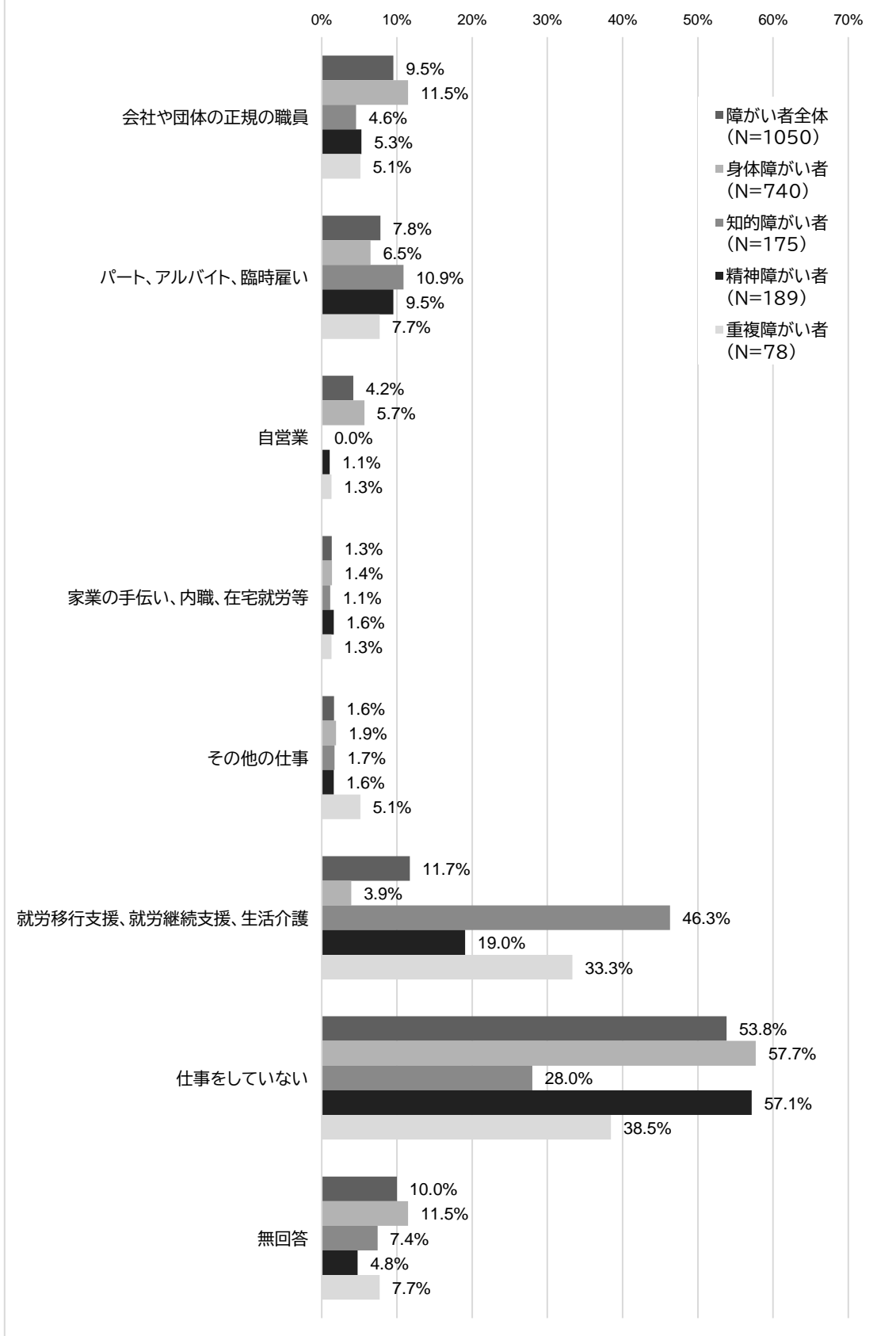
何らかの仕事をしている人を見ると、「障がい者全体」では「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」が 11.7%と最も多く、次いで「会社や団体の正規の職員」が 9.5%、「パート、アルバイト、臨時雇い」が 7.8%となっています。

もっとも多い仕事を障がい別で見ると、「身体障がい者」は「会社や団体の正規の職員」で 11.5%と、「知的障がい者」は「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」で 46.3%、「精神障がい者」は「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」で 19.0%、「重複障がい者」は「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」で 33.3%となっています。

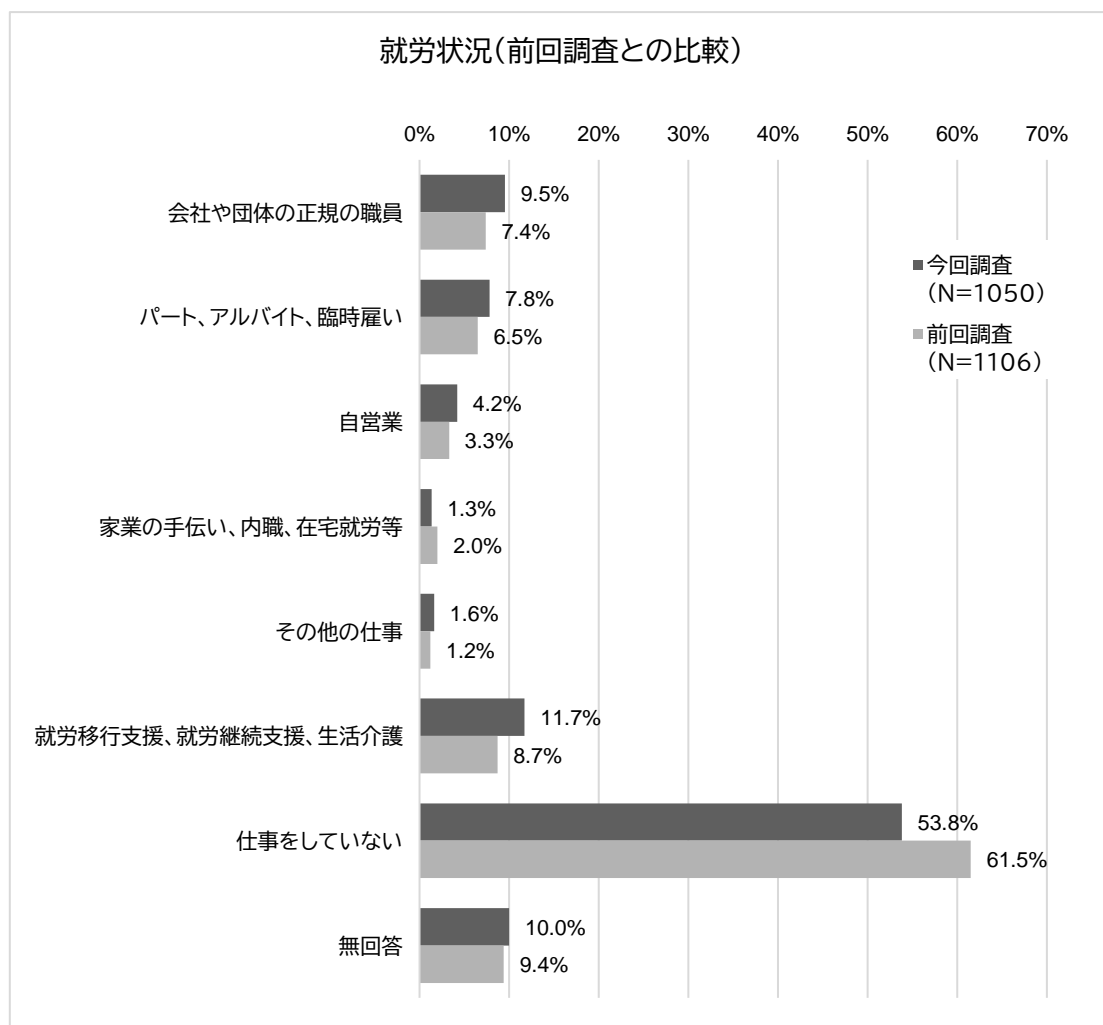
また、「仕事をしていない」は「障がい者全体」が 53.8%、「身体障がい者」が 57.7%、「知的障がい者」が 28.0%、「精神障がい者」が 57.1%、「重複障がい者」が 38.5%となっています。



### 《障がい別》就労状況



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「仕事をしていない」が7.7ポイント減っています。

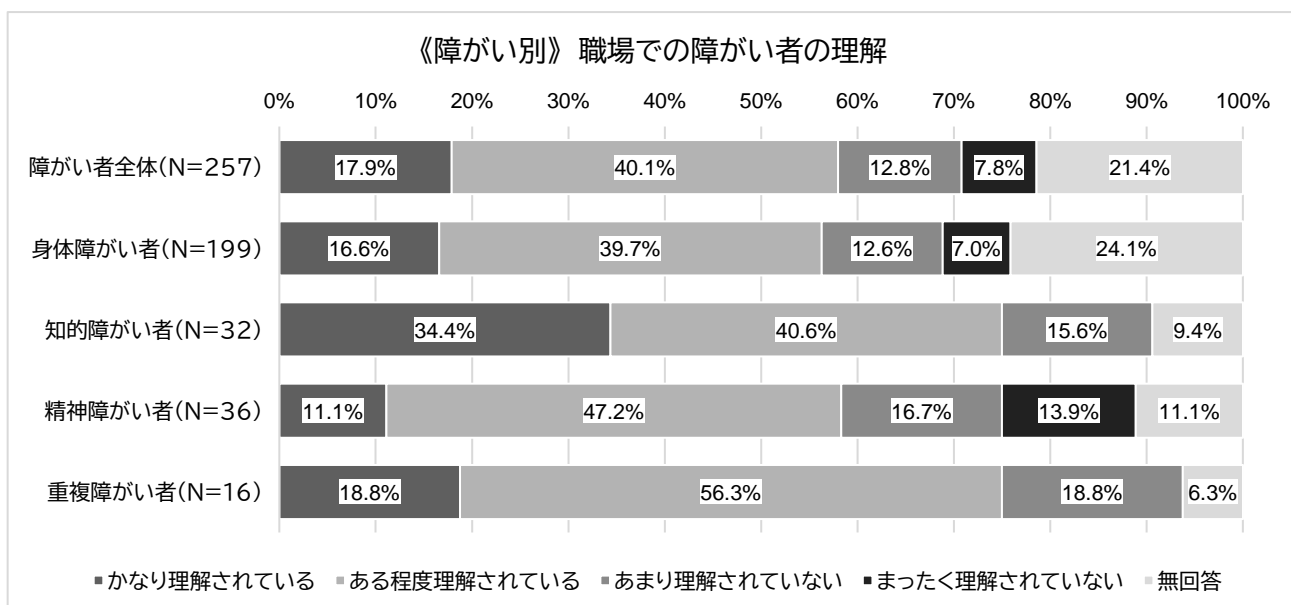


## 2) 職場での障がい者の理解

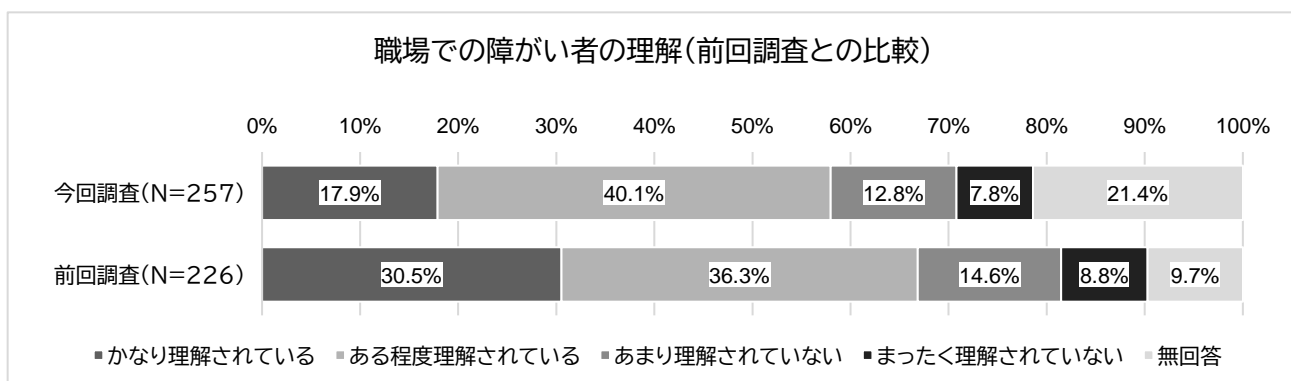
職場での理解については「障がい者全体」では「かなり理解されている」17.9%、「ある程度理解されている」40.1%を合わせた「理解されている計」は58.0%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「かなり理解されている」16.6%、「ある程度理解されている」39.7%を合わせた「理解されている計」は56.3%、「知的障がい者」は「かなり理解されている」34.4%、「ある程度理解されている」40.6%を合わせた「理解されている計」は75.0%、「精神障がい者」は「かなり理解されている」11.1%、「ある程度理解されている」47.2%を合わせた「理解されている計」は58.3%、「重複障がい者」は「かなり理解されている」18.8%、「ある程度理解されている」56.3%を合わせた「理解されている計」は75.1%となっています。

「知的障がい者」と「重複障がい者」に理解されていると回答した人が多いのは「就労移行支援、就労継続支援、生活介護」で働いている人が多いことの結果だと考えられます。



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「無回答」が 11.7 ポイント多いですが、「かなり理解されている」が 12.6 ポイント減り、「ある程度理解されている」が 3.8 ポイント増えています。



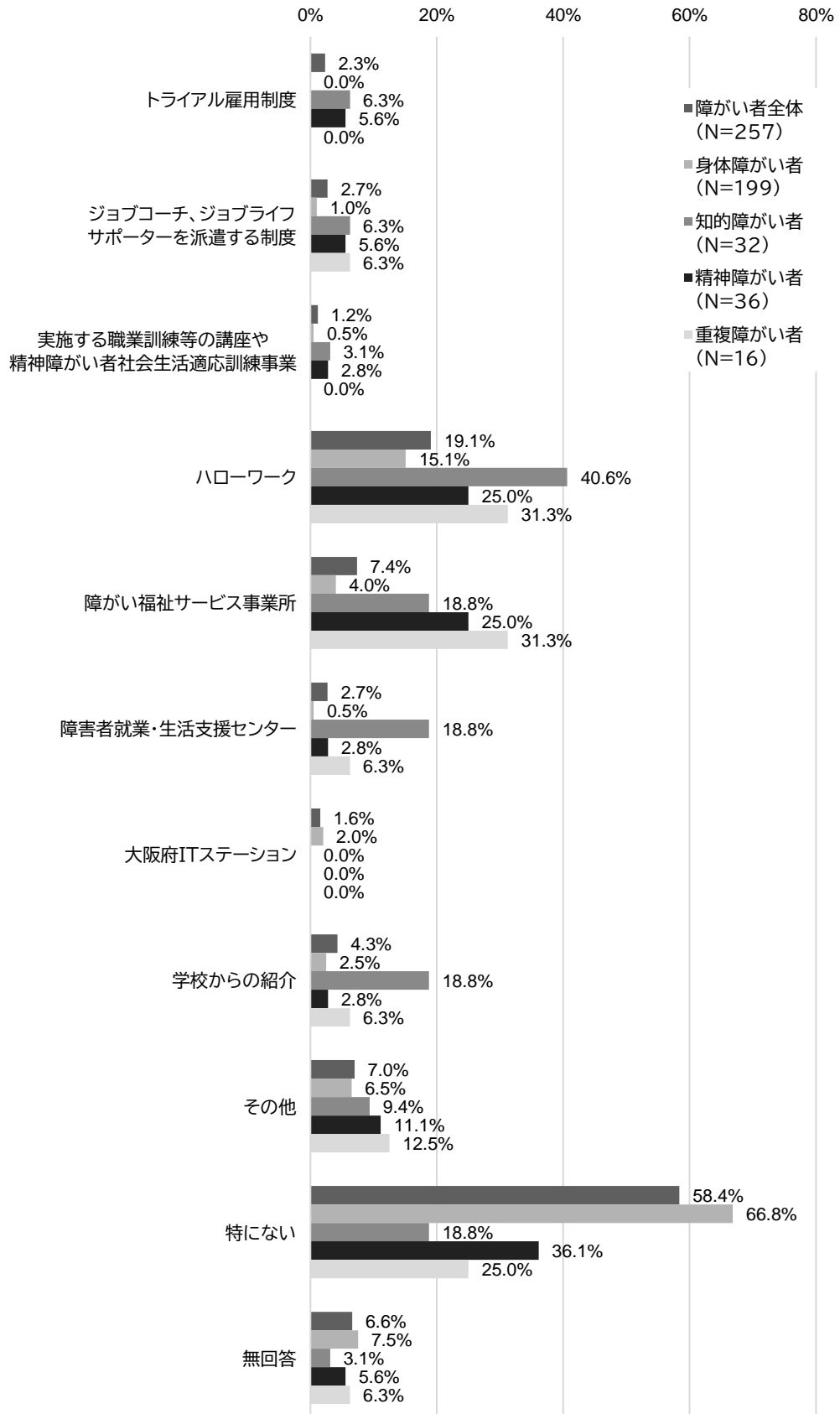
### 3) 仕事につく際に利用した制度や施設

「障がい者全体」は「ハローワーク」が 19.1%、「障がい福祉サービス事業所」が 7.4%と多くなっています。

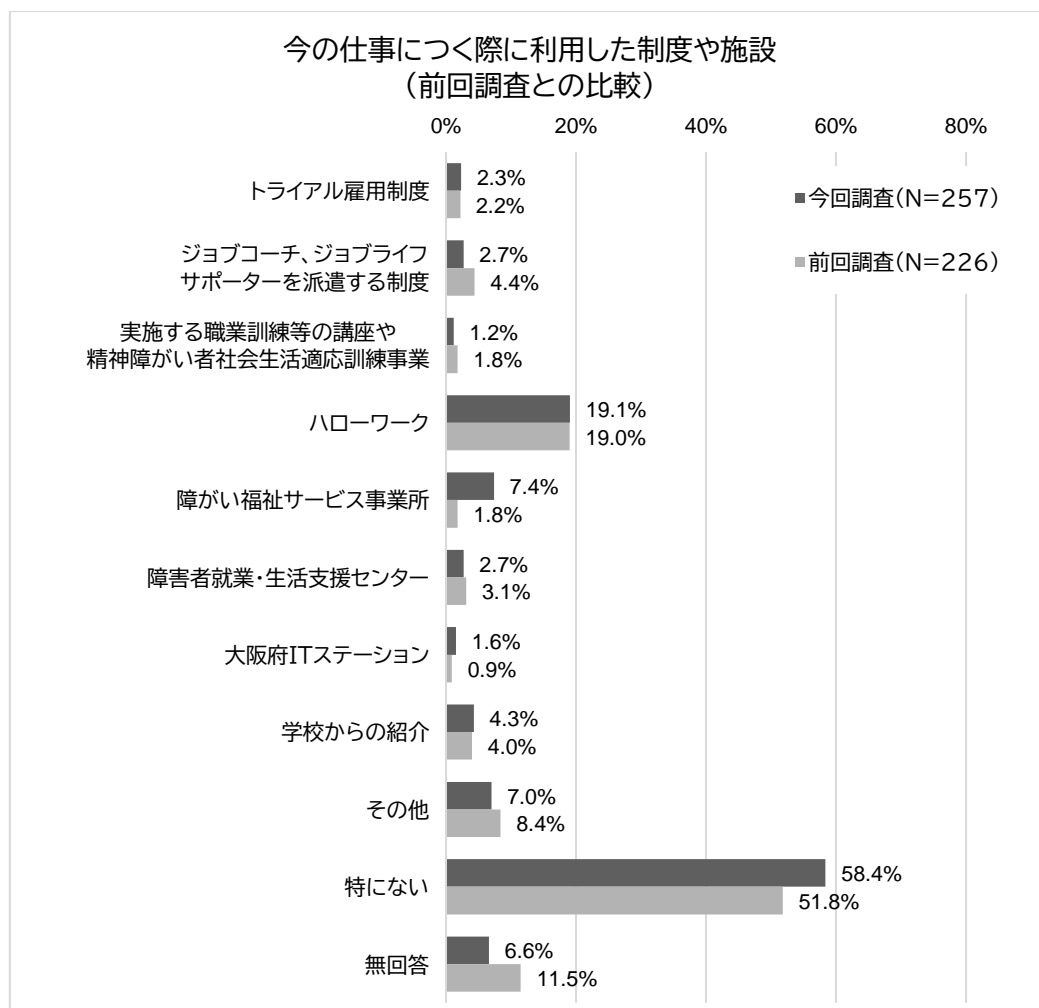
障がい別で見ると、「身体障がい者」は「ハローワーク」が 15.1%ともっとも多く、次いで「障がい福祉サービス事業所」が 4.0%、「知的障がい者」は「ハローワーク」が 40.6%ともっとも多く、次いで「障がい福祉サービス事業所」「障害者就業・生活支援センター」「学校からの紹介」が共に 18.8%、「精神障がい者」は「ハローワーク」「障がい福祉サービス事業所」が共に 25.0%ともっとも多く、「重複障がい者」は「ハローワーク」「障がい福祉サービス事業所」が共に 31.3%ともっとも多くなっています。

その他では「知的障がい者」「精神障がい者」はトライアル雇用やジョブコーチ・ジョブライフサポーターの活用がそれぞれ 6.3%見られました。

### 《障がい別》今の仕事につく際に利用した制度や施設



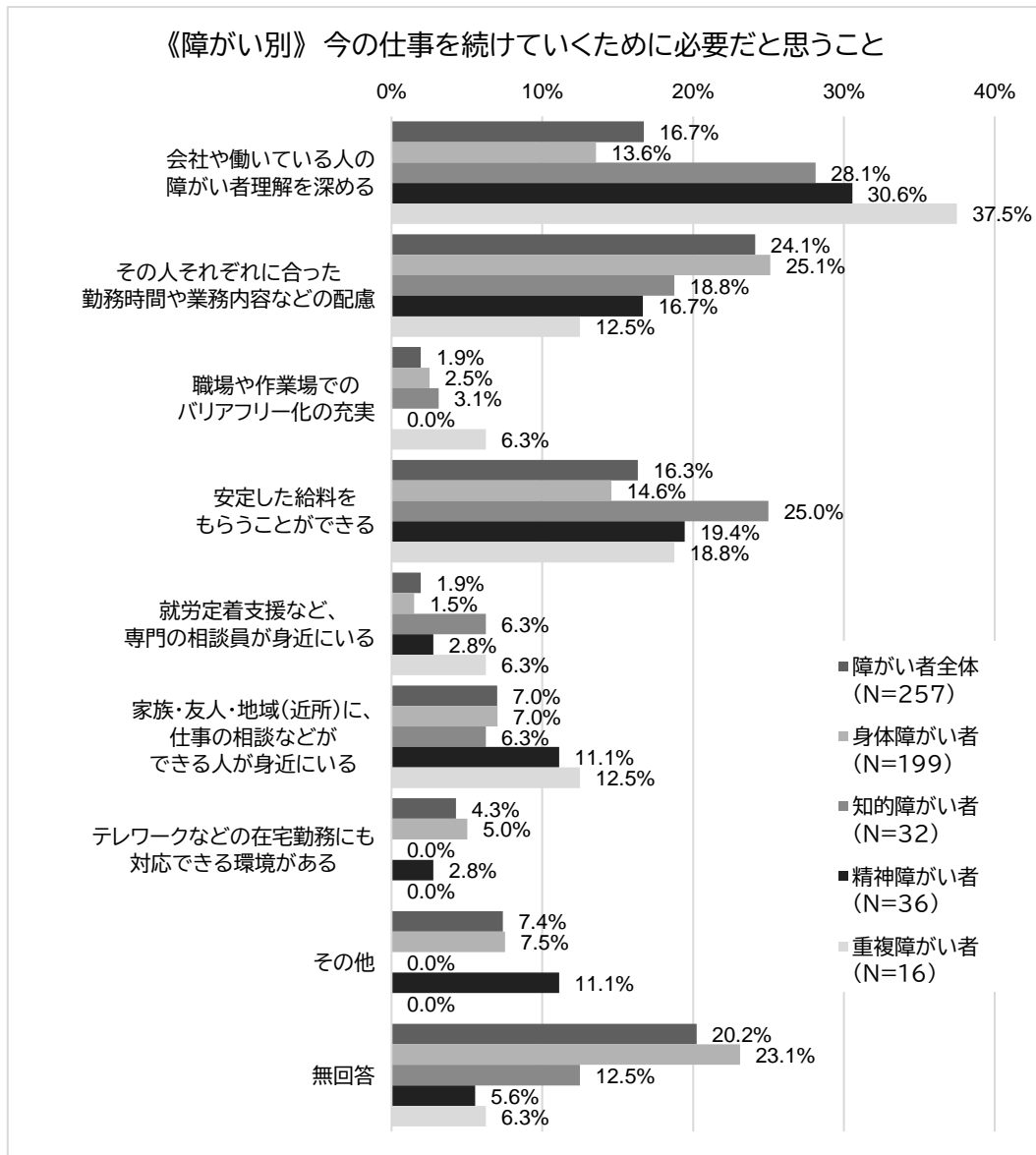
「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな変化はありません。



#### 4) 今の仕事を続けていくために必要だと思うこと

「障がい者全体」では「その人それぞれに合った勤務時間や業務内容などの配慮」が 24.1%と最も多く、次いで「会社や働いている人の障がい者理解を深める」が 16.7%、「安定した給料をもらうことができる」が 16.3%の順になっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「その人それぞれに合った勤務時間や業務内容などの配慮」が 25.1%と最も多く、次いで「安定した給料をもらうことができる」が 14.6%、「会社や働いている人の障がい者理解を深める」が 13.6%、「知的障がい者」は「会社や働いている人の障がい者理解を深める」が 28.1%と最も多く、次いで、「安定した給料をもらうことができる」が 25.0%、「その人それぞれに合った勤務時間や業務内容などの配慮」が 18.8%、「精神障がい者」は「会社や働いている人の障がい者理解を深める」が 30.6%と最も多く、次いで「安定した給料をもらうことができる」が 19.4%、「その人それぞれに合った勤務時間や業務内容などの配慮」が 16.7%、「重複障がい者」は「会社や働いている人の障がい者理解を深める」が 37.5%と最も多く、次いで「安定した給料をもらうことができる」が 18.8%、「その人それぞれに合った勤務時間や業務内容などの配慮」「家族・友人・地域(近所)に、仕事の相談などができる人が身近にいる」が共に 12.5%の順になっています。



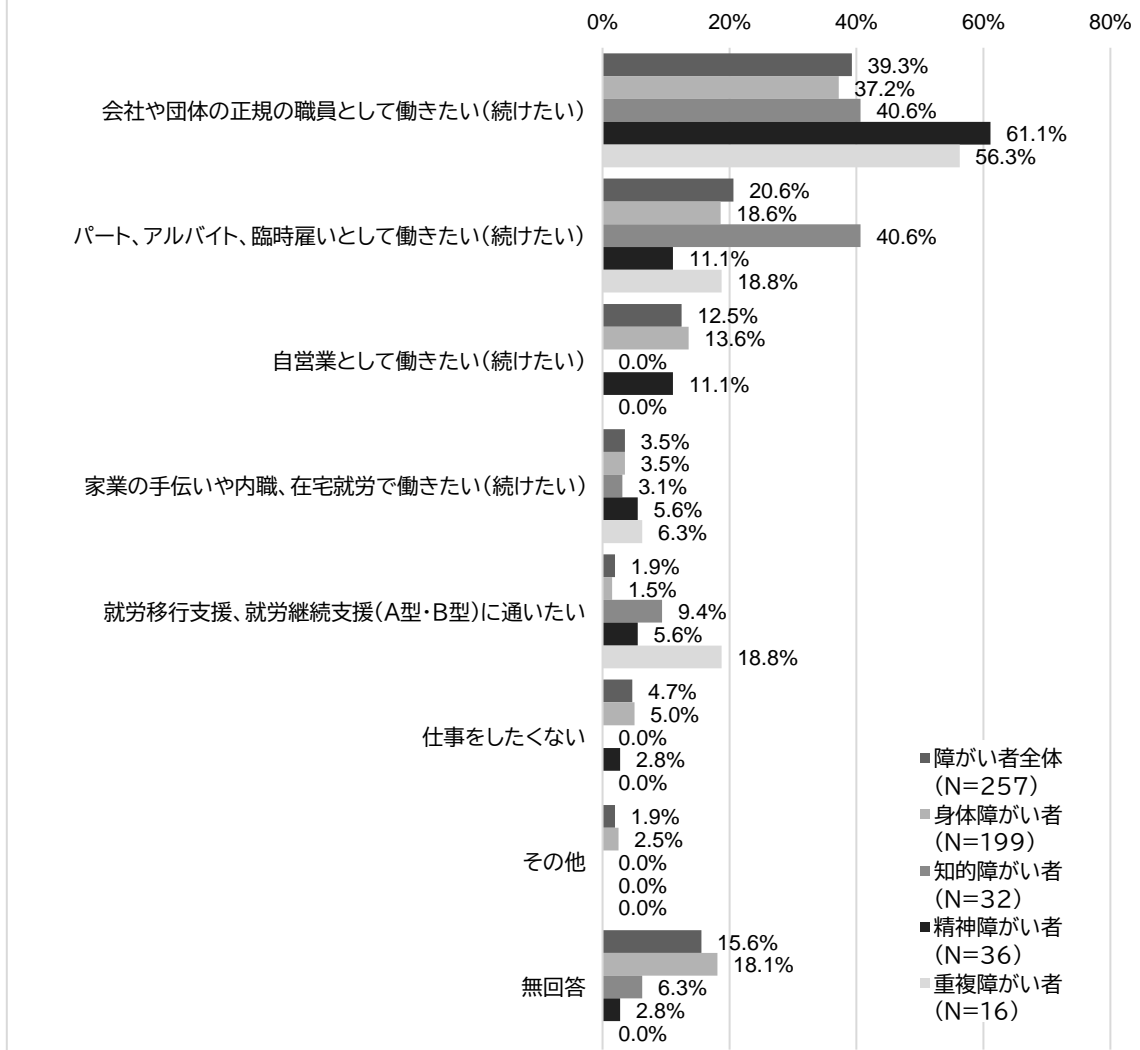
### 5) 今後の働き方の希望

「障がい者全体」では「会社や団体の正規の職員として働きたい(続けたい)」が 39.3%と最も多く、次いで「パート、アルバイト、臨時雇いとして働きたい(続けたい)」が 20.6%、「自営業として働きたい(続けたい)」が 12.5%の順になっています。

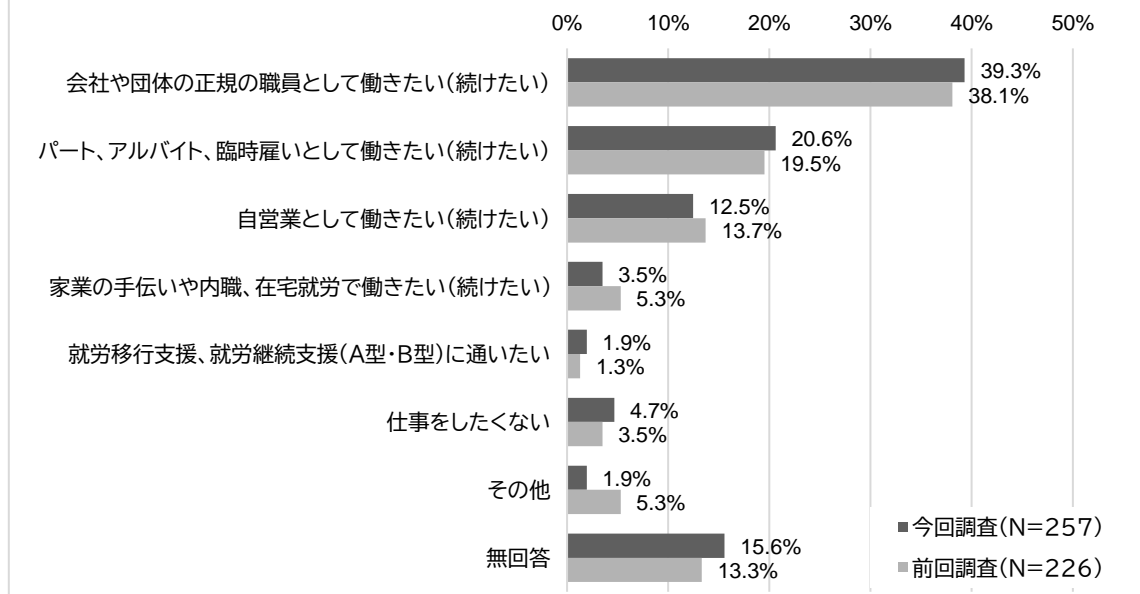
障がい別で見ると、「身体障がい者」は「会社や団体の正規の職員として働きたい(続けたい)」が 37.2%と最も多く、次いで「パート、アルバイト、臨時雇いとして働きたい(続けたい)」が 18.6%、「自営業として働きたい(続けたい)」が 13.6%の順となっており、「知的障がい者」は「会社や団体の正規の職員として働きたい(続けたい)」が 40.6%と多く、「精神障がい者」は「会社や団体の正規の職員として働きたい(続けたい)」が 61.1%と多く、「重複障がい者」は「会社や団体の正規の職員として働きたい(続けたい)」が 56.3%と最も多く、次いで「パート、アルバイト、臨時雇いとして働きたい(続けたい)」が 20.2%と多く、「自営業として働きたい(続けたい)」が 12.5%と多くなっています。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな変化は見られません。

### 《障がい別》 今後の働き方の希望



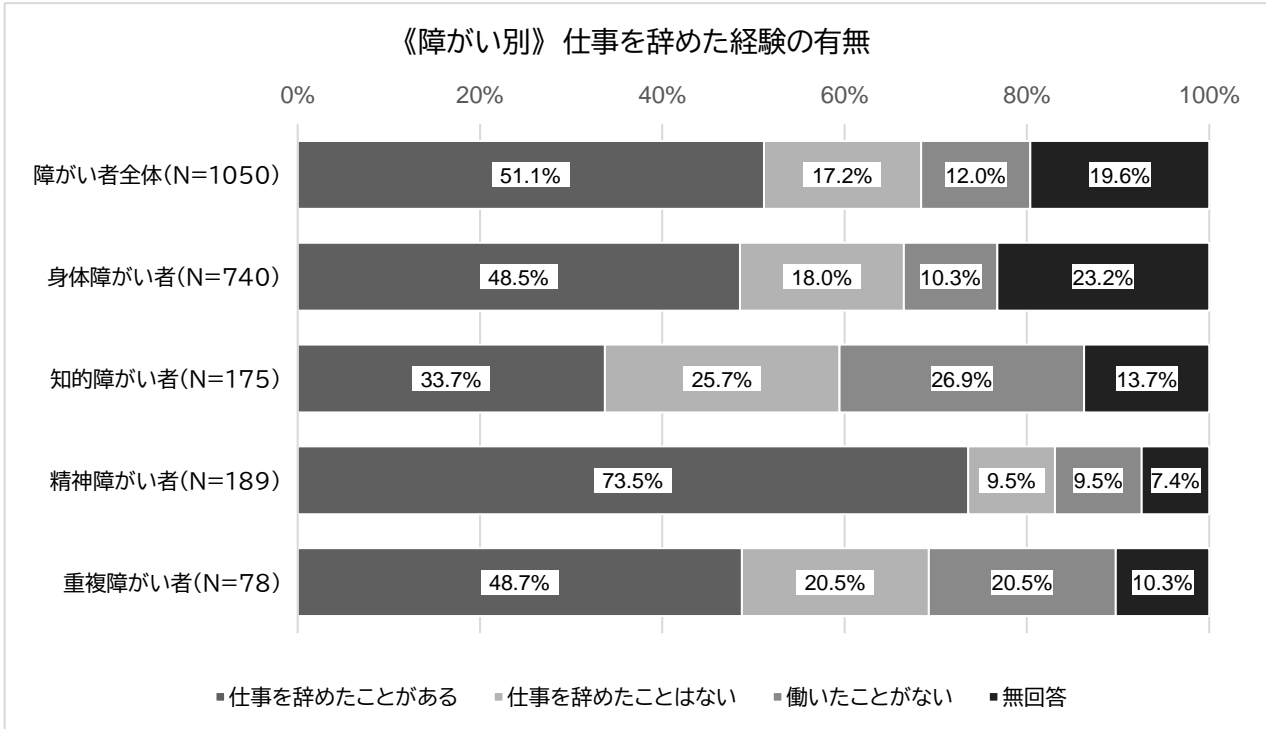
### 今後の働き方の希望(前回調査との比較)



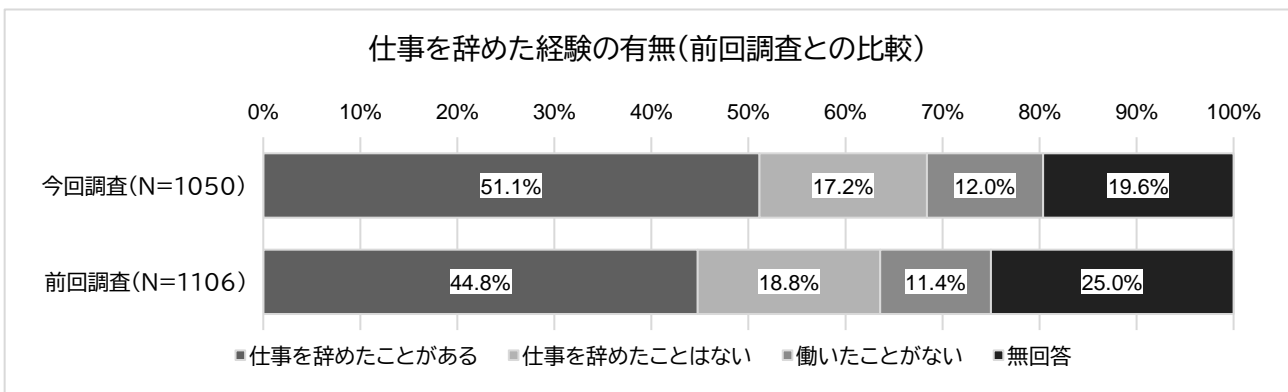
### 6) 仕事を辞めた経験の有無

「障がい者全体」では 51.1%が「仕事を辞めたことがある」と回答しています。

障がい別に「仕事を辞めたことがある」を見ると、「身体障がい者」は 48.5%、「知的障がい者」は 33.7%、「精神障がい者」は 73.5%、「重複障がい者」は 48.7%となっています。



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「仕事を辞めたことがある」が 6.3 ポイント増え、「無回答」が 5.4 ポイント減っています。



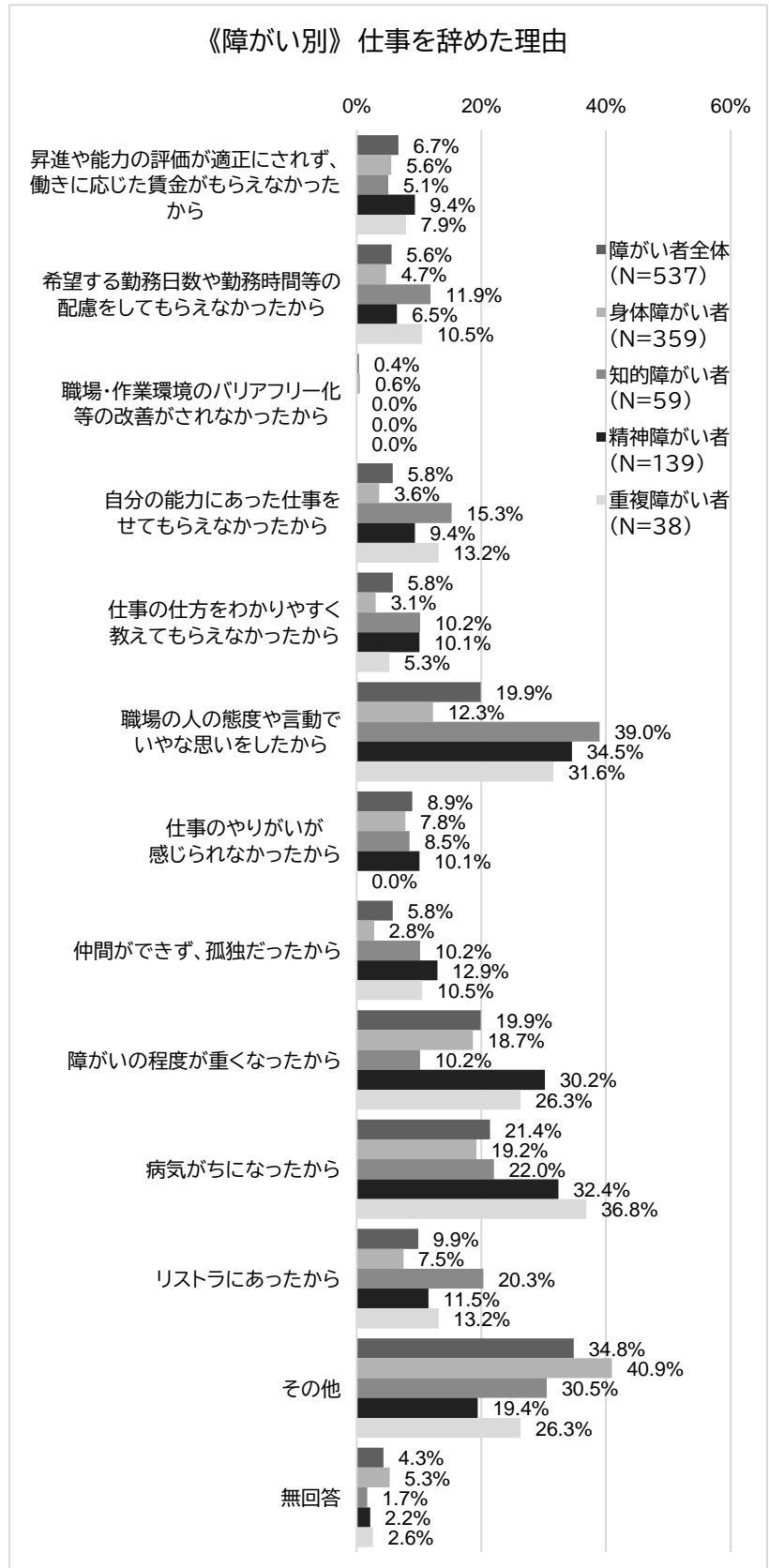


## 7) 仕事を辞めた理由

「障がい者全体」では「病気がちになったから」が 21.4%と最も多く、次いで「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」「障がいの程度が重くなったから」が共に 19.9%となっています。

障がい別では、「身体障がい者」は「病気がちになったから」が 19.2%と最も多く、次いで「障がいの程度が重くなったから」が 18.7%、「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」が 12.3%、「知的障がい者」では「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」が 39.0%と最も多く、次いで「病気がちになったから」が 22.0%、「リストラにあったから」が 20.3%、「精神障がい者」は「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」が 34.5%と最も多く、次いで「病気がちになったから」が 32.4%、「障がいの程度が重くなったから」が 30.2%、「重複障がい者」は「病気がちになったから」が 36.8%と最も多く、次いで「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」が 31.6%、「障がいの程度が重くなったから」が 26.3%、「病気がちになったから」が 22.0%、「リストラにあったから」が 20.3%、「その他」が 19.4%、「無回答」が 1.7%となっています。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、大きな変化は見られません。

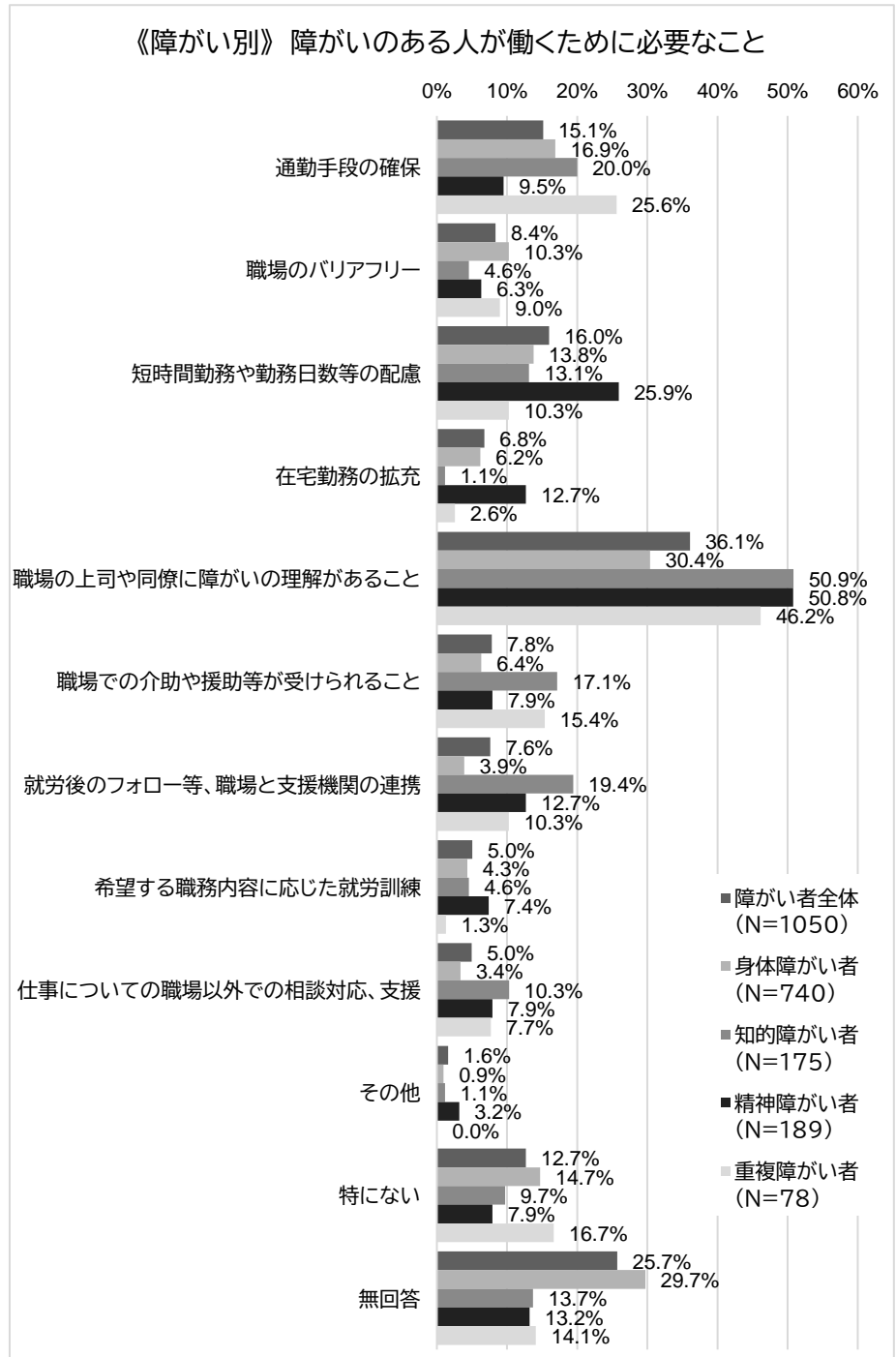


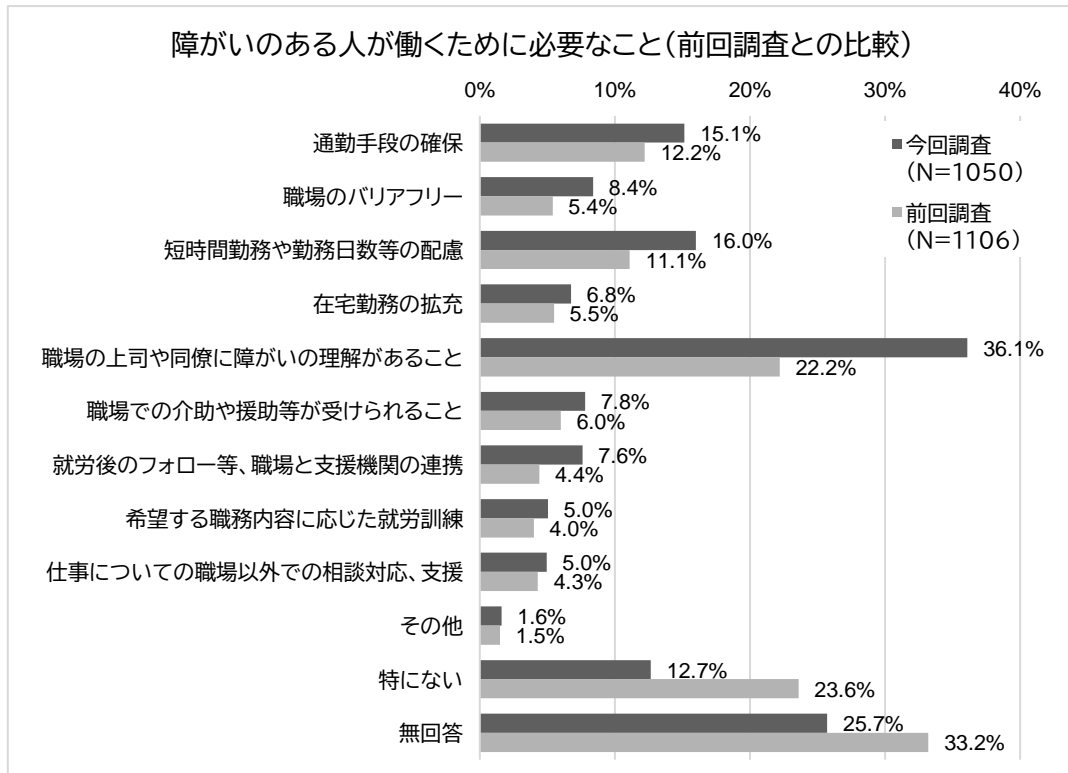
8) 障がいのある人が働くために必要なこと

「障がい者全体」では「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 36.1%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が 16.0%、「通勤手段の確保」が 15.1%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 30.4%と最も多く、次いで「通勤手段の確保」が 16.9%、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が 13.8%、「知的障がい者」は「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 50.9%と最も多く、次いで「通勤手段の確保」が 20.0%、「就労後のフォロー等、職場と支援機関の連携」が 19.4%、「精神障がい者」は「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 50.8%と最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が 25.9%、「在宅勤務の拡充」が 12.7%、「重複障がい者」は「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 46.2%と最も多く、次いで「通勤手段の確保」が 25.6%、「職場での介助や援助等が受けられること」が 17.1%、「就労後のフォロー等、職場と支援機関の連携」が共に 12.7%、「重複障がい者」は「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 46.2%と最も多く、次いで「通勤手段の確保」が 25.6%、「職場での介助や援助等が受けられること」が 15.4%の順となっています。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が 13.9 ポイント、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が 4.9 ポイント増えています。

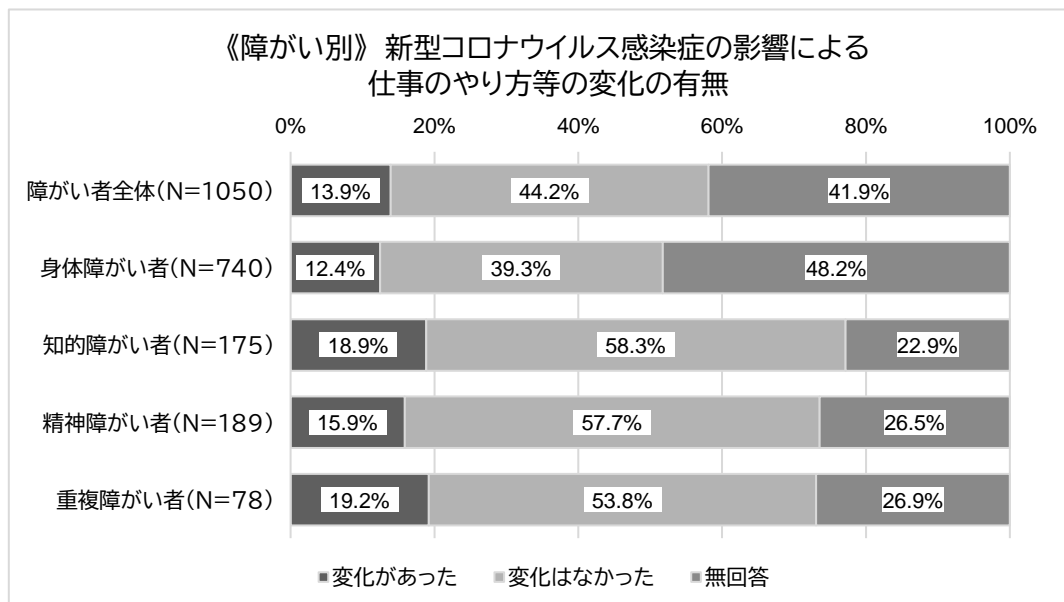




#### 9) 新型コロナウイルス感染症の影響による仕事のやり方等の変化の有無

「障がい者全体」では13.9%が「変化があった」と回答しています。

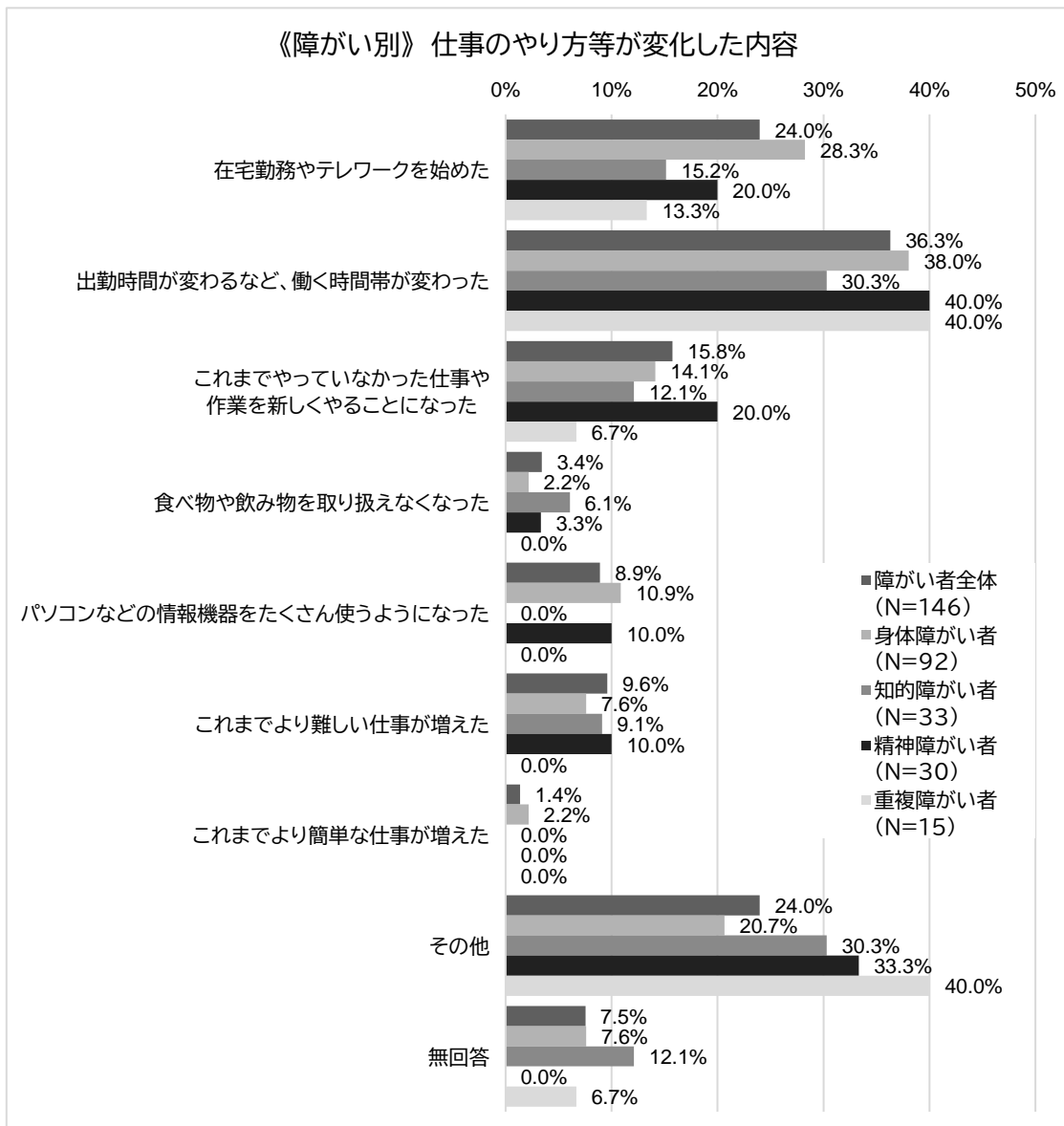
障がい別で「変化があった」を見ると、「身体障がい者」は12.4%、「知的障がい者」は18.9%、「精神障がい者」は15.9%、「重複障がい者」は19.2%となっています。



### 10) 仕事のやり方等が変化した内容

「障がい者全体」では「出勤時間が変わるなど、働く時間帯が変わった」が 36.3%と最も多く、次いで「在宅勤務やテレワークを始めた」が 24.0%、「これまでやっていなかった仕事や作業を新しくやることになった」が 15.8%の順となっています。

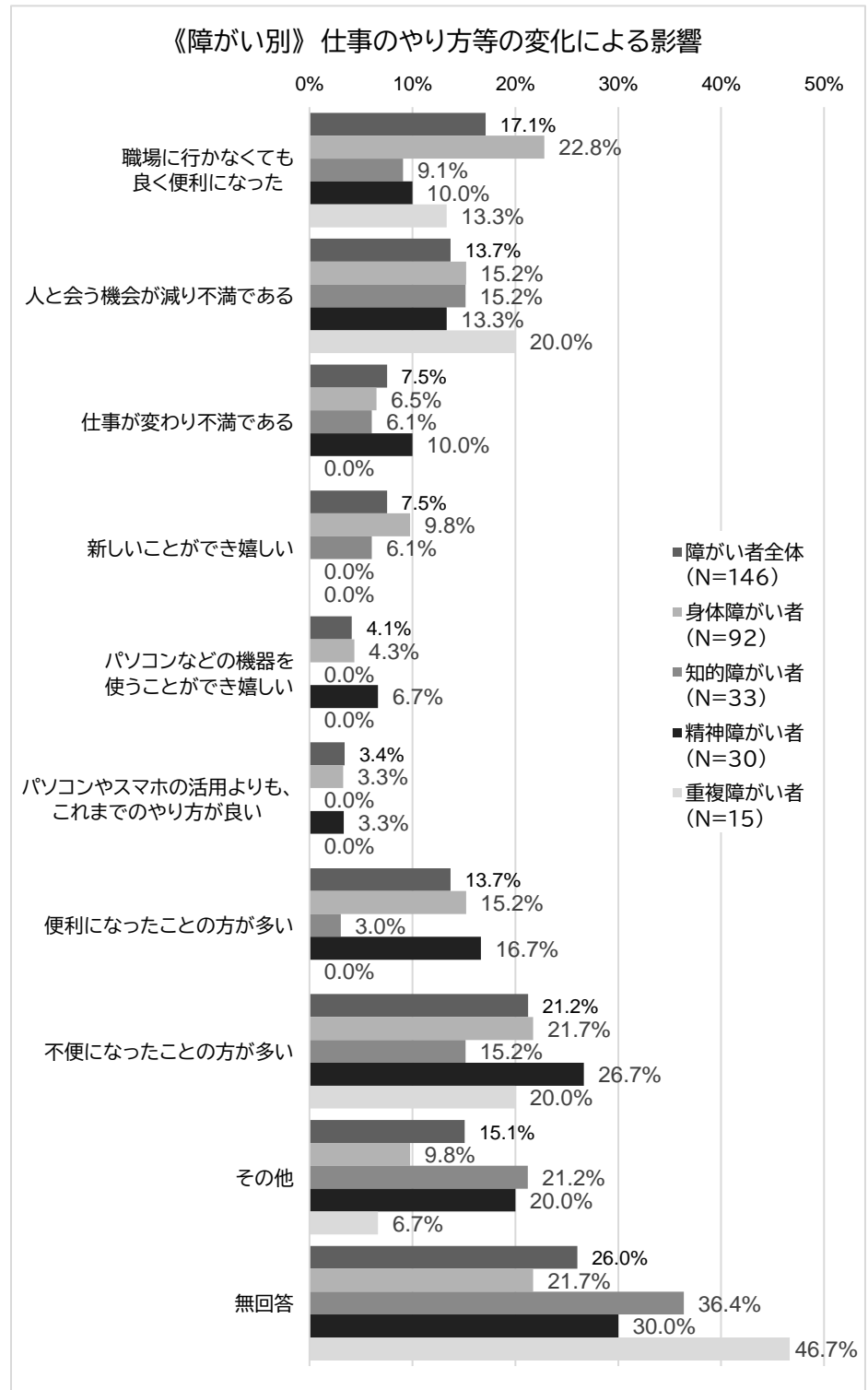
障がい別で見ると、「身体障がい者」は「出勤時間が変わるなど、働く時間帯が変わった」が 38.0%と最も多く、次いで「在宅勤務やテレワークを始めた」が 28.3%、「これまでやっていなかった仕事や作業を新しくやることになった」が 14.1%、「知的障がい者」は「出勤時間が変わるなど、働く時間帯が変わった」が 30.3%と最も多く、次いで「在宅勤務やテレワークを始めた」が 15.2%、「これまでやっていなかった仕事や作業を新しくやることになった」が 12.1%、「精神障がい者」は「出勤時間が変わるなど、働く時間帯が変わった」が 40.0%と最も多く、次いで「在宅勤務やテレワークを始めた」「これまでやっていなかった仕事や作業を新しくやることになった」が共に 20.0%、「重複障がい者」は「出勤時間が変わるなど、働く時間帯が変わった」が 40.0%、次いで「在宅勤務やテレワークを始めた」が 13.3%の順となっています。



### 11) 仕事のやり方等の変化による影響

「障がい者全体」では「不便になったことの方が多い」が 21.2%と最も多く、次いで「職場に行かなくても良く便利になった」が 17.1%、「人と会う機会が減り不満である」「便利になったことの方が多い」が共に 13.7%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「職場に行かなくても良く便利になった」が 22.8%と最も多く、次いで「不便になったことの方が多い」が 21.7%、「人と会う機会が減り不満である」「便利になったことの方が多い」が共に 15.2%、「知的障がい者」は「人と会う機会が減り不満である」「不便になったことの方が多い」が共に 15.2%と多く、「精神障がい者」は「不便になったことの方が多い」が 26.7%と最も多く、次いで「便利になったことの方が多い」が 16.7%、「人と会う機会が減り不満である」が 13.3%、「重複障がい者」は「人と会う機会が減り不満である」「不便になったことの方が多い」が 20.0%と最も多く、次いで「職場に行かなくても良く便利になった」が 13.3%の順となっています。



## (5) 医療について

ポイント
<ul style="list-style-type: none"><li>● 必要な医療的ケアについては「服薬管理」がもっとも多く、次いで「身体障がい者」では「人工透析」、「知的障がい者」「精神障がい者」「重複障がい者」はネブライザーが多い。</li><li>● 医療的ケアへの対応が不足していると思う障がい福祉サービスについては、「身体障がい者」は「施設入所支援」「居宅介護」「生活介護」が多く、「知的障がい者」は「施設入所支援」「短期入所」「自立生活援助」が多く、「精神障がい者」は「就労移行支援」「居宅介護」「就労継続支援」が多く、「重複障がい者」は「自立生活援助」「居宅介護」「就労継続支援」「施設入所支援」が多い。</li><li>● 精神科の治療経験のある人は「障がい者全体」の 24.4%、「精神障がい者」の 88.9%となっている。</li><li>● 精神科の治療経験のある人のうち、入院経験のある人は「障がい者全体」の 41.8%、「精神障がい者」の 47.7%であり、通算入院期間については「障がい者全体」は「3か月未満」が 35.6%でもっとも多く、「精神障がい者」は「3か月から1年未満」が 33.7%でもっとも多く、「5年以上」の長期入院は 12.8%となっている。</li><li>● 「退院のために必要な条件」は「日常生活を送ることができる程度の病状の回復・改善」「安心して住み続けられる家があること」「生活するのに必要な収入があること」が多い。</li></ul>

### 1) 必要な医療的ケア(医療処置)

「障がい者全体」では「服薬管理」が 10.3%ともっとも多く、次いで「人工透析」が 5.6%、「ストーマの処置」が 2.6%の順となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「人工透析」が 7.6%ともっとも多く、次いで「服薬管理」が 5.9%、「ストーマの処置」が 3.5%、「知的障がい者」は「服薬管理」が 18.3%ともっとも多く、次いで「ネブライザー」が 3.4%、「精神障がい者」は「服薬管理」が 23.3%ともっとも多く、次いで「ネブライザー」が 2.1%、「重複障がい者」は「服薬管理」が 19.2%ともっとも多く、次いで「ネブライザー」が 5.1%と多くなっています。

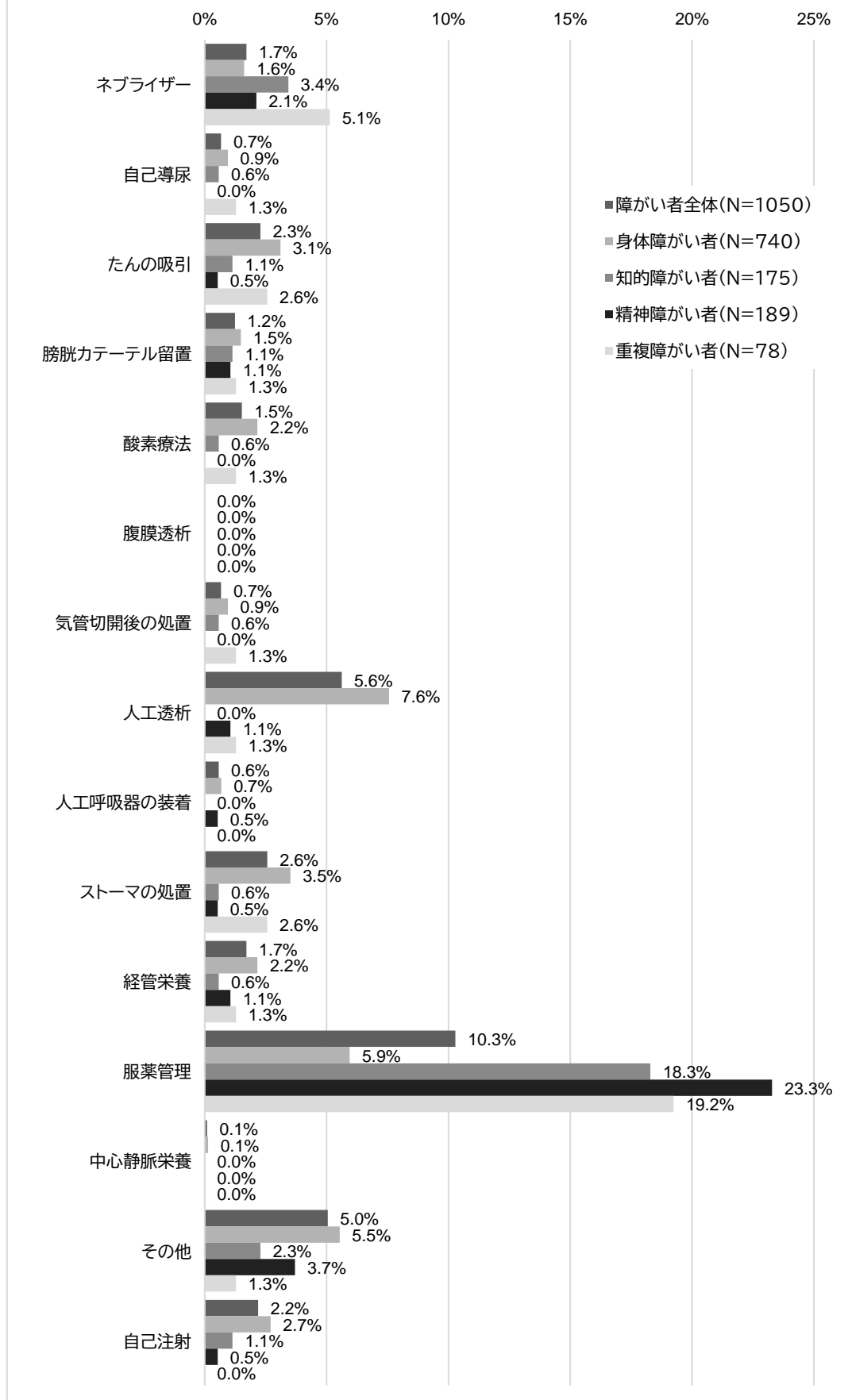
「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、大きな変化は見られません。

### 2) 医療的ケアへの対応が不足していると思う障がい福祉サービス

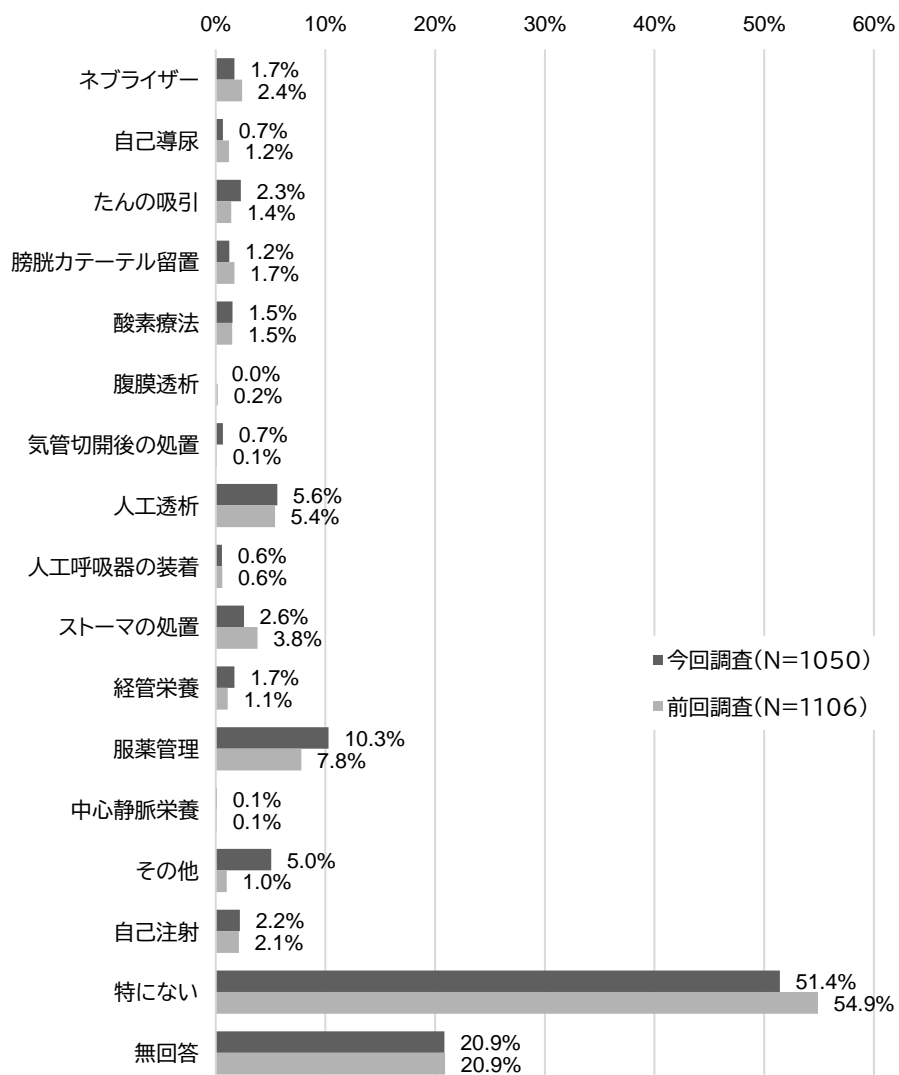
「障がい者全体」では「施設入所支援」が 7.1%ともっとも多く、次いで「居宅介護」が 5.9%、「生活介護」が 5.5%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「施設入所支援」が 7.4%ともっとも多く、次いで「居宅介護」が 6.9%、「生活介護」が 5.9%、「知的障がい者」は「施設入所支援」が 11.4%ともっとも多く、次いで「短期入所」「自立生活援助」が共に 8.0%、「精神障がい者」は「就労移行支援」が 11.1%ともっとも多く、次いで「居宅介護」「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」が共に 6.3%、「重複障がい者」は「自立生活援助」が 9.0%、「居宅介護」「就労継続支援A型」「施設入所支援」が共に 7.7%となっています。

### 《障がい別》 必要な医療的ケア

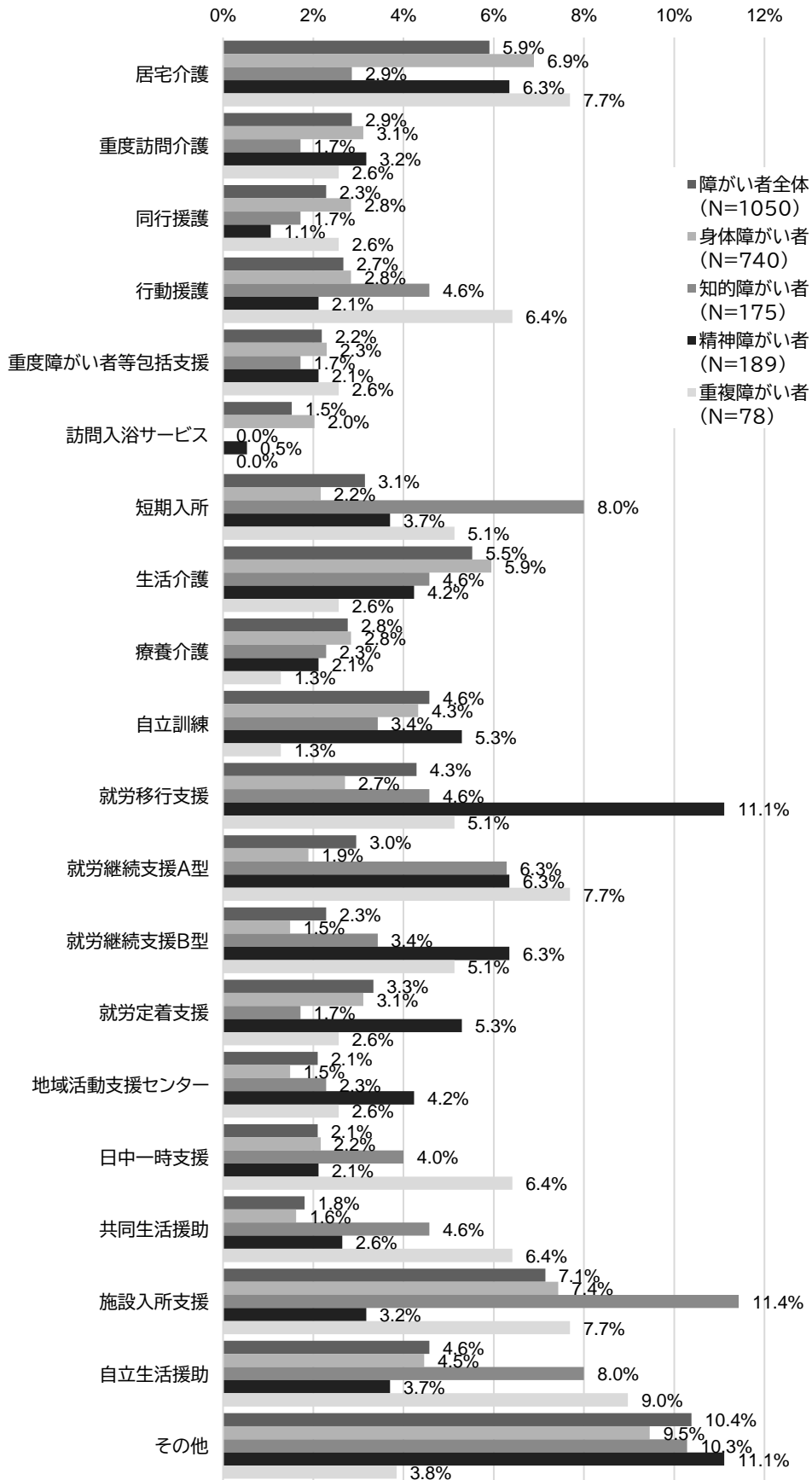


### 必要な医療的ケア(前回調査との比較)





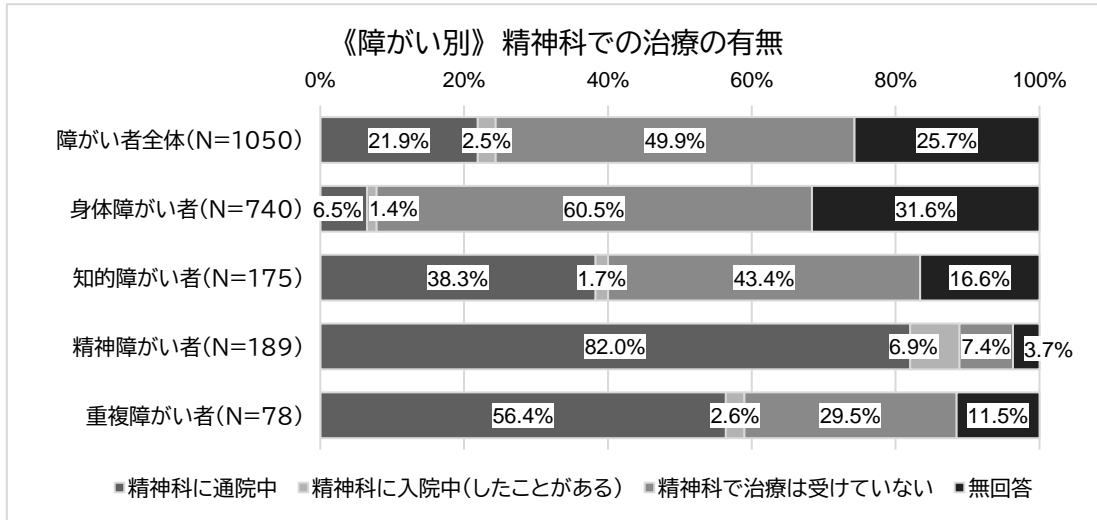
《障がい別》  
 医療的ケアへの対応が不足していると思う障がい福祉サービス



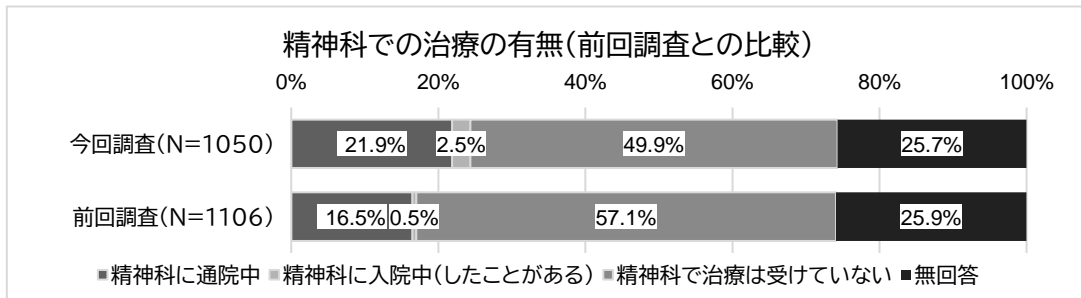
### 3) 精神科での治療の有無

「障がい者全体」では「精神科に通院中」の 21.9%、「精神科に入院中(したことがある)」の 2.5%を合わせた 24.4%が精神科の治療を受けています。

障がい別では、「身体障がい者」は「精神科に通院中」の 6.5%、「精神科に入院中(したことがある)」の 1.4%を合わせた 7.9%、「知的障がい者」は「精神科に通院中」の 38.3%、「精神科に入院中(したことがある)」の 1.7%を合わせた 40.0%、「精神障がい者」は「精神科に通院中」の 82.0%、「精神科に入院中(したことがある)」の 6.9%を合わせた 88.9%、「重複障がい者」は「精神科に通院中」の 56.4%、「精神科に入院中(したことがある)」の 2.6%を合わせた 59.0%が治療を受けています。



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「精神科に通院中」が 5.4 ポイント、「精神科に入院中(したことがある)」が 2.0 ポイント増え、「精神科で治療は受けていない」は 7.2 ポイント減っています。

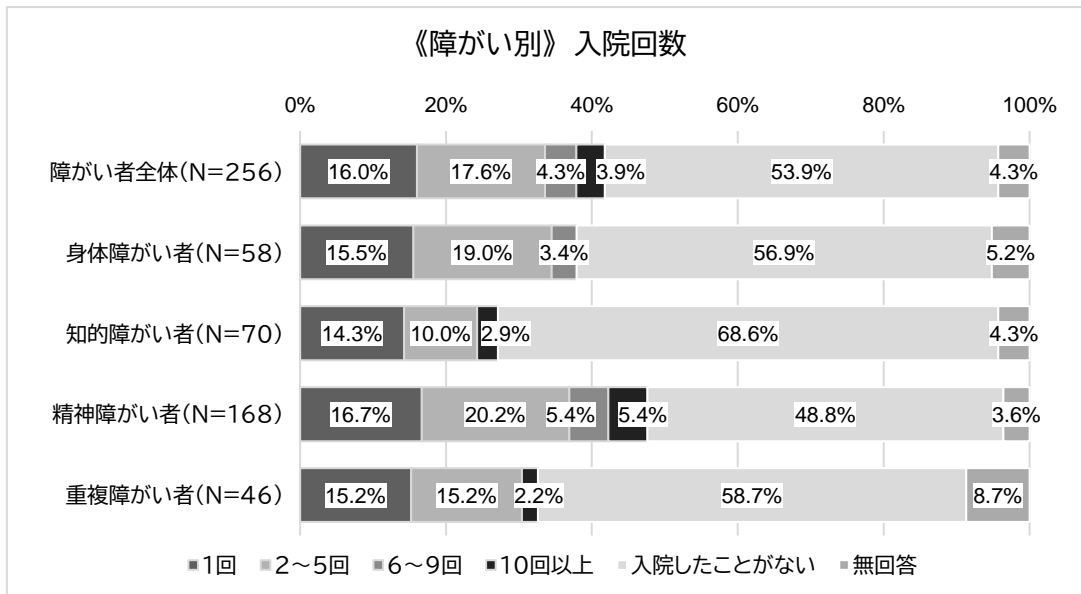


### 4) 入院回数

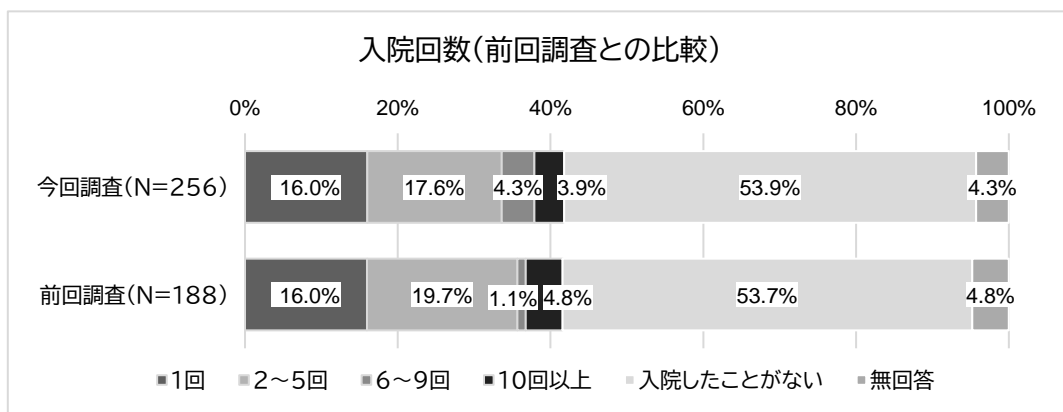
「障がい者全体」では「2~5回」が 17.6%ともっとも多く、次いで「1回」が 16.0%となっており、入院経験のある人は 41.8%となっています。

障がい別で見ると、「身体障がい者」は「2~5回」が 19.0%ともっとも多く、次いで「1回」が 15.5%、「知的障がい者」は「1回」が 14.3%ともっとも多く、次いで「2~5回」が 10.0%、「精神障がい者」は「2~5回」が 20.2%ともっとも多く、次いで「1回」が 16.7%、「重複障がい者」は「1回」「2~5回」が共に 15.2%となっています。

入院経験のある人は「身体障がい者」が 37.9%、「知的障がい者」が 27.2%、「精神障がい者」が 47.7%、「重複障がい者」が 32.6%となっています。



「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「2~5回」が 2.1 ポイント減り、「6~9回」が 3.2 ポイント増えています。

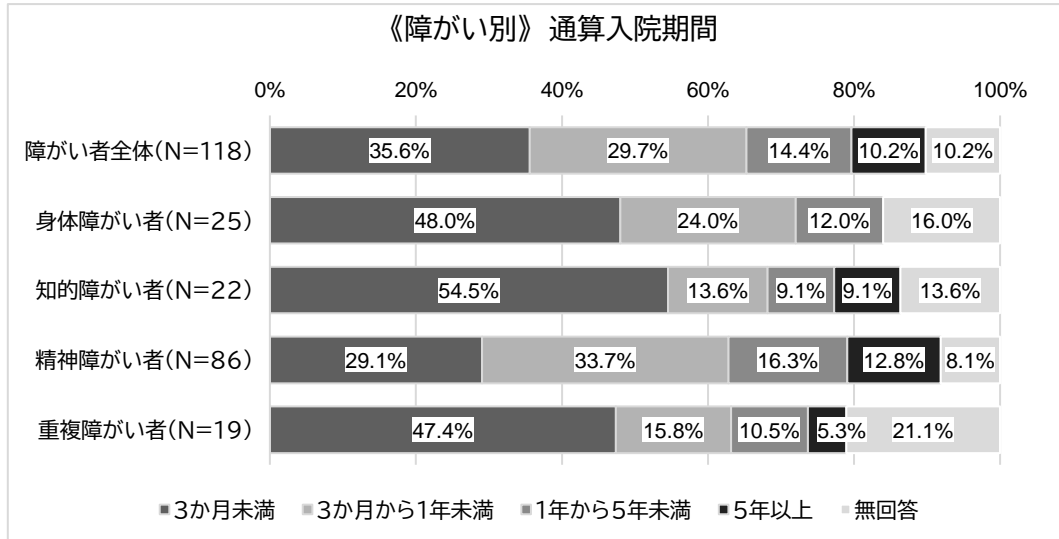


### 5) 通算入院期間

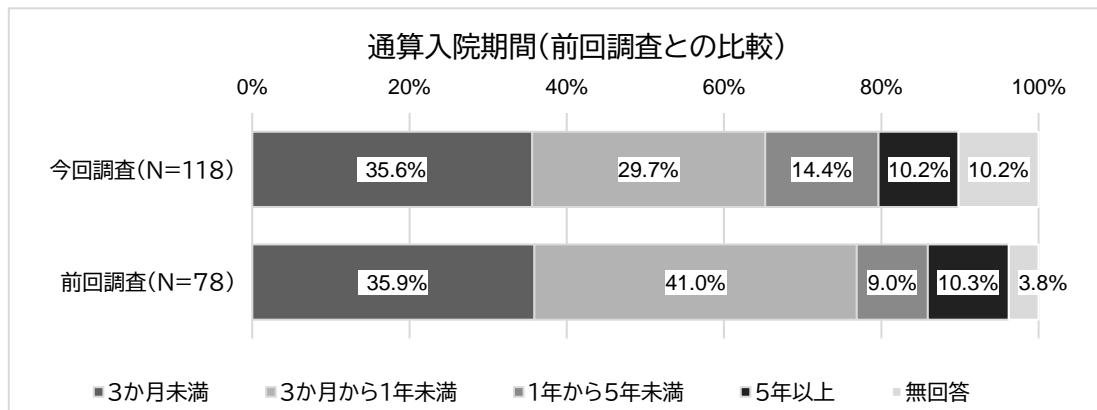
「障がい者全体」では「3か月未満」が 35.6%と最も多く、次いで「3か月から1年未満」が 29.7%となっています。

障がい別では、「身体障がい者」は「3か月未満」が 48.0%と最も多く、次いで「3か月から1年未満」が 24.0%、「知的障がい者」は「3か月未満」が 54.5%と最も多く、次いで「3か月から1年未満」が 13.6%、「精神障がい者」は「3か月から1年未満」が 33.7%と最も多く、次いで「3か月未満」が 29.1%、「重複障がい者」は「3か月未満」が 47.4%と最も多く、次いで「3か月から1年未満」が 15.8%となっています。

また、「精神障がい者」の 12.8%が「5年以上」の長期入院となっています。



「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「3か月から1年未満」が 11.3 ポイント減り、「1年から5年未満」が 5.4 ポイント増えています。

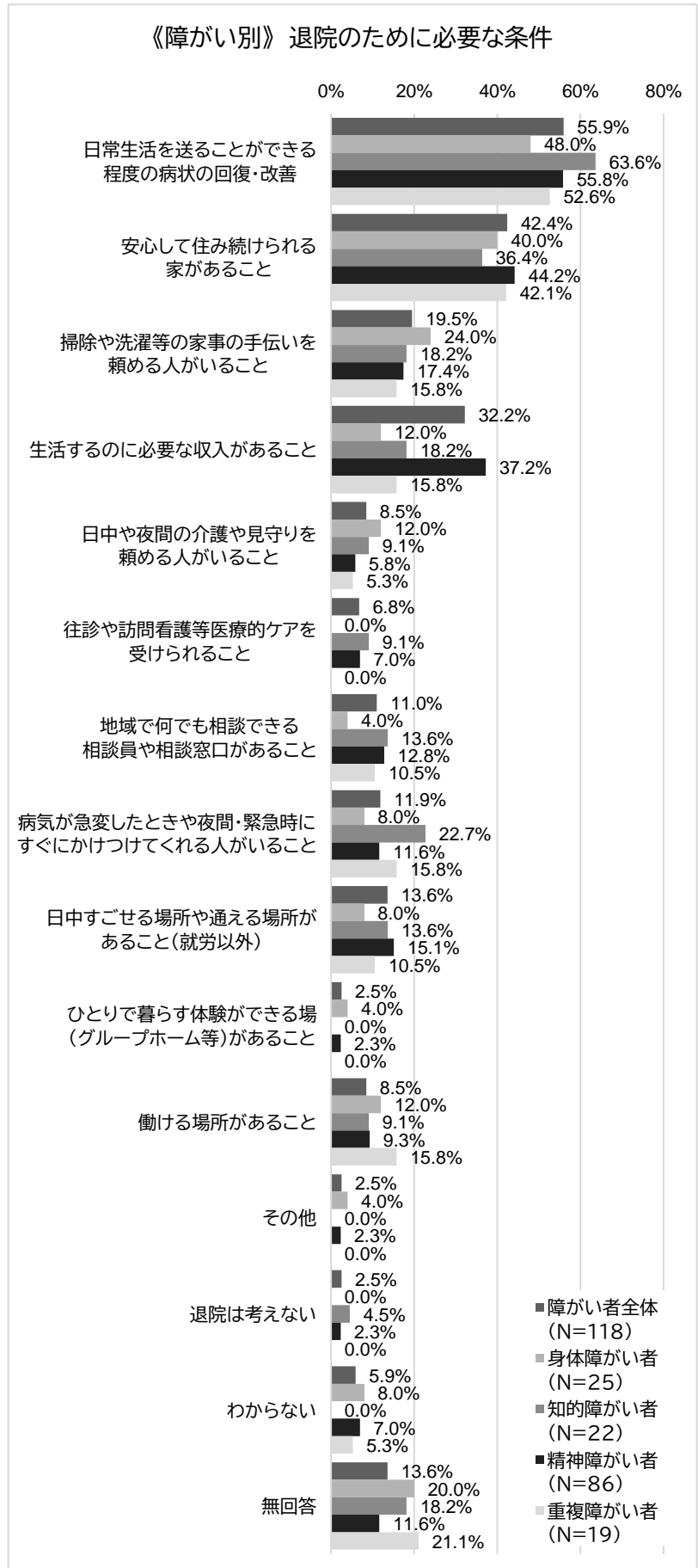


## 6) 退院のために必要な条件

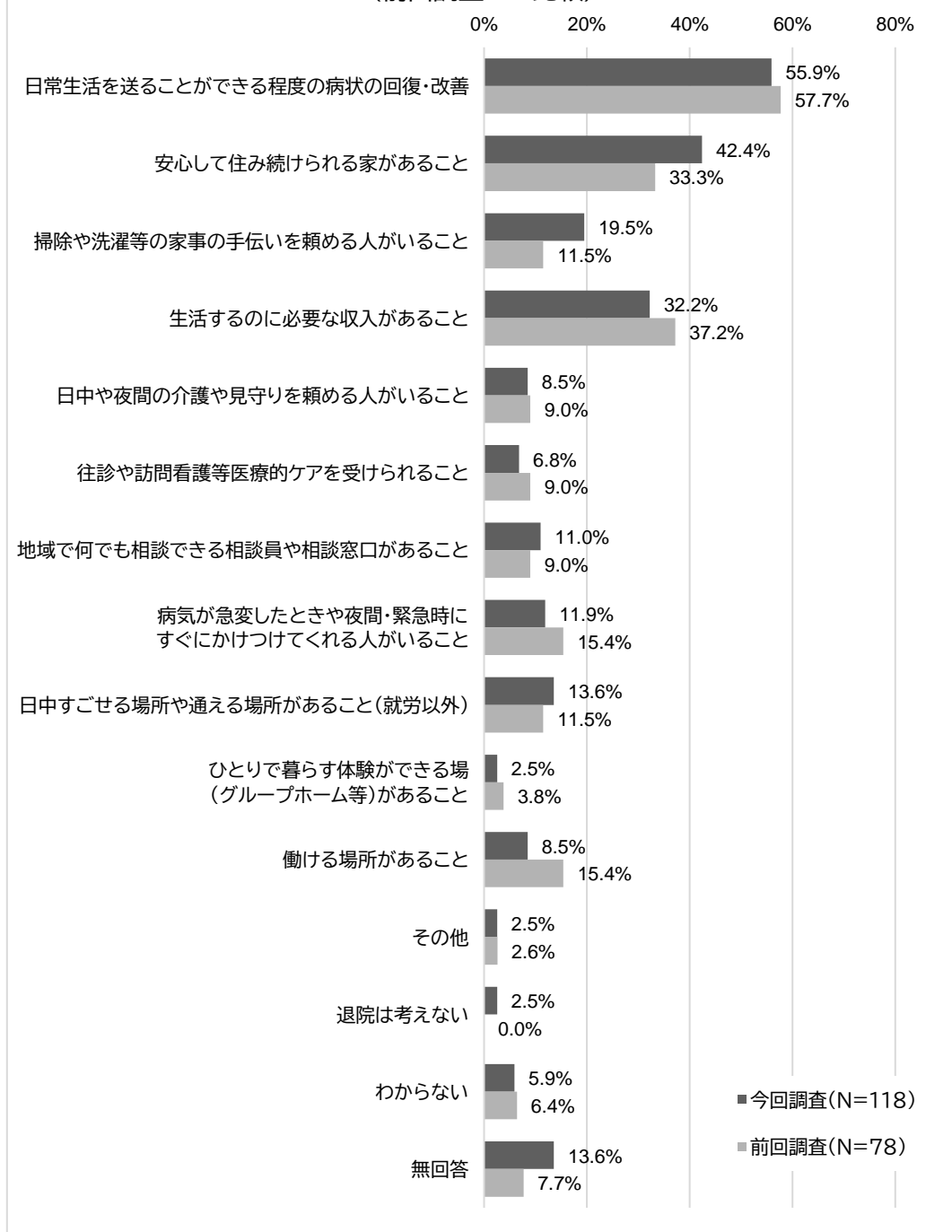
「障がい者全体」では「日常生活を送ることができる程度の病状の回復・改善」が55.9%と最も多く、次いで「安心して住み続けられる家があること」が42.4%、「生活するのに必要な収入があること」が32.2%となっています。

障がい別では、「身体障がい者」は「日常生活を送ることができる程度の病状の回復・改善」が48.0%と最も多く、次いで「安心して住み続けられる家があること」が40.0%、「掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること」が24.0%、「知的障がい者」は「日常生活を送ることができる程度の病状の回復・改善」が63.6%と最も多く、次いで「安心して住み続けられる家があること」が36.4%、「病気が急変したときや夜間・緊急時にすぐにつけてくれる人がいること」が22.7%、「精神障がい者」は「日常生活を送ることができる程度の病状の回復・改善」が55.8%と最も多く、次いで「安心して住み続けられる家があること」が44.2%、「生活するのに必要な収入があること」が37.2%、「重複障がい者」は「日常生活を送ることができる程度の病状の回復・改善」が52.6%と最も多く、次いで「安心して住み続けられる家があること」が42.1%となっています。

「障がい者全体」を「前回調査」と比較すると、「安心して住み続けられる家があること」が9.1ポイント、「掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること」が8.0ポイント増え、「生活するのに必要な収入があること」が5.0ポイント、「働ける場所があること」が6.9ポイント減っています。



### 退院のために必要な条件 (前回調査との比較)



## (6) 地域での暮らしについて

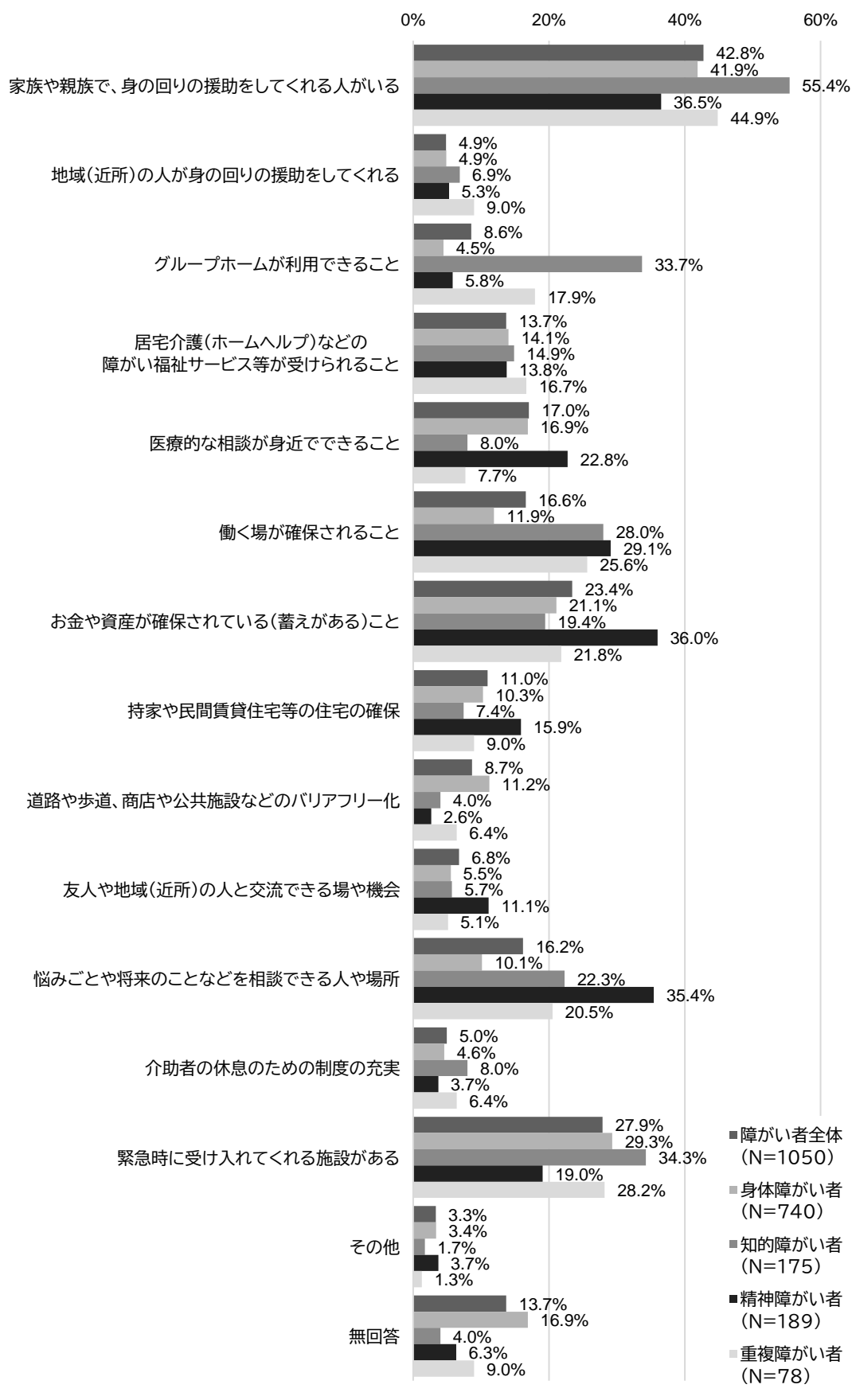
ポイント
<ul style="list-style-type: none"><li>● 「地域で生活をしていく際に必要なこと」については、「家族や親族で、身の回りの援助をしてくれる人がいる」がもっとも多く、次いで「身体障がい者」は「緊急時に受け入れてくれる施設がある」「お金や資産が確保されている(蓄えがある)こと」、「知的障がい者」は「緊急時に受け入れてくれる施設がある」「グループホームが利用できること」、「精神障がい者」は「お金や資産が確保されている(蓄えがある)こと」「悩みごとや将来のことなどを相談できる人や場所」、「重複障がい者」は「緊急時に受け入れてくれる施設がある」「働く場が確保されること」が多い。</li><li>● 家族や支援者が高齢になった時の不安は「援助者がいなくなる」がもっとも多く、「知的障がい者」は「施設等に入所できるか」、「精神障がい者」は「孤独」が多い。</li><li>● 困りごとの相談相手については「家族や親族」がもっとも多く、次いで「身体障がい者」は「友人・知人」「医師、看護師、CSW等」、「知的障がい者」は「障がい福祉サービス事業所等の職員」「相談支援事業所」、「精神障がい者」は「医師、看護師、CSW等」「友人・知人」「障がい福祉サービス事業所等の職員」、「重複障がい者」は「障がい福祉サービス事業所等の職員」「医師、看護師、CSW等」が多い。</li><li>● 「親なきあと」を見据えた権利擁護に関する制度について、「成年後見制度」は「知的障がい者」の61.7%、「日常生活自立支援事業」は「知的障がい者」の59.4%、「市民後見人」は「知的障がい者」の39.4%、「任意後見制度」は「知的障がい者」の45.1%が必要としている。</li><li>● また、権利擁護に関する制度については、「制度が分かりにくい」という意見が多い。</li></ul>

### 1) 地域で生活をしていく際に必要なこと

「障がい者全体」では「家族や親族で、身の回りの援助をしてくれる人がいる」が42.8%と最も多く、次いで「緊急時に受け入れてくれる施設がある」が27.9%、「お金や資産が確保されている(蓄えがある)こと」が23.4%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「家族や親族で、身の回りの援助をしてくれる人がいる」が41.9%と最も多く、次いで「緊急時に受け入れてくれる施設がある」が29.3%、「お金や資産が確保されている(蓄えがある)こと」が21.1%、「知的障がい者」は「家族や親族で、身の回りの援助をしてくれる人がいる」が55.4%と最も多く、次いで「緊急時に受け入れてくれる施設がある」が34.3%。「グループホームが利用できること」が33.7%、「精神障がい者」は「家族や親族で、身の回りの援助をしてくれる人がいる」が36.5%と最も多く、次いで「お金や資産が確保されている(蓄えがある)こと」が36.0%、「悩みごとや将来のことなどを相談できる人や場所」が35.4%、「重複障がい者」は「家族や親族で、身の回りの援助をしてくれる人がいる」が44.9%と最も多く、次いで「緊急時に受け入れてくれる施設がある」が28.2%、「働く場が確保されること」が25.6%となっています。

### 《障がい別》 地域で生活をしていく際に必要なこと

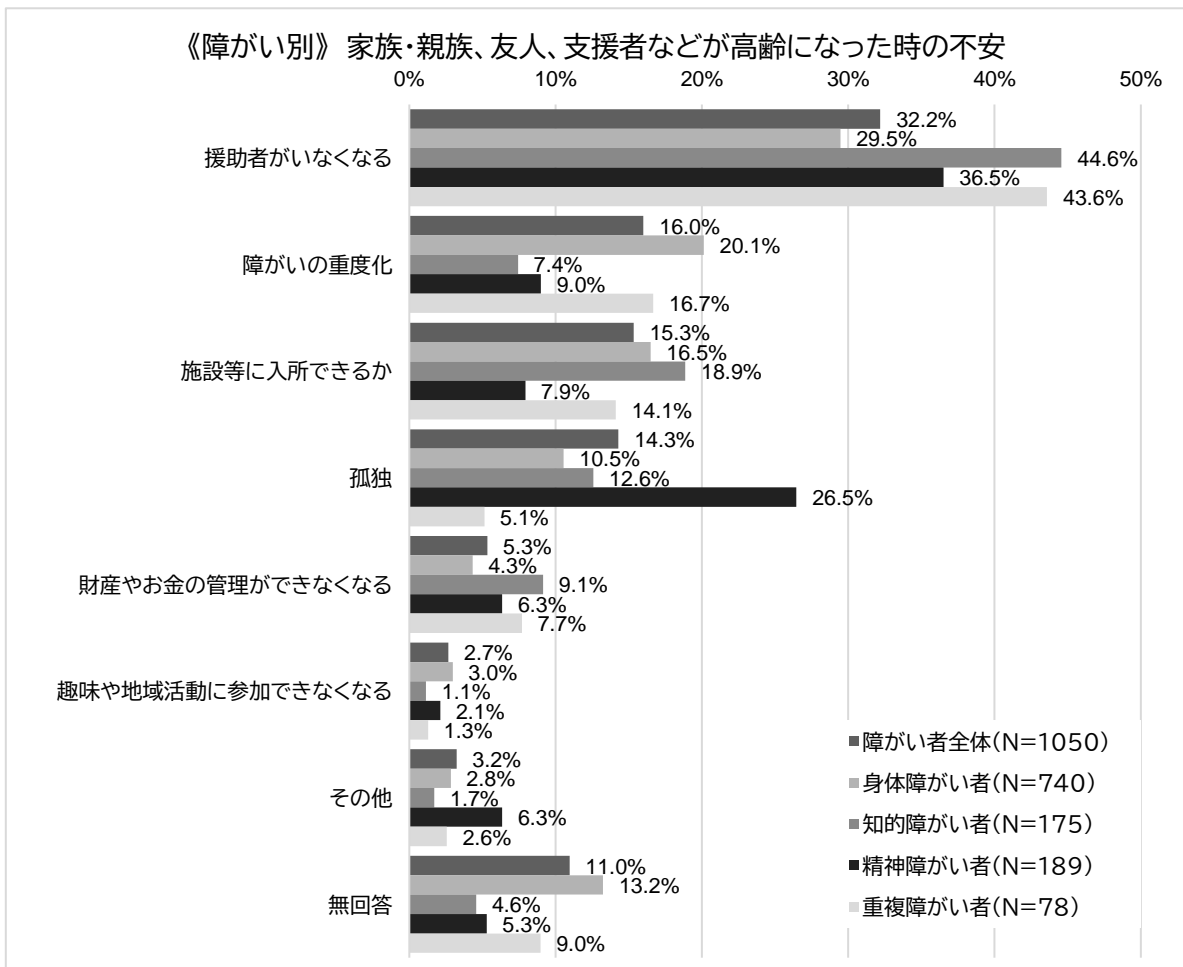




## 2) 家族・親族、友人、支援者などが高齢になった時の不安

「障がい者全体」では「援助者がいなくなる」が32.2%と最も多く、次いで「障がいの重度化」が16.0%、「施設等に入所できるか」が15.3%、「孤独」が14.3%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「援助者がいなくなる」が29.5%と最も多く、次いで「障がいの重度化」が20.1%、「施設等に入所できるか」が16.5%、「孤独」が10.5%、「知的障がい者」は「援助者がいなくなる」が44.6%と最も多く、次いで「施設等に入所できるか」が18.9%、「孤独」が12.6%、「財産やお金の管理ができなくなる」が9.1%、「精神障がい者」は「援助者がいなくなる」が36.5%と最も多く、次いで「孤独」が26.5%、「障がいの重度化」が9.0%、「施設等に入所できるか」が7.9%、「重複障がい者」は「援助者がいなくなる」が43.6%と最も多く、次いで「障がいの重度化」が16.7%、「施設等に入所できるか」が14.1%、「財産やお金の管理ができなくなる」が7.7%となっています。

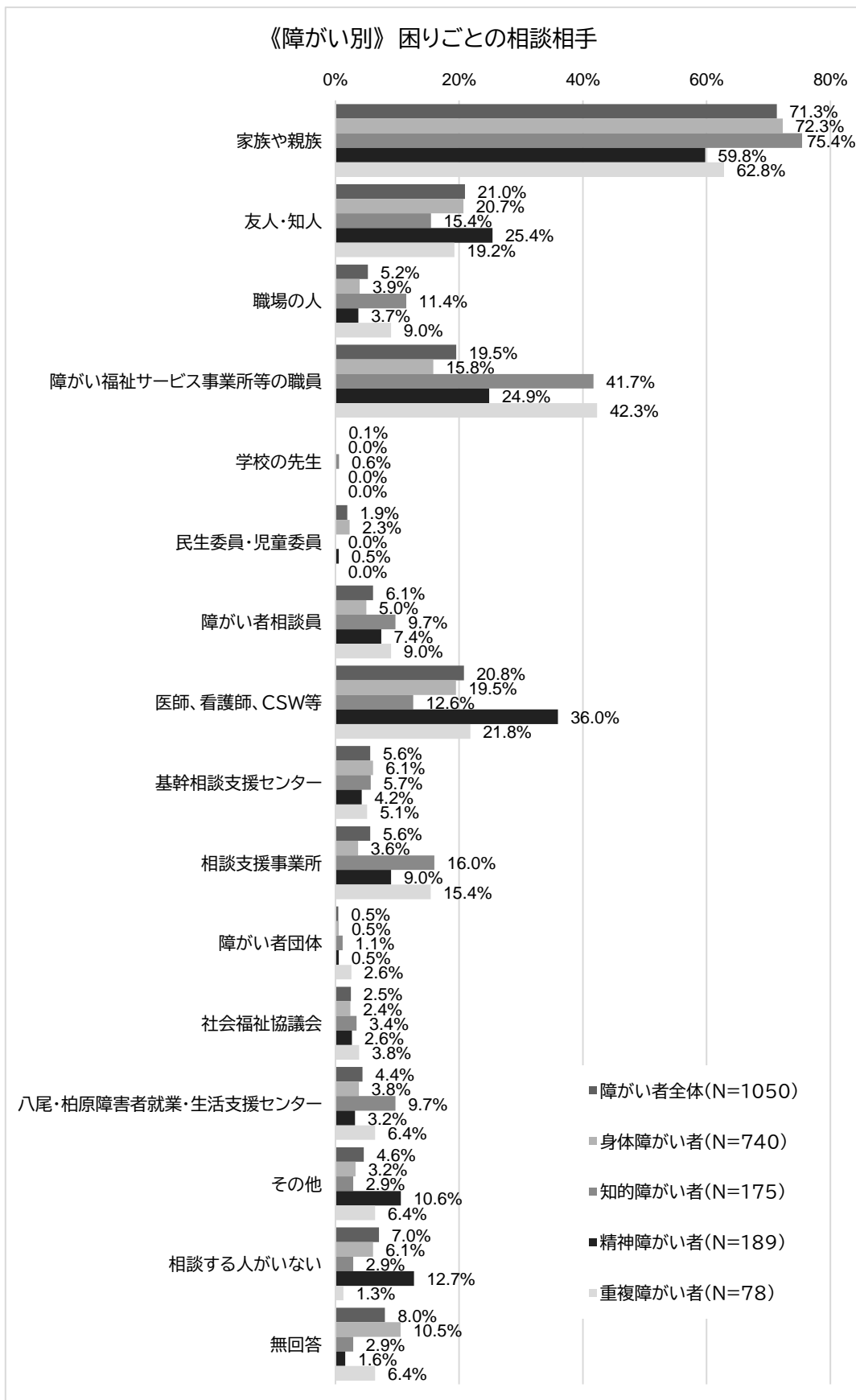


## 3) 困りごとの相談相手

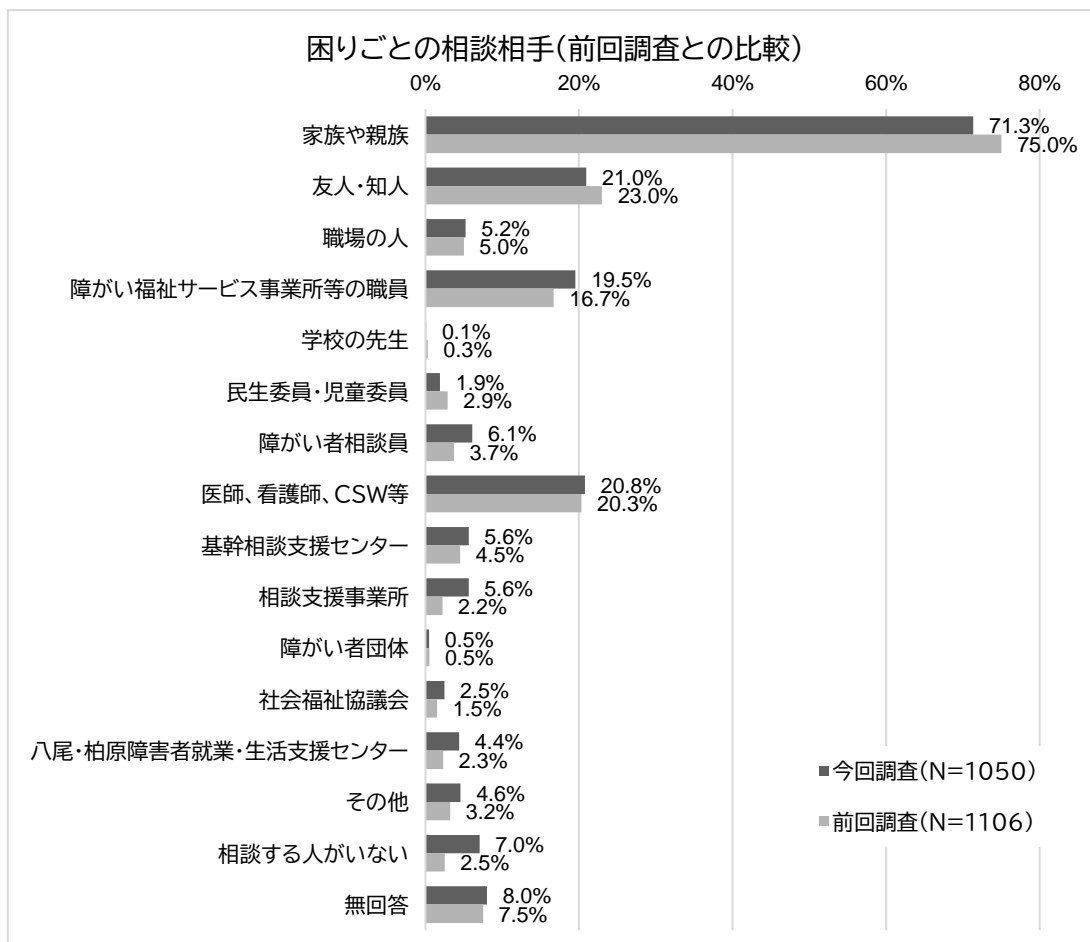
「障がい者全体」では「家族や親族」が71.3%と最も多く、次いで「友人・知人」が21.0%、「医師、看護師、CSW等」が20.8%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「家族や親族」が72.3%と最も多く、次いで「友人・知人」が20.7%、「医師、看護師、CSW等」が19.5%、「知的障がい者」は「家族や親族」が75.4%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所等の職員」が41.7%、「相談支援事業所」が16.0%、「精神障がい者」は「家族や親族」が59.8%と最も多く、次いで「医師、看護師、CSW等」が36.0%、「友人・知人」が25.4%、「重複障がい

者」は「家族や親族」が 62.8%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所等の職員」が 42.3%、「医師、看護師、CSW等」が 21.8%となっています。



「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「家族や親族」が 3.7 ポイント、「友人・知人」が 2.0 ポイント減り、「障がい福祉サービス事業所等の職員」が 2.8 ポイント、「相談支援事業所」が 3.4 ポイント、「相談する人がいない」が 4.5 ポイント増えています。

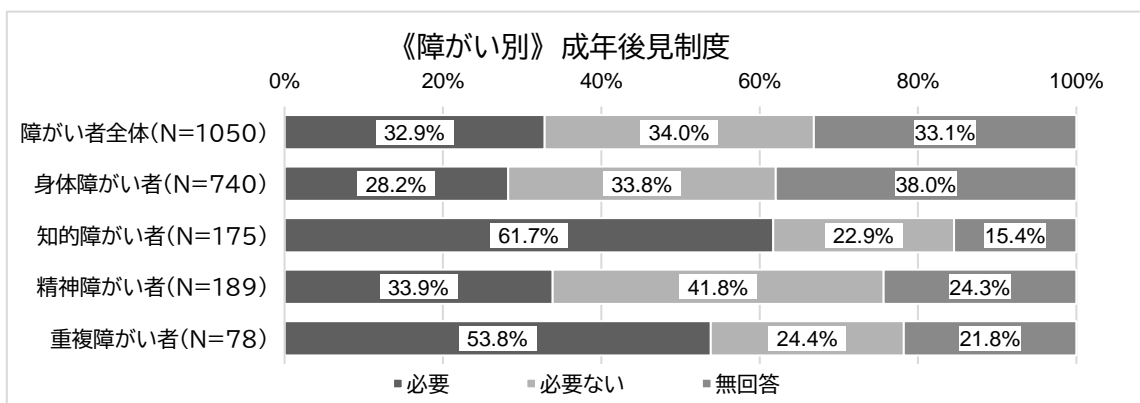


#### 4) 「親なきあと」を見据えた権利擁護に関する制度について

##### ① 成年後見制度

「障がい者全体」では 32.9%が「必要」と回答しています。

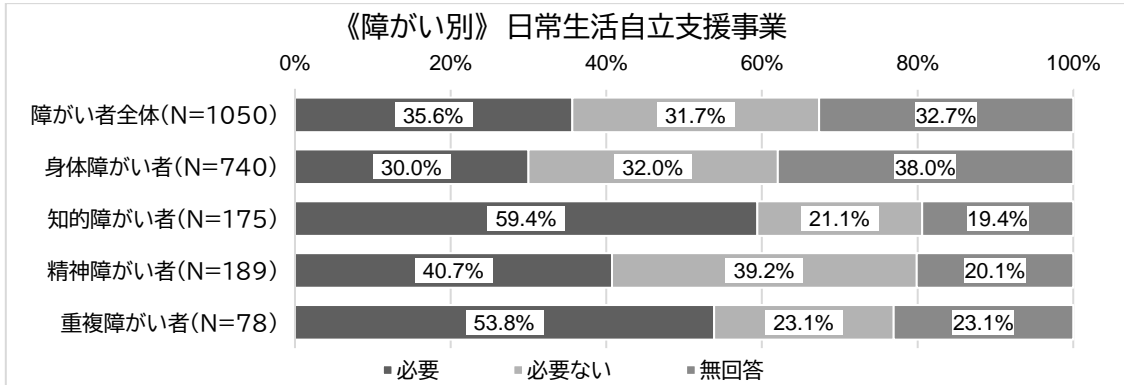
障がい別で「必要」を見ると、「身体障がい者」は 28.2%、「知的障がい者」は 61.7%、「精神障がい者」は 33.9%、「重複障がい者」は 53.8%となっています。



### ② 日常生活自立支援事業

「障がい者全体」では 35.6%が「必要」と回答しています。

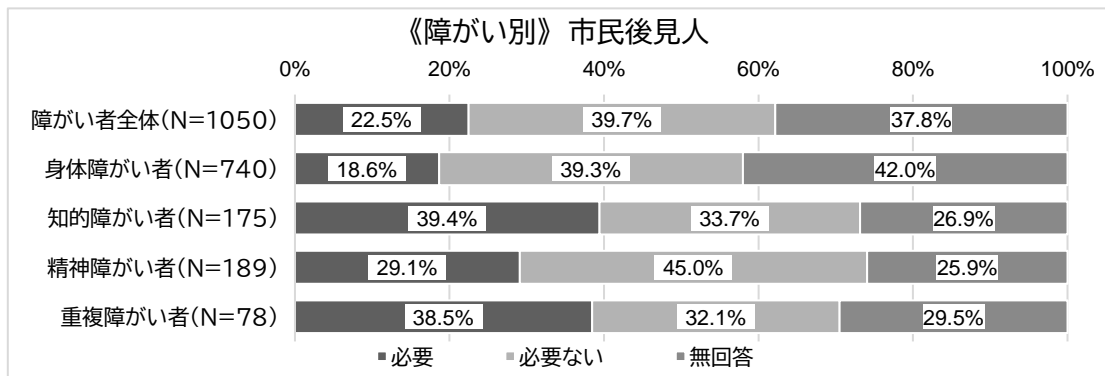
障がい別で「必要」を見ると、「身体障がい者」は 30.0%、「知的障がい者」は 59.4%、「精神障がい者」は 40.7%、「重複障がい者」は 53.8%となっています。



### ③ 市民後見人

「障がい者全体」では 22.5%が「必要」と回答しています。

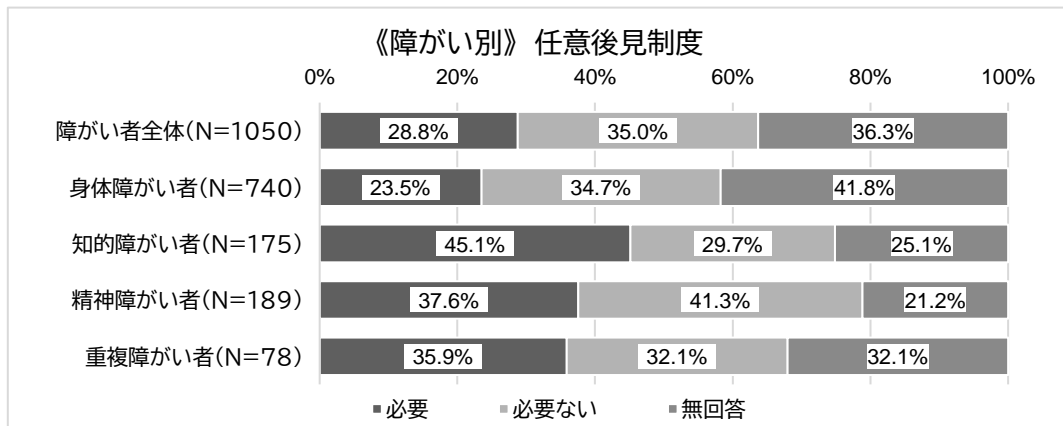
障がい別で「必要」を見ると、「身体障がい者」は 18.6%、「知的障がい者」は 39.4%、「精神障がい者」は 29.1%、「重複障がい者」は 38.5%となっています。



### ④ 任意後見制度

「障がい者全体」では 28.8%が「必要」と回答しています。

障がい別で「必要」を見ると、「身体障がい者」は 23.5%、「知的障がい者」は 45.1%、「精神障がい者」は 37.6%、「重複障がい者」は 35.9%となっています。

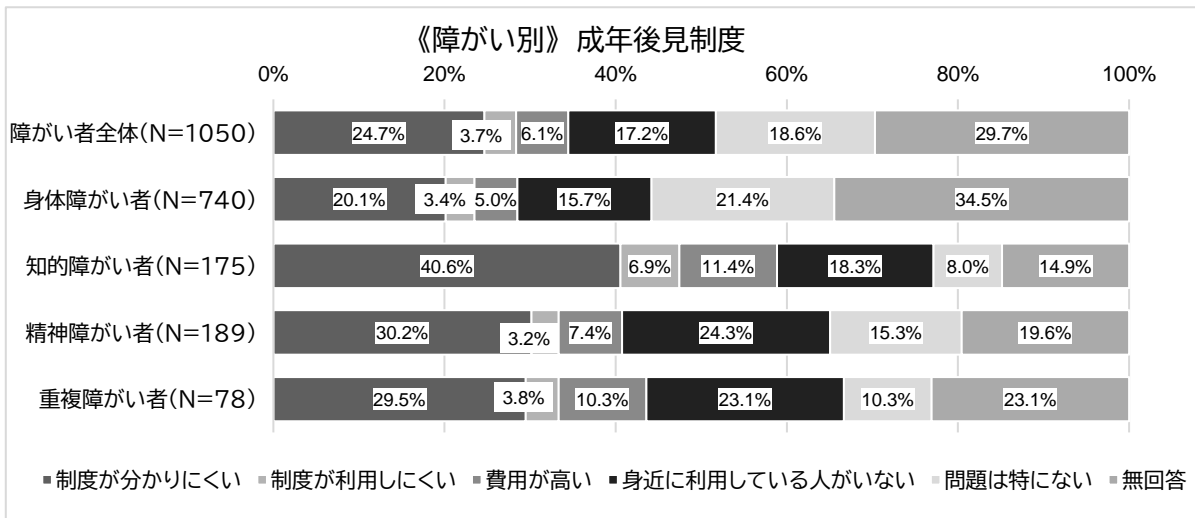


## 5) 権利擁護の制度に関する問題点

### ① 成年後見制度

「障がい者全体」では「制度が分かりにくい」が 24.7%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 17.2%となっています。

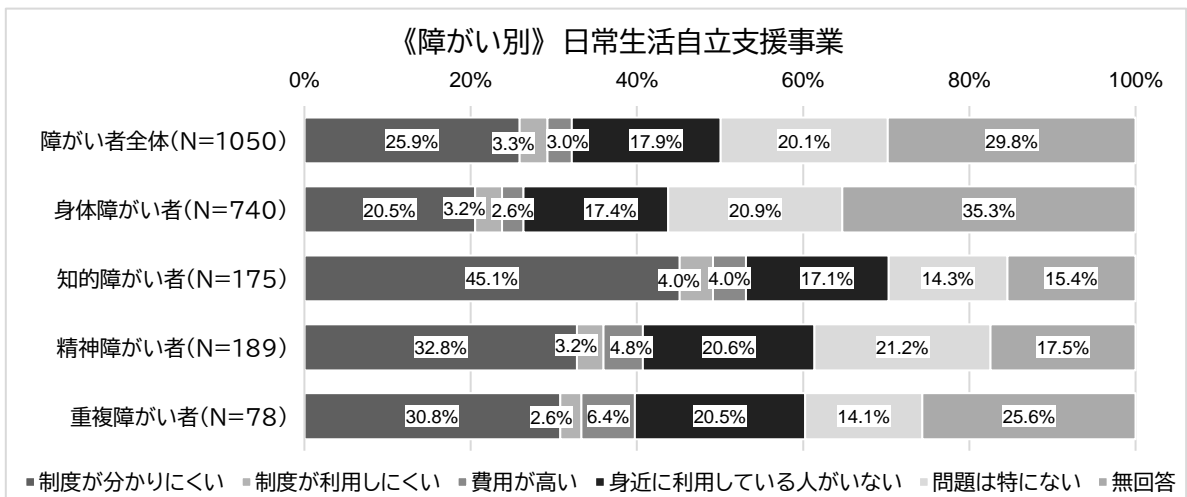
障がい別では「身体障がい者」は「制度が分かりにくい」が 20.1%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 15.7%、「知的障がい者」は「制度が分かりにくい」が 40.6%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 18.3%、「精神障がい者」は「制度が分かりにくい」が 30.2%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 24.3%、「重複障がい者」は「制度が分かりにくい」が 29.5%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 23.1%となっています。



### ② 日常生活自立支援事業

「障がい者全体」では「制度が分かりにくい」が 25.9%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 17.9%となっています。

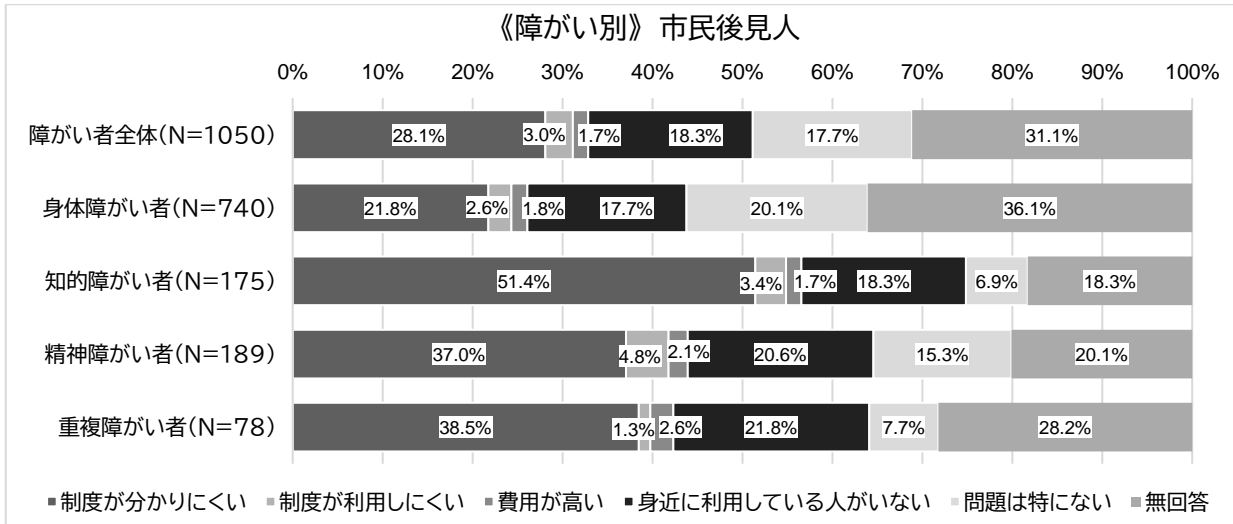
障がい別では「身体障がい者」は「制度が分かりにくい」が 20.5%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 17.4%、「知的障がい者」は「制度が分かりにくい」が 45.1%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 17.1%、「精神障がい者」は「制度が分かりにくい」が 32.8%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 20.6%、「重複障がい者」は「制度が分かりにくい」が 30.8%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 20.5%となっています。



### ③ 市民後見人

「障がい者全体」では「制度が分かりにくい」が 28.1%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 18.3%となっています。

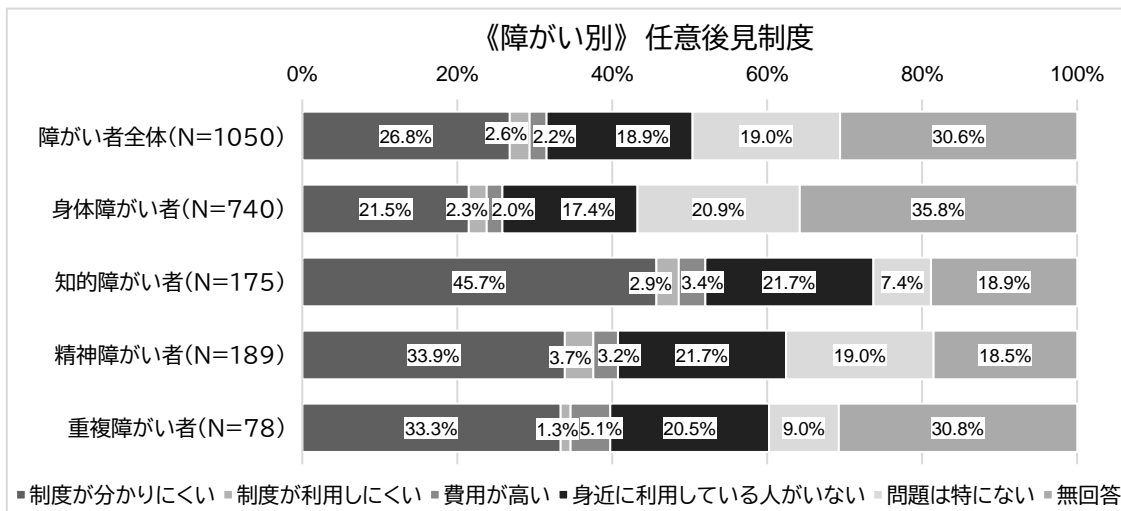
障がい別では「身体障がい者」は「制度が分かりにくい」が 21.8%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 17.7%、「知的障がい者」は「制度が分かりにくい」が 51.4%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 18.3%、「精神障がい者」は「制度が分かりにくい」が 37.0%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 20.6%、「重複障がい者」は「制度が分かりにくい」が 38.5%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 21.8%となっています。



### ④ 任意後見制度

「障がい者全体」では「制度が分かりにくい」が 26.8%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 18.9%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「制度が分かりにくい」が 21.5%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 17.4%、「知的障がい者」は「制度が分かりにくい」が 45.7%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 21.7%、「精神障がい者」は「制度が分かりにくい」が 33.9%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 21.7%、「重複障がい者」は「制度が分かりにくい」が 33.3%と最も多く、次いで「身近に利用している人がいない」が 20.5%となっています。



(7) 新型コロナウイルス感染症について

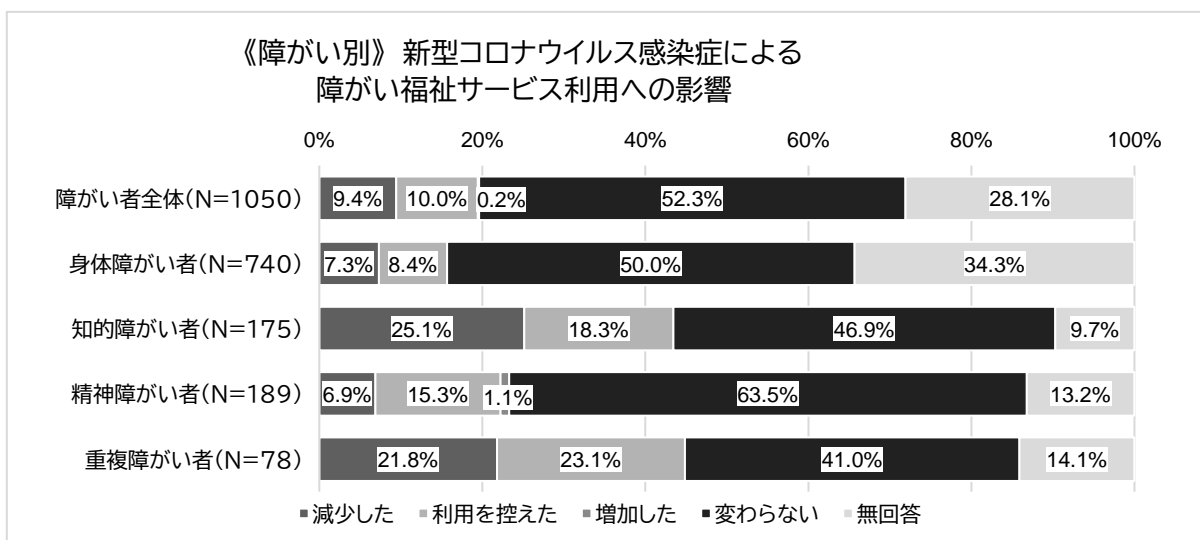
ポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「障がい者全体」の 19.4%が新型コロナウイルス感染症による障がい福祉サービス利用の影響を受けており、特に「知的障がい者」への影響は 43.4%と大きい。</li> <li>● 利用控えをした理由は「人と接触する機会を減らすため」「障がい福祉サービス事業所が休業となったため」が多い。</li> <li>● 新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなった際の利用意向は「知的障がい者」の 18.3%、「重複障がい者」の 16.7%が「サービス利用を増やしたい」としている。</li> <li>● コロナ禍で特に困ったことは「外出制限により人との交流や会話をする機会が減った」がもっとも多く、次いで「身体障がい者」は「基礎疾患等があり、感染防止対策により注意が必要だった」、「知的障がい者」「精神障がい者」「重複障がい者」は「外出制限により買い物や趣味などの時間が減った・できなくなった」が多い。</li> <li>● 緊急事態宣言期間中の過ごし方については「外出せず、家の中で自分の時間を過ごしていた」がもっとも多く、次いで「いつもどおり外出し仕事や買い物などをしていた」が多い。</li> <li>● 必要な新型コロナウイルス感染症対策では「ワクチン接種に対する支援及び推進」「障がい福祉サービス事業所等が閉鎖しないような事業所に対する支援」「郵便など、市役所等に行かなくてもできる手続きの充実」が多い。</li> </ul>

1) 新型コロナウイルス感染症による障がい福祉サービス利用への影響

「障がい者全体」では「減少した」の 9.4%、「利用を控えた」の 10.0%を合わせた 19.4%が新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。

障がい別では「身体障がい者」は「減少した」の 7.3%、「利用を控えた」の 8.4%を合わせた 15.7%、「知的障がい者」は「減少した」の 25.1%、「利用を控えた」の 18.3%を合わせた 43.4%、「精神障がい者」は「減少した」の 6.9%、「利用を控えた」の 15.3%を合わせた 22.2%、「重複障がい者」は「減少した」の 21.8%、「利用を控えた」の 23.1%を合わせた 44.9%が新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。

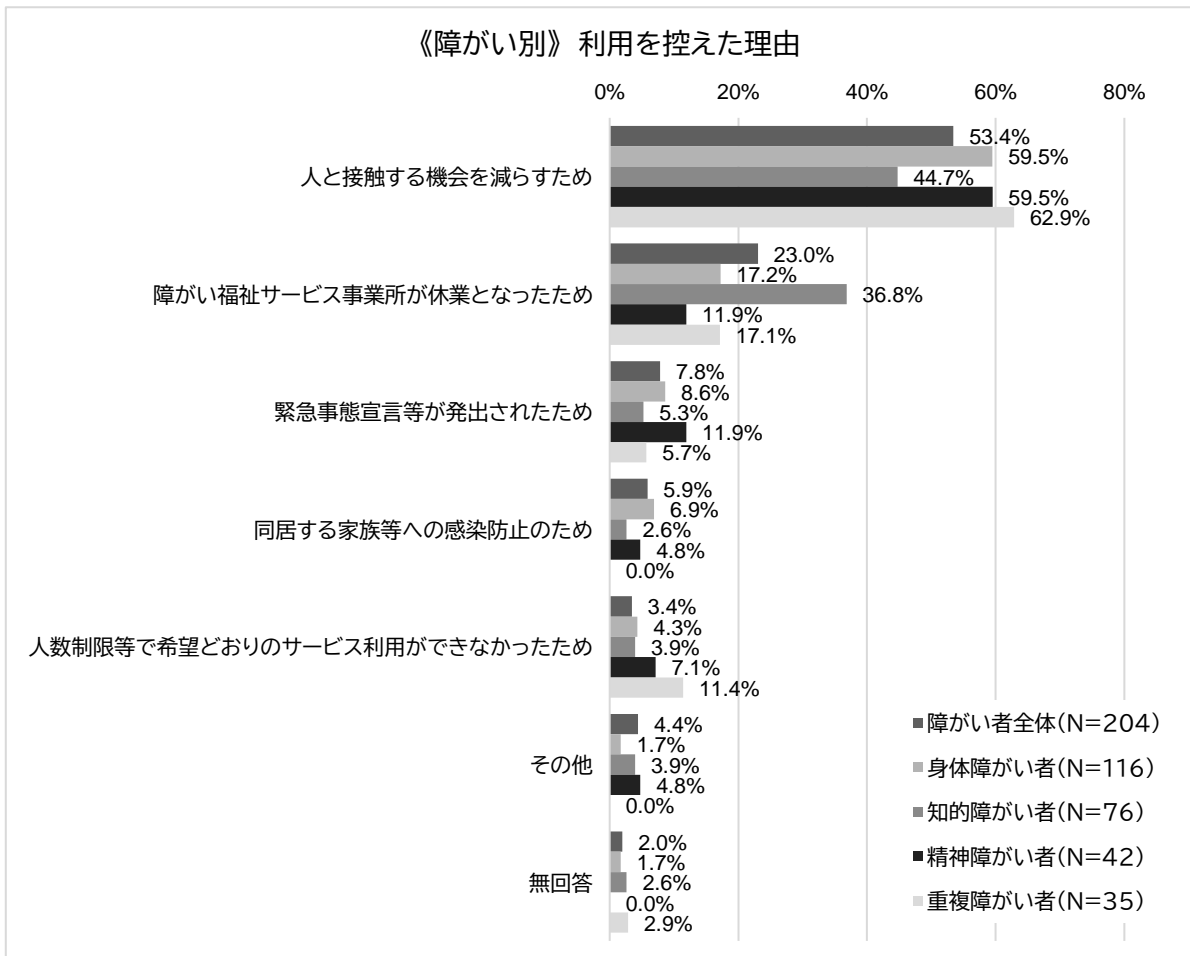
「増加した」はほとんどありません。



## 2) 「減少した」「利用を控えた」理由

「障がい者全体」では「人と接触する機会を減らすため」が 53.4%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所が休業となったため」が 23.0%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「人と接触する機会を減らすため」が 59.5%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所が休業となったため」が 17.2%、「知的障がい者」は「人と接触する機会を減らすため」が 44.7%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所が休業となったため」が 36.8%、「精神障がい者」は「人と接触する機会を減らすため」が 59.5%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所が休業となったため」が 11.9%、「重複障がい者」は「人と接触する機会を減らすため」が 62.9%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所が休業となったため」が 17.1%となっています。

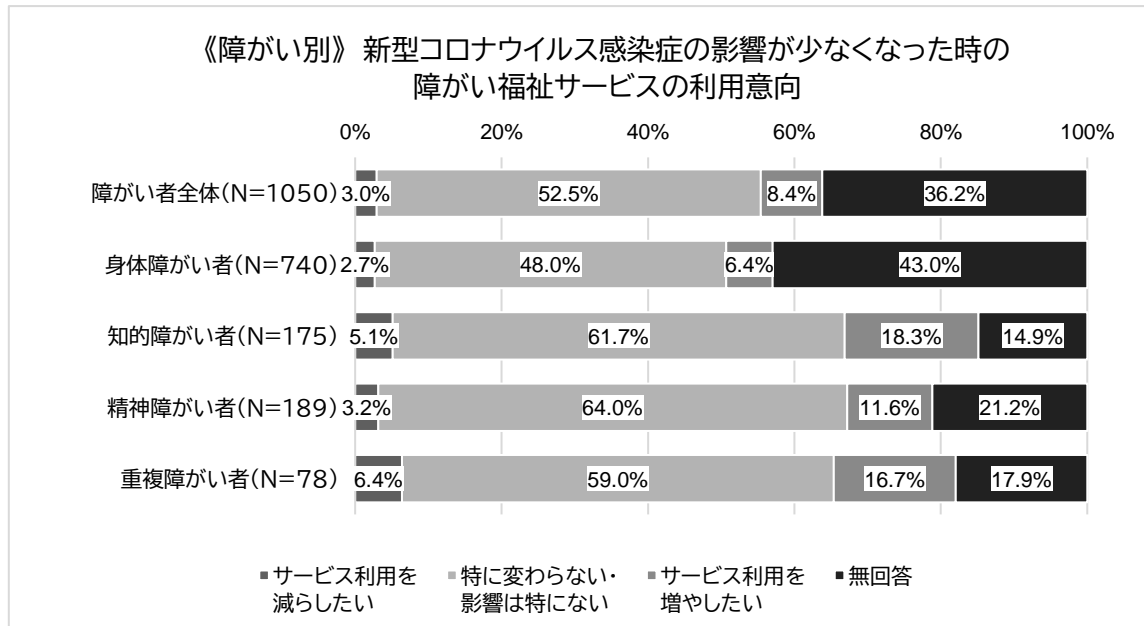


## 3) 新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなった際の、障がい福祉サービスの利用意向

「障がい者全体」では「サービス利用を減らしたい」が 3.0%に対し、「サービス利用を増やしたい」が 8.4%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「サービス利用を減らしたい」が 2.7%に対し、「サービス利用を増やしたい」が 6.4%、「知的障がい者」は「サービス利用を減らしたい」が 5.1%に対し、「サービス利用を増やしたい」が 18.3%、「精神障がい者」は「サービス利用を減らしたい」が 3.2%に対し、「サービス利用を増やしたい」が 11.6%、「重複障がい者」は「サービス利用を減らしたい」が 6.4%に対し、「サービス利用を増やしたい」が 16.7%となっています。



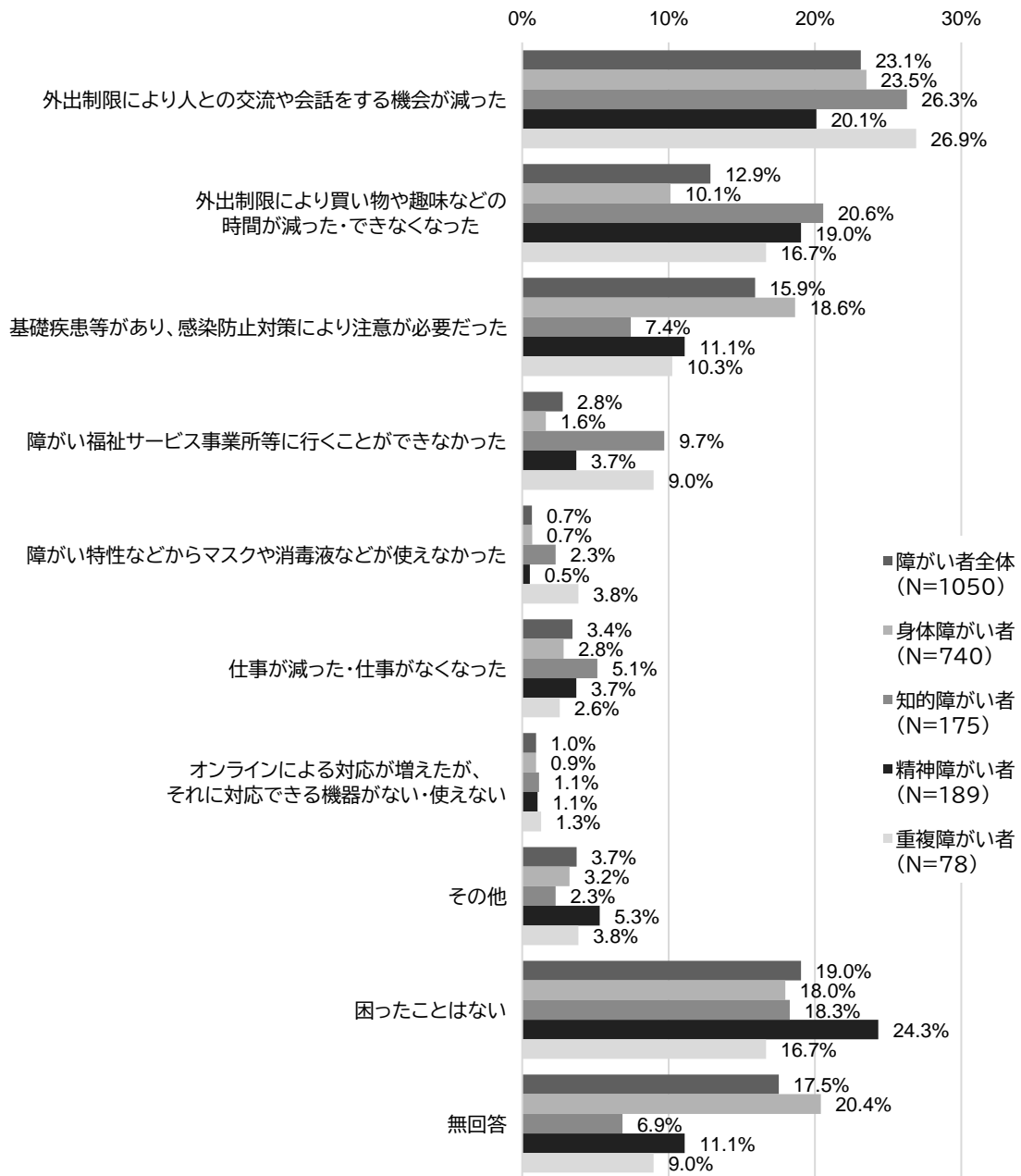


#### 4) 新型コロナウイルス感染症の影響で特に困ったこと

「障がい者全体」では「外出制限により人との交流や会話をする機会が減った」が23.1%ともっとも多く、次いで「基礎疾患等があり、感染防止対策により注意が必要だった」が15.9%、「外出制限により買い物や趣味などの時間が減った・できなくなった」が12.9%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「外出制限により人との交流や会話をする機会が減った」が23.5%ともっとも多く、次いで「基礎疾患等があり、感染防止対策により注意が必要だった」が18.6%、「外出制限により買い物や趣味などの時間が減った・できなくなった」が10.1%、「知的障がい者」は「外出制限により人との交流や会話をする機会が減った」が26.3%ともっとも多く、次いで「外出制限により買い物や趣味などの時間が減った・できなくなった」が20.6%、「障がい福祉サービス事業所等に行くことができなかった」が9.7%、「精神障がい者」は「外出制限により人との交流や会話をする機会が減った」が20.1%、「外出制限により買い物や趣味などの時間が減った・できなくなった」が19.0%、「基礎疾患等があり、感染防止対策により注意が必要だった」が11.1%、「重複障がい者」は「外出制限により人との交流や会話をする機会が減った」が26.9%、「外出制限により買い物や趣味などの時間が減った・できなくなった」が16.7%、「基礎疾患等があり、感染防止対策により注意が必要だった」が10.3%となっています。

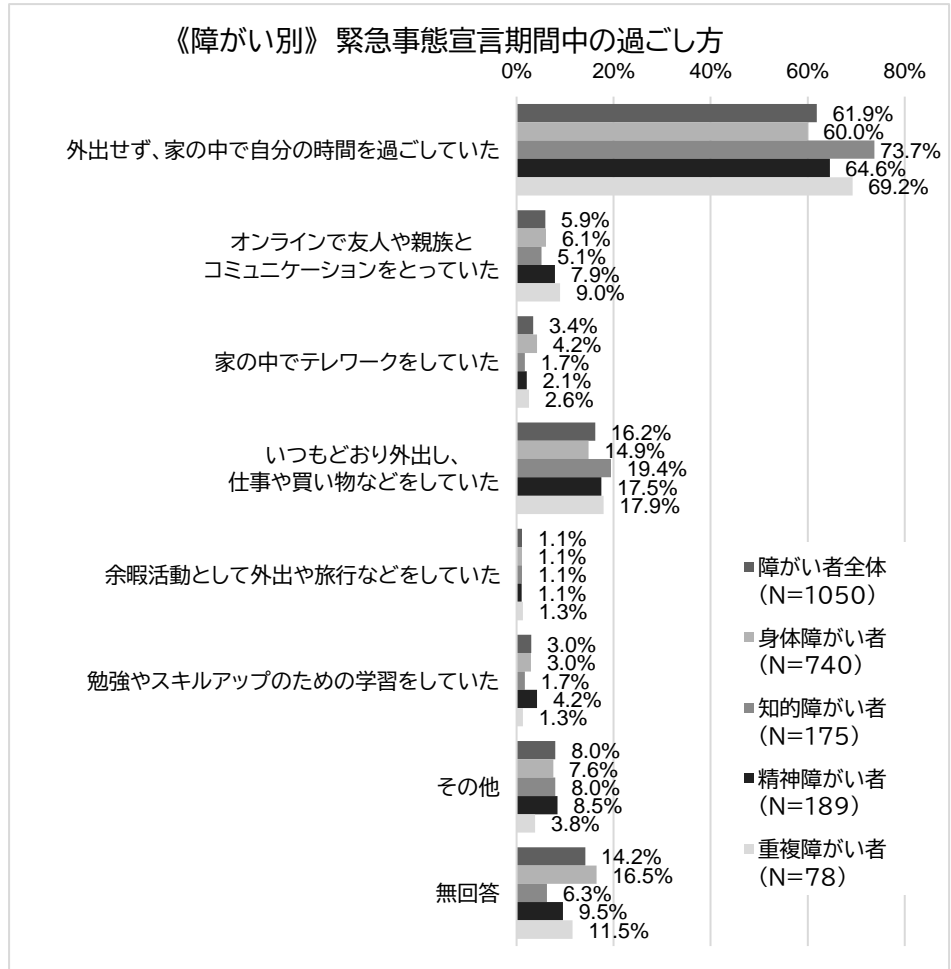
### 《障がい別》新型コロナウイルス感染症の影響で特に困ったこと



### 5) 緊急事態宣言期間中の過ごし方

「障がい者全体」では「外出せず、家の中で自分の時間を過ごしていた」が61.9%と最も多く、次いで「いつもどおり外出し仕事や買い物などをしていました」が16.2%となっています。

障がい別で見ても、どの障がいもほぼ、同様の傾向を示しています。

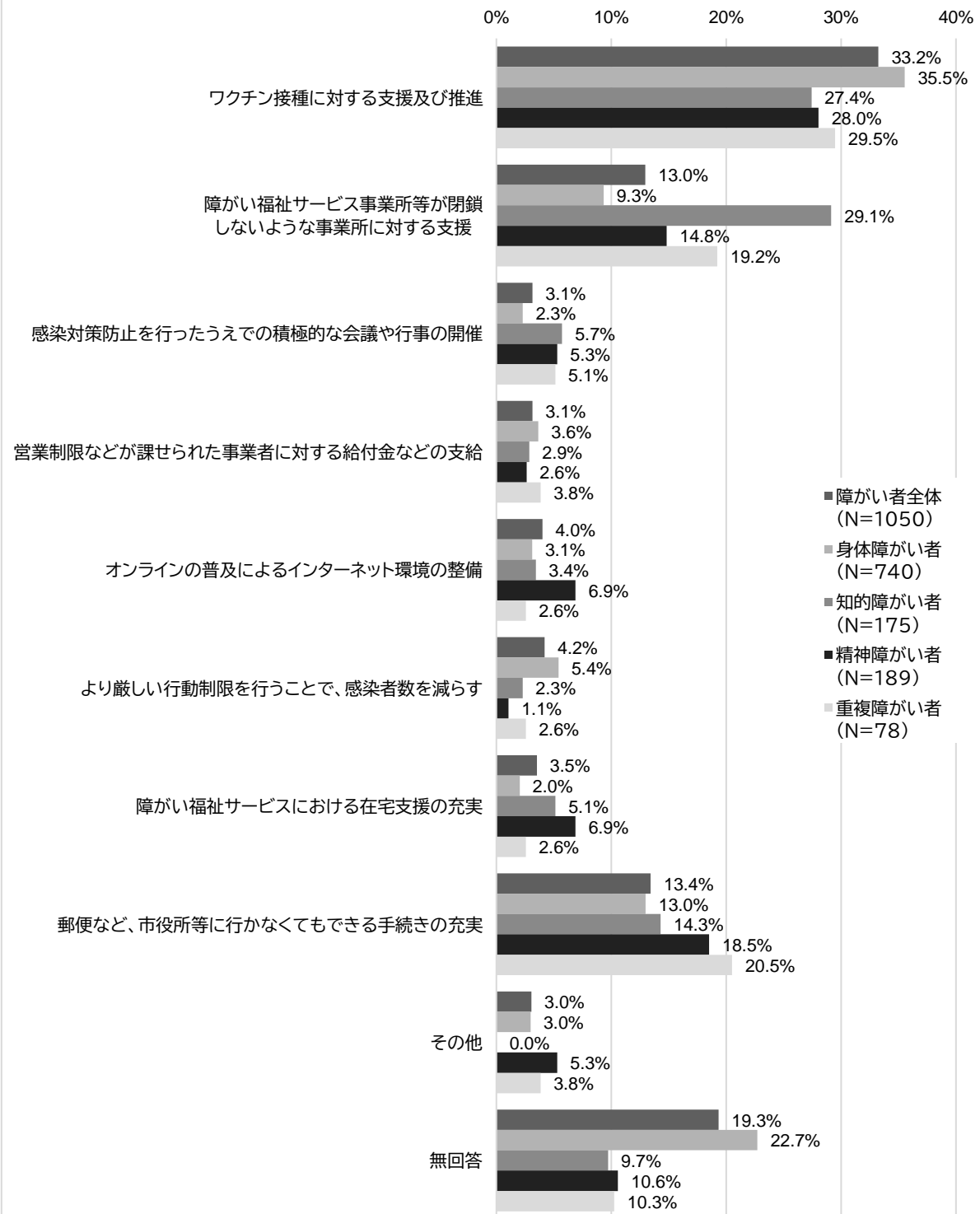


### 6) 必要な新型コロナウイルス感染症対策

「障がい者全体」では「ワクチン接種に対する支援及び推進」が33.2%で最も多く、次いで「郵便など、市役所等に行かなくてもできる手続きの充実」が13.4%、「障がい福祉サービス事業所等が閉鎖しないような事業所に対する支援」が13.0%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「ワクチン接種に対する支援及び推進」が35.5%と最も多く、次いで「郵便など、市役所等に行かなくてもできる手続きの充実」が13.0%、「障がい福祉サービス事業所等が閉鎖しないような事業所に対する支援」が9.3%、「知的障がい者」は「障がい福祉サービス事業所等が閉鎖しないような事業所に対する支援」が29.1%と最も多く、次いで「ワクチン接種に対する支援及び推進」が27.4%、「郵便など、市役所等に行かなくてもできる手続きの充実」が14.3%、「精神障がい者」は「ワクチン接種に対する支援及び推進」が28.0%と最も多く、次いで「郵便など、市役所等に行かなくてもできる手続きの充実」が18.5%、「障がい福祉サービス事業所等が閉鎖しないような事業所に対する支援」が14.8%、「重複障がい者」は「ワクチン接種に対する支援及び推進」が29.5%と最も多く、次いで「郵便など、市役所等に行かなくてもできる手続きの充実」が20.5%、「障がい福祉サービス事業所等が閉鎖しないような事業所に対する支援」が19.2%となっています。

## 《障がい別》 必要な新型コロナウイルス感染症対策



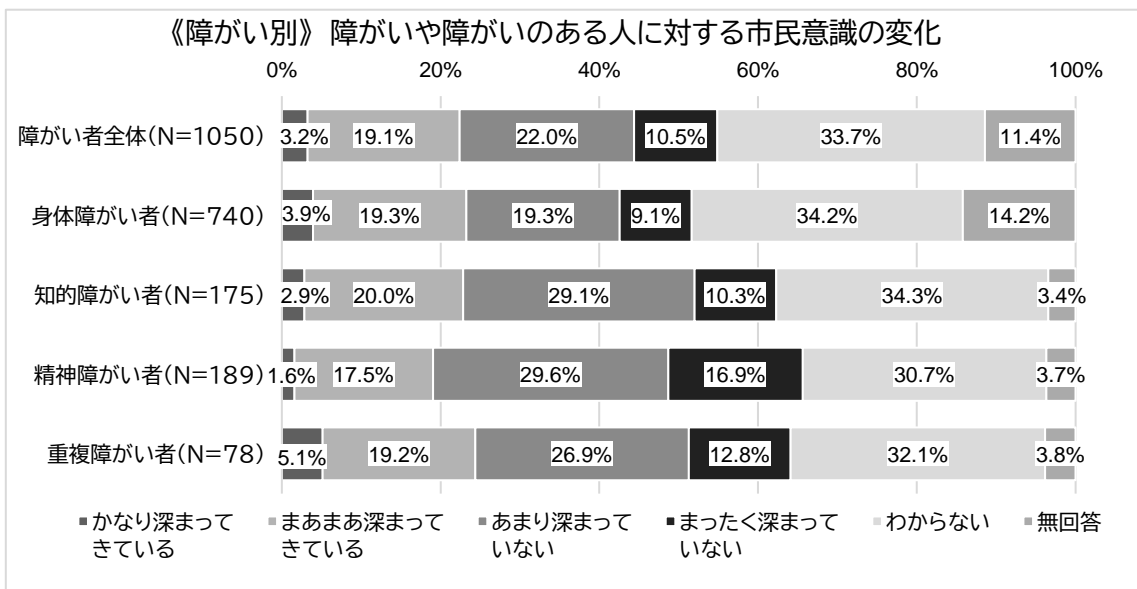
(8) 障がいに対する理解・人権について

ポイント	
●	障がいや障がいのある人に対する市民意識について、理解が「深まっていない」が「深まってきている」を上回っている。
●	障がいや障がいのある人への市民の理解や配慮を深めていくためには「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」「学校における福祉・ボランティア教育の充実」「障がいのある人への理解の促進を目的とした市民団体の活動」が必要。

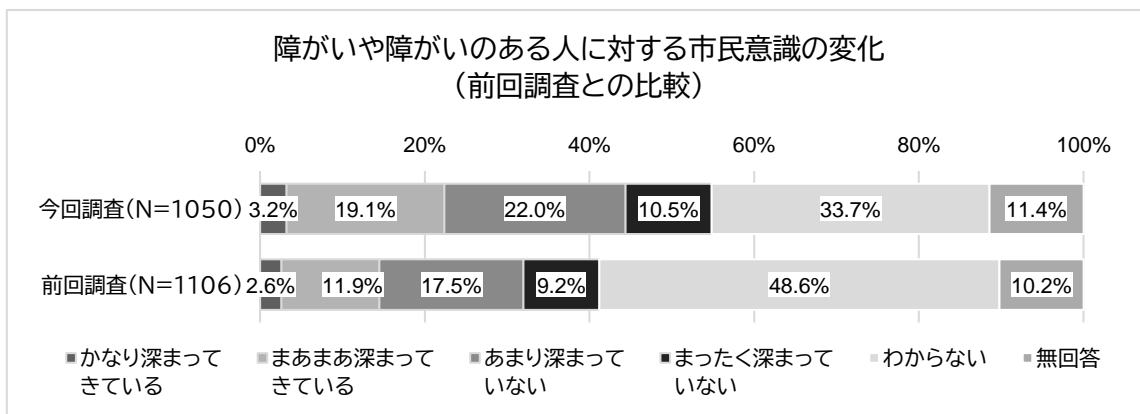
1) 障がいや障がいのある人に対する市民意識の変化

「障がい者全体」では「かなり深まってきている」の 3.2%、「まあまあ深まってきている」の 19.1%と合わせた「深まっている」が 22.3%に対し、「あまり深まっていない」の 22.0%、「まったく深まっていない」の 10.5%を合わせた「深まっていない」が 32.5%と、「深まっていない」が上回っています。

障がい別で見ても、どの障がいも「深まっている」を「深まっていない」が上回っています。



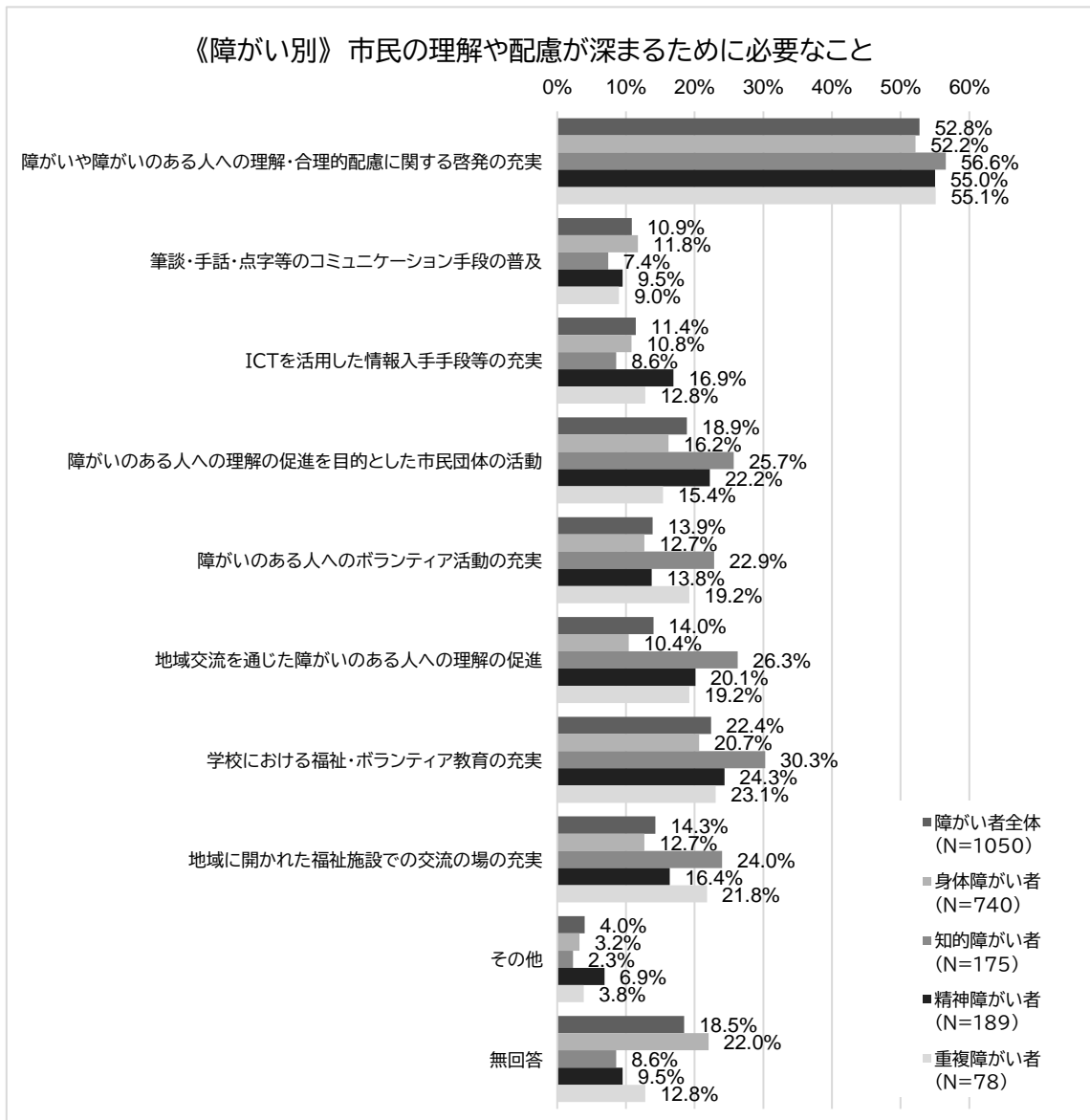
「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「まあまあ深まってきている」が 7.2 ポイント、「あまり深まっていない」が 4.5 ポイント増え、「わからない」が 14.9 ポイント減っています。



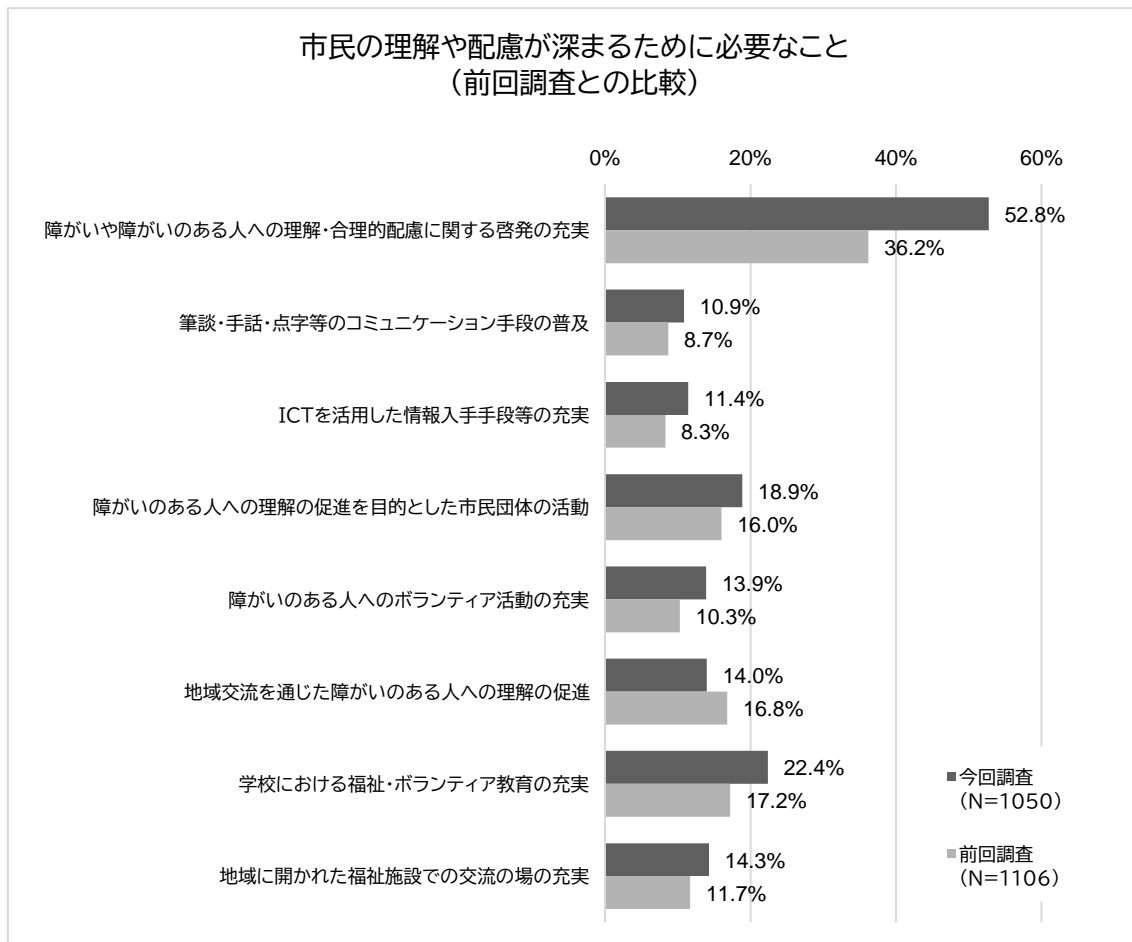
## 2) 障がいや障がいのある人への市民の理解や配慮が深まるために必要なこと

「障がい者全体」では「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」が 52.8%ともっとも多く、次いで「学校における福祉・ボランティア教育の充実」が 22.4%、「障がいのある人への理解の促進を目的とした市民団体の活動」が 18.9%となっています。

障がい別では「身体障がい者」は「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」が 52.2%ともっとも多く、次いで「学校における福祉・ボランティア教育の充実」が 20.7%、「障がいのある人への理解の促進を目的とした市民団体の活動」が 16.2%、「知的障がい者」は「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」が 56.6%ともっとも多く、次いで「学校における福祉・ボランティア教育の充実」が 30.3%、「地域交流を通じた障がいのある人への理解の促進」が 26.3%、「精神障がい者」は「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」が 55.0%ともっとも多く、次いで「学校における福祉・ボランティア教育の充実」が 24.3%、「障がいのある人への理解の促進を目的とした市民団体の活動」が 22.2%、「重複障がい者」は「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」が 55.1%ともっとも多く、次いで「学校における福祉・ボランティア教育の充実」が 23.1%、「地域に開かれた福祉施設での交流の場の充実」が 21.8%となっています。



「障がい者全体」で「前回調査」と比較すると、「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」が16.6ポイント、「学校における福祉・ボランティア教育の充実」が5.2ポイント増え、「地域交流を通じた障がいのある人への理解の促進」が2.8ポイント減っています。



## (9) 障がい福祉の推進についてのご意見

人権尊重・障がい者理解について	45 件
<ul style="list-style-type: none"><li>● 合理的配慮が(市民全体に)浸透した優しい社会になれば良いと思う。</li><li>● 何でも障がいがあるからという理由で助けてもらうだけでなく、周りの人の配慮や支援を受けながらも、自分でできることができるよう努力すべきだと思う。そのためには、周りの人の理解や手助けも必要だと思う。</li><li>● 外へ出るといろんな差別待遇を受ける。筆談してもらおうとしてもはねつけられる。無視されることが多い。周囲に理解、差別に対する対応を意識してほしい。</li><li>● 「障がい者があたりまえの隣人」にならない限り、障がい者の生きにくさは続くと思います。</li><li>● 幼児のときから障がいのある人と一緒に教室で授業を受けることで、やさしい思いやりの精神が養われると思います。</li><li>● 障がいがあるからといって特別にせず、普通にみんながわかりあえる社会でありたい。</li><li>● 福祉よりも日常で中傷されることばかりなので、心のケアが最重要だと思う。</li><li>● 障がいがあるため大声を出したり、人と違う行動をする人に対しては、まだまだ理解ができていない。差別のない社会であってほしい。</li><li>● 私の場合は、発達障がい(自閉症スペクトラム)で手帳を所持しているが、周りの理解が少なく変わった人と思われ、人間関係が作りにくい。</li><li>● どんなに健康な人でも突然の事故などで、誰でも障がい者になります。世の中の人みんながもっと想像力が豊かになって、自分もそうなりうるかもしれないと思える世の中になればと思います。</li></ul>	

行政施策・福祉サービスについて	47 件
<ul style="list-style-type: none"><li>● 家でずっと時間を費やしているだけなので、外へ出て人とのつながり、会話などができる場所を確保したい、増やしてほしい。</li><li>● 八尾市民がこの地に住んでいて良かったと思えるよう障がいの有無に関係なく安全・安心できる町づくりをしていただきたいと思います。</li><li>● 将来の住宅の確保について、借家の保証人がないので次に住む場所に困っている。家賃の保証人制度を考えてもらいたい！</li><li>● 障がい者手帳は視覚障がいだが、脳梗塞の影響で足が不自由で、昔から心療内科にもかかっているが、手帳にかかっている以外では福祉サービスをあまり受けられない。もう少し複合的な対応をしてほしい。</li><li>● 一人身になっても、孤独感で押しつぶされることのないよう福祉のお力をいただきたいと思います。</li><li>● 障がい重度の場合、家族だけの力では大変なので、専門の施設、支援を充実させてほしいと思います。</li><li>● 失語症に関する支援がない会話パートナー等の研修を行い、支援してほしい。</li><li>● 親なきあとはグループホームでと考えています。どのようなグループホームがあるか、最近見学に行ったりしますが、娘のような最重度の人が入るグループホームは少ないと思いました。八尾市では、重度知的障がいのガイドヘルパーやショート、日中一時も他のところと比べて少ないです。作業所以外の余暇活動できる場所があればありがたいです。</li><li>● 障がい福祉サービスと介護保険の併用について、一律に介護保険を優先させることをしないでほしい。</li><li>● 義務教育を終え、一般の企業に就職したとたんに、周囲との情報交換等が少なくなり、孤立しがちになる。支援の必要な者には、将来困るであろう各々の問題に寄り添ってもらえるようにしてほしい。</li></ul>	



- 同じ障がいでも、一人ひとり症状が変わるので、一人ひとり個人として対応をして欲しい。
- 障がい福祉の制度のおかげで、安心して生活ができています。今後も安定した制度を維持させていただきたいです。障がい福祉を受けている者として、医療の職員の方々の充実が大切だと思います。人員不足など手一杯の状態になられていると不安になります。

道路や移動手段について	13件
-------------	-----

- 交通機関の割引や税金の免除など金銭的な補助制度の拡大があれば助かります。
- 通院や役所などの交通への配慮を願いたい。台風など悪天候のときの移動支援。
- タクシー代金・電車運賃など、料金をもっと値下げしてほしいです。駅や施設にもっとエスカレーターやエレベーターの充実。
- 車両で役所等に行った際、駐車場がない所が困る。
- 道路の件です。車いすで通る道路で傾斜の道が多すぎてこわいです。そしてでこぼこ道が多い。水はけをよくするため、ななめに傾けている感じですが、とてもこわいです。まっすぐで平らな道の遊歩道を増やしてほしいです。
- 車イスマークのところに、普通の車が停まっているため駐車できないことがよくある。

就労や経済的な問題について	25件
---------------	-----

- 障がい者が働いている情報がネット上に少なすぎると思います。もっと多くの働いている障がい者のさまざまな情報があれば参考になると思います。YouTube 等でもっと情報を増やすとうれしいです。
- 現在、就労支援B型の事業所に通っていますが、障がいを抱えながらも、一生懸命作業所に通う人間が、もう少し希望をもって生活できるような地域づくりを心掛けてほしい。
- 障がいに応じた仕事場が増えると嬉しい。やる気があっても雇用してくれる企業が少ない現実がある。また働けても、正社員にはなれず、賃金も安かったりするので見直してほしい。
- 障がい者雇用の枠の人数を増やし、安心して働ける職場が多くあってほしいです。
- 障がい者が働きたいと思っていても、うまくいかないことは多い。企業側の理解、企業の責任感(店舗)、責任者の理解(全体、市町村)ができるようになれば、良い環境ができると思って願っています。

将来への不安について	15件
------------	-----

- 現在のことよりも、親がいなくなった後、どこで生活していけるかが心配。
- 重度の知的障がいと精神疾患なので、親なきあとがとても心配です。具体的には何もなく、入院しかないので不安でいっぱいです。
- 常に介護が必要でなくても、突発的に発作が起こったときに頼れる人がいない。突発的に必要な人に対してのサービスが一つもないことに苦しさをを感じる。ひとり親家庭なので、自分が動けなくなったときに、子どもがどうなるのか不安が大きく、それがなおさら病状を悪化させる要因になるところがある。
- 親なきあとの相談・支援を充実させてほしい。
- 幸せな生活を維持するための収入の確保が難しい。年金だけでは足りないので、老後がとても不安です。
- 今はなんとか家族の助けを借りながら、生活しているが、今後、歳を取ると障がいが増えるなど、これからの生活が不安でしかない。世の中全体が障がいの有無に関係なく、住みやすい世界になって欲しいです。

情報提供、相談窓口の充実について	12件
------------------	-----

- わかりやすく手続きできるようにしてほしい。難しい用語ではなく、わかりやすい説明をしてほしい。
- 障がい者に対してどのようなサービス、制度があるのかのお知らせ、案内の充実。
- 困ったときや何か相談することがあるときに、すぐ身近に行ける場所が小さくてもあったら生活していける支えになると思います。相談支援できる所を増やしてほしい。

施設・サービス従事者、行政の対応について	8件
----------------------	----

- 成年後見制度を実際に利用して、幸せに生活できているのか、疑問。本人の望むことではなく、後見人の思うままになっていると思うと、不安。信用できる人はどこにいる？
- 現在グループホームに入っています。自閉症なので生活のあらゆる面で独特のこだわりがあります。世話人は普通の人なので、安心、安定した生活を送るためには障がいに対して専門性を持った人がなってくれたらと思います。
- 障がい者になって障がい者の苦しみがわかる。地域包括支援センターや、市役所の福祉課等相談窓口の方達には親切で丁寧にしてもらいたい。

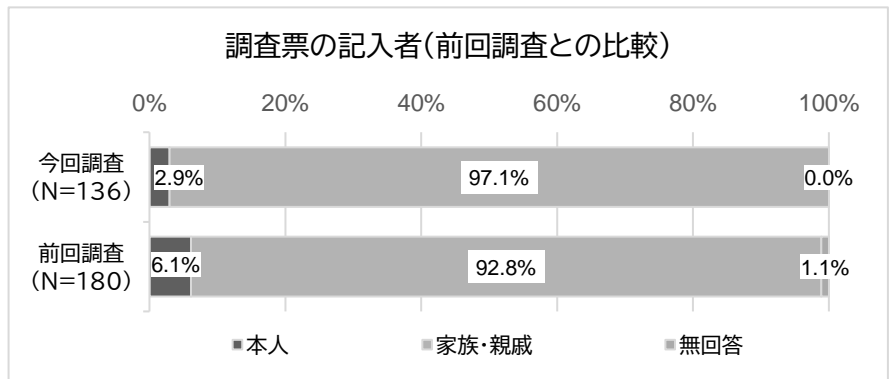
### 3. 障がい福祉に関するアンケート調査結果(18歳未満)

#### (1) あなたやご家族について

##### 1) 調査票の記入者

調査票に記入した人は、「本人」が2.9%、「家族・親戚」が97.1%でした。

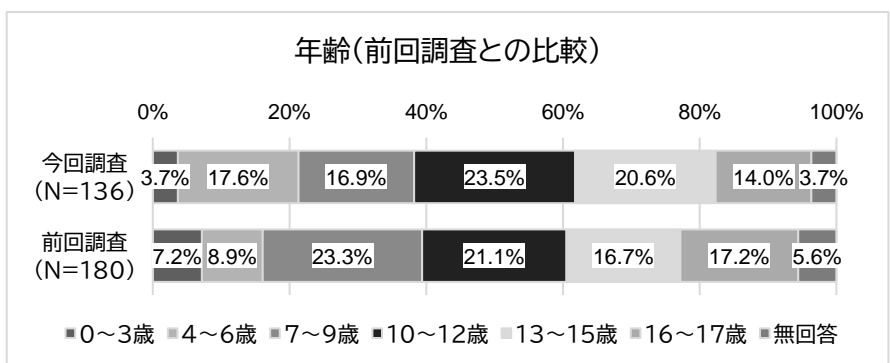
前回調査と比較すると、「本人」が3.2ポイント減っています。



##### 2) 年齢構成

年齢構成では「10～12歳」が23.5%と最も多く、次いで「13～15歳」が20.6%、「4～6歳」が17.6%となっています。

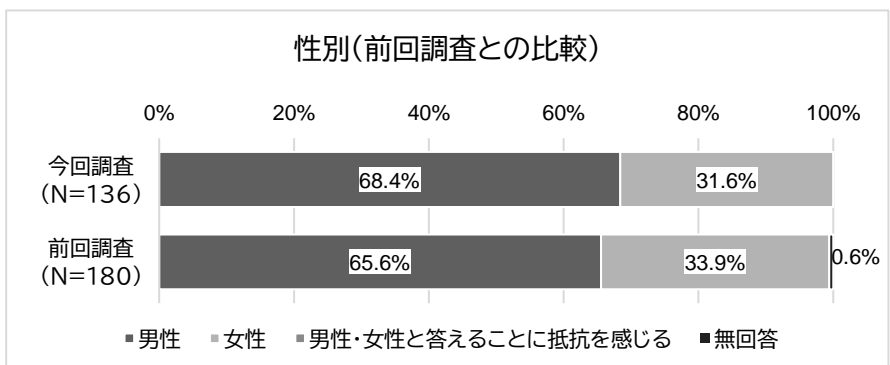
前回調査と比較すると、「4～6歳」が8.7ポイント増え、「7～9歳」が6.4ポイント減っています。



##### 3) 性別

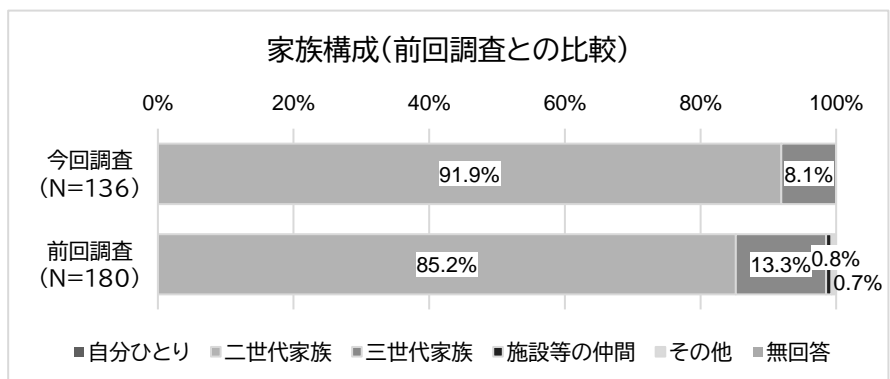
性別では「男性」が68.4%に対し、「女性」は31.6%と、「男性」が36.8ポイント上回っています。

前回調査と比較すると、「男性」が2.8ポイント増えています。



##### 4) 家族構成

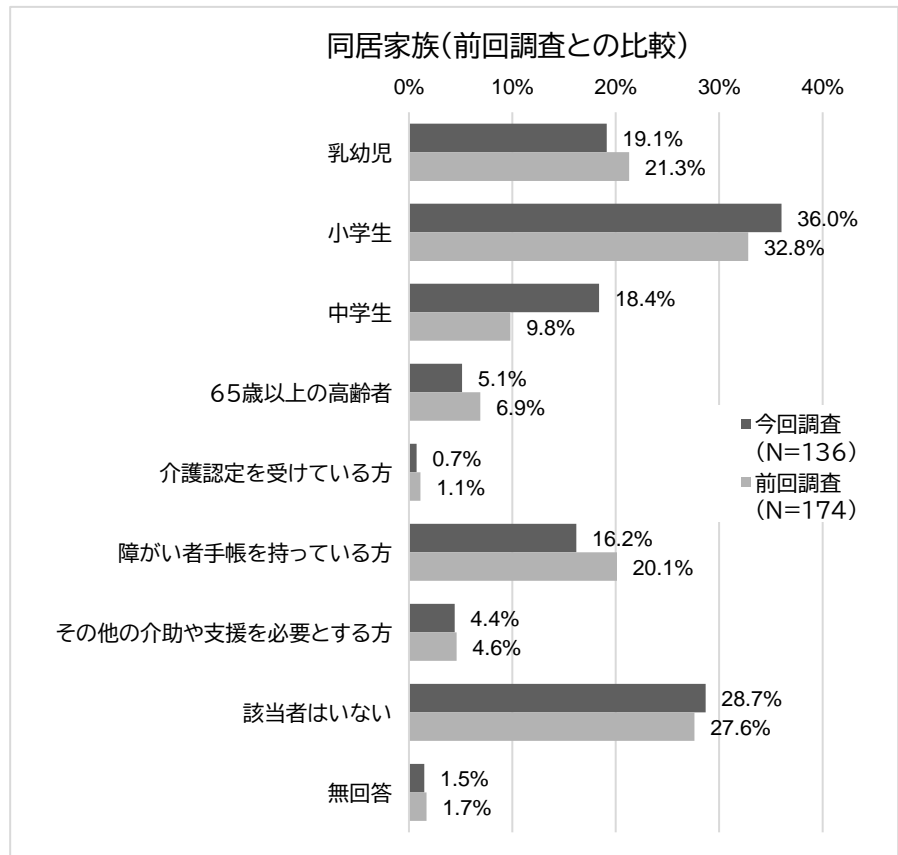
家族構成では「二世世代家族」が91.9%とほとんどを占め、「三世世代家族」は8.1%となっています。前回調査と比較すると、「二世世代家族」は6.7ポイント増えています。



## 5) 同居家族

一緒に暮らしている家族は、「小学生」が 36.0%と最も多く、次いで「乳幼児」が 19.1%、「中学生」が 18.4%となっています。また、「障がい者手帳を持っている方」は 16.2%でした。

前回調査と比較すると、「中学生」が 8.6 ポイント増え、「障がい者手帳を持っている方」が 3.9 ポイント減っています。



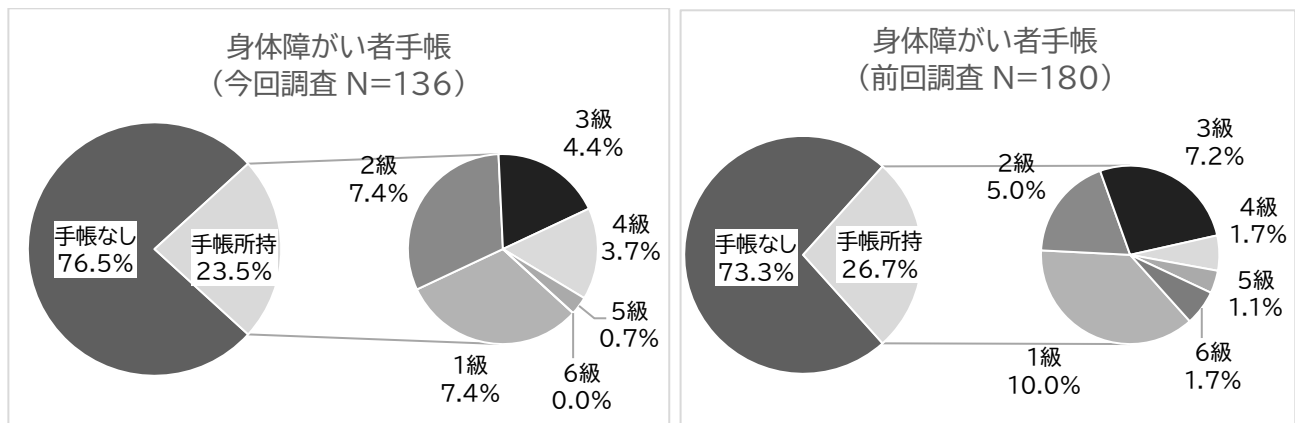
## (2) 障がいの状況について

### 1) 障がい者手帳の所持

#### 身体障がい者手帳

障がい者手帳を所持している人は 23.5%で、前回調査と比べ 3.2 ポイント減っています。

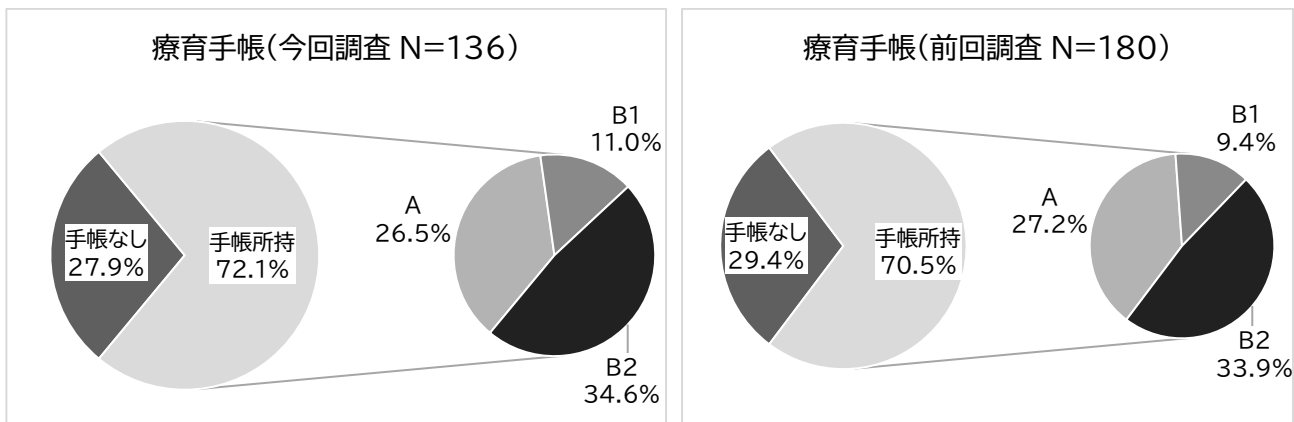
等級では「1級」「2級」が共に 7.4%と最も多く、次いで、「3級」が 4.4%。「4級」が 3.7%、「5級」が 0.7%となっています。



### 療育手帳の所持

療育手帳を所持している人は 72.1%で、前回調査と比べ 1.6 ポイント増えています。

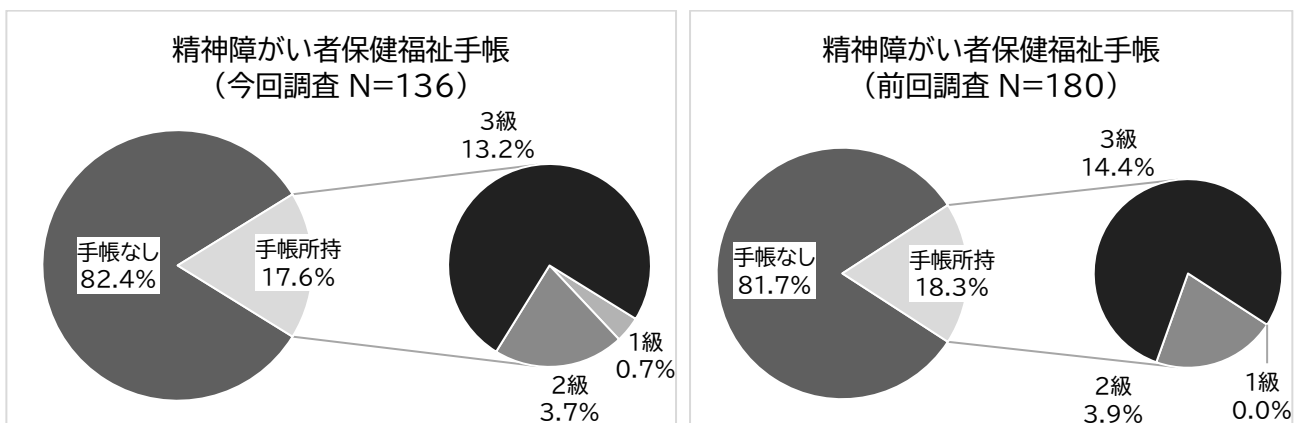
等級では「B2」が 34.6%ともっとも多く、次いで「A」が 26.5%、「B1」が 11.0%となっています。



### 精神障がい者保健福祉手帳の所持

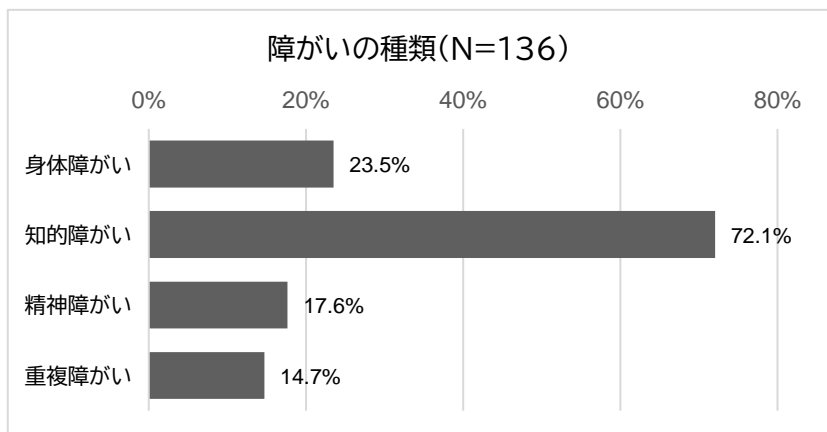
精神障がい者保健福祉手帳を所持している人は 17.6 ポイントで、前回調査と比べ 0.7 ポイント減っています。

等級では「3級」が 13.2%でもっとも多く、次いで「2級」が 3.7%、「1級」が 0.7%となっています。



### 障がいの種類

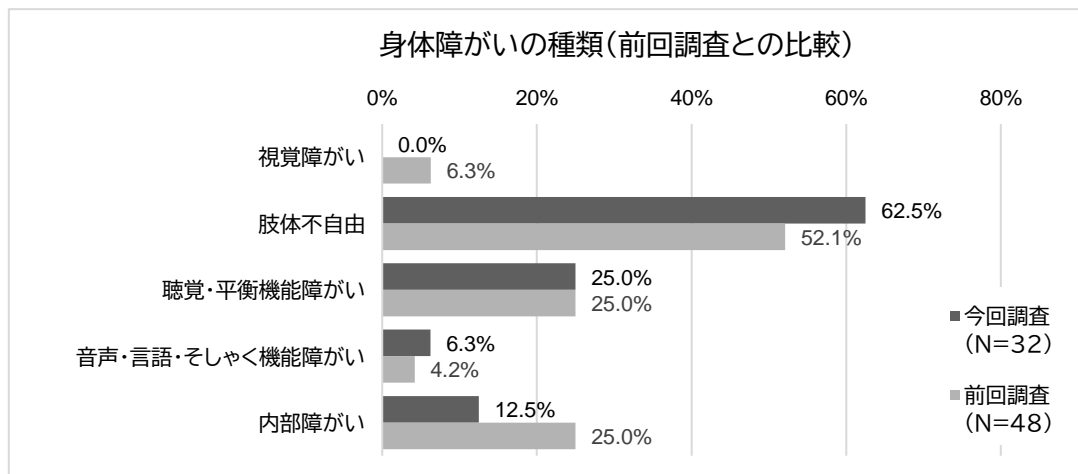
障がいの種類では「知的障がい」が 72.1%ともっとも多く、次いで「身体障がい」が 23.5%、「精神障がい」が 17.6%となっています。また、「重複障がい」は 14.7%となっています。



## 身体障がいの種類

身体障がい者手帳を所持している 32 人の身体障がいの種類では「肢体不自由」が 62.5%でもっとも多く、次いで「聴覚・平衡機能障がい」が 25.0%、「内部障がい」が 12.5%となっています。

前回調査との比較では、「肢体不自由」は 10.4 ポイント増え、「内部障がい」は 12.5 ポイント減っています。



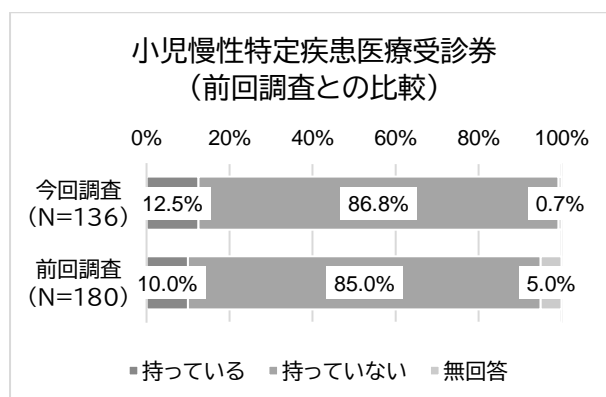
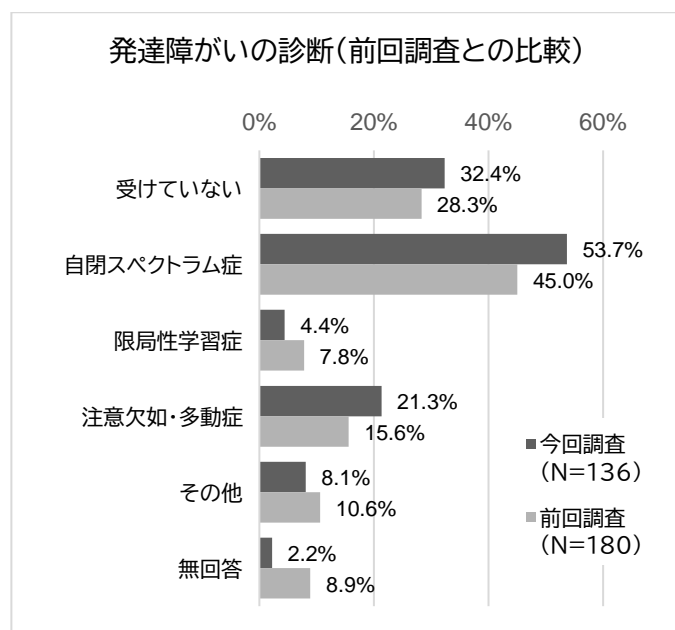
## 2) 発達障がいの診断

発達障がいの診断では「自閉スペクトラム症」が 53.7%ともっとも多く、次いで「注意欠如・多動症」が 21.3%となっています。

前回調査との比較では、「自閉スペクトラム症」が 8.7 ポイント、「注意欠如・多動症」が 5.7 ポイント増えています。

## 3) 小児慢性特定疾患医療受診券の所持

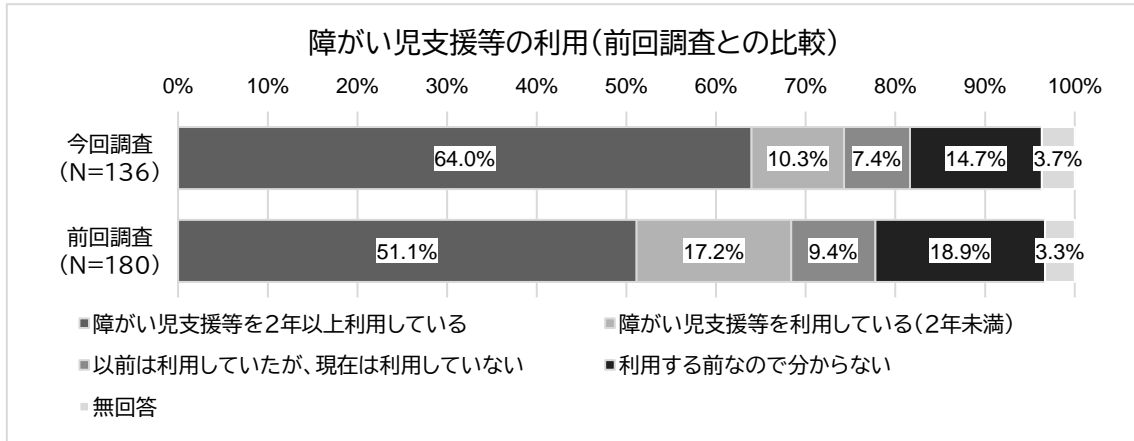
小児慢性特定疾患医療受診券を所持している人は 12.5%で、前回調査より 2.5 ポイント増えています。



### (3) 障がい児支援等について

#### 1) 障がい児支援等の利用

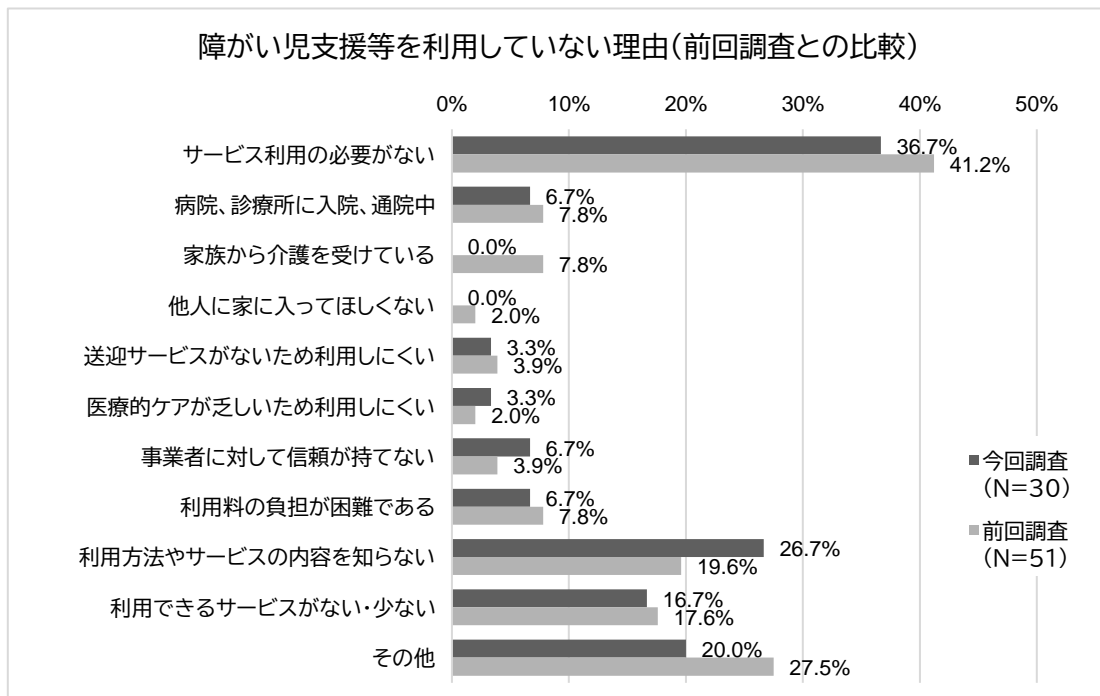
障がい児支援等の利用では「障がい児支援等を2年以上利用している」の64.0%、「障がい児支援等を利用している(2年未満)」の10.3%を合わせた利用しているの計は74.3%となっており、前回調査と比較して、6.0ポイント増えています。



#### 2) 障がい児支援等を利用していない理由

障がい児支援等を利用していない理由は「サービス利用の必要がない」が36.7%でもっとも多く、次いで「利用方法やサービスの内容を知らない」が26.7%、「利用できるサービスがない・少ない」が16.7%となっています。

前回調査との比較では、「利用方法やサービスの内容を知らない」が7.1ポイント増え、「家族から介護を受けている」が7.8ポイント減っています。



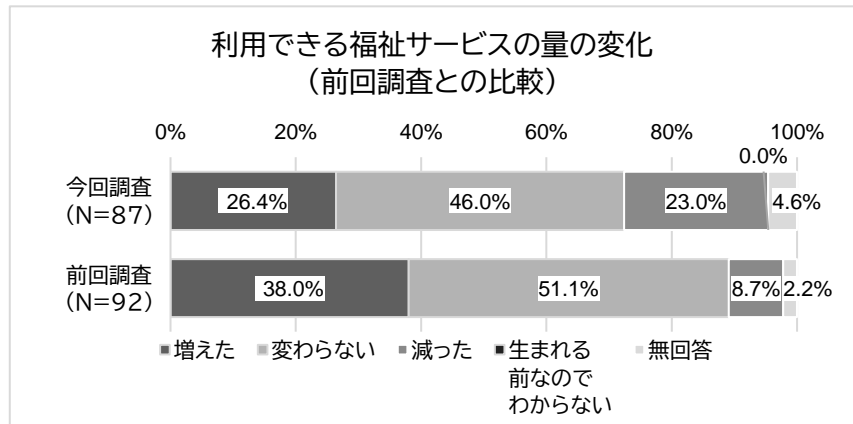
### 3) 障がい児支援等の利用の変化

障がい児支援等を利用している 87 人の利用状況の変化は以下の通りです。

#### 利用できる福祉サービスの量

「増えた」が 26.4%、「減った」が 23.0%となっています。

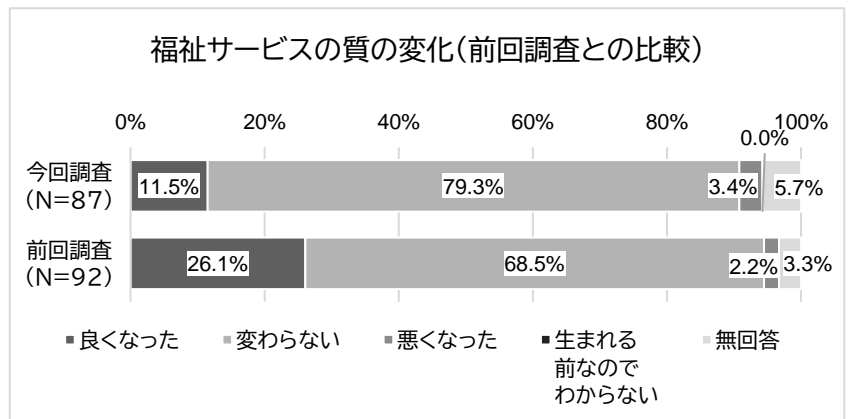
前回調査と比較して「減った」が 14.3ポイント増えているのはコロナ禍による利用控えが影響しているものと思われます。



#### 福祉サービスの質

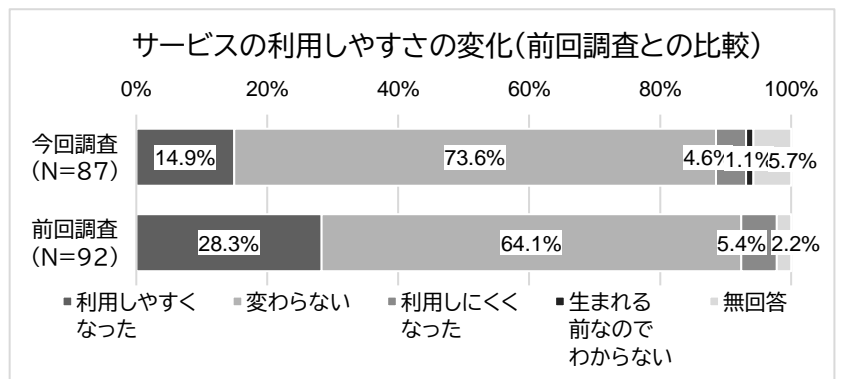
「良くなった」が 11.5%、「悪くなった」が 3.4%となっています。

前回調査と比較すると、「良くなった」が 14.6ポイント減っています。



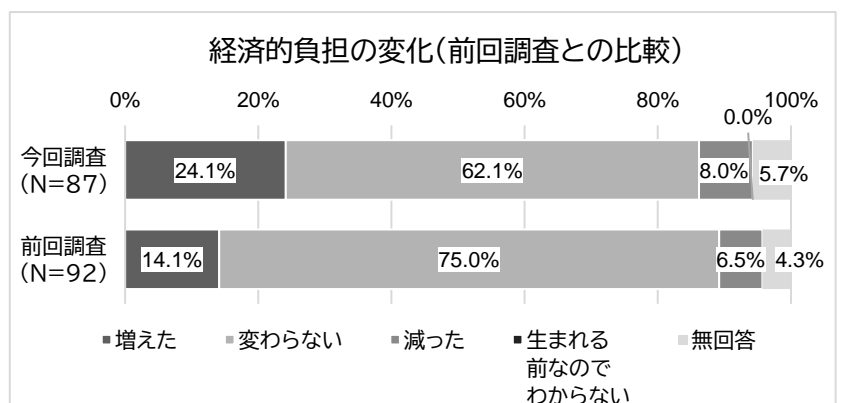
#### サービスの利用しやすさ

「利用しやすくなった」が 14.9%、「利用しにくくなった」が 4.6%と、「利用しやすくなった」が上回っていますが、前回調査と比較すると、「利用しにくくなった」は 13.4ポイント減っています。



#### 経済的負担

「増えた」が 24.1%、「減った」が 8.0%と、「増えた」が大きく上回っており、前回調査と比較しても「増えた」は 10.0ポイント増えています。





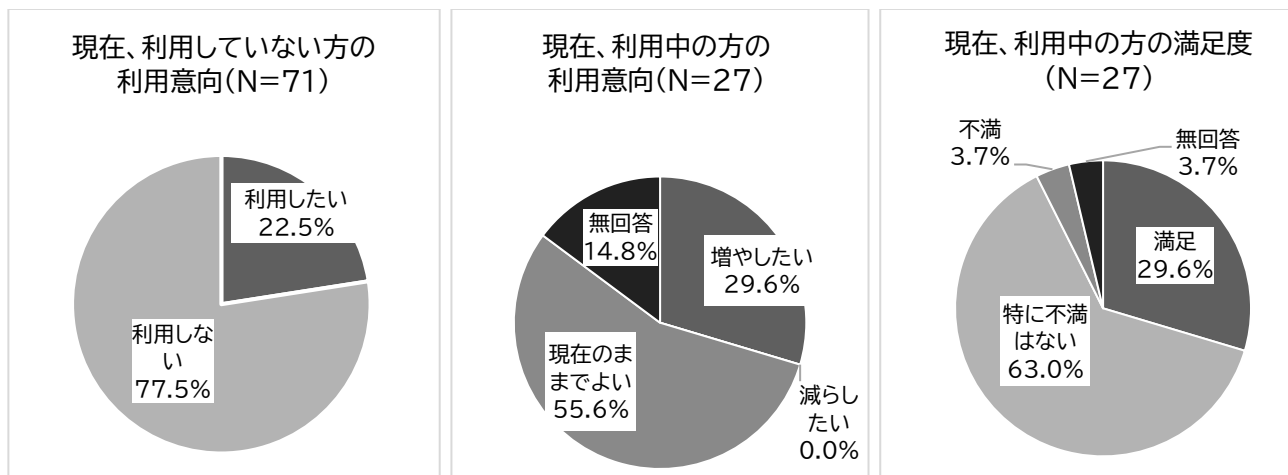
#### 4) 障がい児支援等の「今後の利用意向」と「満足度」

##### 通所・入所施設

##### A. 児童発達支援

児童発達支援を利用していない71人の内、「利用したい」は22.5%となっています。

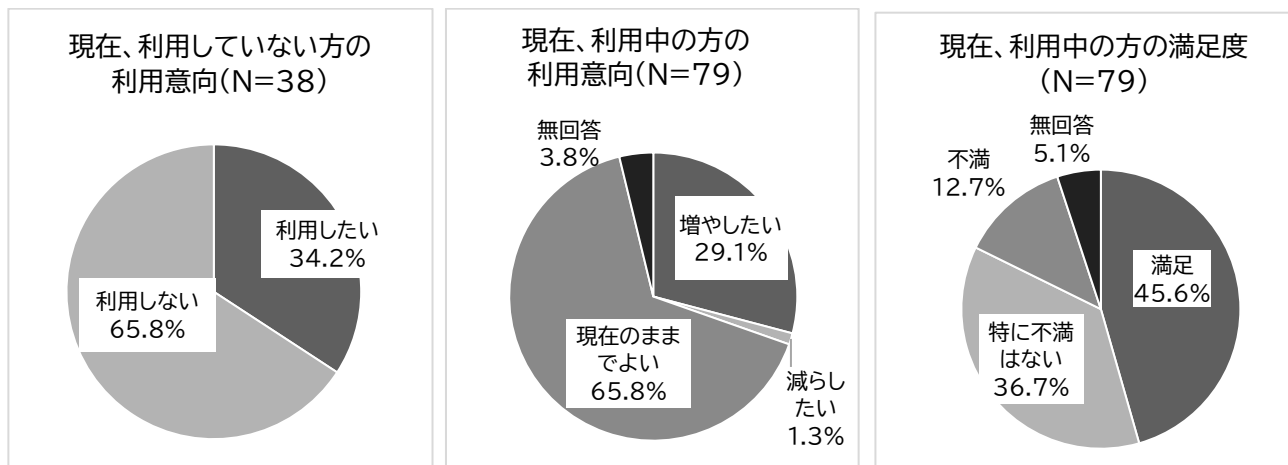
利用中27人の内、「増やしたい」は29.6%となっており、満足度で「満足」と回答した人は29.6%、「不満」は3.7%となっています。



##### B. 放課後等デイサービス

放課後等デイサービスを利用していない38人の内、「利用したい」は34.2%となっています。

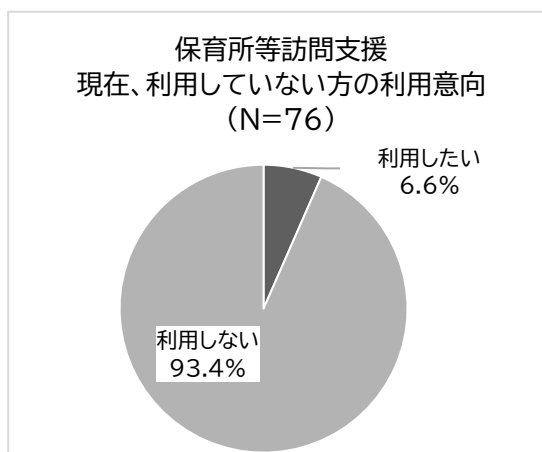
利用中79人の内、「増やしたい」は29.1%となっており、満足度で「満足」と回答した人は45.6%、「不満」は12.7%となっています。



### C. 保育所等訪問支援

保育所等訪問支援を利用していない76人の内、「利用したい」は6.6%となっています。

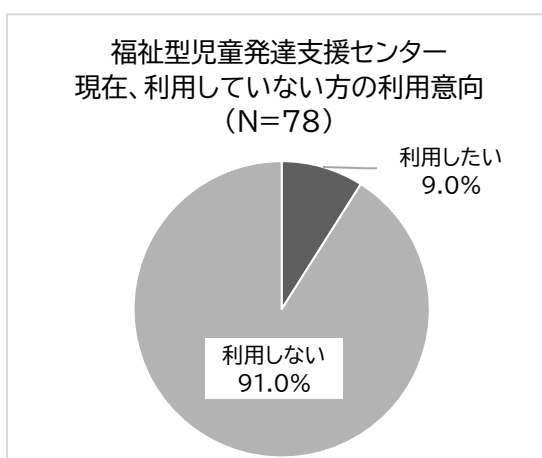
利用中12人の内、「増やしたい」は5人となっており、満足度で「満足」と回答した人は5人となっています。



### D. 福祉型児童発達支援センター

福祉型児童発達支援センターを利用していない78人の内、「利用したい」は9.0%となっています。

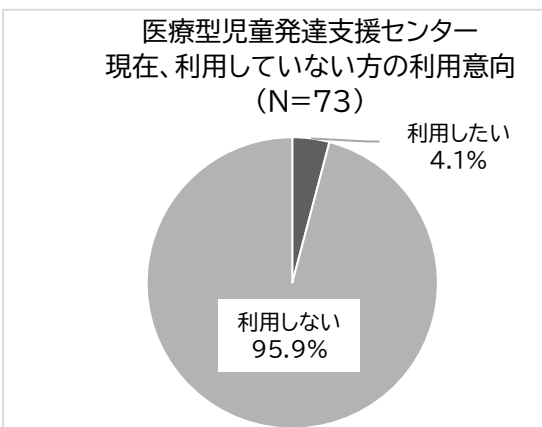
利用中8人の内、「増やしたい」は2人となっており、満足度で「満足」と回答した人は3人、「不満」は1人となっています。



### E. 医療型児童発達支援センター

医療型児童発達支援センターを利用していない73人の内、「利用したい」は4.1%となっています。

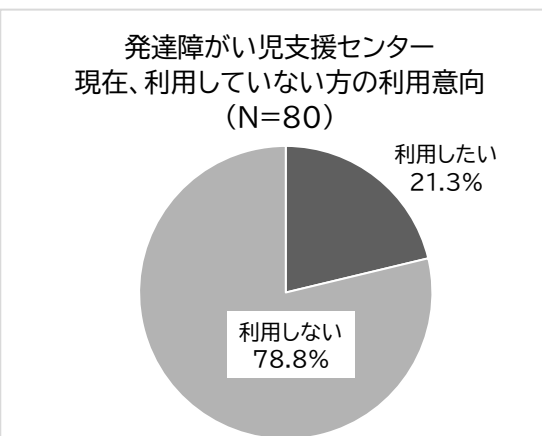
利用中14人の内、「増やしたい」は1人となっており、満足度で「満足」と回答した人は4人、「不満」は3人となっています。



### F. 発達障がい児支援センター

発達障がい児支援センターを利用していない80人の内、「利用したい」は21.3%でした。

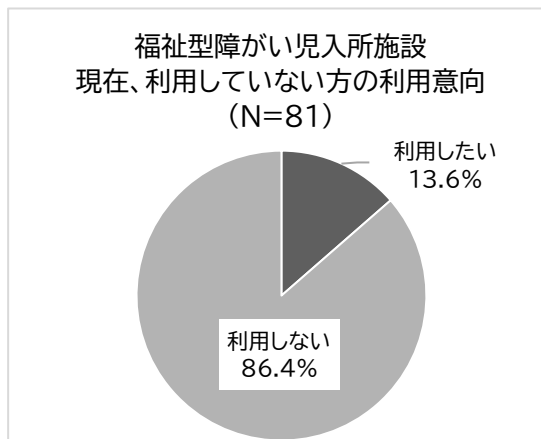
利用中4人の内、「増やしたい」は0人となっており、満足度で「満足」と回答した人は1人、「不満」は1人となっています。



### G. 福祉型障がい児入所施設

福祉型障がい児入所施設を利用していない81人の内、「利用したい」は13.6%となっています。

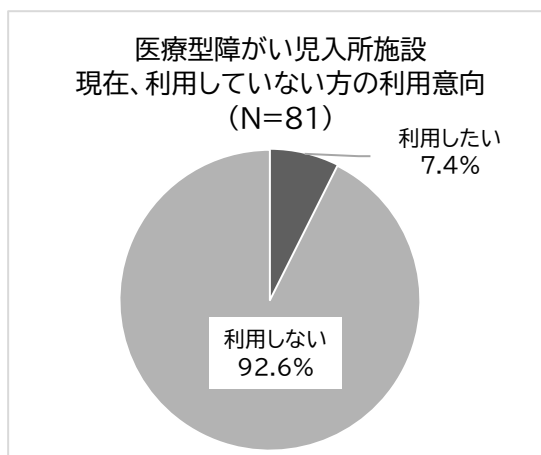
利用中4人の内、「増やしたい」は0人となっており、満足度で「満足」と回答した人は1人となっています。



### H. 医療型障がい児入所施設

医療型障がい児入所施設を利用していない81人の内、「利用したい」は7.4%となっています。

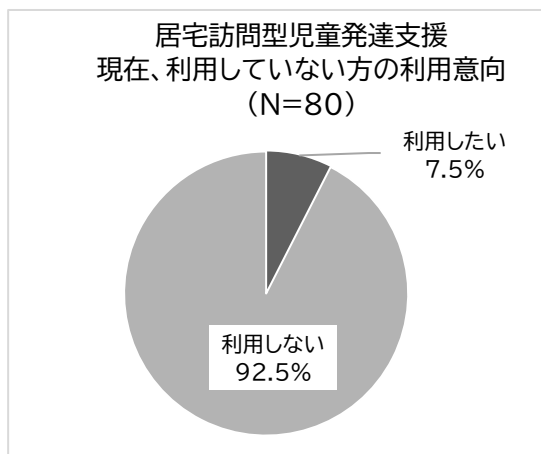
利用中3人の内、利用意向についての回答はなく、満足度では全員が「特に不満はない」と回答しています。



### I. 居宅訪問型児童発達支援

居宅訪問型児童発達支援を利用していない80人の内、「利用したい」は7.5%となっています。

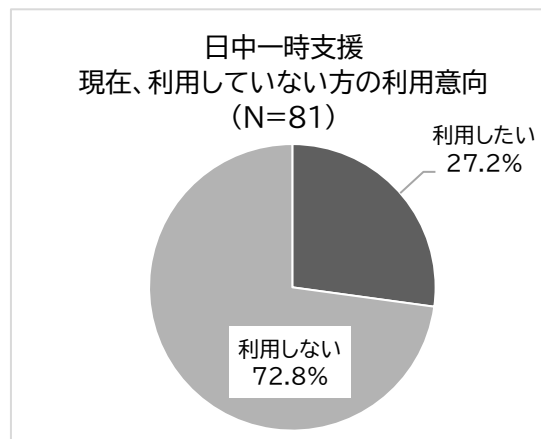
利用中4人の内、利用意向については「現在のままでよい」が1人となっており、満足度で「特に不満はない」が3人となっています。



### J. 日中一時支援

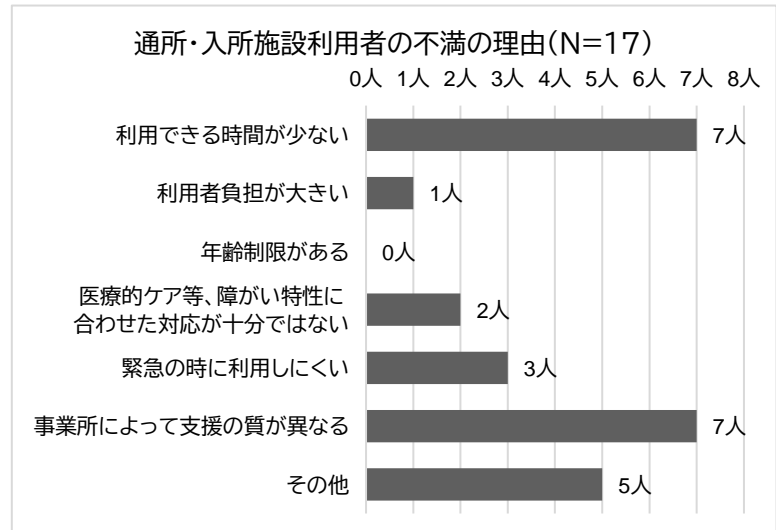
日中一時支援を利用していない81人の内、「利用したい」は27.2%となっています。

利用中9人の内、「増やしたい」は4人となっており、満足度で「満足」が3人、「不満」は2人となっています。



### 通所・入所施設利用者の不満の理由

通所・入所施設利用者で不満があると回答した 17 人の不満の理由は、「利用できる時間が少ない」「事業所によって支援の質が異なる」が共に7人と多くなっています。

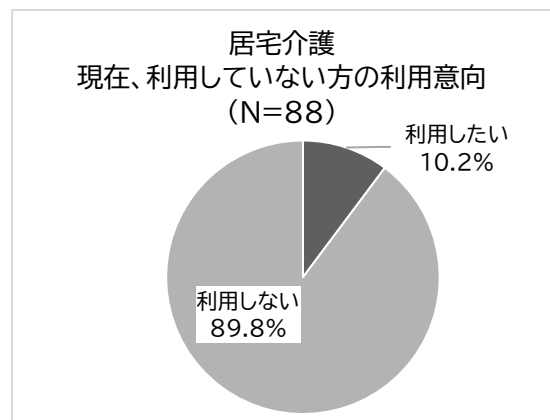


### 訪問系サービス

#### A. 居宅介護(ホームヘルプ)

居宅介護を利用していない 88 人の内、「利用したい」は 10.2%となっています。

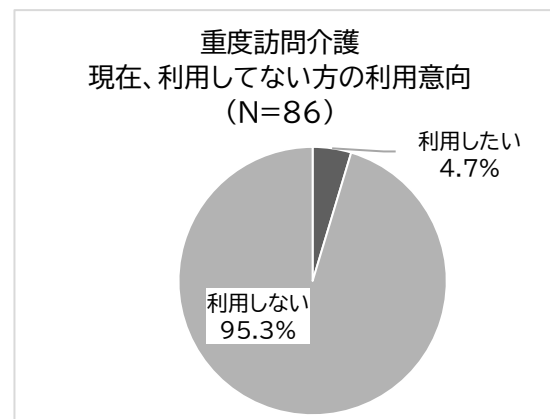
利用中3人の内、利用意向に回答した人はなく、満足度で「満足」が 1 人となっています。



#### B. 重度訪問介護

重度訪問介護を利用していない 86 人の内、「利用したい」は 4.7%となっています。

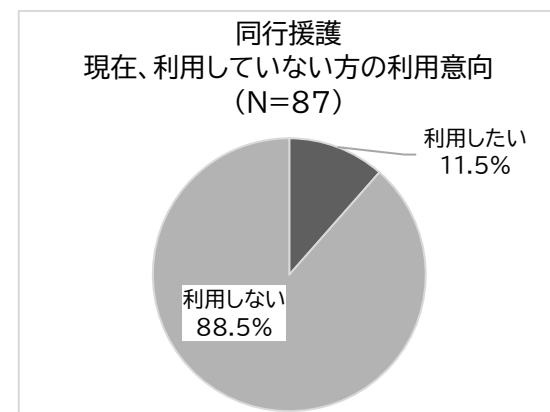
利用中 2 人の内、利用意向に回答した人はなく、満足度で「特に不満はない」が 2 人となっています。



#### C. 同行援護

同行援護を利用していない 87 人の内、「利用したい」は 11.5%となっています。

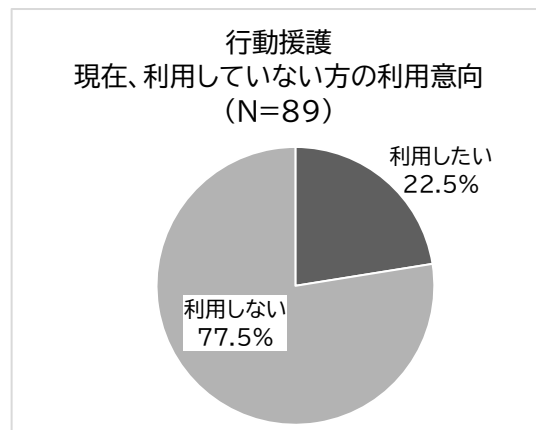
利用中 2 人の内、利用意向に回答した人はなく、満足度で「特に不満はない」が 2 人となっています。



#### D. 行動援護

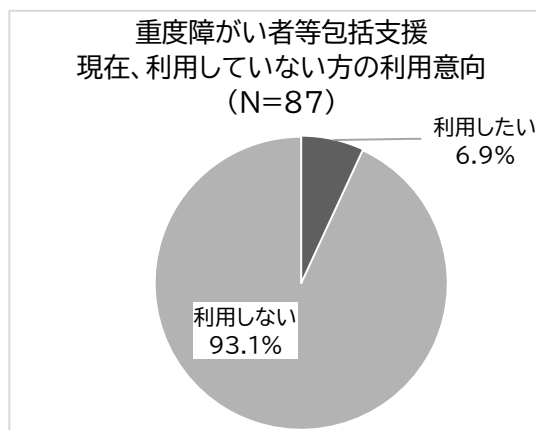
行動援護を利用していない 89 人の内、「利用したい」は 22.5%となっています。

利用中 2 人の内、利用意向に回答した人はなく、満足度で「特に不満はない」が 2 人となっています。



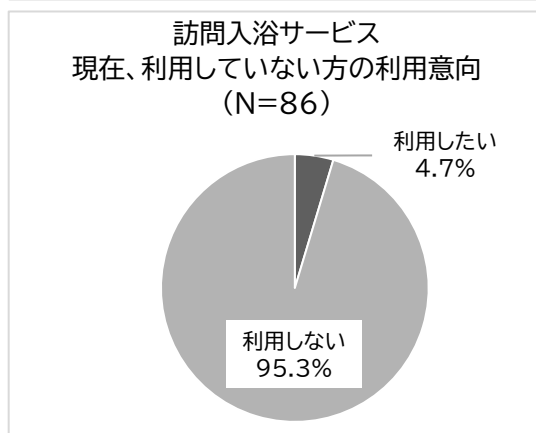
#### E. 重度障がい者等包括支援

重度障がい者等包括支援を利用していない 87 人の内、「利用したい」は 6.9%となっています。



#### F. 訪問入浴サービス

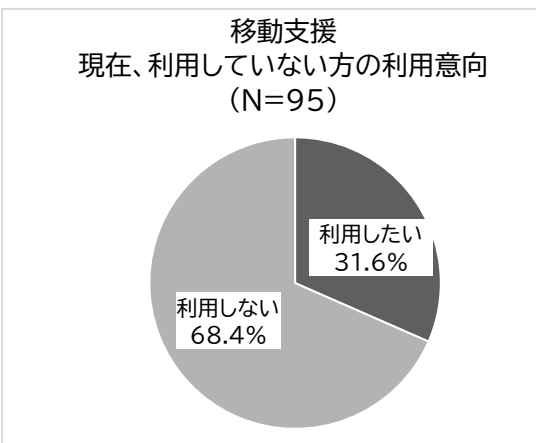
訪問入浴サービスを利用していない 86 人の内、「利用したい」は 4.7%となっています。



#### G. 移動支援

移動支援を利用していない 95 人の内、「利用したい」は 31.6%となっています。

利用中 4 人の内、「増やしたい」は 1 人となっており、満足度で「満足」が 1 人となっています。

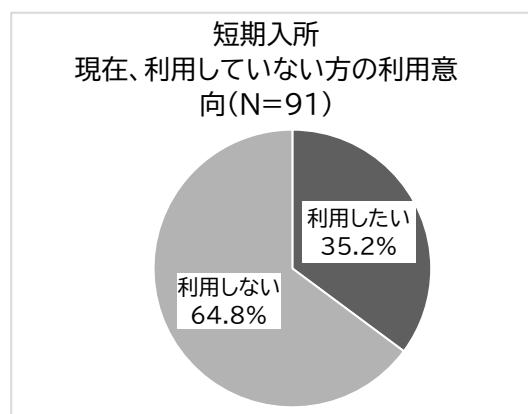


## 短期入所サービス

### 短期入所(ショートステイ)

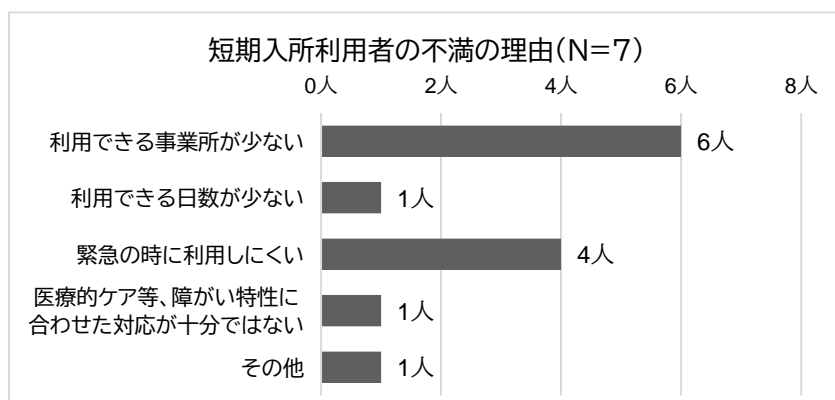
短期入所を利用していない 91 人の内、「利用したい」は 35.2%となっています。

利用中 11 人の内、「増やしたい」は 8 人となっており、満足度で「不満」は 7 人となっています。



### 短期入所利用者の不満の理由

短期入所利用者で不満があると回答した 7 人の理由は「利用できる事業所が少ない」が 6 人、「緊急の時に利用しにくい」が 4 人となっています。

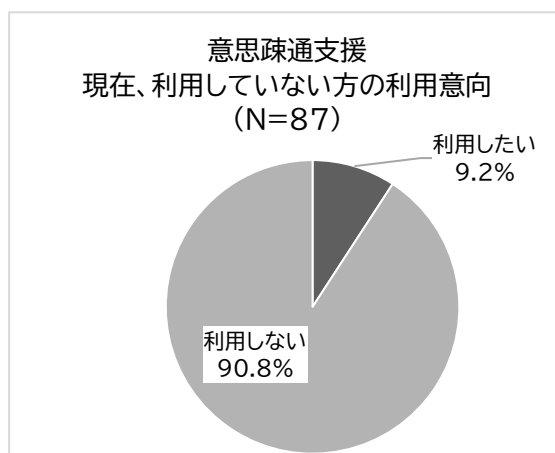


## その他支援事業

### A. 意思疎通支援

意思疎通支援を利用していない 87 人の内、「利用したい」は 9.2%となっています。

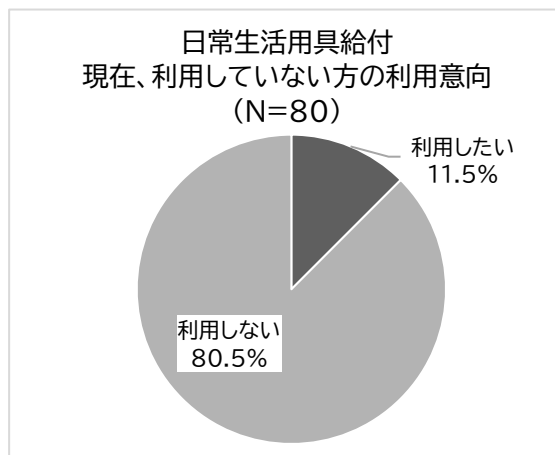
利用中 2 人の内、利用意向に回答した人はおらず、満足度で「特に不満はない」が 2 人でした。



### B. 日常生活用具給付

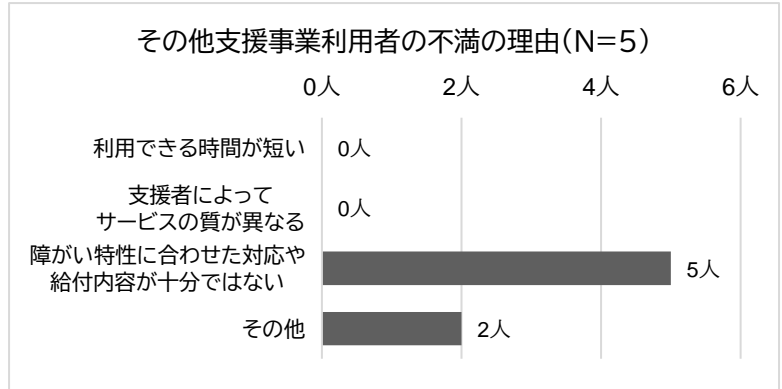
日常生活用具給付を利用していない 80 人の内、「利用したい」は 11.5%となっています。

利用中 14 人の内、利用意向に回答した人はおらず、満足度で「満足」は 3 人、「不満」は 5 人となっています。



### その他支援事業利用者の不満の理由

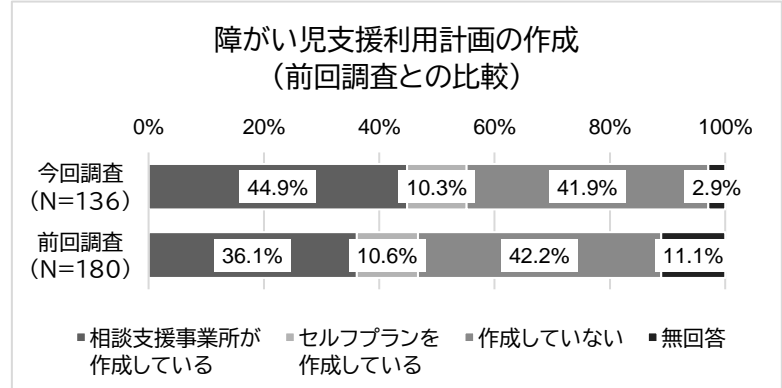
その他支援事業利用者で不満があると回答した5人の理由は「障がい特性に合わせた対応や給付内容が十分ではない」が5人でした。



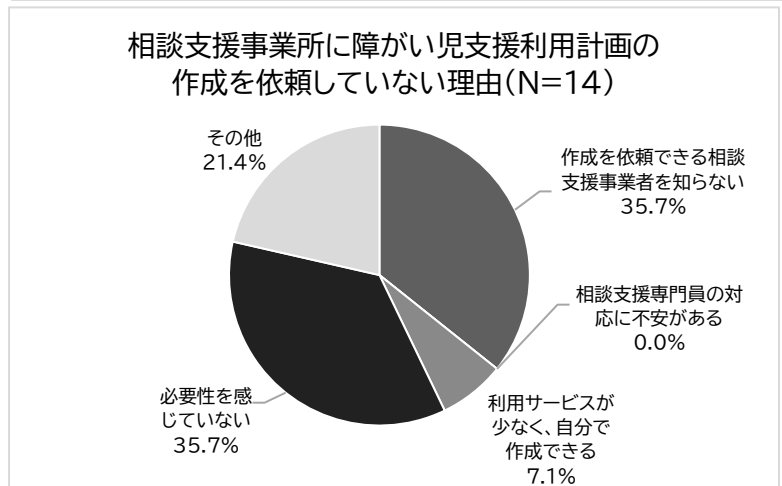
### 5) 障がい児支援利用計画の作成

障がい児支援利用計画の作成では「相談支援事業所が作成している」が44.9%で、「セルフプランを作成している」は10.3%となっています。

前回調査との比較では「相談支援事業所が作成している」が8.8ポイント増えています。



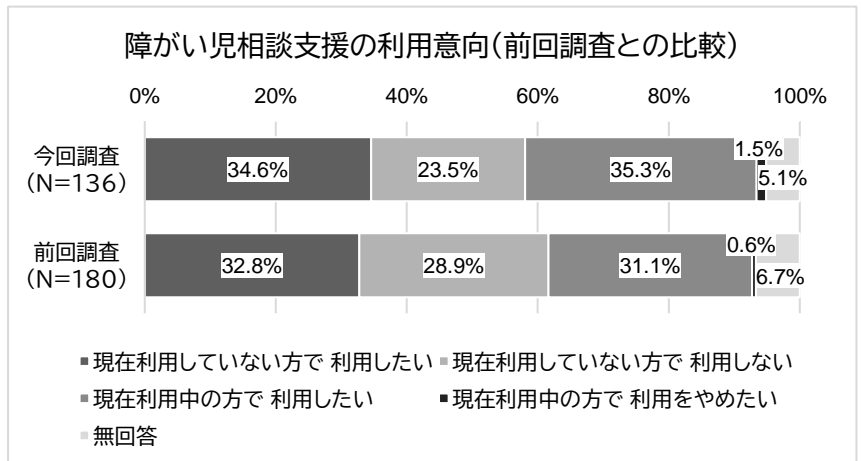
相談支援事業所に障がい児支援利用計画の作成を依頼していない理由は「作成を依頼できる相談支援事業者を知らない」「必要性を感じていない」が共に35.7%を占めています。



### 6) 障がい児相談支援の利用意向

障がい児相談支援の利用意向では「現在利用していない方で利用したい」34.6%、「現在利用中の方で利用したい(利用継続)」35.3%を合わせた利用意向は69.9%となっています。

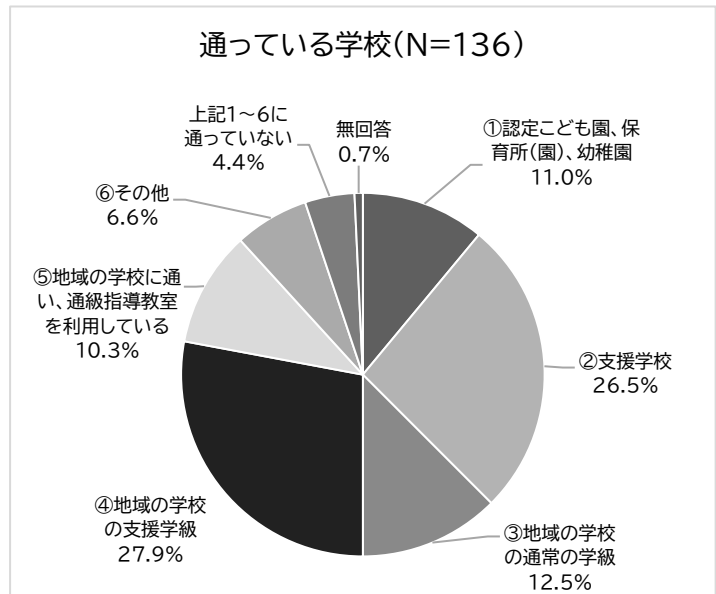
前回調査と比較すると、利用継続を含めた利用意向は6.0ポイント増えています。



#### (4) 通学・通園先について

##### 1) 通っている学校

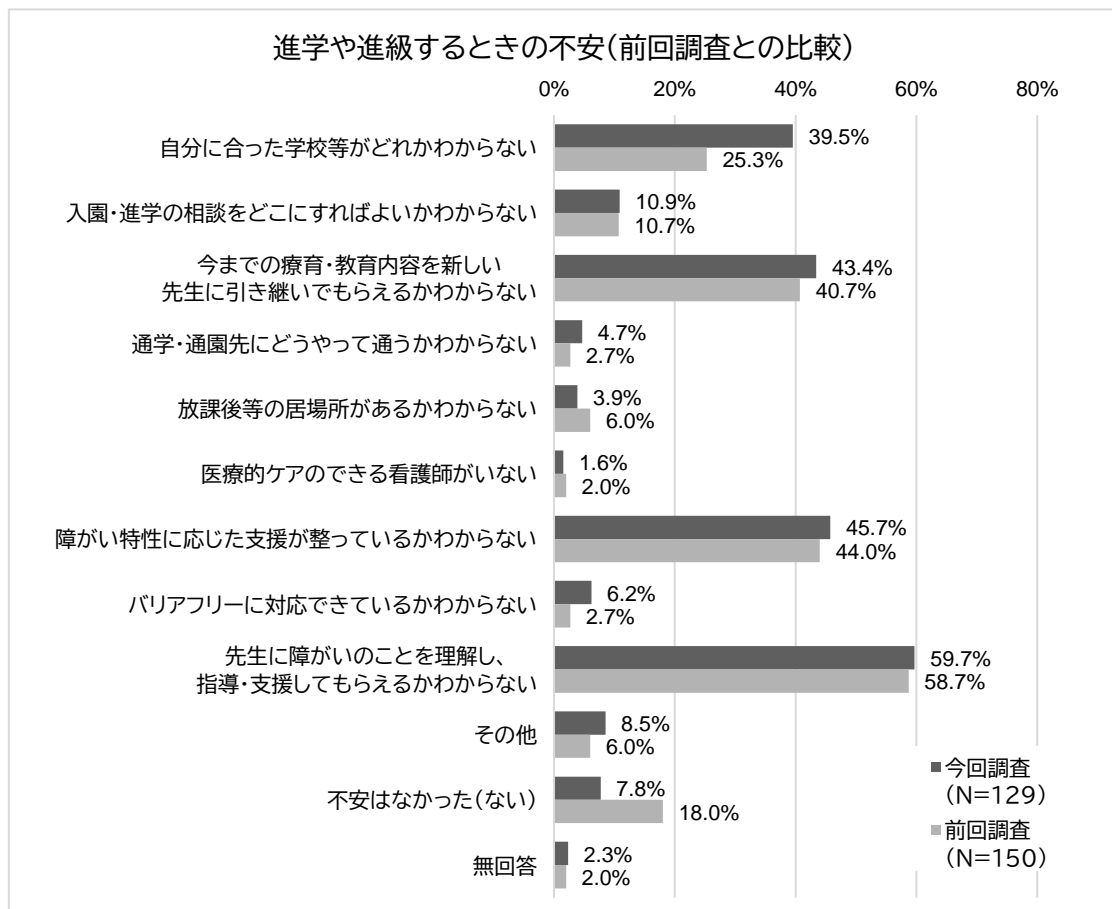
通っている学校は「支援学校」が 26.5%となっています。また、「地域の学校の通常の学級」12.5%、「地域の学校の支援学級」27.9%、「地域の学校に通い、通級指導教室を利用している」10.3%を合わせた地域の学校に通っている障がい児は 50.7%となっています。



##### 2) 進学や進級するときの不安

進学や進級するときの不安では「先生に障がいのことを理解し、指導・支援してもらえるかわからない」が 59.7%でもっとも多く、次いで「障がい特性に応じた支援が整っているかわからない」が 45.7%、「今までの療育・教育内容を新しい先生に引き継いでもらえるかわからない」が 43.4%、「自分に合った学校等がどれかわからない」が 39.5%となっています。

前回調査との比較では、「自分に合った学校等がどれかわからない」が 14.2 ポイント増えています。



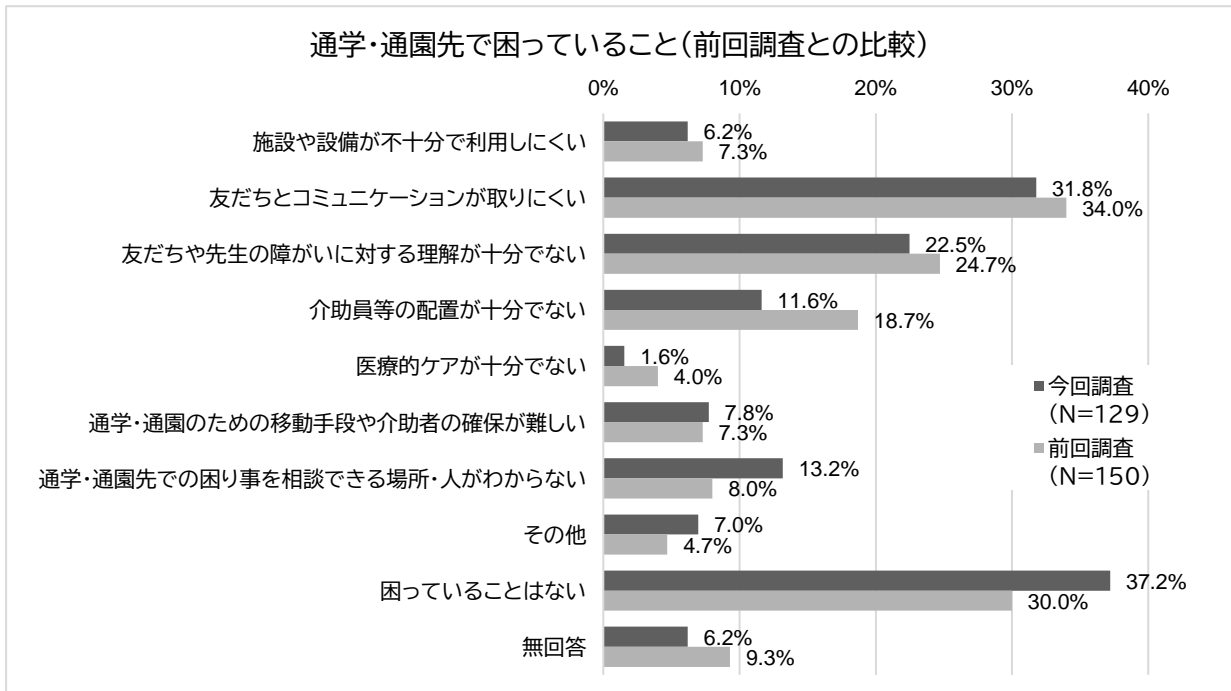


### 3) 通学・通園先で困っていること

通学・通園先で困っていることは「友だちとコミュニケーションが取りにくい」が 31.8%と最も多く、次いで「友だちや先生の障がいに対する理解が十分でない」が 22.5%、「通学・通園先での困り事を相談できる場所・人がわからない」が 13.2%となっています。

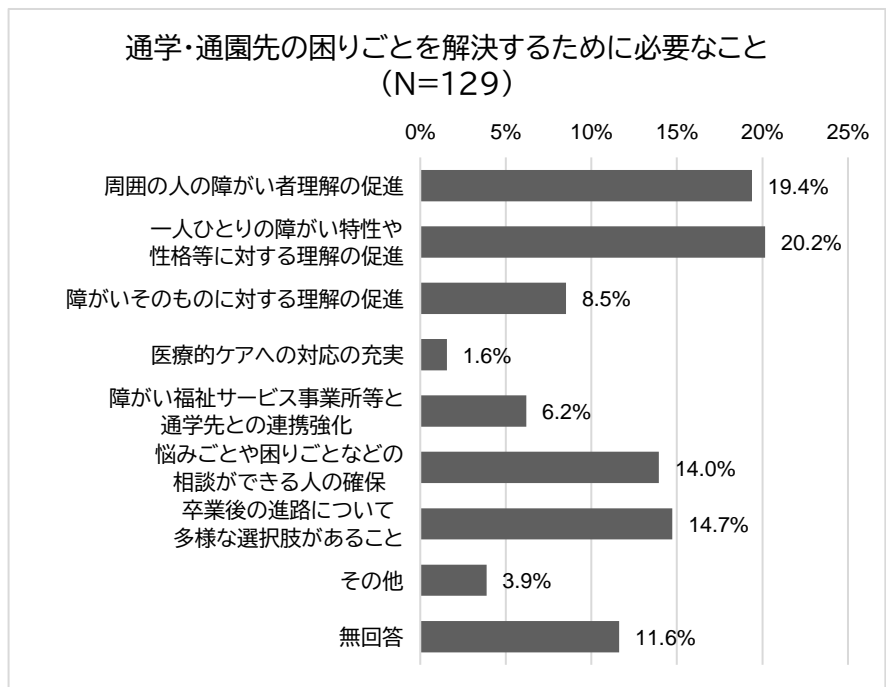
前回調査との比較では、「通学・通園先での困り事を相談できる場所・人がわからない」が 5.2 ポイント増え、「介助員等の配置が十分でない」が 7.1 ポイント減っています。

また、「困っていることはない」は前回は 30.0%に対し、今回は 37.2%と、7.2 ポイント増えています。



### 4) 通学・通園先の困りごとを解決するために必要なこと

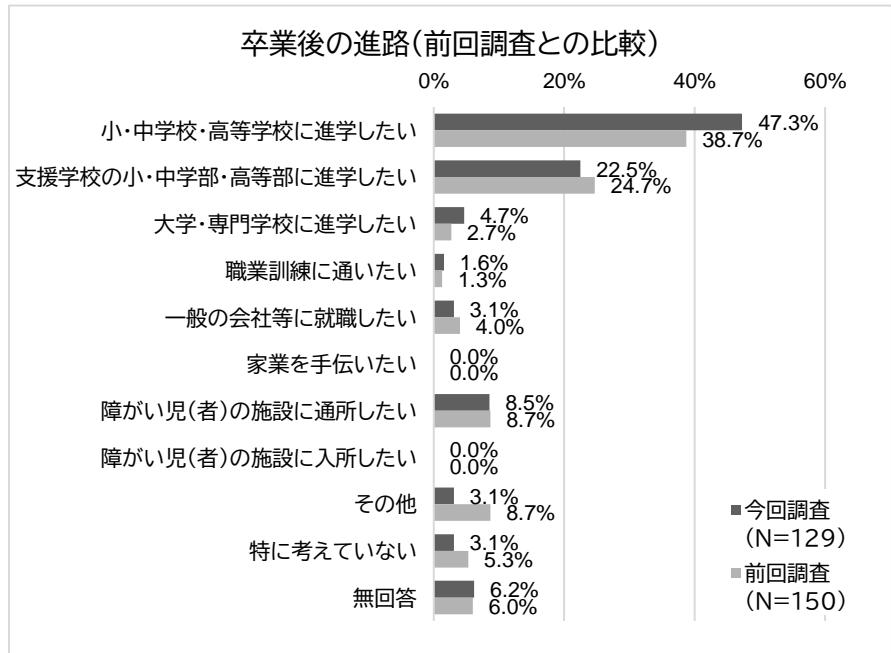
通学・通園先の困りごとを解決するために必要なことは、「一人ひとりの障がい特性や性格等に対する理解の促進」が 20.2%で最も多く、次いで「周囲の人の障がい者理解の促進」が 19.4%、「卒業後の進路について多様な選択肢があること」が 14.7%、「悩みごとや困りごとなどの相談ができる人の確保」が 14.0%となっています。



## 5) 卒業後の進路

卒業後の進路は「小・中学校・高等学校に進学したい」が47.3%と最も多く、次いで「支援学校の小・中学部・高等部に進学したい」が22.5%、「障がい児(者)の施設に通所したい」が8.5%となっています。

前回調査との比較では「小・中学校・高等学校に進学したい」が8.6ポイント増えています。



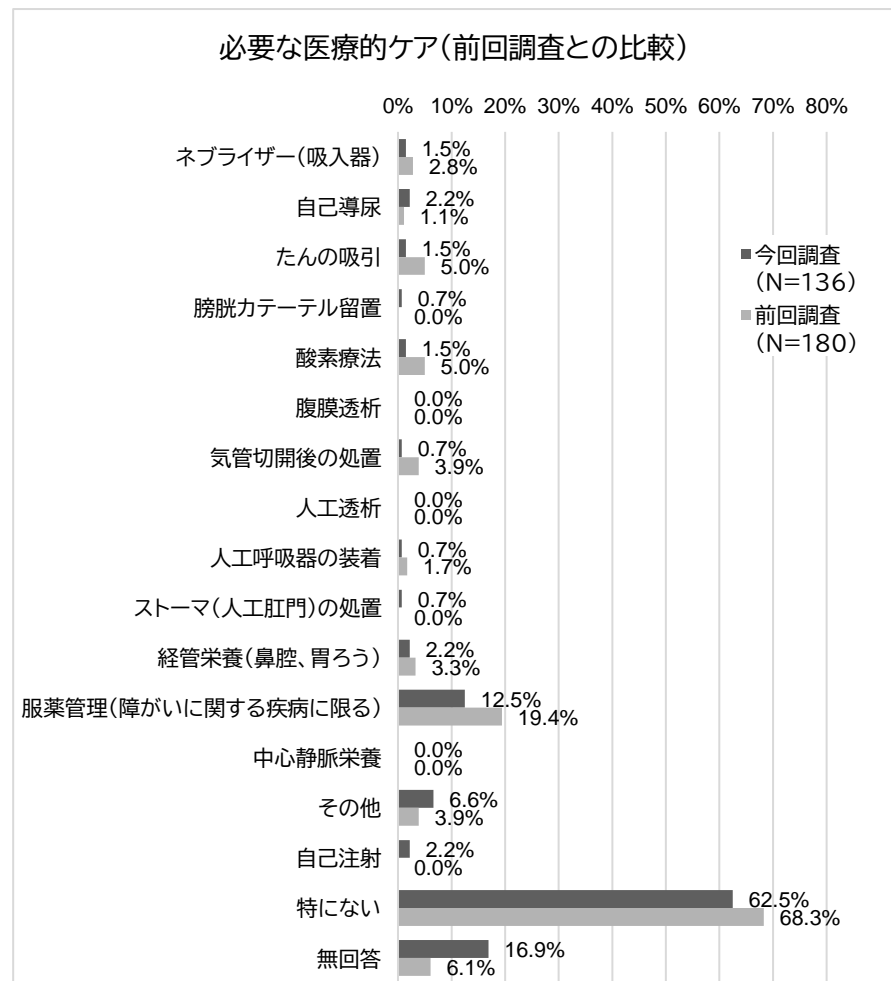
## (5) 医療的ケアについて

### 1) 必要な医療的ケア

必要な医療的ケアは「服薬管理(障がいに関する疾病に限る)」が12.5%と多くなっていますが、その他の医療的ケアで目立って多いものは見られません。

前回調査との比較では「服薬管理(障がいに関する疾病に限る)」は6.9ポイント減っています。

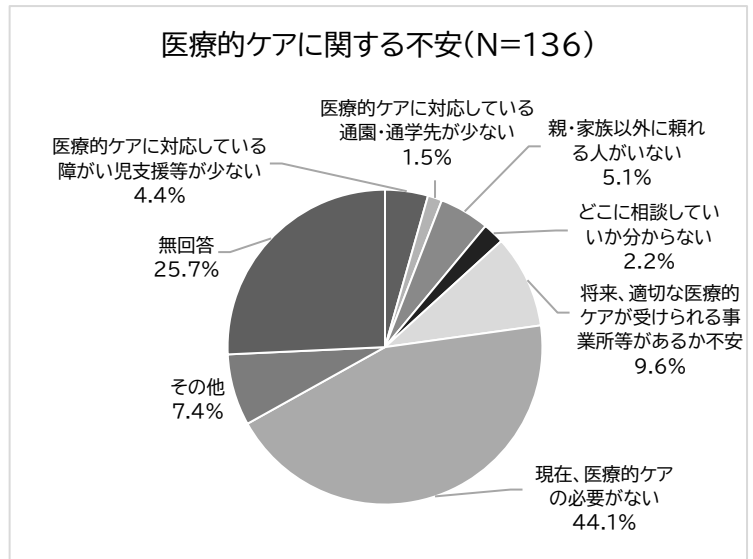
また、「特にない」は前回が68.3%に対し、今回は62.5%と、5.8ポイント減っています。



## 2) 医療的ケアに関する不安

医療的ケアに関する不安は「将来、適切な医療的ケアが受けられる事業所等があるか不安」が9.6%と最も多く、次いで「親・家族以外に頼れる人がいない」が5.1%、「医療的ケアに対応している障がい児支援等が少ない」が4.4%となっています。

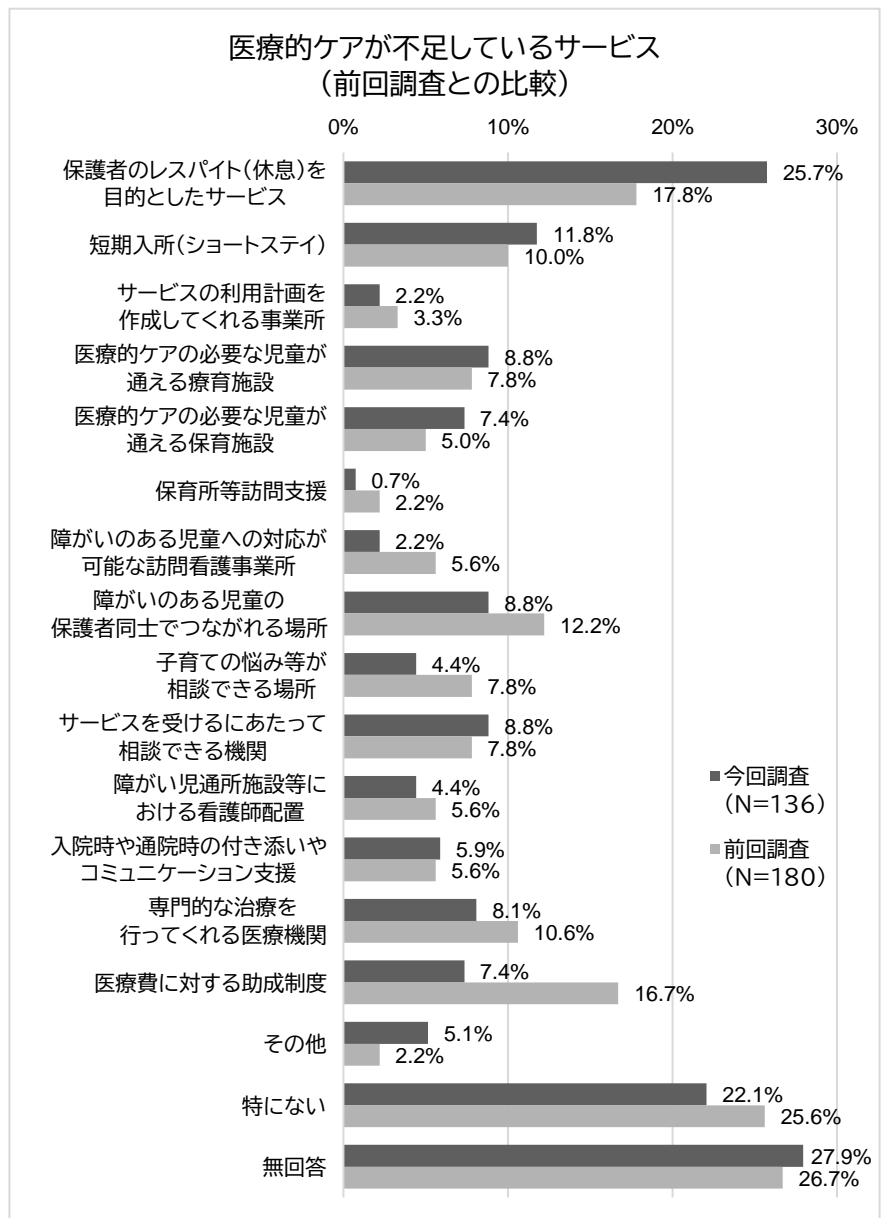
また、「現在、医療的ケアの必要がない」は44.1%、「無回答」は25.7%でした。



## 3) 医療的ケアが不足しているサービス

医療的ケアが不足しているサービスは「保護者のレスパイト(休息)を目的としたサービス」が25.7%と最も多く、次いで、「短期入所(ショートステイ)」が11.8%、「医療的ケアの必要な児童が通える療育施設」「障がいのある児童の保護者同士でつながれる場所」が共に8.8%、「専門的な治療を行ってくれる医療機関」が8.1%でした。

前回調査との比較では「保護者のレスパイト(休息)を目的としたサービス」が7.9ポイント増え、「医療費に対する助成制度」が9.3ポイント減っています。



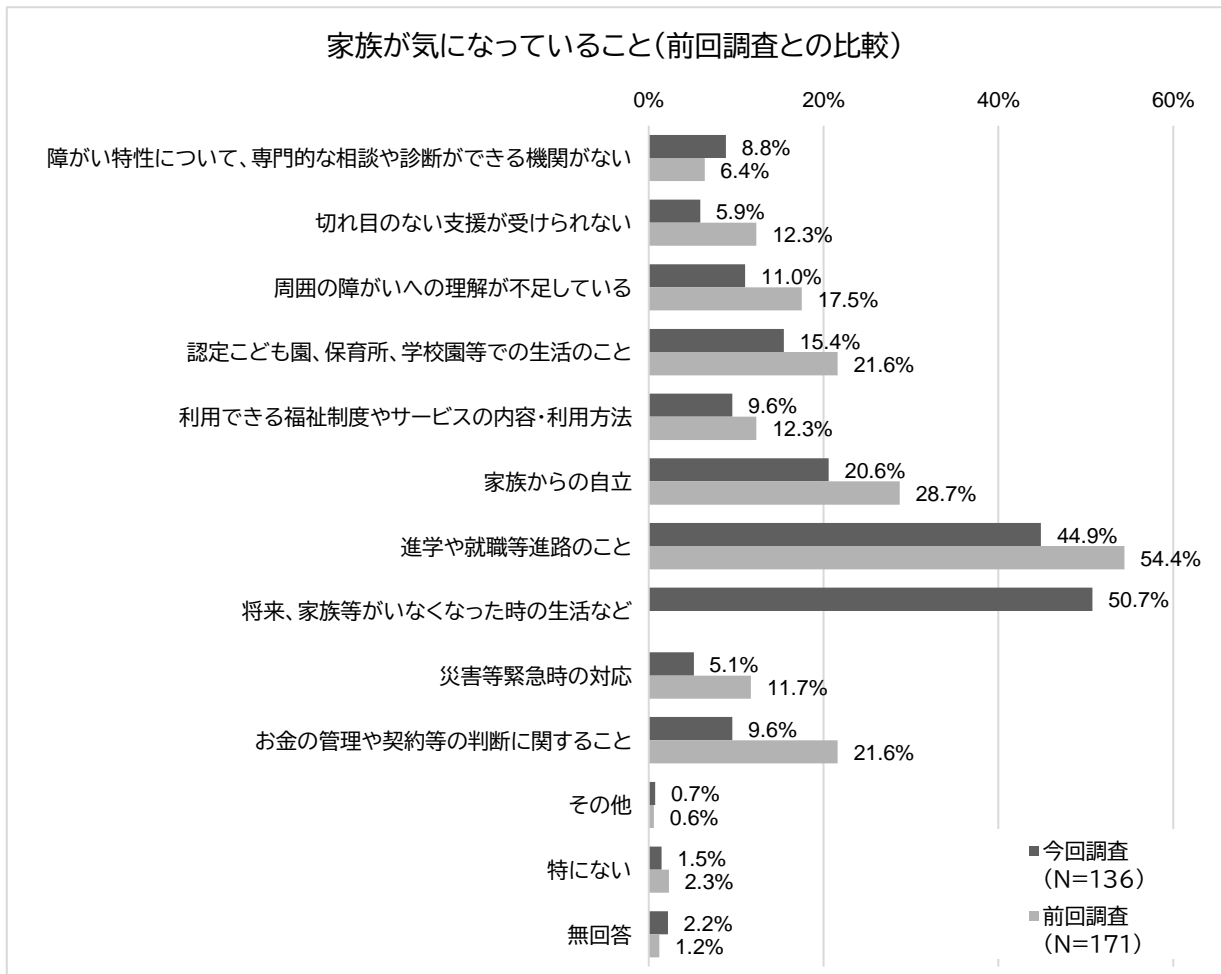
(6) 対象児童の介助者について

1) 家族が気になっていること

家族が気になっていることは「将来、家族等がいなくなった時の生活など」が 50.7%と最も多く、ついで「進学や就職等進路のこと」が 44.9%、「家族からの自立」が 20.6%となっています。

前回調査との比較では「お金の管理や契約等の判断に関すること」が 12.0 ポイント、「進学や就職等進路のこと」が 9.5 ポイント、「家族からの自立」が 8.1 ポイント減っています。

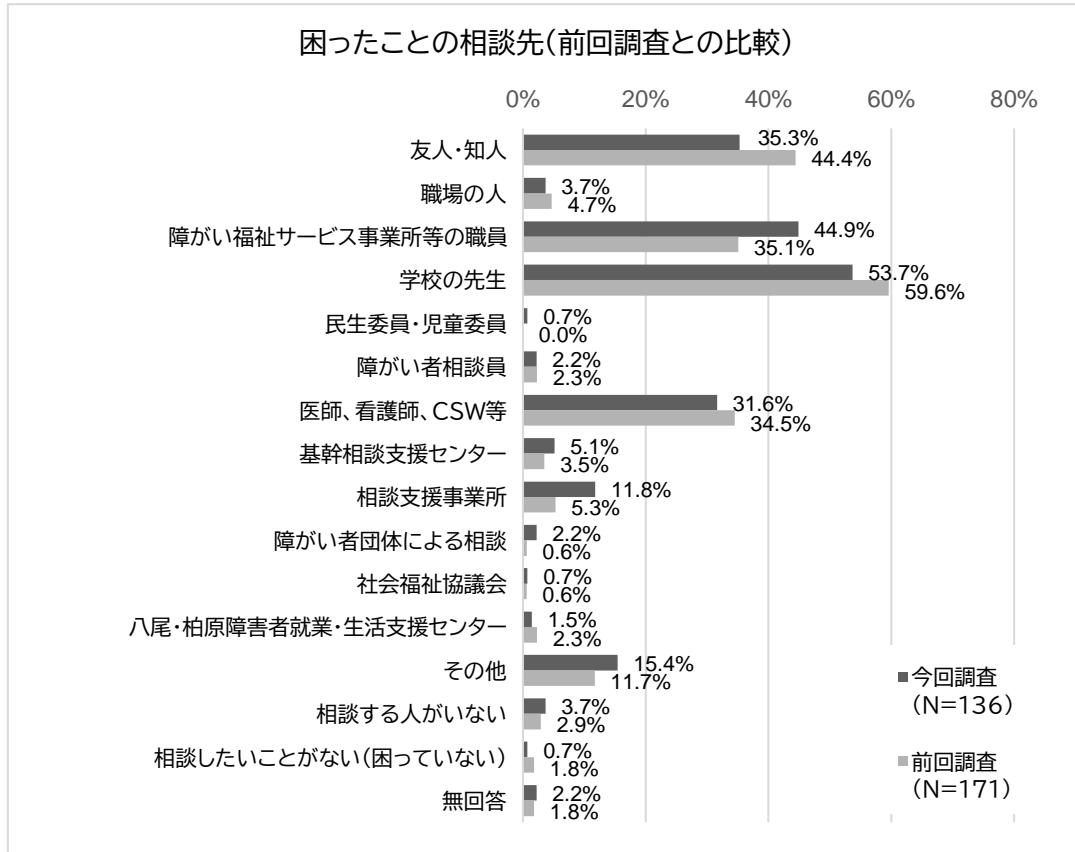
今回最も回答が多かった「将来、家族等がいなくなった時の生活など」が前回調査の選択肢に入っていないことから、前回調査との比較は参考値とします。



## 2) 困ったことの相談先

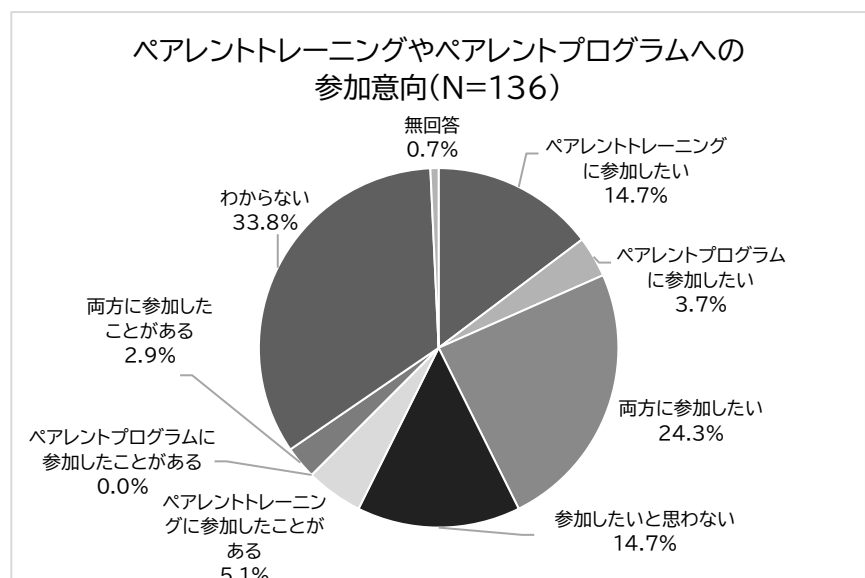
困ったことの相談先は「学校の先生」が 53.7%でもっとも多く、次いで「障がい福祉サービス事業所等の職員」が 44.9%、「友人・知人」が 35.3%、「医師、看護師、CSW等」が 31.6%となっています。

前回調査との比較では「障がい福祉サービス事業所等の職員」が 9.8 ポイント、「相談支援事業所」が 6.5 ポイント増え、「友人・知人」が 9.1 ポイント、「学校の先生」が 5.9 ポイント減っています。



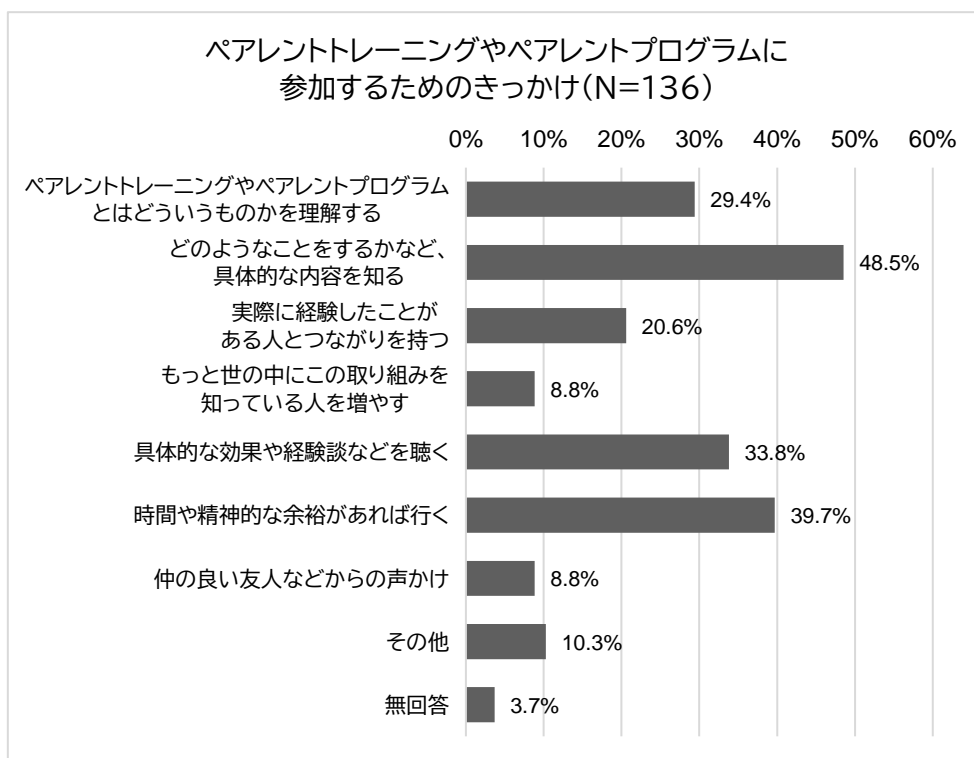
## 3) パARENTトレーニングやパARENTプログラムへの参加意向

パARENTトレーニングやパARENTプログラムへの参加意向は「両方に参加したい」が 24.3%、「パARENTトレーニングに参加したい」が 14.7%、「パARENTプログラムに参加したい」が 3.7%となっています。また、「わからない」は 33.8%でした。



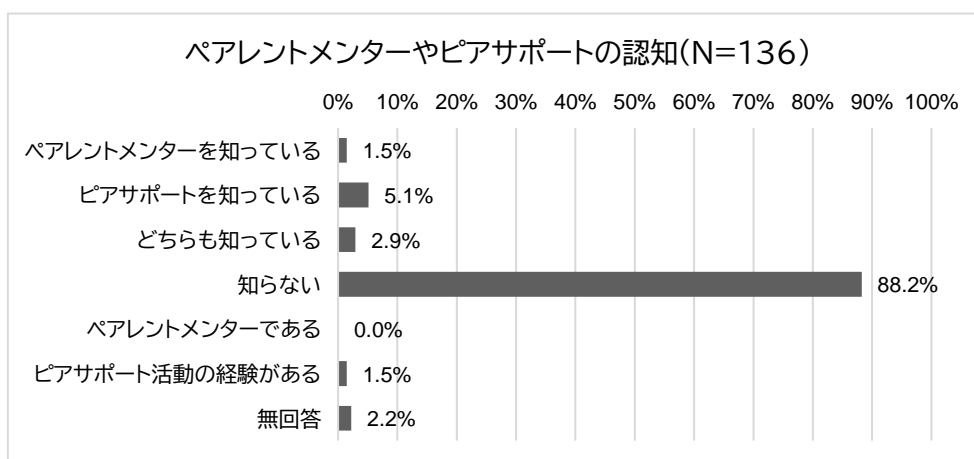
#### 4) パARENTトレーニングやPARENTプログラムに参加するためのきっかけ

パARENTトレーニングやPARENTプログラムに参加するためのきっかけは「どのようなことをするかなど、具体的な内容を知る」が48.5%ともっとも多く、次いで「時間や精神的な余裕があれば行く」が39.7%、「具体的な効果や経験談などを聴く」が33.8%、「パARENTトレーニングやPARENTプログラムとはどういうものかを理解する」が29.4%となっています。



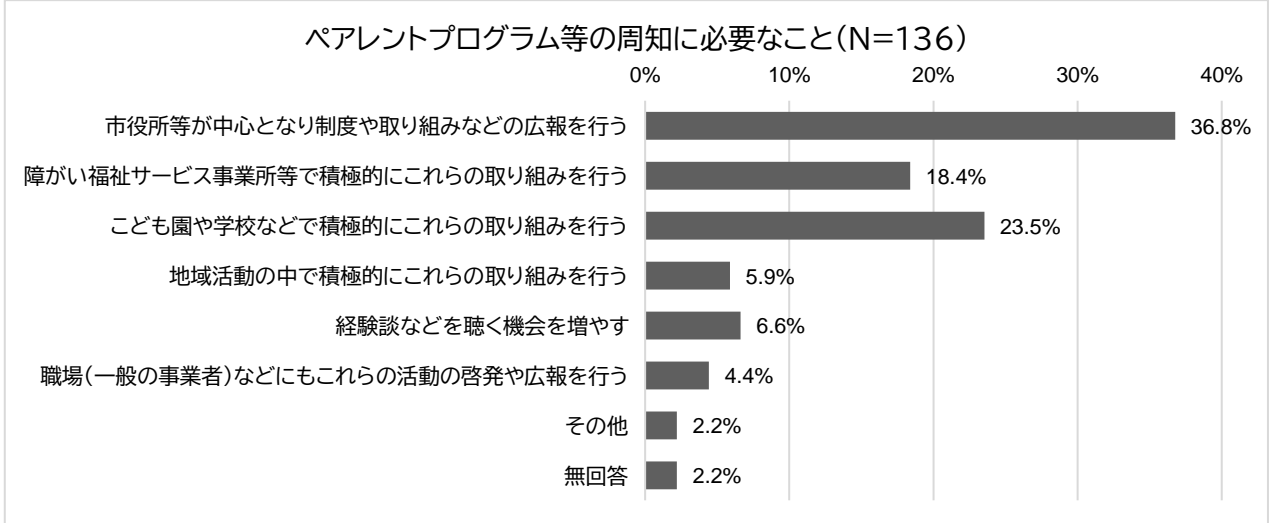
#### 5) パARENTメンターやピアサポートの認知

パARENTメンターやピアサポートの認知は「知らない」が88.2%を占め、「ピアサポートを知っている」は5.1%でした。



## 6) パARENTプログラム等の周知に必要なこと

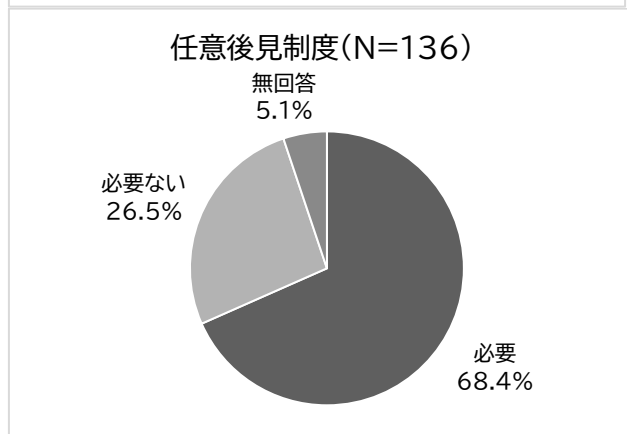
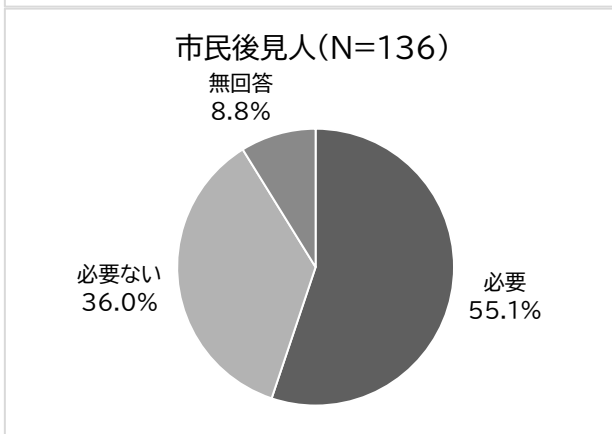
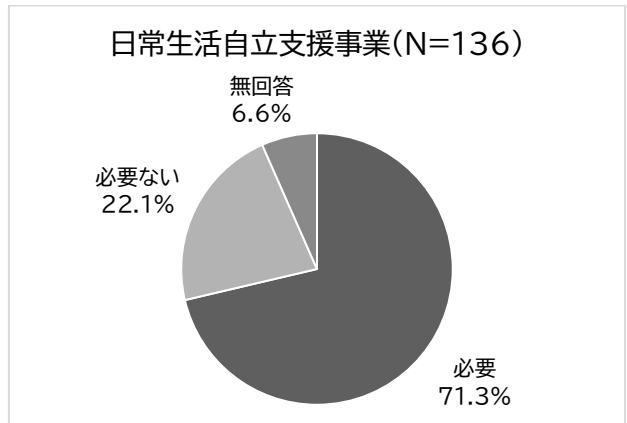
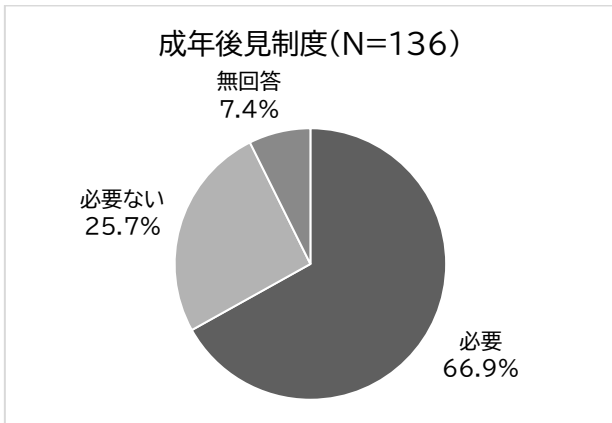
パARENTプログラム等の周知に必要なことは「市役所等が中心となり制度や取り組みなどの広報を行う」が36.8%でもっとも多く、次いで「こども園や学校などで積極的にこれらの取り組みを行う」が23.5%、「障がい福祉サービス事業所等で積極的にこれらの取り組みを行う」が18.4%となっています。



## (7) 将来について

### 1) 権利擁護に関する制度の必要度

権利擁護に関する制度で「必要」と回答した人は「成年後見制度」が66.9%、「日常生活自立支援事業」が71.3%、「市民後見人」が55.1%、「任意後見制度」が68.4%となっています。

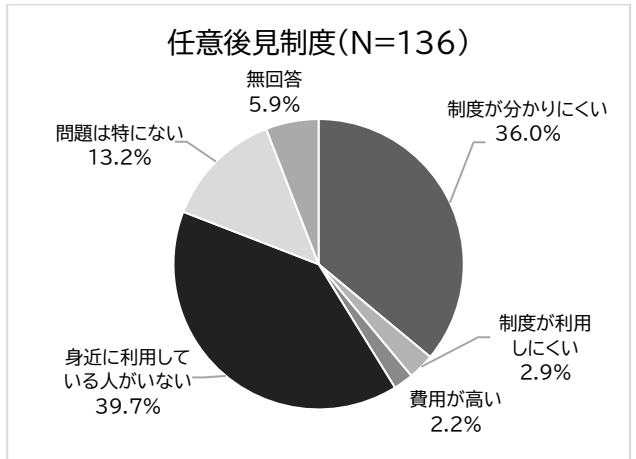
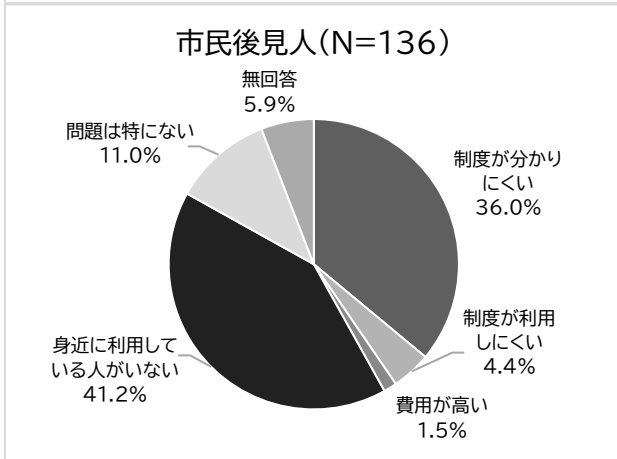
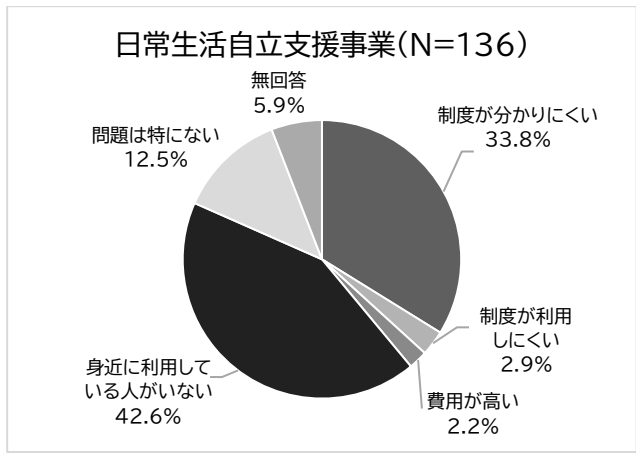
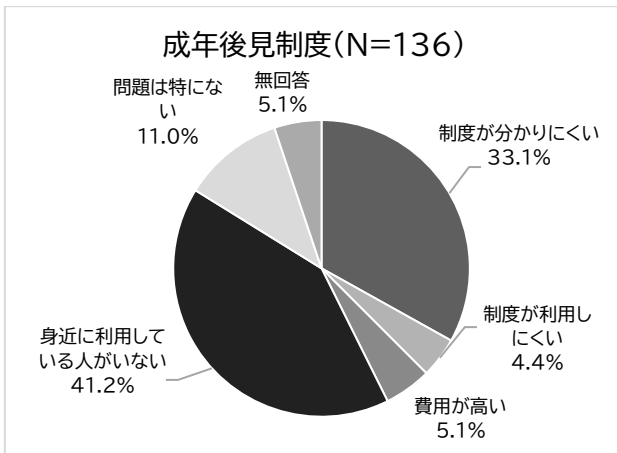


## 2) 権利擁護の制度の問題点

権利擁護の制度の問題点については、「制度が分かりにくい」「身近に利用している人がいない」が多くなっています。

「制度が分かりにくい」は「成年後見制度」が33.1%、「日常生活自立支援事業」が33.8%、「市民後見人」が36.0%、「任意後見制度」が36.0%となっています。

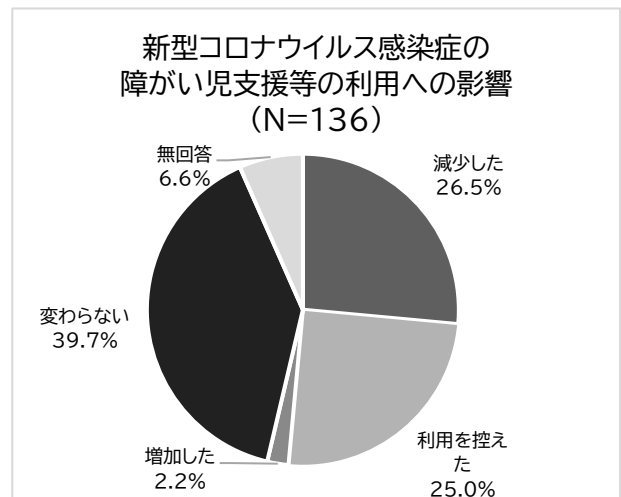
「身近に利用している人がいない」は「成年後見制度」が41.2%、「日常生活自立支援事業」が42.6%、「市民後見人」が41.2%、「任意後見制度」が39.7%となっています。



## (8) 新型コロナウイルス感染症について

### 1) 新型コロナウイルス感染症の障がい児支援等の利用への影響

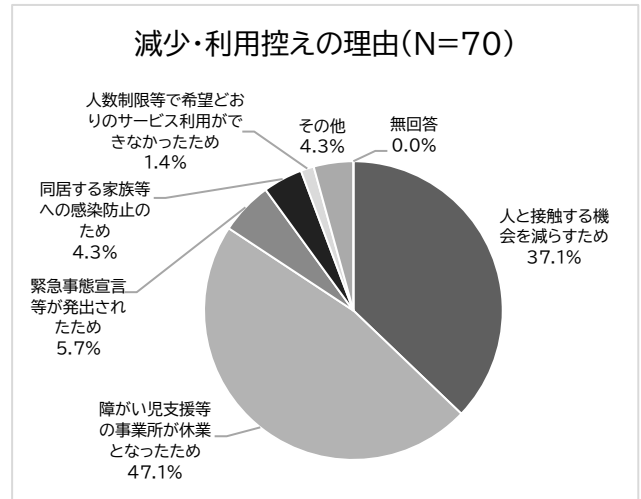
新型コロナウイルス感染症の障がい児支援等の利用への影響は「変わらない」が39.7%となっているものの、「減少した」が26.5%、「利用を控えた」が25.0%と、大きな影響を受けています。





## 2) 減少・利用控えの理由

減少した、利用を控えたと回答した70人の理由をみると、「障がい児支援等の事業所が休業となったため」が47.1%と、事業所の都合による理由がもっとも多く、次いで「人と接触する機会を減らすため」が37.1%と、感染予防の理由が多くなっています。

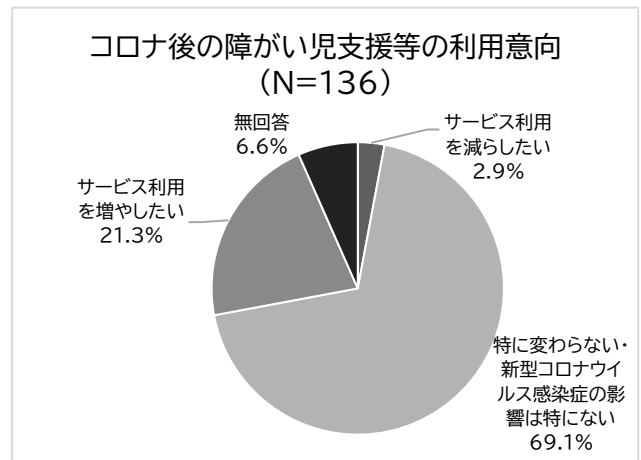


## 3) 増加した理由

増加したと回答した3人の理由は「新型コロナウイルス感染症とは関係なく利用数が増加したため」が1人、「その他」として「学校の休校」「保育園の休園」が各1人となっています。

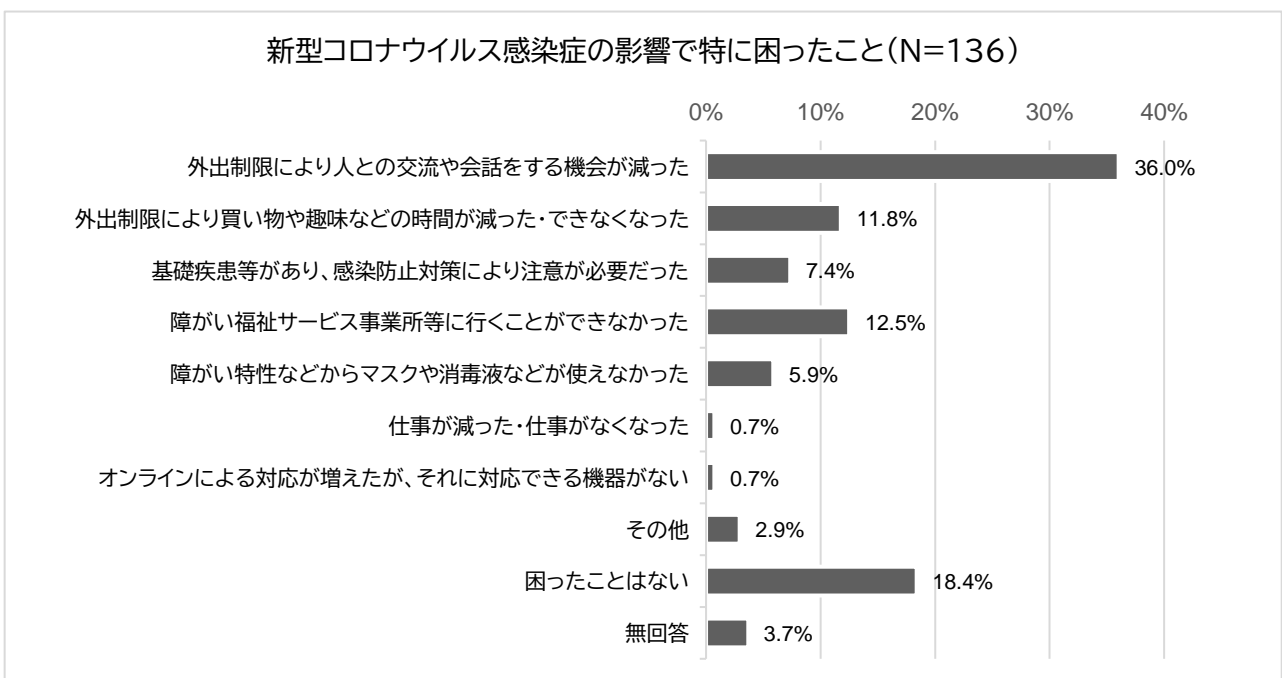
## 4) コロナ後の障がい児支援等の利用意向

新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなった際の障がい児支援等の利用意向は「特に変わらない・新型コロナウイルス感染症の影響は特にならない」が69.1%でもっとも多く、「サービス利用を増やしたい」は21.3%となっています。



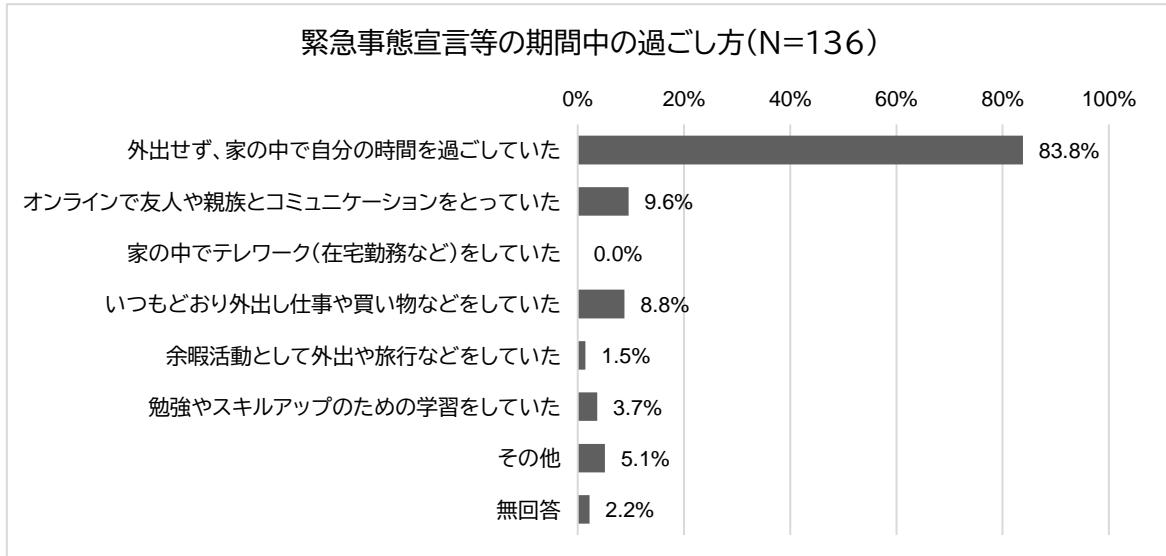
## 5) 新型コロナウイルス感染症の影響で困ったこと

新型コロナウイルス感染症の影響で困ったことは「外出制限により人との交流や会話をする機会が減った」が36.0%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所等に行くことができなかった」が12.5%、「外出制限により買い物や趣味などの時間が減った・できなくなった」が11.8%となっています。



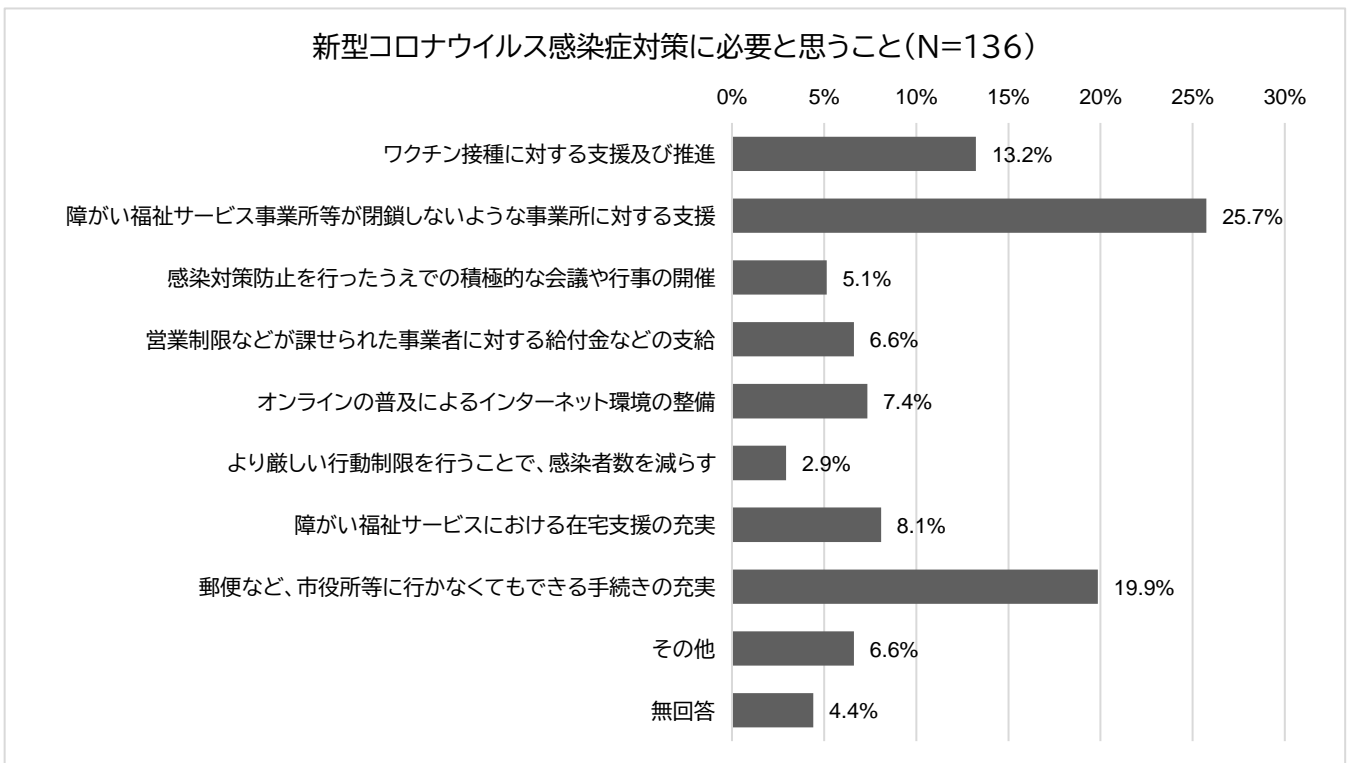
## 6) 緊急事態宣言等の期間中の過ごし方

緊急事態宣言等の期間中の過ごし方は「外出せず、家の中で自分の時間を過ごしていた」が83.8%を占め、次いで「オンラインで友人や親族とコミュニケーションをとっていた」が9.6%、「いつもどおり外出し仕事や買い物などをしてきた」が8.8%となっています。



## 7) 新型コロナウイルス感染症対策に必要と思うこと

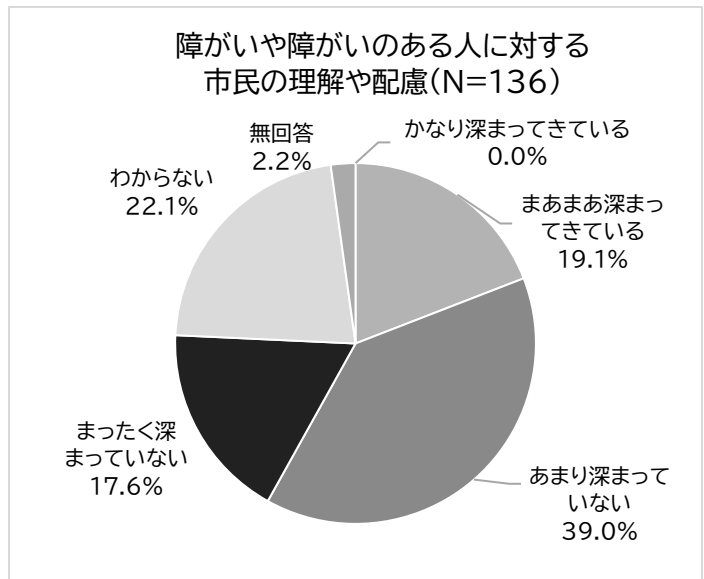
新型コロナウイルス感染症対策に必要と思うことは「障がい福祉サービス事業所等が閉鎖しないような事業所に対する支援」が25.7%でもっとも多く、次いで「郵便など、市役所等に行かなくてもできる手続きの充実」が19.9%、「ワクチン接種に対する支援及び推進」が13.2%となっています。



(9) 障がいに対する理解・人権について

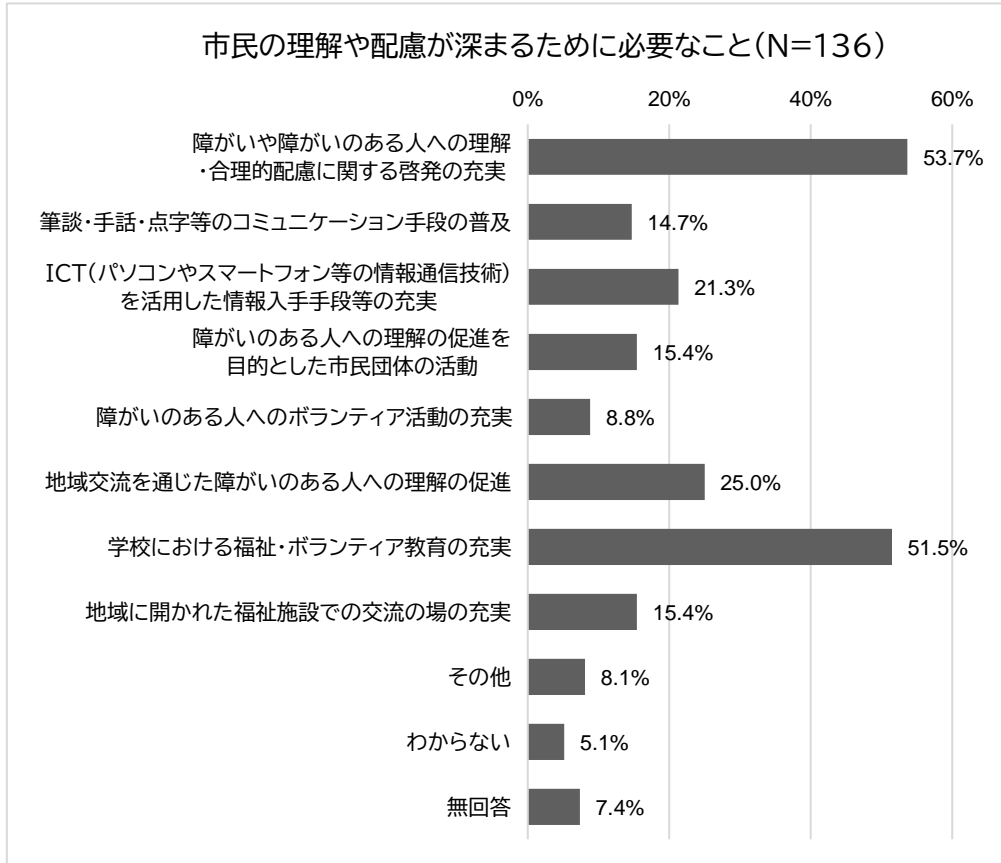
1) 障がいや障がいのある人に対する市民の理解や配慮

障がいや障がいのある人に対する市民の理解や配慮について、「深まっている」は19.1%に過ぎず、「あまり深まっていない」の39.0%、「まったく深まっていない」の17.6%を合わせた「深まっていない」は56.6%と過半数を超えています。



2) 市民の理解や配慮が深まるために必要なこと

市民の理解や配慮が深まるために必要なことについては、「障がいや障がいのある人への理解・合理的配慮に関する啓発の充実」が53.7%でもっとも多く、次いで「学校における福祉・ボランティア教育の充実」が51.5%、「地域交流を通じた障がいのある人への理解の促進」が25.0%、「ICT(パソコンやスマートフォン等の情報通信技術)を活用した情報入手手段等の充実」が21.3%となっています。



## (10) 障がい福祉の推進についてのご意見

人権尊重・障がい者理解について	7件
-----------------	----

- 健常者も、障がい者も自分をわかっていない人が多く存在する。
- 良くも悪くも「ヘルプマーク」の存在は、障がいを持つ人の周知につながると感じます。
- 私自身が小学生の時と比べて、今の子ども達を見ていると、障がいを個性だと捉えているのか、特性を持っている子に対してもすぐフラットに接していることに驚いています。子どものうちにそのような感受性を身に付けて、今の子ども達が大人になったとき、今よりもっと生きやすい世の中になっていると嬉しいなと思っています。
- 障がいに対して周囲の理解など、まだ得られていない部分があるので、少しでも多くの人に理解してもらえたらと思います。
- 「まずは近所の人から、友人から、障がいのことを理解してほしい」と思う。

行政施策・福祉サービスについて	15件
-----------------	-----

- トイレにうまく行けないため、オムツ(紙)やパッドを使っていますが、費用負担が大きい。その補助があると助かります。
- 夜間や早朝のサービス利用できる機関が増えて欲しい。
- 軽度の発達障がいでも支援が受けられるような福祉を作って欲しい。
- 療育手帳の B1・B2 のように、軽い障がいでも利用できるサービスを増やして欲しい。
- 療育手帳を持っていない自閉症の人でも療育手帳がある人と同等の優遇が受けられるようにして欲しい。

教育について	14件
--------	-----

- こども園のときは、とても手厚い支援を受けれていました。しかし、小学校に入学すると介助員不足、教員不足で今までのような園と同じような支援は受けられず、親も子どももとても不安でした。もっと教員、介助員を増やしてほしいです。
- 障がい児と健常児が共生できるようなインクルーシブ教育が不足しています。地域が受け入れてくれないと、子どもが障がいのある子と接する機会がなくなり、結果として障がい者のことをよく知らず、大人になり障がい者を受け入れる社会が作れなくなります。
- 学校をバリアフリーにして欲しい。
- インクルーシブ教育について、形だけでなく、行政、先生(学校など)の理解を深めて欲しい。障がい者は自分たちと別世界で生きているわけではなく、あらゆる人が配慮や支援を必要としているなかの一人であるとわかって欲しい。
- 公立の小中学校に、大阪市内の小中学校のようなサポーターを配置して欲しい。
- 通学に対する支援が欲しい。
- どのようなサービスが必要か、ではなく幼い時からそれがその人の個性だ！という教育が必要だと思う。

居場所について	2件
---------	----

- コロナが大流行しているときに、学校やデイサービスも利用できず、本人は元気なのに家にいて、運動不足が一番困りました。そういうときに運動不足が解消できるような場所があればいいのと思いました。
- 障がい者が自分も世の中でできることがある幸せを感じられる場が増えること、障がい者であっても他人を幸せな気持ちにさせられることを経験(体験)で増えることを願っています。

就労や経済的な問題について	1件
---------------	----

- うちが軽度だが、それでも仕事を変えたりと、さまざまな対応に迫られました。重度の方々のことを思うと、本当に金銭的な支援はもっと必要だと感じます。安心して暮らしたいのは皆、同じだと思います。

将来への不安について	1件
------------	----

- 仕事に就けるのか、生活できるお給料を得ることができるのか、不安がいっぱいです。大人になってからも親が病気になったり、亡くなった後が不安です。

情報提供、相談窓口の充実について	10件
------------------	-----

- 高齢者の地域包括支援センターのように、もっと身近で相談できる機関や事業所の紹介やプランを立てられるところがあれば、市報等でも教えてほしい。
- 障がい児ですが、障がい福祉課に行って話をし、保育園など探す際には保育・こども園課に行って同じ話をし、総合的にみていただける窓口が欲しい。
- 私の娘(次女)は登校拒否をしだし、原因をさぐっていく中で発達障がいがありました。親が病院にたどりつかないと発達障がいにならないうので、就学後も健診があればと思います。発達障がい児の進路情報や制度の情報、親なきあとのサポート情報を提供していただければと思います。
- 私は娘の装具や日常に必要な車イスなどを給付いただき、本当に助かっています。今回入浴介助用具として、障がい福祉課にお願いに伺いましたが、あっさり断られました。一人一人障がいや生活状況も違うので、あっさり「ダメです！」と断るだけでなく、違う方法はないのか、助言の言葉を出していただきたいです。

施設・サービス従事者、行政の対応について	4件
----------------------	----

- 障がい者の施設ができて、そこで働くスタッフの対応は大丈夫かと気になる。話せない障がい者などいるなか、暴力、暴言など言われていないか親は心配です。
- 学校やこども園などで、教員や保育士向けに障がいをもった子に対する理解を進めたり、具体的な支援方法などの研修を行なって欲しい。

#### 4. 八尾市障がい福祉サービス等の事業所アンケート

##### (1) サービス別事業所数

	事業所の種別		事業所数	サービス別事業者数
訪問系サービス	1	居宅介護	22	22
	2	重度訪問介護	16	
	3	同行援護	10	
	4	行動援護	4	
	5	移動支援	11	
日中活動系サービス	6	短期入所	5	72
	7	生活介護	23	
	8	自立訓練(生活訓練)	1	
	9	就労移行支援	4	
	10	就労継続支援A型	15	
	11	就労継続支援B型	31	
	12	就労定着支援	2	
	13	地域活動支援センターⅠ型	1	
	14	地域活動支援センターⅡ型	3	
居住系サービス	16	共同生活援助(グループホーム)	11	11
	17	施設入所支援	0	
障がい児 通所支援サービス	18	児童発達支援	19	31
	19	放課後等デイサービス	27	
	20	保育所等訪問支援	2	
	21	福祉型児童発達支援センター	1	
	22	医療型児童発達支援センター	1	
	23	発達障がい児支援センター	1	
相談支援サービス	24	計画相談支援	12	12
	25	地域移行支援	4	
	26	地域定着支援	3	
	27	障がい児相談支援	8	

##### (2) 障がい福祉サービスの提供実績と今後の提供見込

サービス	令和4年7月の提供実績								
	事業者数				サービス量				
	身体障 がい者	知的障 がい者	精神障 がい者	障がい 児	定員	利用者 数	八尾市 民の利 用者数	1ヶ月当たりの 実利用量 (計)	1ヶ月当たりの 実利用量 (事業所平均)
居宅介護	15	11	9	5	168	337	310	3,333 時間	185 時間
重度訪問介護	6	7	5	3	6	8	2	1,133 時間	283 時間
同行援護	5	4	4	2	2	26	18	327 時間	55 時間
行動援護	0	2	1	0	0	0	0	0 時間	-
重度障がい者等包括支援	0	2	1	0	0	0	0	0 時間	-
移動支援	7	8	6	2	92	255	218	3,318 時間	369 時間
短期入所	3	6	3	2	22	102	96	362 時間	91 時間
生活介護	15	20	15	5	519	476	386	7,893 時間	415 時間
療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
自立訓練(機能訓練)	0	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
自立訓練(生活訓練)	0	0	1	0	6	5	3	56 時間	56 時間
就労移行支援	2	4	2	0	70	56	46	1,046 時間	349 時間
就労継続支援A型	7	8	14	1	254	336	222	6,100 時間	436 時間
就労継続支援B型	14	22	21	5	555	522	679	7,973 時間	275 時間
就労定着支援	1	2	1	0	20	25	20	25 時間	13 時間
地域活動支援センターⅠ型	0	0	1	0	0	595	570	24 時間	24 時間
地域活動支援センターⅡ型	1	2	1	0	40	63	62	37 時間	18 時間
地域活動支援センターⅢ型	0	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
日中一時支援	2	2	1	2	24	47	44	107 時間	36 時間
共同生活援助	7	12	9	3	226	190	79	1,081 時間	77 時間
施設入所支援	0	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
自立生活援助	0	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
計画相談支援	7	8	9	8	50	853	645	693 時間	77 時間
地域移行支援	3	3	4	3	0	8	3	3 時間	3 時間
地域定着支援	3	3	3	3	0	0	0	0 時間	-
地域移行支援	0	0	0	0	0	0	0	0 時間	-

サービス	令和8年7月の提供見込							
	事業者数				サービス量			
	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	障がい児	定員	利用者数	1ヶ月当たりの実用量(計)	1ヶ月当たりの実用量(事業所平均)
居宅介護	16	11	9	4	165	317	3,103 時間	172 時間
重度訪問介護	5	4	3	2	6	8	1,146 時間	287 時間
同行援護	5	2	3	2	2	26	255 時間	43 時間
行動援護	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
重度障がい者等包括支援	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
移動支援	7	6	5	2	90	328	3,515 時間	391 時間
短期入所	3	4	2	2	22	131	493 時間	123 時間
生活介護	15	21	14	6	554	589	9,436 時間	472 時間
療養介護	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
自立訓練(機能訓練)	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
自立訓練(生活訓練)	0	0	1	0	6	5	80 時間	80 時間
就労移行支援	2	4	2	0	80	92	1,181 時間	295 時間
就労継続支援A型	7	8	14	1	264	382	6,819 時間	525 時間
就労継続支援B型	14	22	21	5	591	632	10,254 時間	354 時間
就労定着支援	1	2	1	0	20	30	30 時間	15 時間
地域活動支援センターⅠ型	0	0	1	0	0	600	24 時間	24 時間
地域活動支援センターⅡ型	1	2	1	0	40	76	46 時間	23 時間
地域活動支援センターⅢ型	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
日中一時支援	2	2	1	2	24	53	119 時間	40 時間
共同生活援助	7	12	9	3	253	252	1,126 時間	87 時間
施設入所支援	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
自立生活援助	0	0	0	0	0	0	0 時間	-
計画相談支援	7	8	9	8	51	779	895 時間	81 時間
地域移行支援	3	3	3	3	0	3	3 時間	3 時間
地域定着支援	3	3	3	3	0	0	0 時間	-
地域移行支援	0	0	0	0	0	0	0 時間	-

(3) 障がい児支援の提供実績と今後の提供見込

サービス	令和4年7月の提供実績					
	事業所数	定員	利用者数	八尾市民の利用者数	1ヶ月当たりの実用量(計)	1ヶ月当たりの実用量(事業所平均)
児童発達支援	17	165	170	199	1,551 人日	86 人日
放課後等デイサービス	28	268	695	777	4,288 人日	159 人日
保育所等訪問支援	2	20	34	34	36 回	18 回
福祉型児童発達支援センター	1	68	59	54	868 人日	868 人日
医療型児童発達支援センター	1	40	26	23	215 人日	215 人日
発達障がい児支援センター	1	40	26	23	215 人日	215 人日
福祉型児童入所支援	0	0	0	0	0 人	-
医療型児童入所支援	0	0	0	0	0 人	-
居宅訪問型児童発達支援	1	2	0	0	0 回	-
障がい児相談支援	8	56	64	73	80 人	13 人

サービス	令和8年7月の提供見込				
	事業所数	定員	利用者数	1ヶ月当たりの実用量(計)	1ヶ月当たりの実用量(事業所平均)
児童発達支援	17	165	240	1,860 人日	109 人日
放課後等デイサービス	27	258	859	4,891 人日	188 人日
保育所等訪問支援	2	20	45	55 回	28 回
福祉型児童発達支援センター	1	68	64	1,200 人日	1,200 人日
医療型児童発達支援センター	1	40	30	240 人日	240 人日
発達障がい児支援センター	1	40	30	240 人日	240 人日
福祉型児童入所支援	0	0	0	0 人	-
医療型児童入所支援	0	0	0	0 人	-
居宅訪問型児童発達支援	1	2	1	1 回	1 回
障がい児相談支援	8	52	107	117 人	17 人

#### (4) 自由記述

##### 問4 サービス等の質の確保

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	18	67	10	28	9

- 手作り料理の提供、美容師による無料カットサービスの提供。
- 強度行動障がい計画シートも活用し、個人個人に合わせた健康活動・社会活動・社会参加と組み合わせている。
- 職員全員に相談支援従事者研修やサービス管理責任者研修等を受講してもらっている。
- 通院先の医師や精神保健福祉士との連携や福祉施設との連携を図る。
- 法人内研修(全体研修・階層別研修)、所内ケース検討会議、市内の委託相談支援センター研修、自立支援協議会研修会の実施。
- 協力的な放課後等デイサービスへの見学、訪問、情報共有。
- 能力の高い人材確保。
- スタッフの資格取得援助。
- 主任相談支援研修、強度行動障がい支援者養成研修(基礎・実践)、医療的ケア児等支援者養成研修等の受講。

##### 問5 新型コロナウイルス感染症の影響

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	17	64	9	25	10

- 自宅隔離を余儀なくされ来所できない利用者が激増した。
- 緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令されるたびに、一部の利用者とその保護者は自宅待機を選択され、障がい福祉サービス等事業収益が減少した。
- 職員や、その家族が罹患し、出勤できない期間があったことが厳しかった。
- コロナの影響により、施設の閉所、陽性者が通所できないことが起きていた。
- 業者自体に商品が入らず、新規業者など探すが、単価を上げて交渉される為なかなか新規開拓が困難だったが業者からの紹介で新規が増えた。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、利用者へ利用自粛をお願いしなければならないことが複数回あり、利用者が減少した。

##### 問6 コロナ後のサービス提供

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	13	49	6	17	7

- コロナの感染人数等により影響していくと思います。
- 利用者の希望に応じて、zoomによる在宅支援を実施。感染、濃厚接触による欠席児(保護者)への効果的なアプローチであると実感した。
- コロナ関連での欠席に関しては、もう少し単位の緩和があると嬉しい。
- 外出支援に関しては、確実に増えると予想されます。その他のサービスについては概ね定員いっぱいになっ



ていますので、多少の増はあっても大幅に増える見込みはありません。

- 顕著にサービス供給量が減少しているようには感じていないが、事業所の経営がコロナ減収のため厳しくなり、離職した人もいたのではないかと推測している。需要が増えてきたヘルパー事業等については、新たな従事者の確保が困難になっており、ニーズに対応できていない部分があるように思う。

#### 問7 事業所の課題

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	19	66	11	28	10

##### ① 利用者に関すること

- なかなか懇談等ができないので連携が取りにくいと感じる時がある。
- 高齢化、利用者の親も高齢になり、将来のことが課題。
- 児童発達支援対象のお子さまの利用に伸び悩んでいる。年齢が低ければ低い方が、発達支援の効果も大きく影響する為、疑わしいお子さまを支援につなげていけないか。
- 出勤率が安定しない。B型であり生活リズムを整え、就労に慣れていく段階の方が多く毎日就労する事が難しいご利用者様が多い。
- 当施設では身体・精神・知的全障害を受け入れしております。障がいにより特性が違うので対応が難しい面を感じています。
- 少しでも工賃アップをめざしたい。
- 疾病の知識や介助方法などを理解して適切に対応する必要がある。

##### ② 人員・設備に関すること

- 運転のみをしてくれる運転手を募集しているが、なかなか定着しない。
- 市全体として、相談支援事業所が不足している。新規開設時に設備に対する補助等あれば良いと思う。
- 職員不足。求人募集しているが、応募が少ない。
- 世話人が本当によくやってくれているが、人数に限りがあり、緊急事態が起きた場合は不安。代替職員の準備など検討が必要。
- 優秀な人材に平均的な賃金さえ渡せていない。職員の適切な処遇のための助成を行って欲しい。

##### ③ 職員の質の向上(研修の実施等)に関すること

- 各種研修に参加し、障がいに関して知識の向上。事業所で有資格者からの研修実施、情報共有。
- 支援の質の向上をめざし、法人内外で、キャリア別、役職別の研修の実施と参加に努めている。研修で培った力を、支援に具体的に結びつけることや他の職員との共有の手段など、事業所としてひと工夫いると考えている。
- コロナの影響で研修が減っているがオンライン研修が増えた事により、職場から視聴できるため、複数の職員が参加できる様になっている。一定期間自由閲覧できる研修が増えて欲しい。
- 研修は月に1回実施し、情報を共有できるように取り組んできました。リモート研修にも、もっと積極的に取り組んでいきたいと思えます。
- 新型コロナウイルスの流行により、感染予防策などすることが増える。

- 世話人の高齢化がすすんできており、研修効果も高いとは言えない。自己流からなかなか離れられない(年配者に顕著)。
- 内部研修では感染症対策のためオンライン対応を織り交ぜながら実施している。外部研修は現地への移動や会場での感染リスク、研修にかかる時間の拘束、日程調整等の調整業務によるコストが課題。

#### ④ 報酬額等に関すること

- 職員の給与をもっとあげるにはまだまだ難しい課題と思っています。
- 障がい年金申請を支援する事が多々あるが、時間も手間もかかる。報酬に反映されない。
- 新型コロナウイルス感染者への直接支援特別加算などがあればよかった。
- そもそもの報酬単価が低い。計画相談は、サービス等利用計画を立てるだけではなく、利用者・事業所から寄せられるさまざまな相談にきめ細かく対応しなければならない。そのあたりの評価がなされていない。
- 個別サポート加算を付けるのであれば、(単価)を上げるべきである。
- 授産活動の向上が報酬につながると思うので、授産商品の販売ルートの拡大に取り組んでいきたい。
- 重度訪問介護の報酬が低すぎる。
- 賃金向上達成指導員を配置し報酬の向上に努める。
- 特別処遇改善のハードルが高すぎるので、申請できない。

#### ⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響に関すること

- とにかく利用者様とその家族の精神的軽減が大変だなと思います。
- 障がい者陽性の方の入院もできたケースの方が少ない。
- 新型コロナウイルス感染症予防のため、備品のアルコール消毒や手洗い、うがいの徹底。
- 就労支援収入、障がい福祉サービス等事業収入ともに減少した。
- 新型コロナウイルスの影響で、ストレスを感じる利用者さんもいました。徐々に移動支援などが再開し、スムーズに対応出来るようにしています。
- 利用者家族から、利用者本人や家族の健康状態に関する情報を適切に得ることが難しい場合がまだある。検査がもっと簡単に受けられるようになってほしい。

#### ⑥ その他

- 行政は生活保護や障がい年金の申請を促すが当事者の気持ちが全く尊重されない。
- 計画相談事業所からの情報提供が介護保険のように統一されておらず、不確かです。
- 当事業所は職員全員が常勤であるので、情報共有などがしやすい。
- 利用者の高齢化に伴い、体調の変化等の理由により、送迎対応を希望する利用者が、今後も増えると考えられる。送迎加算をもう少し上乗せしてもらえれば、ありがたい。
- 利用者本人にはなく、その周囲(身内)に問題がある場合の関わり方が困難である。
- 相談支援の仕事内容に関して、おもしろそう・楽しそうと感じてもらえる要素が少なく、逆に、大変そう、怖そうというマイナスイメージが強い。
- 利用者の環境が本人にとって、自立支援になっているかどうかを判断する相談員の責任は大きい。

## 問8 八尾市への意見

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	16	61	11	26	10

### ① 他事業所との情報共有や連携について

- 親も介護が必要となり、かつ障がいを持つ子どもケアをせざるをえない家族を事業所、各機関、行政が連携して、支える仕組みが必要と考えます。
- ケース会議の必要性が高くても、事業所も職員体制が少なくケース会議の時間が取りにくい状況にある。
- 会議等に参加し、連携をとるようにしている。
- 八尾市作業所等連絡会で月に1回集まって会議を行い施設の状況などの共有ができています。
- 利用者一人一人について利用している各事業所が集まって話し合いをするようになってきましたが、受け身の事業所が多いと思います。
- 他の事業所との関わり場(リモート研修等)は多く感じますが、交流の場がもっと増え、地域貢献にもつながるような事を他の事業所と共同で行っていったらいいと思います。

### ② 利用者からの相談支援体制の充実やその課題について

- 老障介護における生活ひっ迫についての相談が増えてきています。
- 高齢者福祉と障がい福祉の両方を利用している利用者の障がい支援区分の判定について、高齢の介護度との共通部分を考えてもらえたらと、感じます。
- 相談支援専門員の役割が不明確に感じる事があります。専門員の力量や仕事の内容の差が大きく、相談支援専門員自身の報酬がかなり低いように感じます。
- 担当者会議や、ケース会議のオンライン化の推進。
- 本人が外出できず、相談にかなりの時間を使い、解決に導いていくことも多い。欠席対応のみの報酬ではなく、本体報酬として認めて欲しい。
- 慢性的に相談支援専門員が不足しており、一人で抱える件数が多すぎるため、利用者とのかかわりが薄くなっているのではないかと感じる。

### ③ 障がい者の地域移行の推進に関する現状や課題について

- 本人、家族(親)の高齢化に伴い、地域に移行する場がないため、状況は変化しません。時間が経つに連れ、家族状況は悪化するばかりです。障がいを持つ人の暮らしの場の確保は最重要課題と考えます。
- グループホームがたくさんできているので、地域移行が進んでいるように感じる。
- 障がい者の地域移行の推進については、支援が必要でとても良いことだと考えている。
- 地域で行われるイベントなどに利用者と共にできるだけ参加をして当法人の利用者を知ってもらえるようにしている。
- 地域の支援学校や児童デイサービス、グループホーム等、就労前からの利用サービスとの連携が地域として定着し、ご家族や本人が就労前から気軽に作業所の見学や体験ができる仕組みができて欲しい。
- 受け皿としてはグループホームやサービス付き高齢者住宅が多いが、希望する時に空きがない。

#### ④ 日中事業所から一般就労への移行について

- 日中事業所から一般就労への希望があっても、事業所によっては支援が難しい。また移行事業所から就職しても、その後の定着が大事だが離職するケースも多い。
- 3年定着支援を受けられた後に転職などで環境が変わる場合などは利用者様が不安に思われるためそういう方たちの支援の仕方や対策などがあれば安心して利用者様も次のステップに踏み出すことが出来ると思います。
- 就労移行以外の事業所にも、事業所には支援加算があればよいと思います。
- 思った以上に難しいし、慎重さも必要。企業に対する行政としての下支え、公的施設での積極的雇用やモデルをつくることも必要だと思う。
- 就 B からいきなり一般就労への移行は難しいと思うので、就 A への移行を経て、というステップアップが現実的でないだろうか。就 B と就 A、相談支援事業所との連携が必要だと思う。
- 就労に関しては 5 年間就労者を出してきた。企業と連携することにより、企業からの学びを身に付け実践することが出来た。
- 本人の目標や夢に寄り添い、支援している事をもっと報酬として、評価を行って欲しい。

#### ⑤ 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの移行について

- 高齢者施設へ移行することは厳しいように感じます。ケアマネジャーは障害支援区分認定には関わっておらず、介護認定のみに関わっている。両方認定されている利用者にとっては、どうしていいかわからない。
- 介護サービスに切り替えた時にこれまで療育サービス内で受けられていた各サービスが有料となり、場合によって受けられない事も生じる可能性があると思います。
- 作業所とデイサービスは役割が全く異なる物なので、ケアマネジャー、医療機関の方からの意見を参考にしながら介護保険への移行を進めて行きたいと思います。
- 障がい福祉サービスから介護保険サービスへ移行されるにあたって、費用を気にされる方が多い。
- 障がい福祉サービスを継続的に利用でき、必要な介護保険サービスを組み合わせられるようにしていただきたい。
- 障がい特性により、介護保険サービスではなく障がい福祉サービスを利用される方もあるが、サービス利用を認めてもらうための手続きが煩雑。
- 長く利用されて 65 歳を迎えられた方は、福祉サービスでの人間関係、友人・スタッフとの信頼関係を家族の方を含め構築してきた。本人の意向に添った、柔軟な移行を、他のサービスと共有・連携しながら行うべきである。
- 精神障がいのある方の通院介助は、不安緩和や適切に病状を伝えたり、医師からの指示を支援者や家族で共有するために院内での付き添いも必要なケースが多いが、介護保険になると院内介助は自費になってしまう。

#### ⑥ 医療的ケア児や重症心身障がい児の支援の充実やその課題について

- 児童の支援だけではなく、その世帯丸ごと支援する体制づくり、親子別への支援など、1 事業所での負担が重すぎないようにする取り組みが必要。
- 医ケアの方、重心の方に関わらず、意思疎通のむずかしい方のニーズの拾い方は、ずっと課題に思う。

- 意思疎通ができて、本人より、ご家族の意思が尊重されてしまうこともあり、課題に思う。
- 医療的ケア児・重心児に社会性を感じられる場所を提供していきたい。
- 必要人員が看護師だけでなく看護スタッフでも可能になれば利用しやすくなる。
- 利用できる資源(児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、ヘルパー)が、少しずつは増えていますが、まだまだ不足しています。短期入所サービスについては皆無です。早急に検討をお願いいたします。
- 教育機関との連携が取りにくい。

問9 現在不足している又は今後特にニーズが高まると考える障がい福祉サービスについて

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	8	47	8	16	9

- 暮らしの場の充実。その人の障がい状況や年齢や課題に応じた、多様な暮らしの場の創造と確保。余暇活動の充実。両親の就労保障のため、トワイライト(夕方から夜)にかけての利用できるサービス。働く障がいがある人への通勤支援や職場での日常介護支援等。
- 障がい高齢者の介護保険制度への移行プロセス。
- ショートステイについては、障がい者の同居家族の高齢化がすすみ、急な入院が必要なケースが増えている。
- 福祉サービスだけではなく、民間サービスがあっても良いと感じる。
- 精神に特化しているヘルパーステーションが不足しているように思います。
- 重度の障がい者グループホームが少ないと思う。人材確保など難しい面は多々あるが、最も足りていないサービスの1つだと感じる。
- ガイドヘルパーの数が少なく利用が難しいケースもあり、柔軟に対応し通所事業所と連携しながら進めていけるような体制がとれれば、強度行動障がいのお子様にも、よりよい提案ができるのではないかと思います。
- 親なきあと、高齢になった障がい者の地域生活を支えるすべてのサービス。様々なサービスをつなぐ相談支援事業所、相談支援専門員。
- 学校卒業後の、平日夕方の過ごし方。16 時ころには通所事業所が終了しており、親の就労に影響する。制度として今はないが、必要性は高いと思う。

問10 避難確保計画について、運用面や管理面等での課題や改善点について

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	8	37	9	14	5

- 土砂災害について、受け入れ施設の負担は大きく感じます。災害が長引いた時の対応を考えてもらいたいです。
- 利用者に分かりやすい避難マップを配布してほしい。
- 地域と合同で避難訓練をする機会が欲しいがどのようにしたらよいかわからない。最終避難場所の学校などと一緒に消防訓練などができれば良いと思う。
- ひとりも取り残さないという考えには賛同できる。障がい者はそれぞれ障がい特性があるので地域に障がい者の避難場所があるのは良いと思う。
- 各町内会で、障がい者をまじえた避難訓練など、支援をイメージできる取り組みが必要と思います。

- 管理者を立て、避難経路や避難時の役割を明確にして、決まった時期に、地震・火災・水害の訓練を行っている。今後は避難経路や避難時の行動がスムーズに出来るように考えていく。
- 災害時の備蓄等、各施設で用意していると思われるが、負担が大きい。災害時、利用者の避難場所として施設を開放する事も考えられる。

問11 その他、障がい福祉計画の策定や障がい福祉サービスの提供等について

	訪問系サービス	日中活動系サービス	居住系サービス	障がい児通所支援サービス	相談支援サービス
回答数	5	31	5	7	7

- 第6期の計画策定については、八尾市の独自の視点が欠如している。
- 研修に参加しやすい補助の検討や、八尾市での移動支援の研修を拡充いただきたい。
- 地域での暮らしの支援が多様に展開できるよう地域生活支援事業の充実をお願いしたい。
- 訪問傾聴(カウンセリング)を医療行為として見なすのではなく、福祉サービスとして見なせばよいと思う。
- 家族介護を前提とせず、障がい者の自立の観点から、福祉計画等を見てゆく必要がある。
- 数値目標を達成するためには、市としての重点課題の設定や積極的な働きかけなどの手立てが必要。
- 計画も重要ですが、よい実践、先進的な実践に取り組んでいる事業所を評価する仕組みがあればと思います。そうでないと、新たな資源は増えていきません。
- 障がい、生きにくさを持つ方に、生きがいと自尊心をもって社会参加して頂く為にも、市民への啓発を更に充実し、地域全体で支えていけるようにしたい。
- 本人や周囲が感じてから、認定調査やサービス利用までに時間がかかる。

第7期八尾市障がい福祉計画  
及び第3期八尾市障がい児福祉計画等  
策定におけるアンケート調査報告書

令和5年3月

編集・発行 八尾市 健康福祉部 障がい福祉課  
〒581-0003 大阪府八尾市本町1丁目1番1号  
TEL:072-924-3838(直通)/FAX:072-922-4900  
mail:syougai@city.yao.osaka.jp

八尾市ホームページ <http://www.city.yao.osaka.jp/>

刊行物番号 R4-204

